

**平成 29(2017)年度
人権に関する市民意識調査
結果報告書**

平成 30(2018)年3月

富田林市

はじめに

本市では、「富田林市人権尊重のまちづくり条例」に基づき、すべての市民の人権が尊重される潤いのある豊かなまちの実現に向け、さまざまな施策に取り組んでいます。施策の推進にあたっては、平成 21（2009）年に「富田林市人権行政推進基本計画」を策定し、自治体行政は人権行政であるという認識に立って、すべての部署で人権行政に取り組んでいます。

しかし、近年、人権課題が多様・複雑化しつつある中、今後の人権教育・啓発活動をより効果的に推進するには、市民の人権に関する認識を正しく把握することが必要です。そこで、平成 29（2017）年 7 月から 9 月にかけて、18 歳以上の市民 1,500 人を対象に、「人権に関する市民意識調査」を実施しました。

今回の調査では、市民意識の変化や動向に加え、市の施策の認知度や利用状況、人権侵害の経験、憲法で定められたさまざまな権利に対する認識など、人権全般にわたって必要な情報を得ることができました。これらの結果については、前回[平成 24（2012）年実施]の市民意識調査や大阪府が平成 27（2015）年に実施した「人権問題に関する府民意識調査」の結果と比較できるものとなっています。

本報告書は、今後の本市における人権施策をより効果的に推進し、取り組んでいくための基礎資料として活用したいと考えています。

最後に、調査にご協力をいただきました市民のみなさまに心からお礼を申し上げます。

平成 30（2018）年 3 月

富田林市

目 次

I 調査概要

第1章 調査の概要	1
1－1．調査の目的	1
1－2．調査の方法	1
1－3．調査の内容	1
第2章 調査対象者の抽出方法	2
2－1．抽出方法	2
2－2．標本数の配分	2
第3章 回収状況	3
3－1．回収状況	3
第4章 信頼区間	5
4－1．信頼区間	5
第5章 回答者の構成	6
5－1．回答者の性別	6
5－2．回答者の年齢	7
5－3．日常的に利用する主なメディア	8
5－4．現在の暮らし向き	10
5－5．地域の活動への参加	12
第6章 この報告書における表および図の見方	14

II 調査結果の概要

第1章 人権問題に関する基本的な意識の状況	15
1－1．個別・具体の事象に対する考え	15
1－2．差別に関する基本的な考え	33
第2章 人権問題の認知の状況等	42
2－1．個別の人権問題の認知度・急いで対応すべき人権問題.....	42
第3章 人権問題についての情報・知識の入手経路	48
3－1．人権問題についての情報・知識の入手経路.....	48
第4章 人権施策の認知度等	52
4－1．個別の人権施策の認知度、評価	52
4－1－1．個別の人権施策の今後の方向	62
4－2．「交流」「協働」の取組への参加の状況.....	71
4－2－1．今後の参加意向、参加したくなる取組.....	73

第5章 具体的な事象における人権意識の状況	77
5-1. 住宅を選ぶ際に重視する立地条件	77
5-2. 人権上問題と思う採用面接時の質問	79
5-3. 結婚相手を選ぶ際に重視すること	81
5-4. 「結婚」についての基本的な意識	85
第6章 人権侵害事象への接触、対応	87
6-1. 人権侵害事象への接触の状況	87
6-1-1. 事象の分野、内容、接触場所	89
6-1-2. 事象の対象（自分か他者か）	97
6-1-2-1. 事象に対しとった行動、解決したかどうか	99
6-1-2-2. 事象に対しとった行動、必要な対策	103
第7章 人権に対する考え方について	107
7-1. 人権から連想する言葉	107
7-2. 人権に対する意識	110
7-3. 憲法で保障される権利に対する認知度	111
第8章 人権問題や今後の人権教育・啓発についての意見・要望	120

Ⅲ 分析編

第1章 調査結果の比較	121
1-1. さまざまな人権問題に関する基本的な意識（問1）	121
1-2. 「差別」についての基本的な認識（問2）	122
1-3. 人権問題の認知度と急いで対応すべき人権問題	127
1-3-1. 人権問題の認知度（問3）	127
1-3-2. 急いで対応すべき人権問題（問3-1）	137
1-4. 人権問題についての情報・知識の入手経路（問4）	138
1-4-1. 人権問題についての情報・知識の入手経路	138
1-4-2. 「学校教育」の具体的な場所	138
1-5. 人権施策の認知度、評価（問5）	139
1-6. 人権施策の今後の方向（問5-1）	140
1-7. 社会参加について	142
1-7-1. 社会参加の状況（問6）	142
1-7-2. 今後の参加意向（問6-1a）	142
1-7-3. 参加したくなる取組（問6-1b）	142
1-8. 住宅を選ぶ際に重視する立地条件（問7）	143
1-9. 人権上問題と思う採用面接時の質問（問8）	144
1-10. 結婚相手を選ぶ際に重視すること（問9）	146
1-11. 結婚についての意識（問10）	147
1-12. 人権侵害事象への接触について	149

1-12-1. 人権侵害事象への接触の状況・分野（問11、問11-1）	149
1-12-2. 人権侵害事象の内容（問11-2）	149
1-12-3. 人権侵害事象の接触場所（問11-3）	151
1-12-4. 人権侵害事象の対象（問11-4）	152
1-12-5. 人権侵害事象に対した行動・解決したかどうか （問11-5a、問11-6a）	153
1-12-6. 人権侵害事象に対した行動（問11-5b）	154
1-12-7. 人権侵害に必要な対策（問11-6b）	155
1-13. 人権から連想する言葉（問12）	156
1-14. 人権に対する意識（問13）	157
1-15. 憲法で保障される権利に対する認知度（問14）	160
第2章 調査結果まとめ	161
2-1. 調査結果から見られる課題	161
2-2. 今後の人権施策の方向性	162
 IV 参考編	
資料1 市民意識調査票	165
資料2 集計表	177

I 調査概要

第1章 調査の概要

1－1．調査の目的

本市では、平成 21（2009）年に策定した「富田林市人権行政推進基本計画」に基づき、さまざまな人権施策に取り組んでいるが、同計画が平成 30（2018）年度をもって終了となる。次期基本計画の策定にあたっては、この間の人権問題に関わる社会風潮の変化を踏まえ、人権に関わる市民意識の動向と現状を把握し、本市における今後の人権施策を効果的に推進していくための基礎資料を得ることを目的に実施した。

1－2．調査の方法

（1）調査対象

市内に居住している 18 歳以上の男女個人

（2）対象数

1,500 人

（3）調査期間

平成 29（2017）年 7 月 27 日（木）を投函日とし、同年 8 月 14 日（月）を回答の期限とした。

（4）調査方法

平成 29（2017）年 7 月 27 日（木）に調査票を調査対象者に郵送し、回答期限である 8 月 14 日（月）までに未回答であった調査対象者については、9 月 30 日（土）までに返送された調査票を集計対象とした。

1－3．調査の内容

調査票は、「人権問題に関する考え方」、「人権問題に対する行政の取組」、「住まいのことや就職、結婚についての意識や考え方」、「人権侵害」といった項目から構成されている。

第2章 調査対象者の抽出方法

2-1. 抽出方法

系統抽出法

2-2. 標本数の配分

平成 29（2017）年 6 月末現在、本市に居住している外国人登録者を含む 18 歳以上の市民を母集団とし、住民基本台帳データ、外国人登録原票及び外国人登録データからそれぞれ標本を抽出した。なお、抽出にあたっては年齢別、性別にあらかじめ割当人数を決めておいた。

図表 1-1 標本割当表

年齢別		18～29 歳	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	合計
母集団数		14,548	11,094	16,328	15,262	16,477	22,854	96,563
構成比（％）		15.1	11.5	16.9	15.8	17.1	23.7	100.0
標本数	男性	125	125	125	125	125	125	750
	女性	125	125	125	125	125	125	750

（備考）母集団数は平成 29（2017）年 6 月末現在の住民基本台帳登載者

第3章 回収状況

3-1. 回収状況

今回の調査は、1,500 人を対象に調査票を郵送した。回答があった調査対象者は 476 票で、すべて有効回収調査票であった。

また、調査票が調査対象者に到達しないまま返送されてきたものが 4 票あり、調査票が調査対象者に到達したと考えられる 1,496 人に対する有効回収率は 31.8%で、割当標本数に対する有効回収率は 31.7%であった。

平成 27 年度大阪府調査と比較すると、大阪府調査の割当標本数に対する有効回収率は 38.3%であり、今回調査より 6.6 ポイント高い。

図表 1-2 回収状況

	割当 標本数	到達 標本数	不到達 標本数	有効回収 調査票数	無効 調査票数	割当標本数 に対する 回収率 (%)	到達標本数 に対する 回収率 (%)
今回調査	1,500	1,496	4	476	0	31.7	31.8
平成 27 (2015)年度 大阪府調査	3,550	3,469	81	1,358	2	38.3	39.1
平成 24 (2012) 年調査	1,500	1,490	10	501	0	33.4	33.6
平成 18 (2006) 年調査	2,000		9	803	10	40.2	

性別でみると、今回調査より「男性・女性と答えることに抵抗を感じる」の選択肢が追加されているので注意が必要だが、割り当て標本数に対する有効回収数では、女性の回収状況は、今回調査では 37.2%で、平成 24 (2012) 年調査の 37.1%とほぼ同率である一方、男性の回収状況は、今回調査では 23.2%で、平成 24 (2012) 年調査の 28.8%より 5.6 ポイント低くなっている。

図表 1-3 性別 回収状況

		割当 標本数	有効回収 調査票数	割当標本数 に対する 回収率 (%)
今回調査	男性	750	174	23.2
	女性	750	279	37.2
	男性・女性と答 えることに抵抗 を感じる	－	12	－
	不明・無回答	－	11	－
平成 24 (2012) 年調査	男性	750	216	28.8
	女性	750	278	37.1
	不明・無回答	－	7	－

年齢別でみると、70 歳以上のみ平成 24（2012）年調査より 4.0 ポイント増加しており、年齢が下がるにつれて回収率が低下し、18～29 歳が平成 24（2012）年調査同様最も低く 18.0%となっている。

また、最も回収率が低下しているのは、30 歳代（24.0%）で、平成 24（2012）年調査（29.2%）に比べ 5.2 ポイント低下している。

図表 1-4 年齢別 回収状況

	総数	18～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 69 歳	70 歳 以上	不明・ 無回答
割当 標本数	1500	250	250	250	250	250	250	－
今回調査	476 31.7	45 18.0	60 24.0	62 24.8	86 34.4	108 43.2	104 41.6	11 －
平成 24 (2012) 年調査	501 33.4	55 22.0	73 29.2	72 28.8	92 36.8	108 43.2	94 37.6	7 －

第4章 信頼区間

4-1. 信頼区間

調査結果の誤差の計算は次の計算式によって計算できる。

$$\text{標準誤差} = k\sqrt{(N-n)/(N-1) \cdot p(1-p)/n}$$

N＝母集団数（96,563）、n＝回答者数、p＝回答比率、k＝信頼度による定数

k は信頼度の設定により変わり、一般的には信頼度 95% の k=1.96 を使用する場合が多い。

上記式によって計算された総数および主な属性別の標本誤差は図表 1-5 のとおりである。

図表 1-5 標本誤差

		p (%) n	50%	45% 55%	40% 60%	35% 65%	30% 70%	25% 75%	20% 80%	15% 85%	10% 90%	5% 95%
総数		476	4.5	4.5	4.4	4.3	4.1	3.9	3.6	3.2	2.7	2.0
性別	男性	174	7.4	7.4	7.3	7.1	6.8	6.4	5.9	5.3	4.5	3.2
	女性	279	5.9	5.8	5.7	5.6	5.4	5.1	4.7	4.2	3.5	2.6
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12	28.3	28.1	27.7	27.0	25.9	24.5	22.6	20.2	17.0	12.3
年齢別	18～29歳	45	14.6	14.5	14.3	13.9	13.4	12.7	11.7	10.4	8.8	6.4
	30～39歳	60	12.6	12.6	12.4	12.1	11.6	11.0	10.1	9.0	7.6	5.5
	40～49歳	62	12.4	12.4	12.2	11.9	11.4	10.8	10.0	8.9	7.5	5.4
	50～59歳	86	10.6	10.5	10.3	10.1	9.7	9.1	8.5	7.5	6.3	4.6
	60～69歳	108	9.4	9.4	9.2	9.0	8.6	8.2	7.5	6.7	5.7	4.1
	70歳以上	104	9.6	9.6	9.4	9.2	8.8	8.3	7.7	6.9	5.8	4.2

標本誤差の見方について、「総数」の場合の例を示すと、母集団 96,563 人における回答者数 476 人、回答の比率が 50%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも 4.5%以内（45.5～54.5%）であるとみることができる。

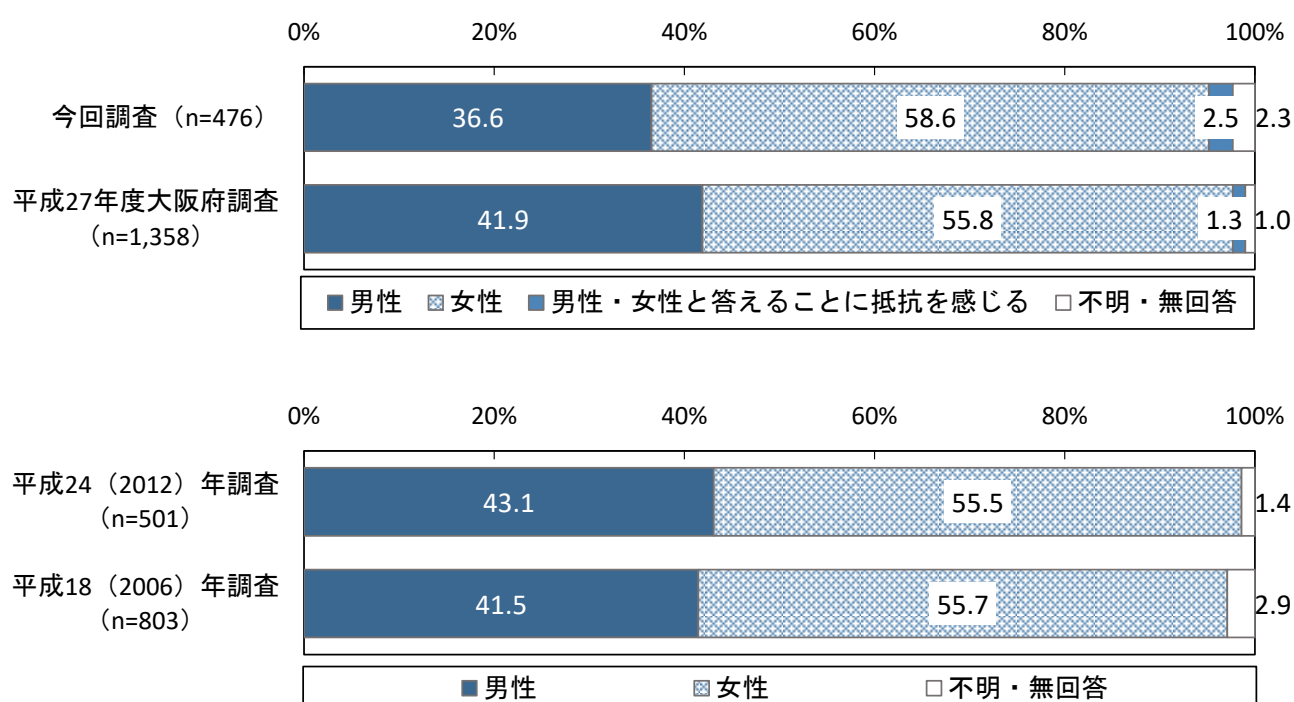
第5章 回答者の構成

5－1．回答者の性別¹

回答者の性別は、「男性」が36.6%、「女性」が58.6%、「男性・女性と答えることに抵抗を感じる」が2.5%となっている。

大阪府調査と比較すると、今回調査、大阪府調査ともに「女性」の割合が高く、「男性」では、今回調査が36.6%で、大阪府調査（41.9%）よりも5.3ポイント低くなっている。

図表 1-6 回答者の性別



¹ 今回調査より、「男性・女性と答えることに抵抗を感じる」の選択肢を追加した。

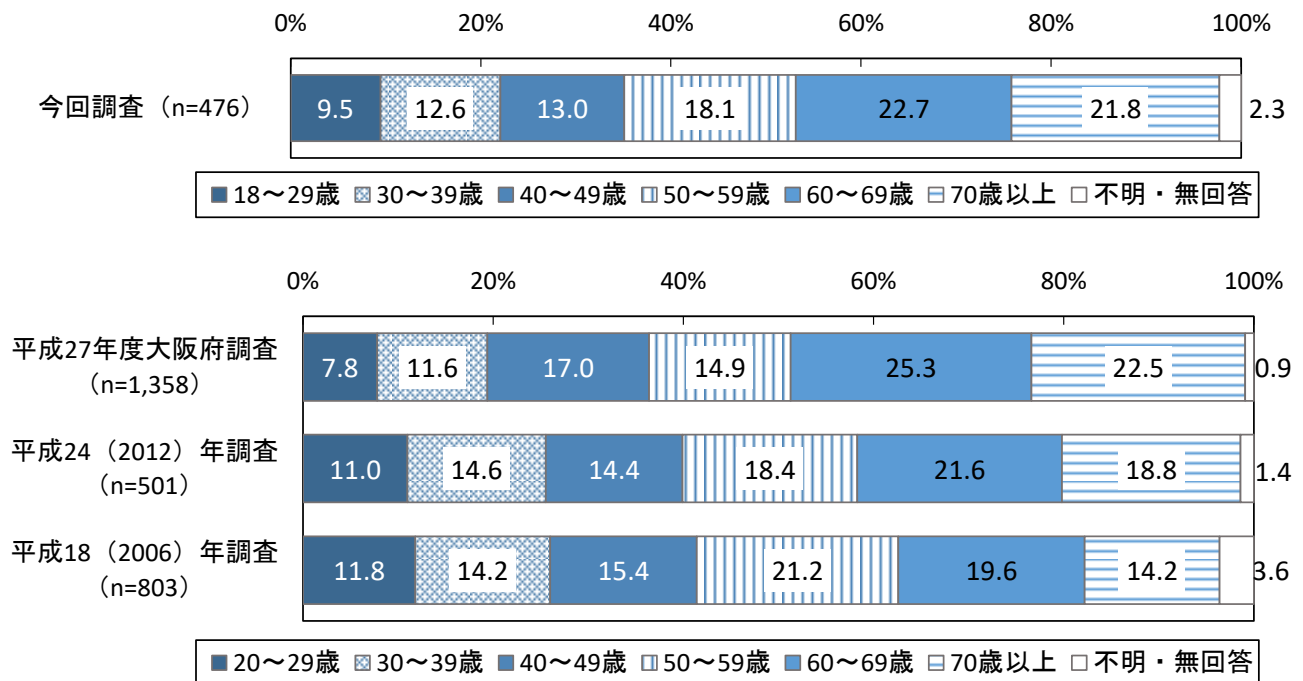
5-2. 回答者の年齢

回答者の年齢は、「60～69 歳」が 22.7%で最も高く、次いで「70 歳以上」が 21.8%、「50～59 歳」が 18.1%と続いており、「18～29 歳」は 9.5%で最も低くなっている。

大阪府調査では、「60～69 歳」（25.3%）、「70 歳以上」（22.5%）に次いで「40～49 歳」（17.0%）が高くなっている。

平成 24（2012）年調査と比較すると、60 歳以上の割合は増加しているが、60 歳未満の割合は減少している。

図表 1-7 回答者の年齢



5-3. 日常的に利用する主なメディア

日常的に利用する主なメディアについては、「テレビ」が84.0%で最も高く、次いで「新聞」が53.4%、「インターネット（パソコン、スマートフォン）」が50.4%と続いている。

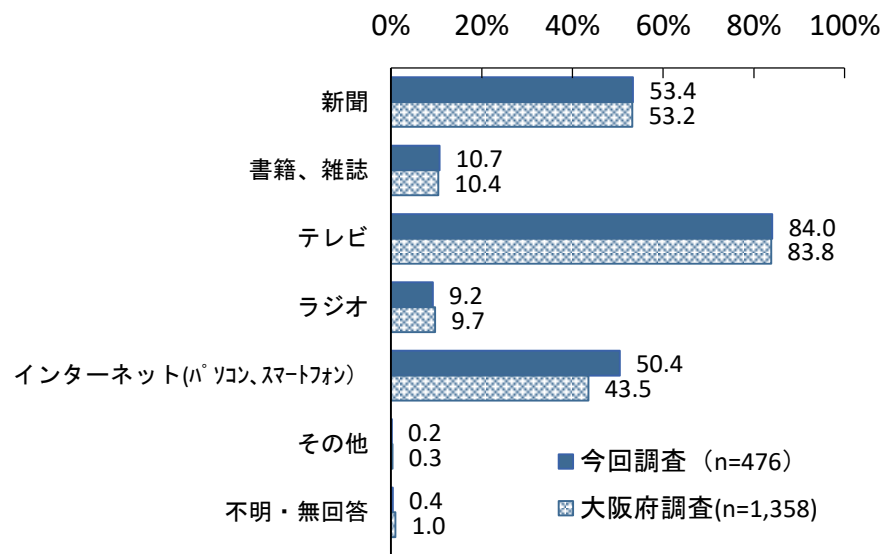
大阪府調査と比較すると、「インターネット（パソコン、スマートフォン）」では、今回調査が50.4%で、大阪府調査（43.5%）よりも6.9ポイント高くなっている。

性別でみると、「新聞」、「書籍、雑誌」で男性の割合が女性より高くなっている。

年齢別でみると、30歳代以下では「インターネット（パソコン、スマートフォン）」の割合が最も高く、40～60歳代では「テレビ」が最も高く、70歳以上では「新聞」が最も高い。

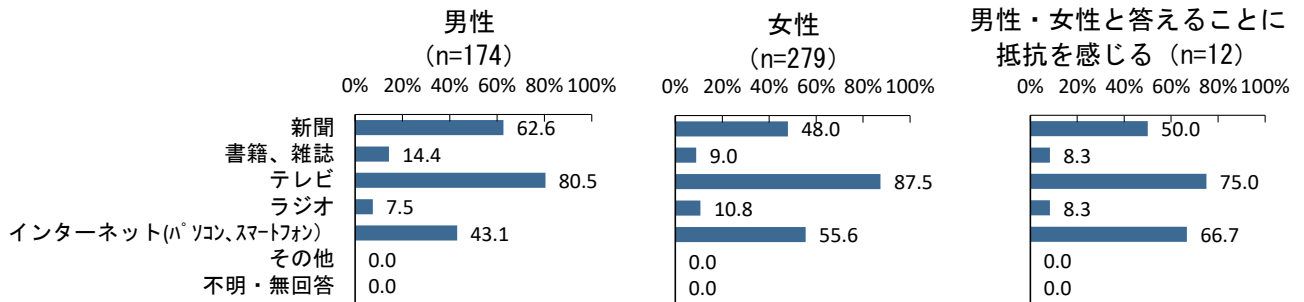
また、全ての年齢層で「テレビ」の割合が8割以上となっており、「新聞」は年齢が上がるにつれて割合が高くなり、「インターネット（パソコン、スマートフォン）」は年齢が上がるにつれて割合が低くなっている。

図表 1-8 日常的に利用する主なメディア

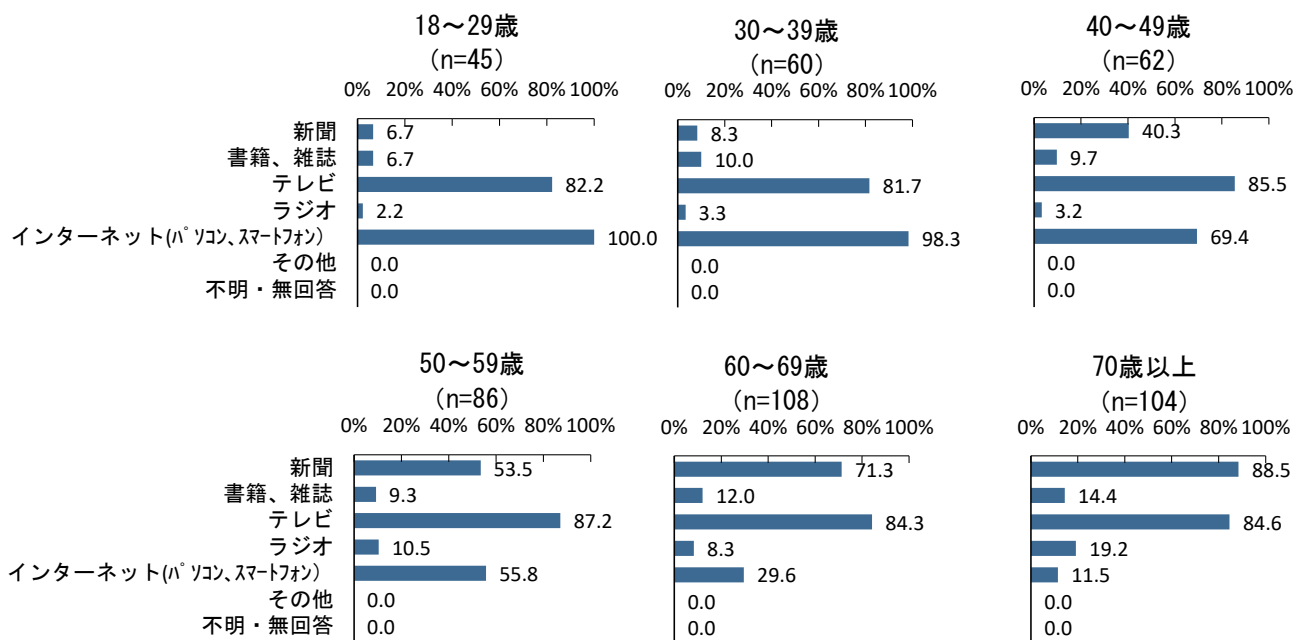


図表 1-9 性別・年齢別 日常的に利用する主なメディア

【性別】



【年齢別】



5－4．現在の暮らし向き

現在の暮らし向きについては、「ふつう」が50.8%で過半を占めて最も高く、次いで「良い」が21.4%、「やや良い」が16.6%と続いている。

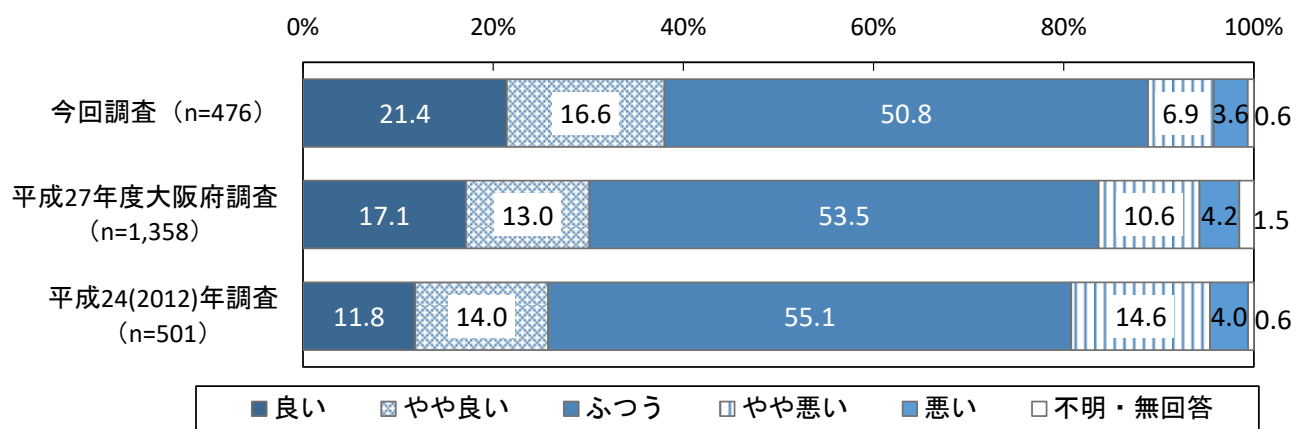
性別でみると、『良い』（「良い」と「やや良い」の合計）では、「女性」が40.1%で、「男性」（35.6%）よりも高くなっている。

大阪府調査と比較すると、『良い』では、今回調査が7.9ポイント高く、『悪い』では4.3ポイント低くなっている。

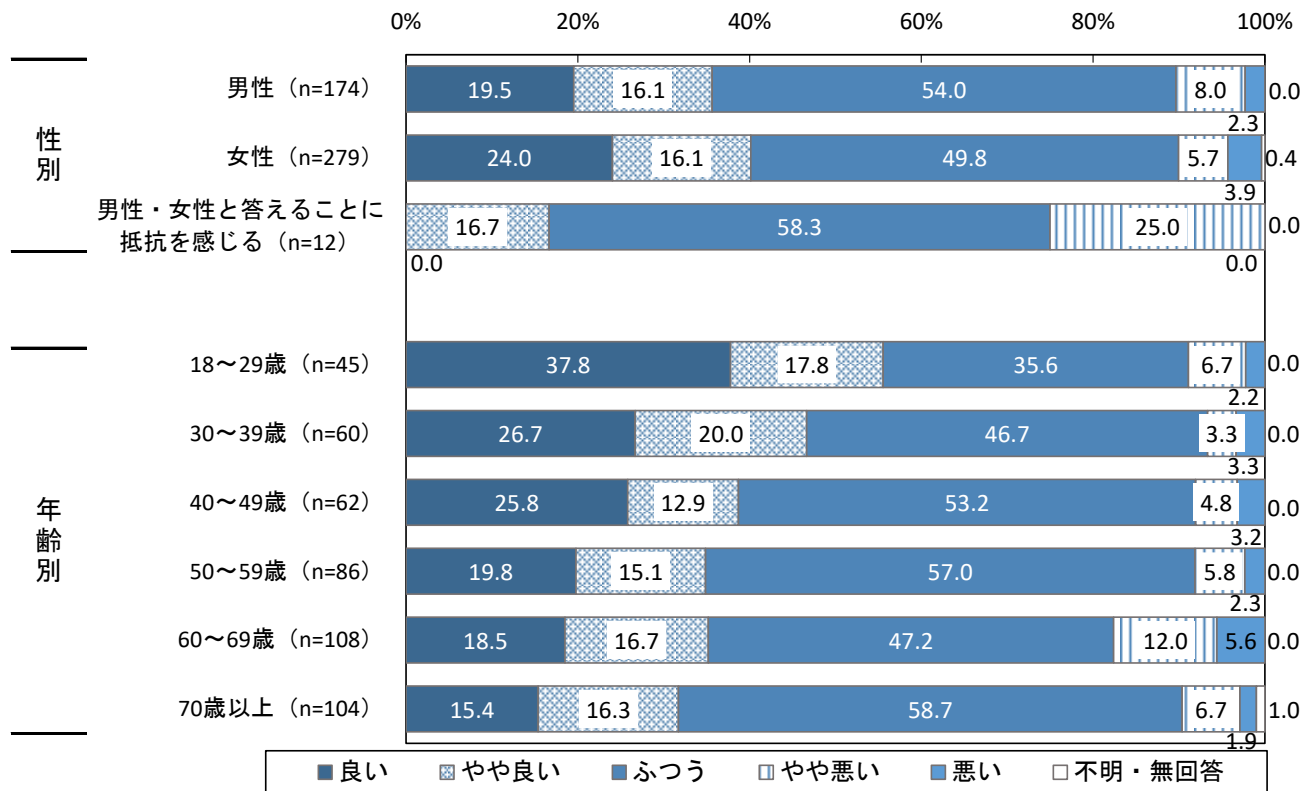
平成24（2012）年調査と比較すると、『良い』が12.2ポイント高くなり、『悪い』が8.1ポイント低くなっている。

年齢別でみると、『良い』では、年齢が下がるにつれて割合が概ね高くなり「18～29歳」が55.6%で最も高く、次いで30歳代が46.7%、40歳代が38.7%と続いており、一方、『悪い』（「やや悪い」と「悪い」の合計）では、60歳代が17.6%で最も高く、次いで18～29歳が8.9%となっている。

図表 1-10 現在の暮らし向き



図表 1-11 性別・年齢別 現在の暮らし向き



5－5．地域の活動への参加

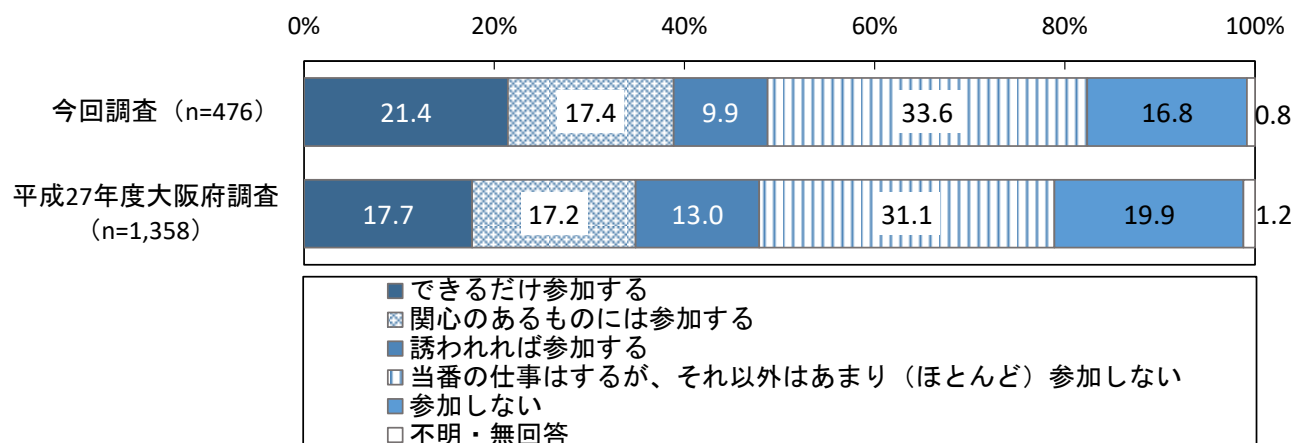
地域の活動への参加については、「当番の仕事はするが、それ以外はあまり（ほとんど）参加しない」が33.6%で最も高く、次いで「できるだけ参加する」が21.4%、「関心のあるものには参加する」が17.4%と続いており、『参加する』（「できるだけ参加する」と「関心のあるものには参加する」と「誘われれば参加する」の合計）は48.7%、『参加しない』（「当番の仕事はするが、それ以外はあまり（ほとんど）参加しない」と「参加しない」の合計）は50.4%となっている。

大阪府調査結果と比較すると、『参加する』は大阪府調査（47.9%）よりも0.8ポイント高く、『参加しない』（51.0%）は0.6ポイント低くなっている。

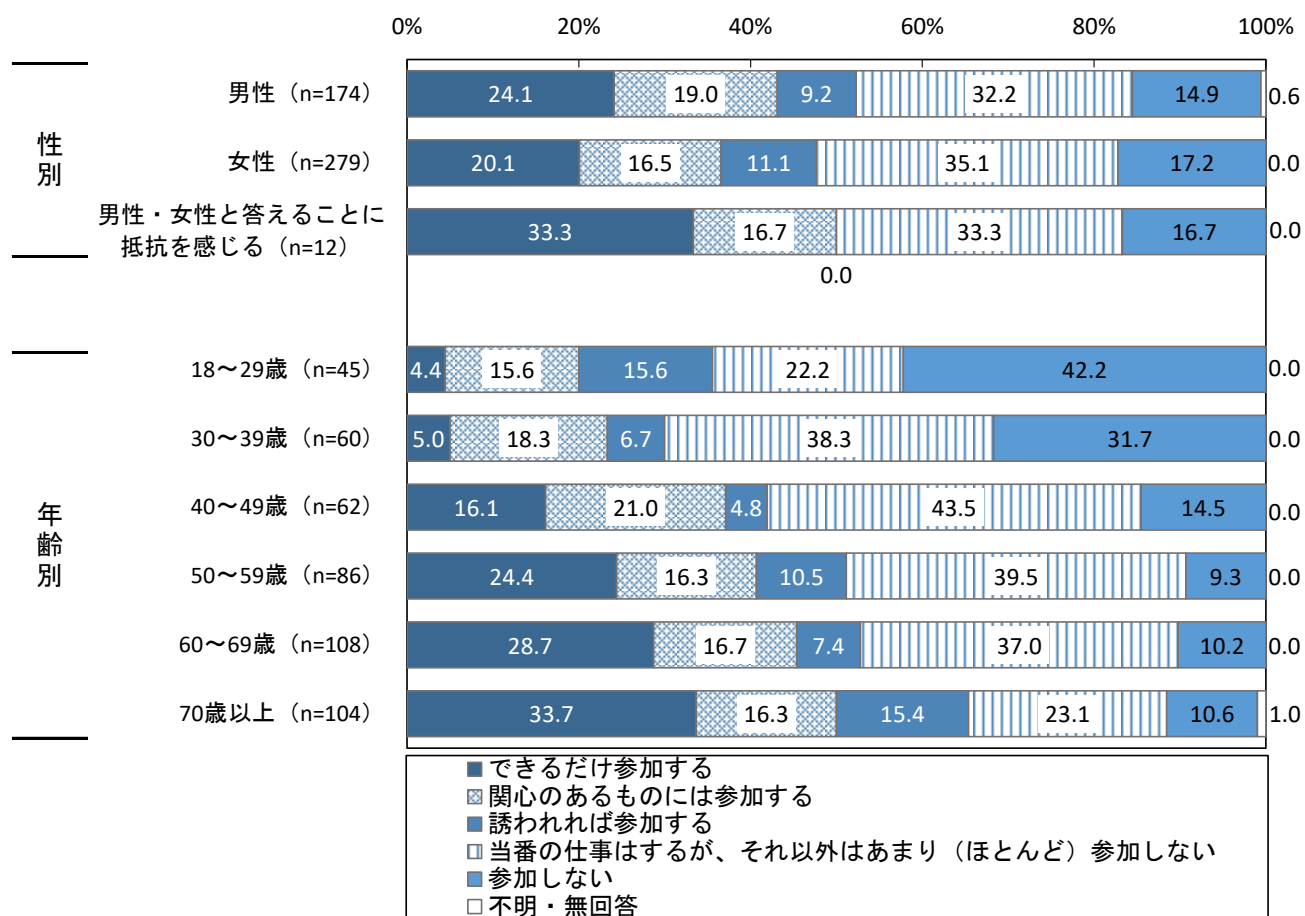
性別でみると、『参加する』では、男性が52.3%で、女性（47.7%）よりも4.6ポイント高い。

年齢別でみると、『参加する』では、30歳以上で年齢が上がるにつれて割合が高くなり、70歳以上が65.4%で最も高く、30歳代が30.0%で最も低い。

図表 1-12 地域の活動への参加



図表 1-13 性別・年齢別 地域の活動への参加 大阪府調査との比較



第6章 この報告書における表および図の見方

- (1) 図表内に示されている上段の数値は人数を、下段の数値は比率（百分比（%））を表わしている。
- (2) 比率はすべて、各項目の不明・無回答を含む集計対象総数（集計対象を限定する場合はその該当対象数）に対する百分比（%）で表わしている。複数の回答を求める設問では、百分比（%）の合計は100.0%を超える。
- (3) 百分比（%）は、原則として小数第2位を四捨五入し小数第1位までを表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- (4) 百分比（%）どうしの比較における差は、原則として「・・・ポイント」という表現とした。
- (5) 図表中の「n」数は、その質問に対する回答者数を表す。
- (6) 一部の表においては、回答の傾向を見るために回答をまとめて集計を行った。例えば、問1では、「問題があると思う」と「やや問題があると思う」をまとめた『問題がある』、「あまり問題があると思わない」と「問題があると思わない」をまとめた『問題があると思わない』という区分でも集計し表記している。
- (7) 属性（性別、年齢）が不明である回答者は集計から除いているため、属性の合計と回答者総数とは一致しない。
- (8) 「平成27年度大阪府調査結果」は平成27年実施の「大阪府人権問題に関する府民意識調査」の調査結果を表している。

II 調査結果の概要

第1章 人権問題に関する基本的な意識の状況

1-1. 個別・具体の事象に対する考え

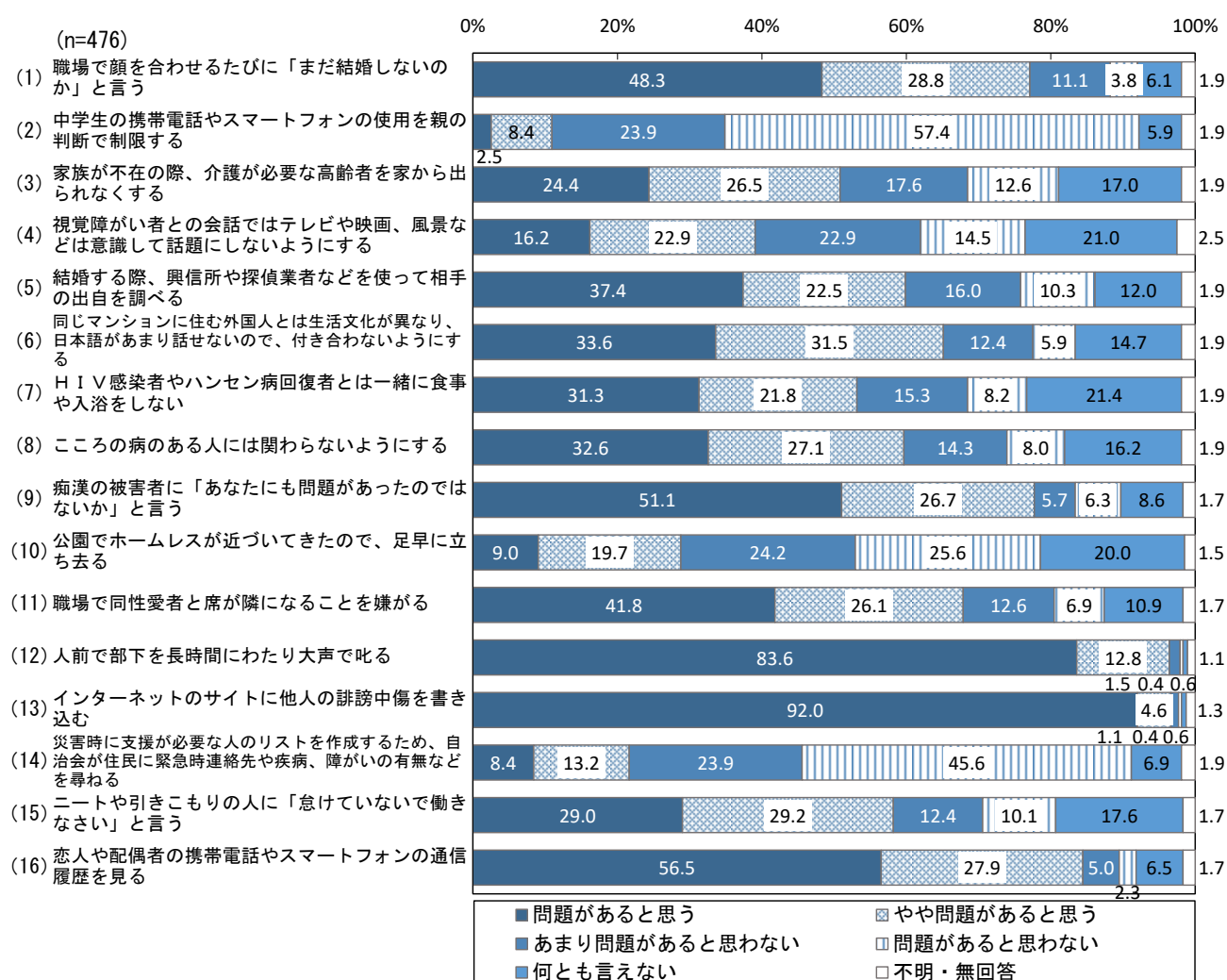
問 1	あなたは、次のことがらについて、人権上問題があると思いますか？ ((1)～(16)それぞれについて、いずれか1つに○)
-----	--

(1) 全体

個別・具体の事象に対する考えについて、『問題がある』(「問題があると思う」と「やや問題があると思う」の合計)では、「(13) インターネットのサイトに他人の誹謗中傷を書き込む」が96.6%で最も高く、次いで「(12) 人前で部下を長時間にわたり大声で叱る」が96.4%、「(16) 恋人や配偶者の携帯電話やスマートフォンの通信履歴を見る」が84.5%と続いている。

一方、「(2) 中学生の携帯電話やスマートフォンの使用を親の判断で制限する」が10.9%で最も低く、次いで「(14) 災害時に支援が必要な人のリストを作成するため、自治会が住民に緊急時連絡先や疾病、障がいの有無などを尋ねる」が21.6%、「(10) 公園でホームレスが近づいてきたので、足早に立ち去る」が28.8%と続いている。

図表 2-1 個別・具体の事象に対する考え



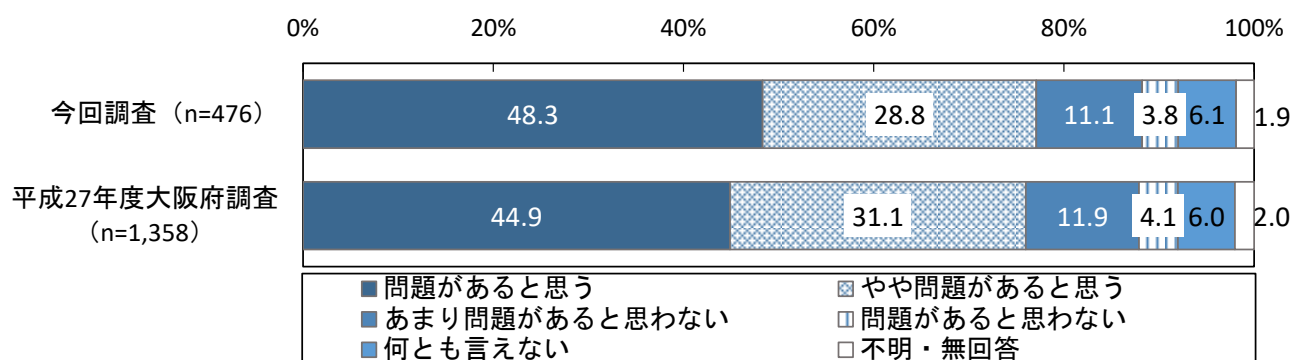
（２）大阪府調査との比較

大阪府調査と比較すると、『問題がある』では、「(2) 中学生の携帯電話やスマートフォンの使用を親の判断で制限する」以外の項目で今回調査の割合が高くなっており、「(11) 職場で同性愛者と席が隣になることを嫌がる」では8.0ポイント高く最も差が大きく、次いで「(6) 同じマンションに住む外国人とは生活文化が異なり、日本語があまり話せないので、付き合わないようにする」が5.2ポイント高くなっている。

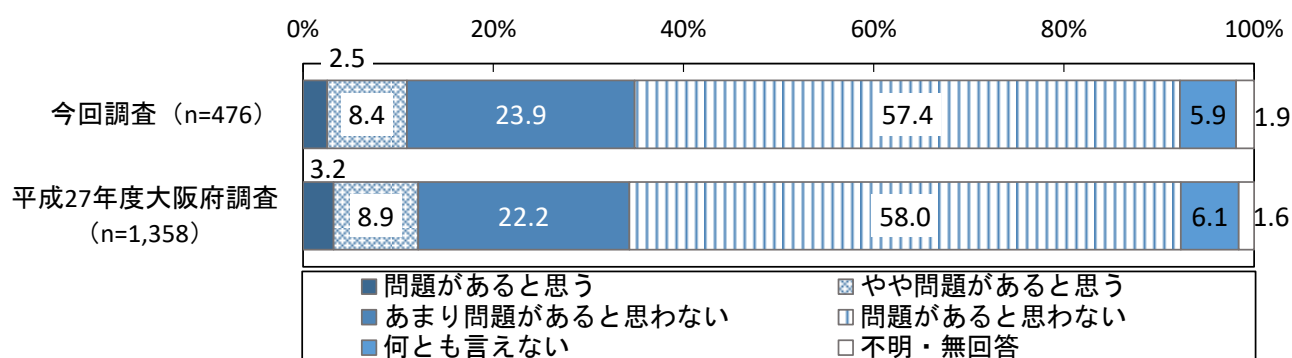
また、「(7) HIV感染者やハンセン病回復者とは一緒に食事や入浴をしない」について、「あまり問題があると思わない」では、今回調査が15.3%で、大阪府調査（10.6%）より4.7ポイント高くなっている。

図表 2-2 個別・具体の事象に対する考え 大阪府調査との比較

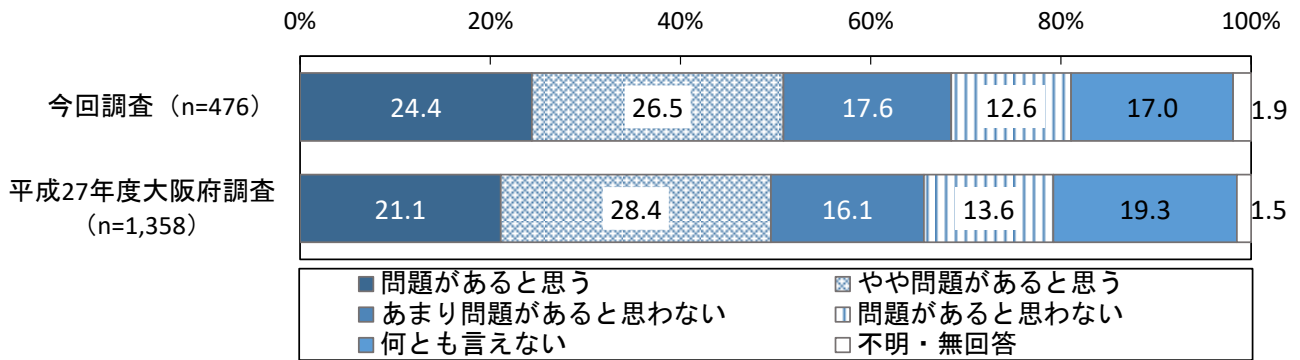
【(1) 職場で顔を合わせるたびに「まだ結婚しないのか」と言う】



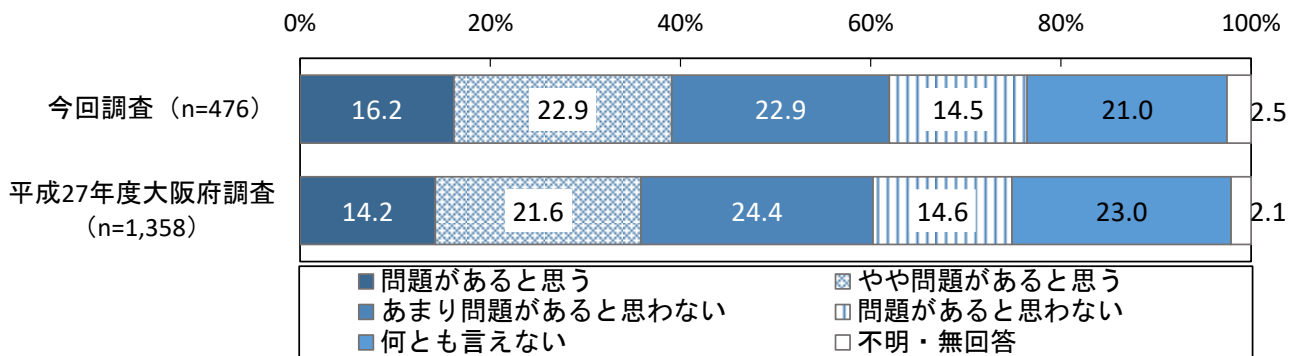
【(2) 中学生の携帯電話やスマートフォンの使用を親の判断で制限する】



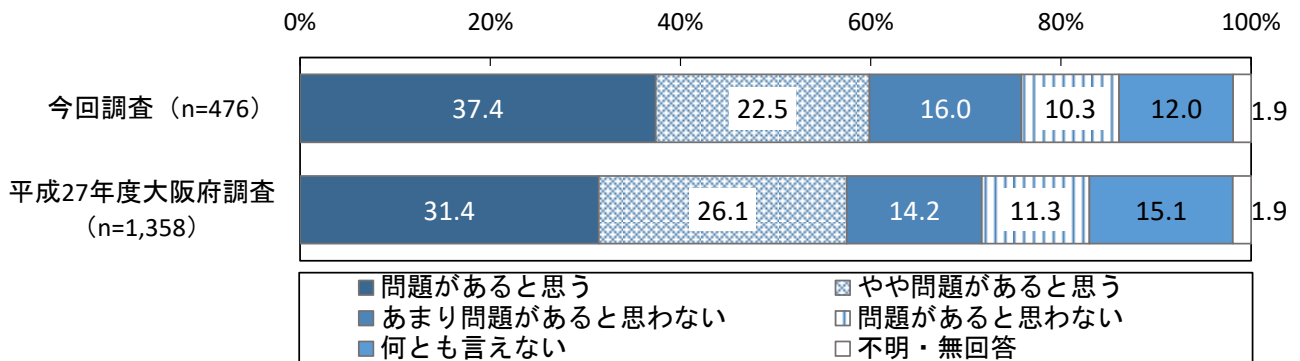
【(3) 家族が不在の際、介護が必要な高齢者を家から出られなくする】



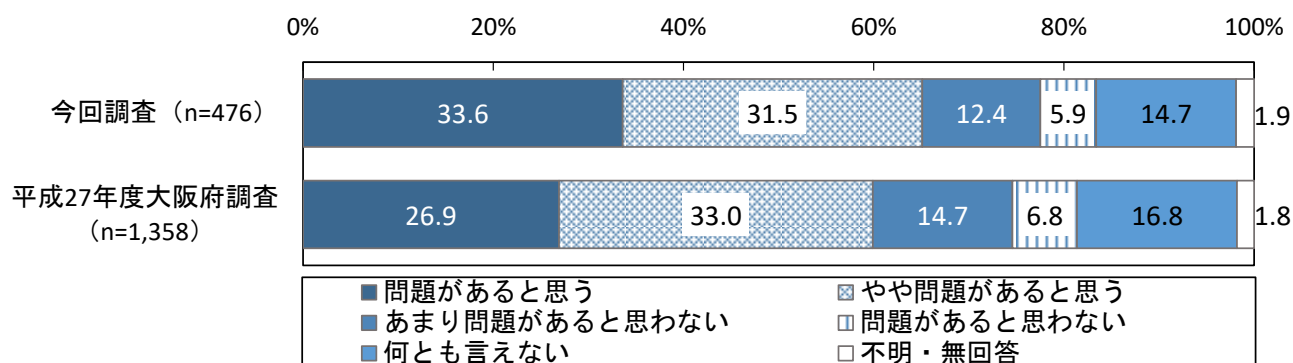
【(4) 視覚障がい者との会話ではテレビや映画、風景などは意識して話題にしないようにする】



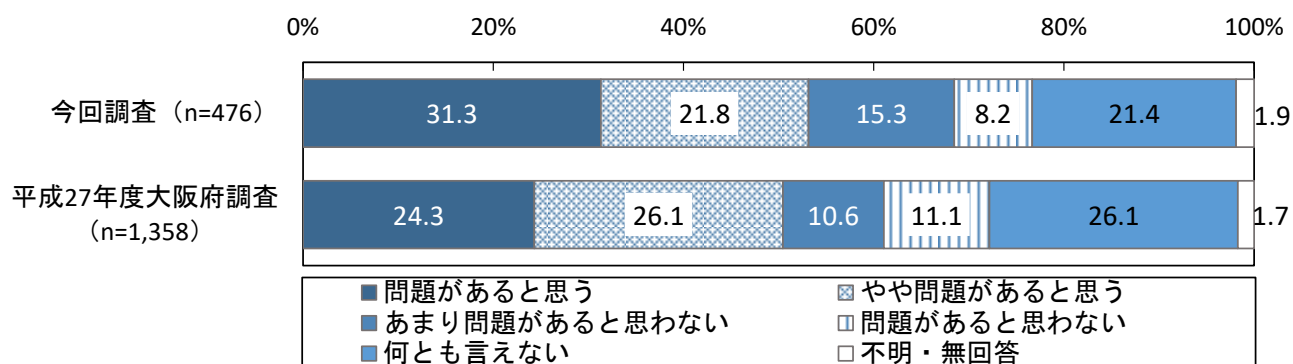
【(5) 結婚する際、興信所や探偵業者などを使って相手の出自を調べる】



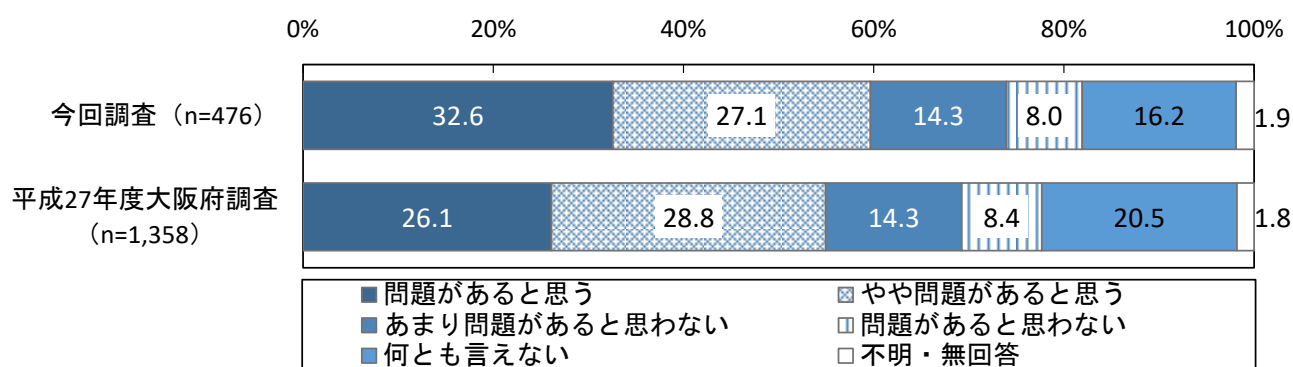
【(6) 同じマンションに住む外国人とは生活文化が異なり、日本語があまり話せないので、付き合わないようにする】



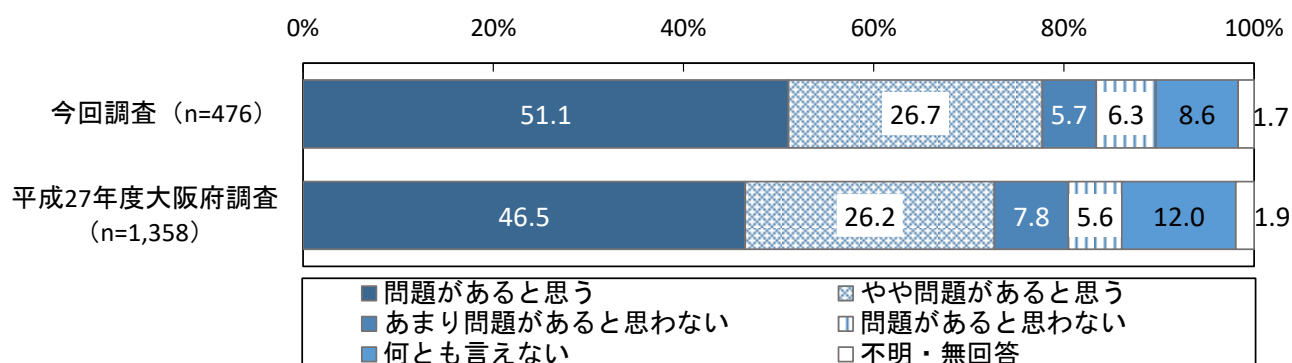
【(7) HIV感染者やハンセン病回復者とは一緒に食事や入浴をしない】



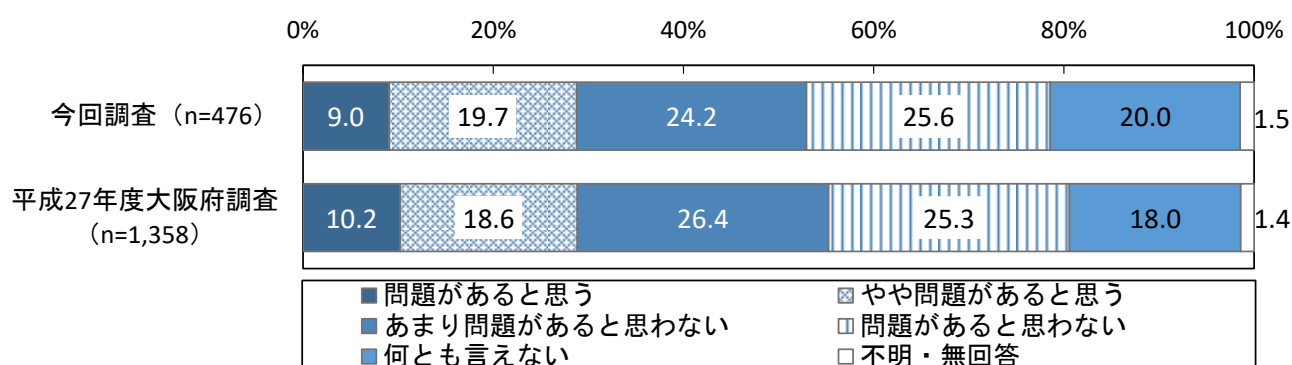
【(8) こころの病のある人には関わらないようにする】



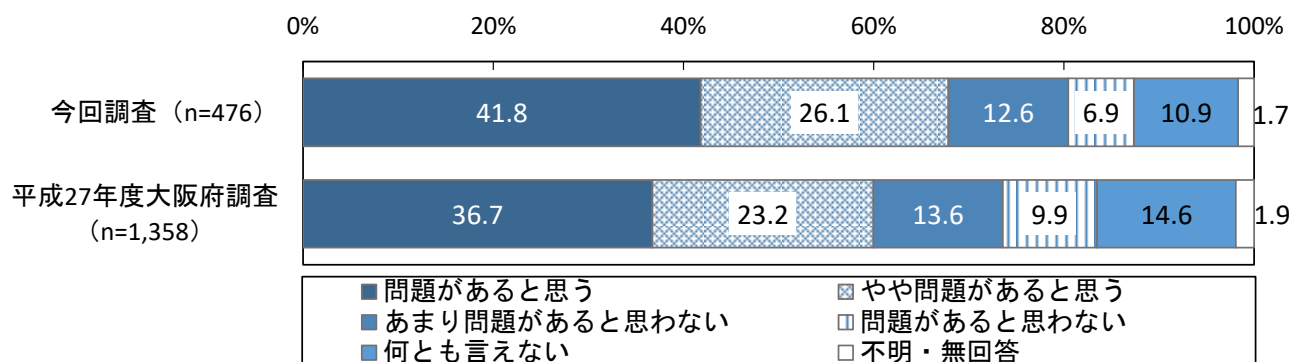
【(9) 痴漢の被害者に「あなたにも問題があったのではないか」と言う】



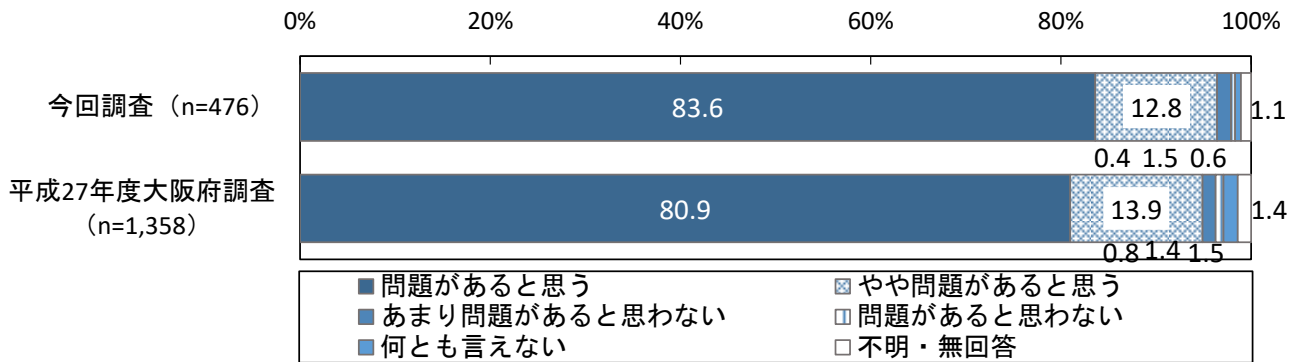
【(10) 公園でホームレスが近づいてきたので、足早に立ち去る】



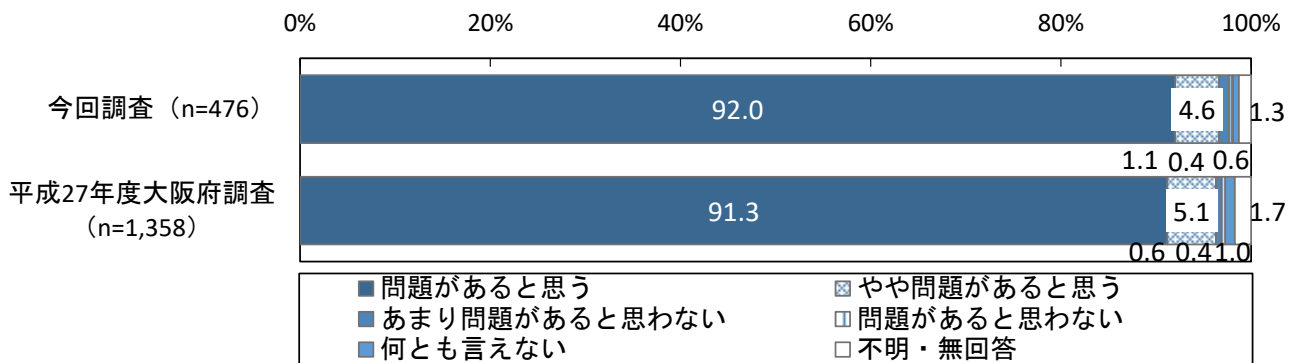
【(11) 職場で同性愛者と席が隣になることを嫌がる】



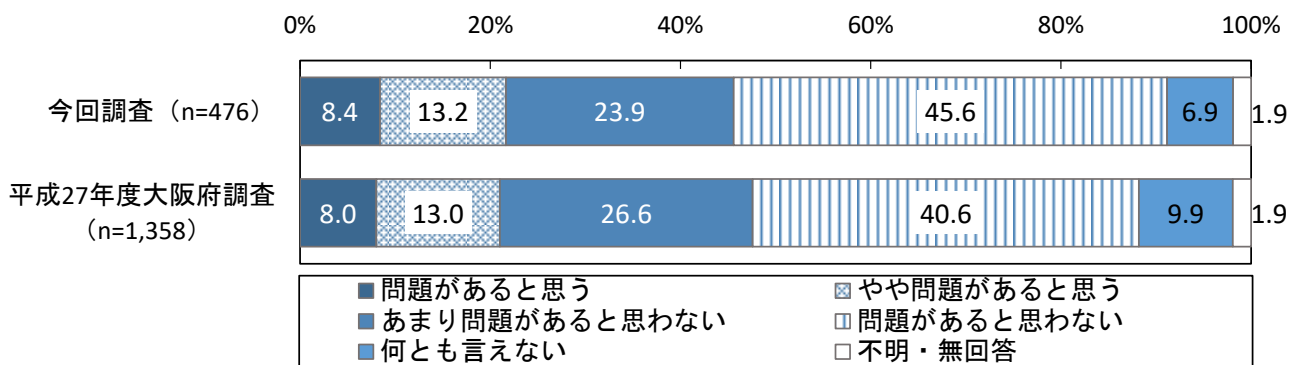
【(12) 人前で部下を長時間にわたり大声で叱る】



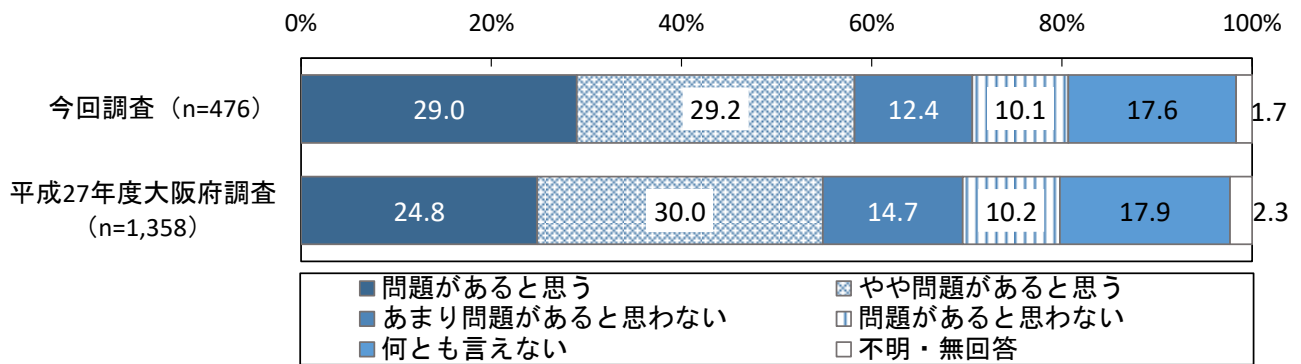
【(13) インターネットのサイトに他人の誹謗中傷を書き込む】



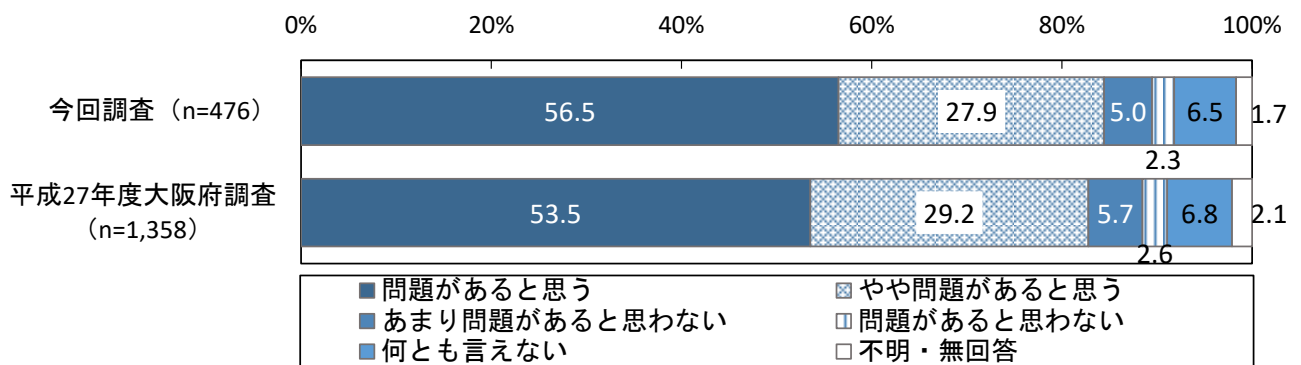
【(14) 災害時に支援が必要な人のリストを作成するため、自治会が住民に緊急時連絡先や疾病、障がいの有無などを尋ねる】



【(15) ニートや引きこもりの人に「怠けていないで働きなさい」と言う】



【(16) 恋人や配偶者の携帯電話やスマートフォンの通信履歴を見る】



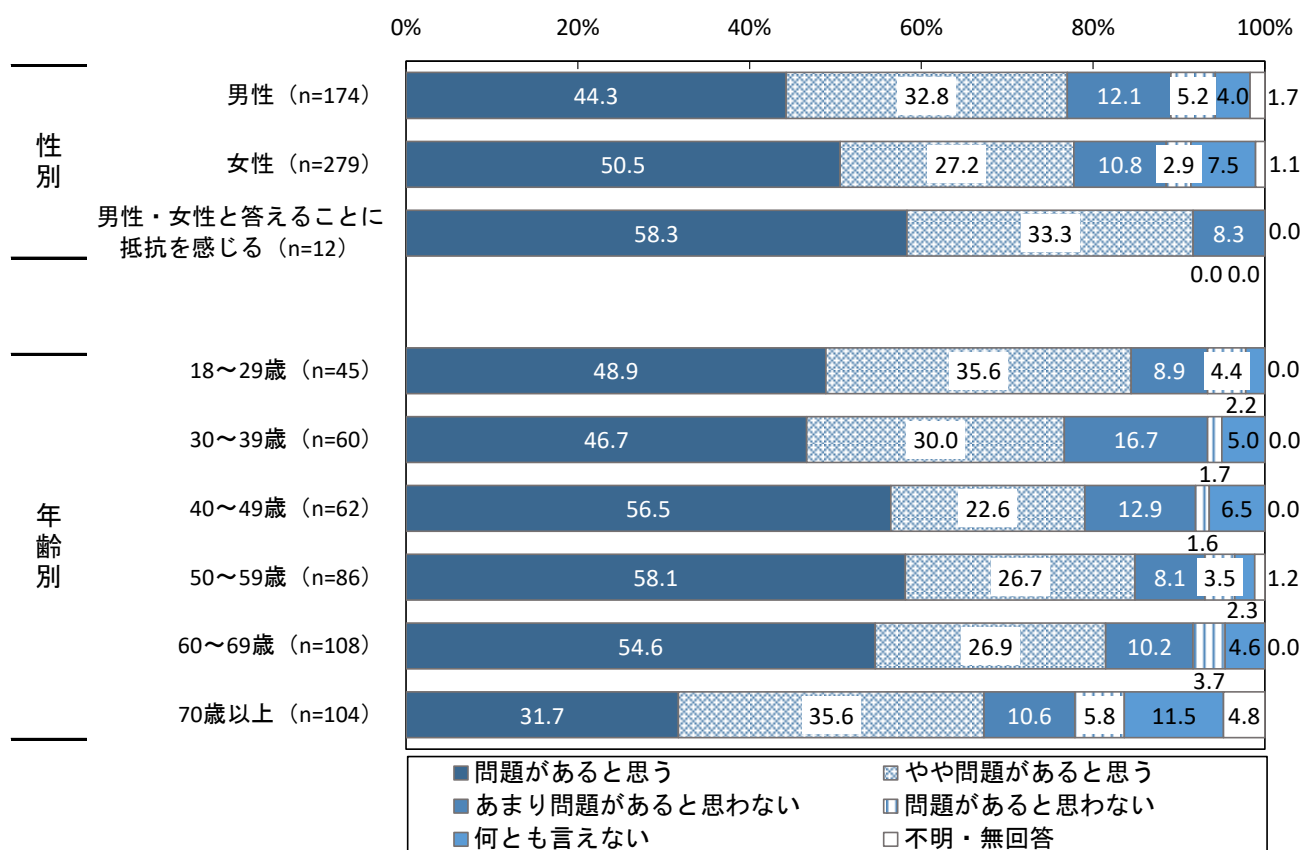
(3) 性別・年齢別

性別で差をみると、『問題がある』では、「(4) 視覚障がい者との会話ではテレビや映画、風景などは意識して話題にしないようにする」(男性 31.6%、女性 44.8%) が 13.2 ポイントで最も差が大きく、次いで「(11) 職場で同性愛者と席が隣になることを嫌がる」(男性 63.2%、女性 72.0%) が 8.8 ポイントと続いている。

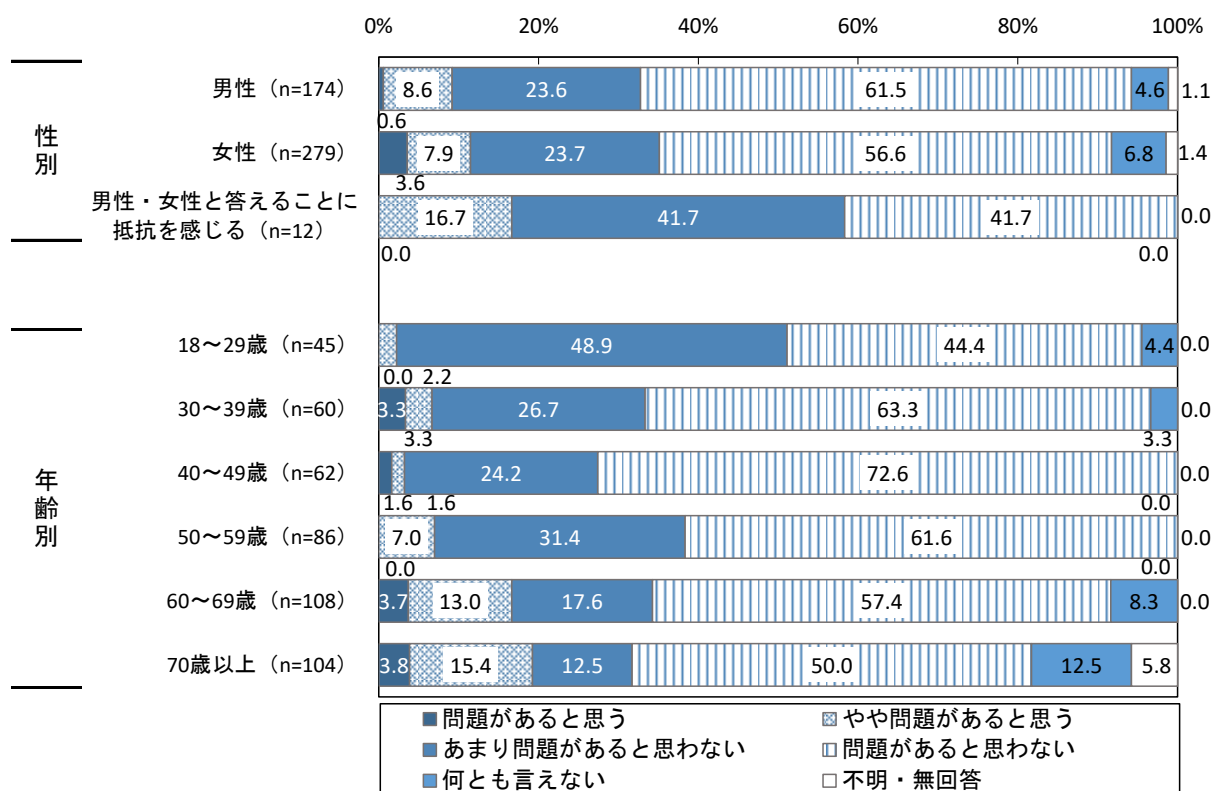
年齢別でみると、「(3) 家族が不在の際、介護が必要な高齢者を家から出られなくする」、「(14) 災害時に支援が必要な人のリストを作成するため、自治会が住民に緊急時連絡先や疾病、障がいの有無などを尋ねる」では、概ね年齢が上がるにつれて『問題がある』の割合が高くなっている。

図表 2-3 性別・年齢別 個別・具体の事象に対する考え

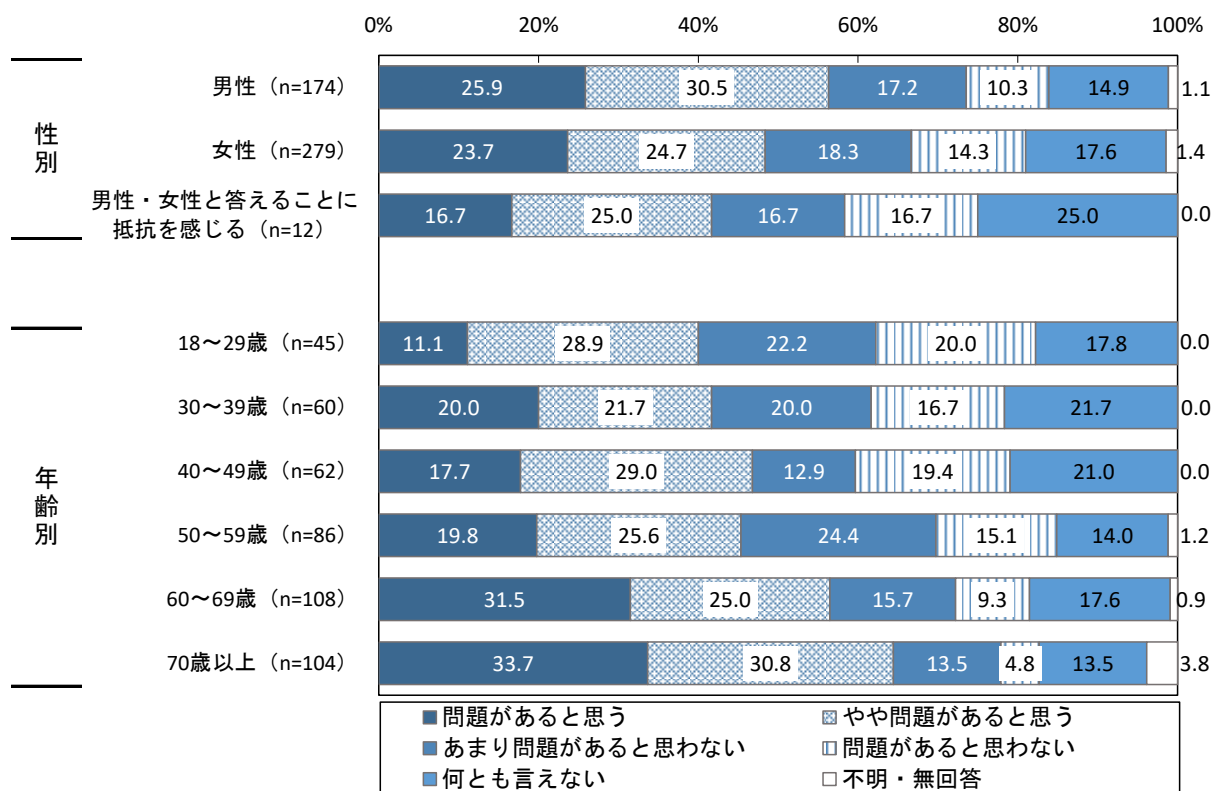
【(1) 職場で顔を合わせるたびに「まだ結婚しないのか」と言う】



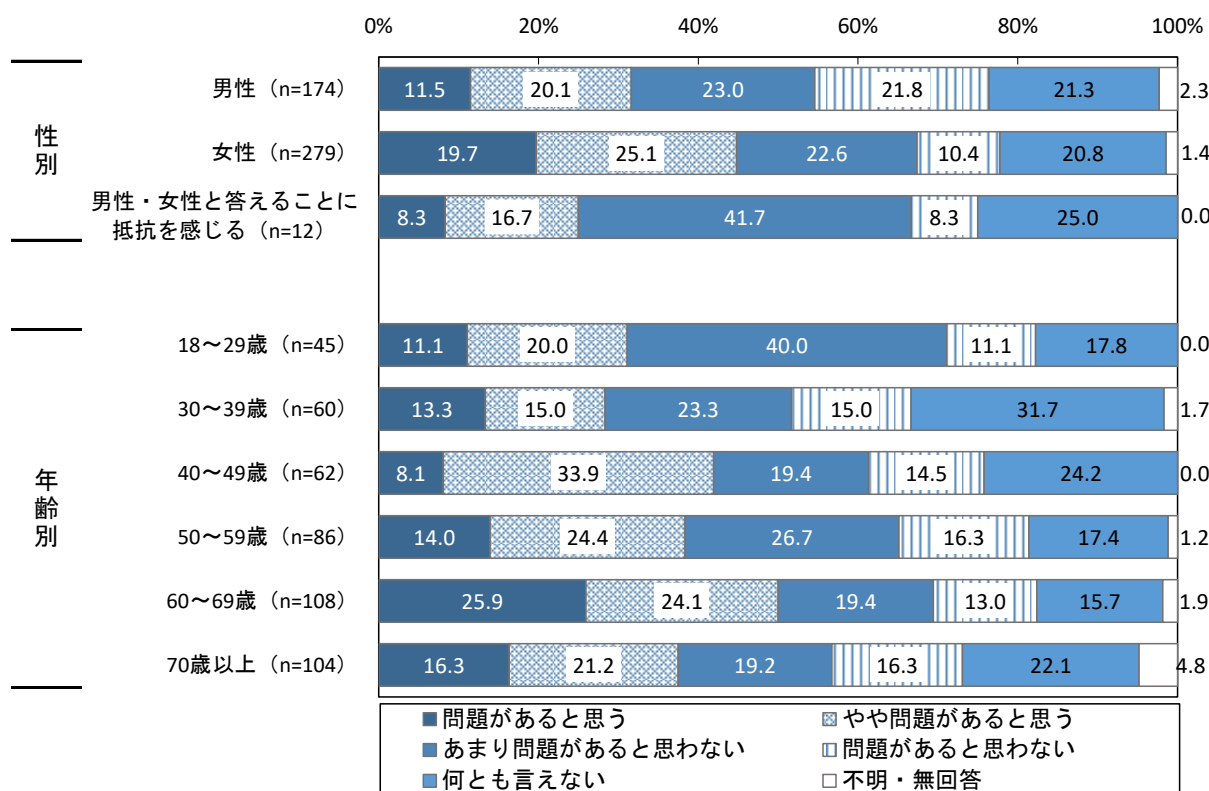
【(2) 中学生の携帯電話やスマートフォンの使用を親の判断で制限する】



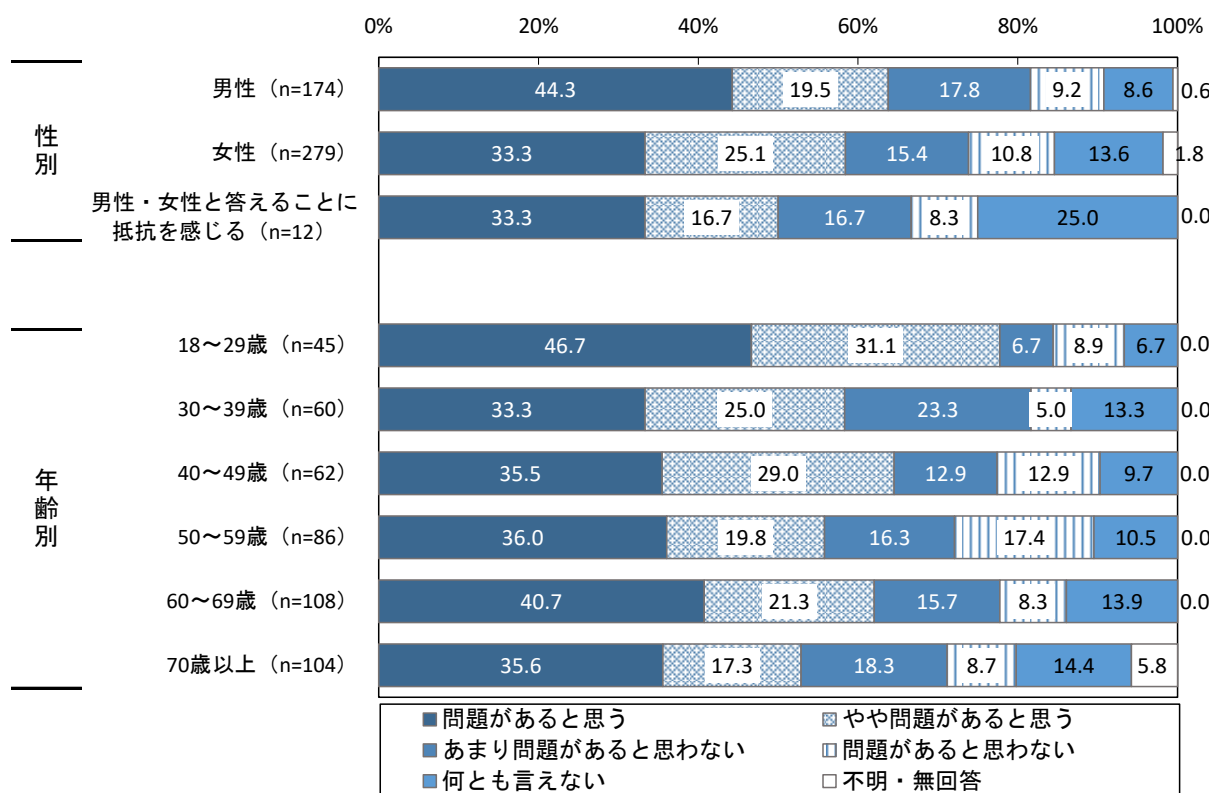
【(3) 家族が不在の際、介護が必要な高齢者を家から出られなくする】



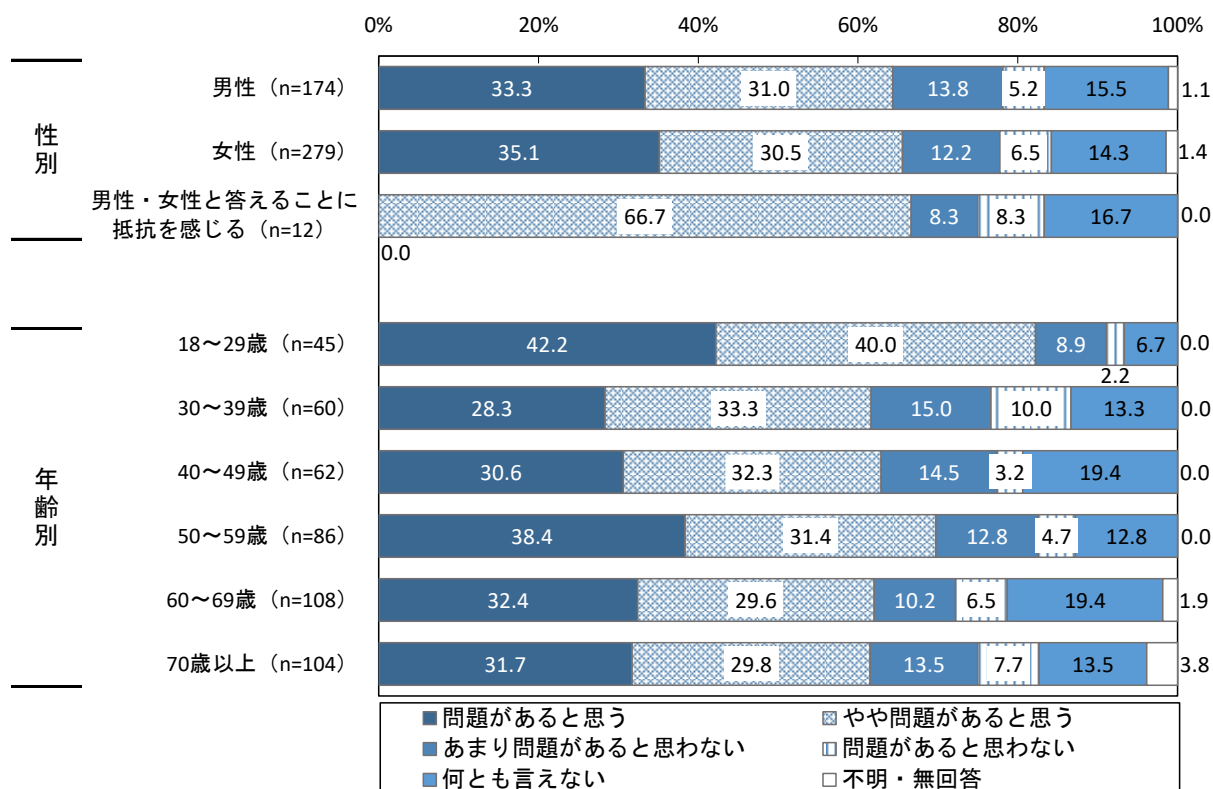
【(4) 視覚障がい者との会話ではテレビや映画、風景などは意識して話題にしないようにする】



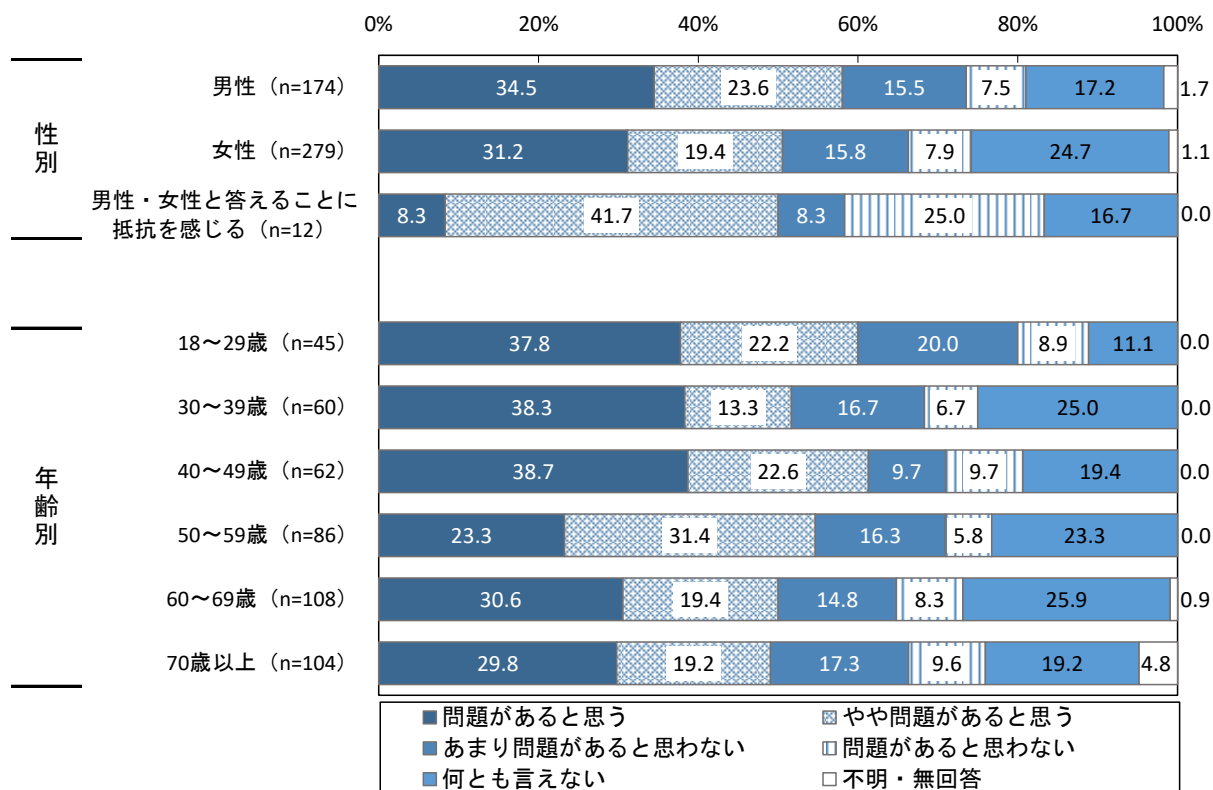
【(5) 結婚する際、興信所や探偵業者などを使って相手の出自を調べる】



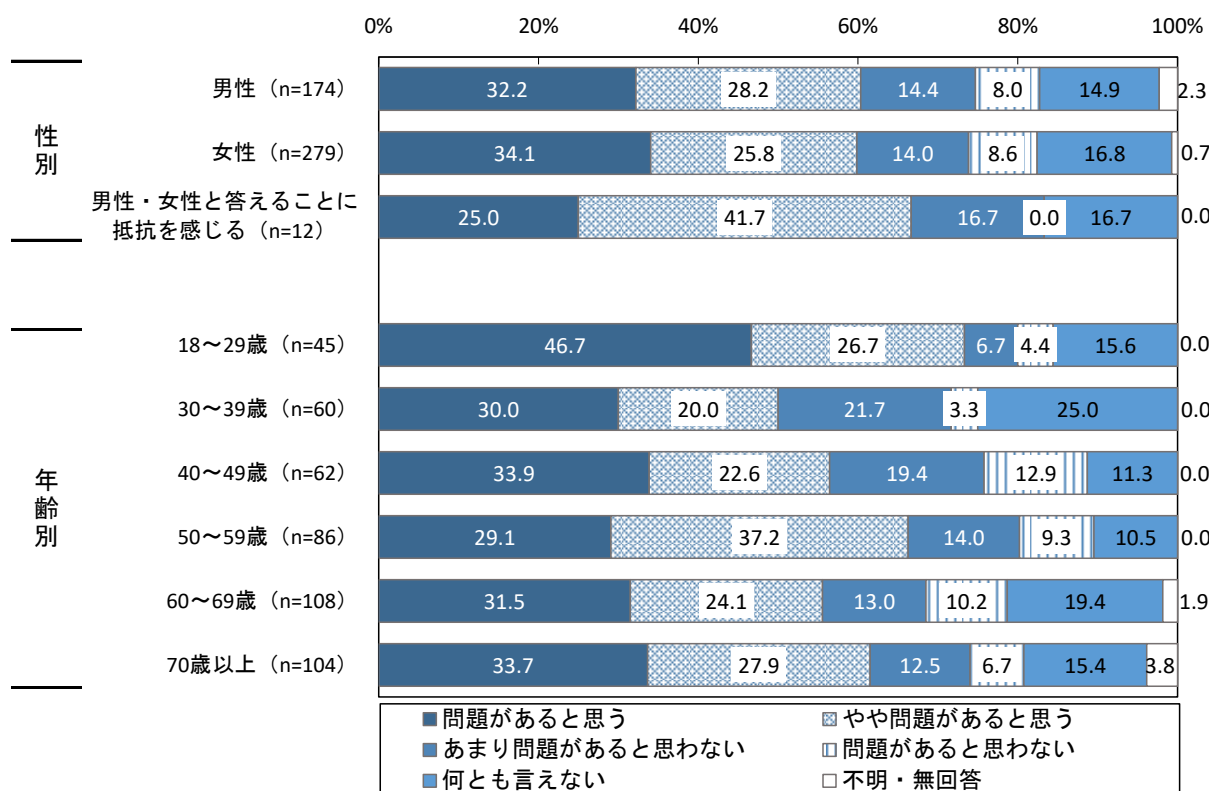
【(6) 同じマンションに住む外国人とは生活文化が異なり、日本語があまり話せないので、付き合えないようにする】



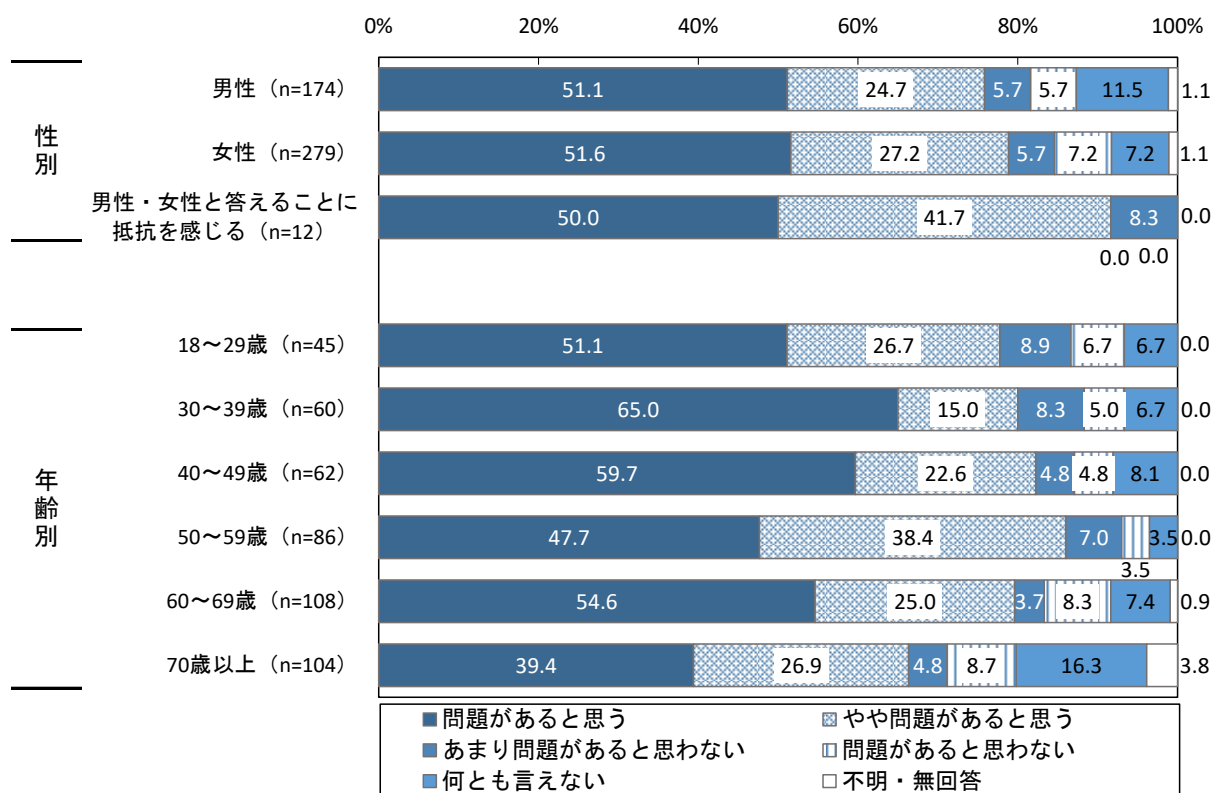
【(7) HIV感染者やハンセン病回復者とは一緒に食事や入浴をしない】



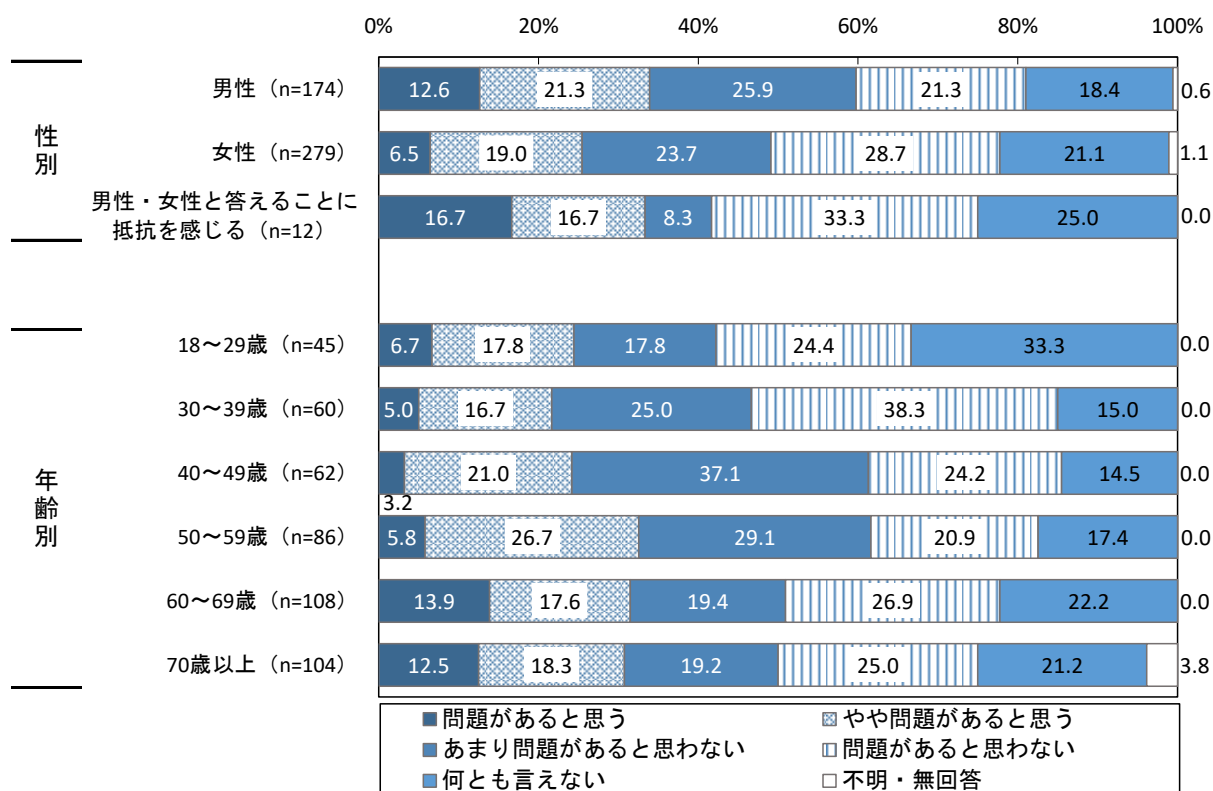
【(8) こころの病のある人には関わらないようにする】



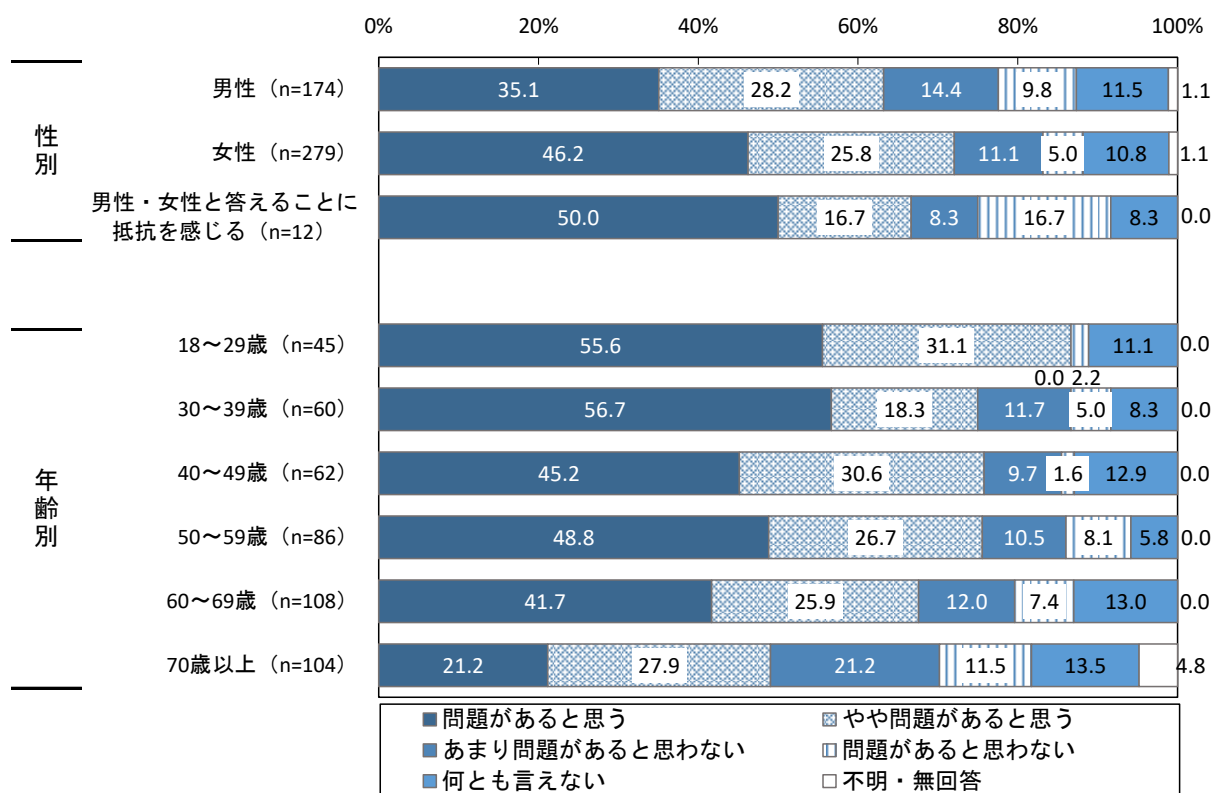
【(9) 痴漢の被害者に「あなたにも問題があったのではないか」と言う】



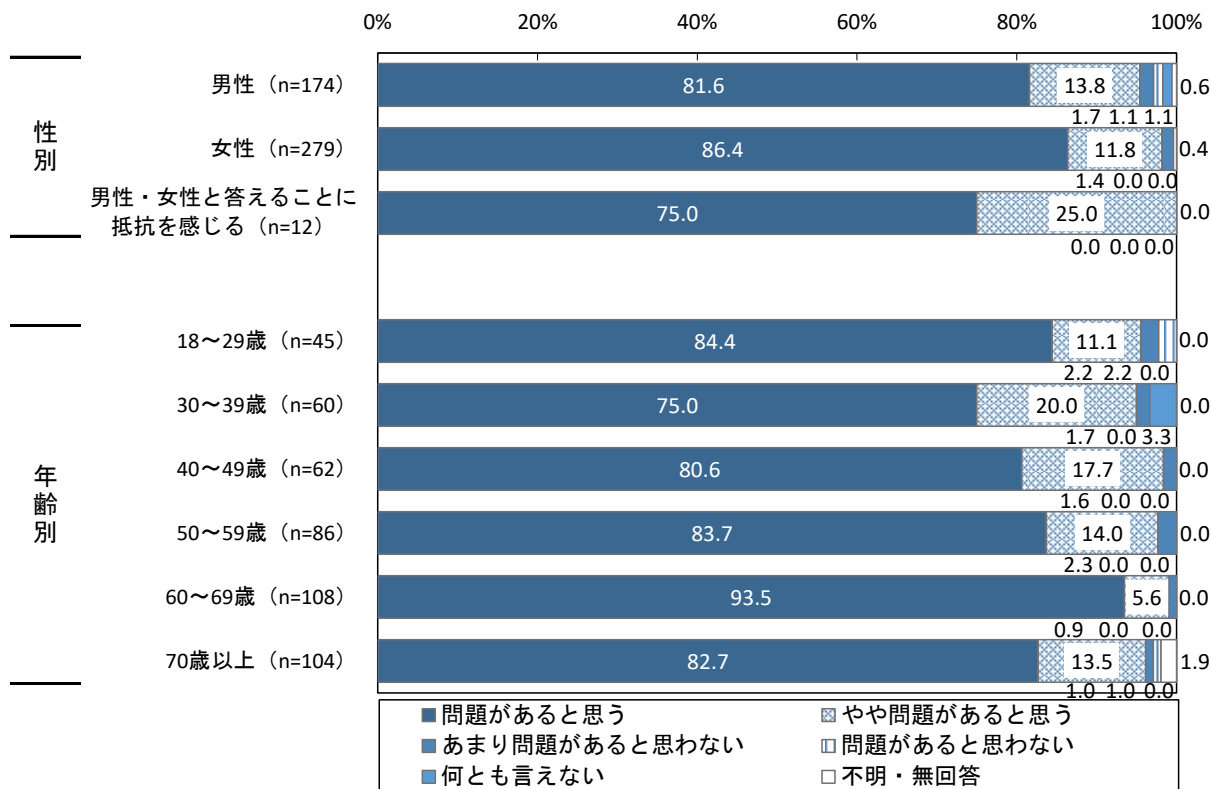
【(10) 公園でホームレスが近づいてきたので、足早に立ち去る】



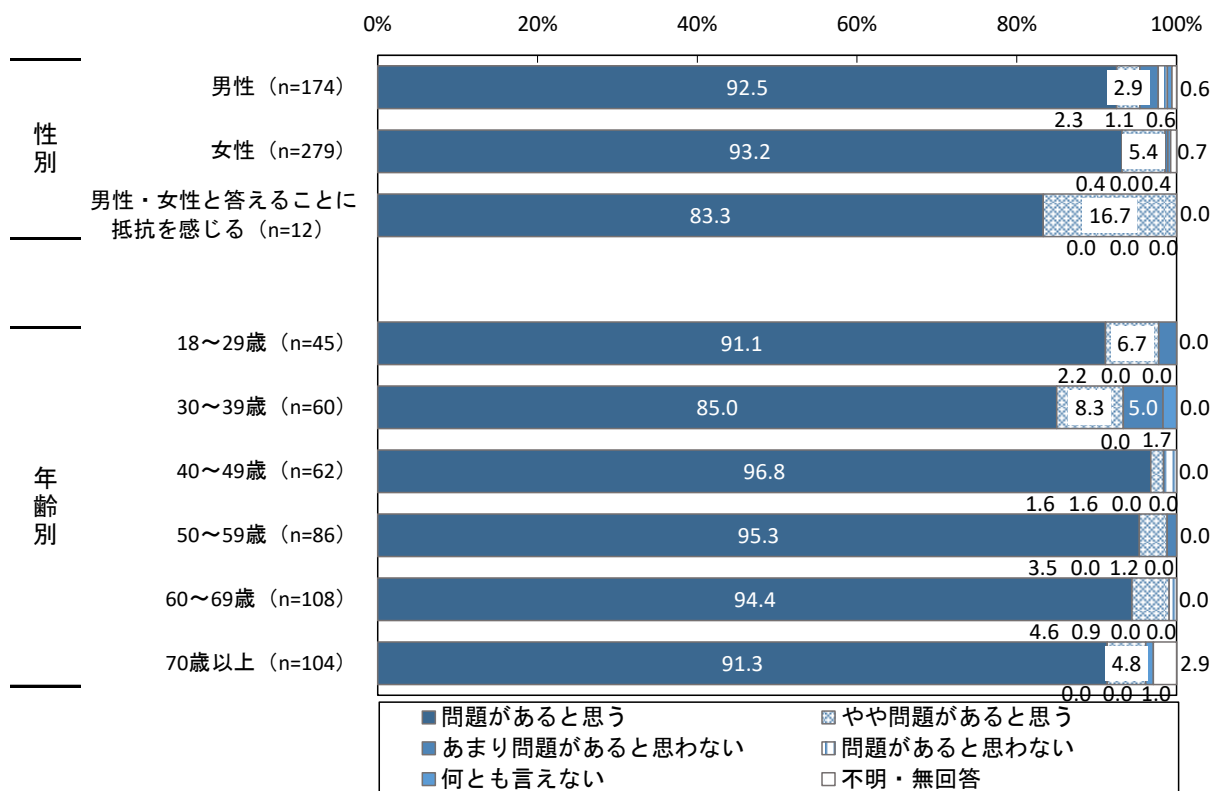
【(11) 職場で同性愛者と席が隣になることを嫌がる】



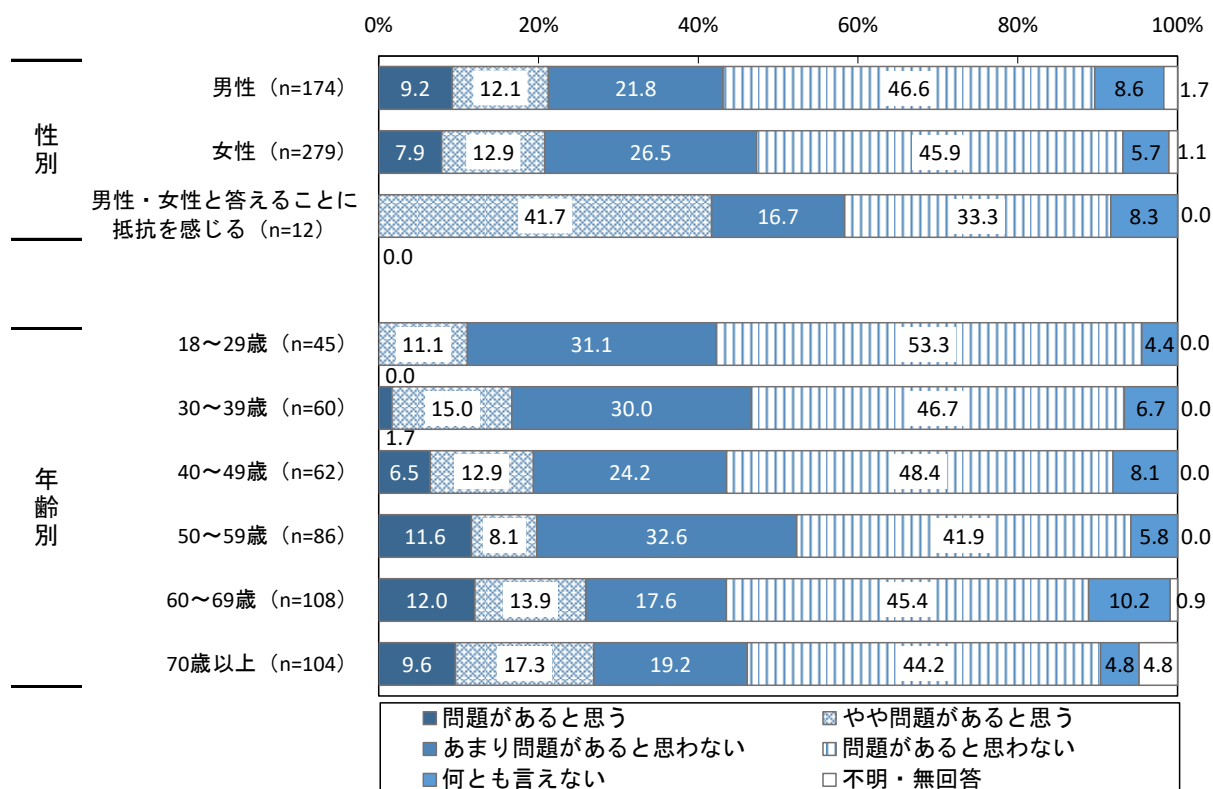
【(12) 人前で部下を長時間にわたり大声で叱る】



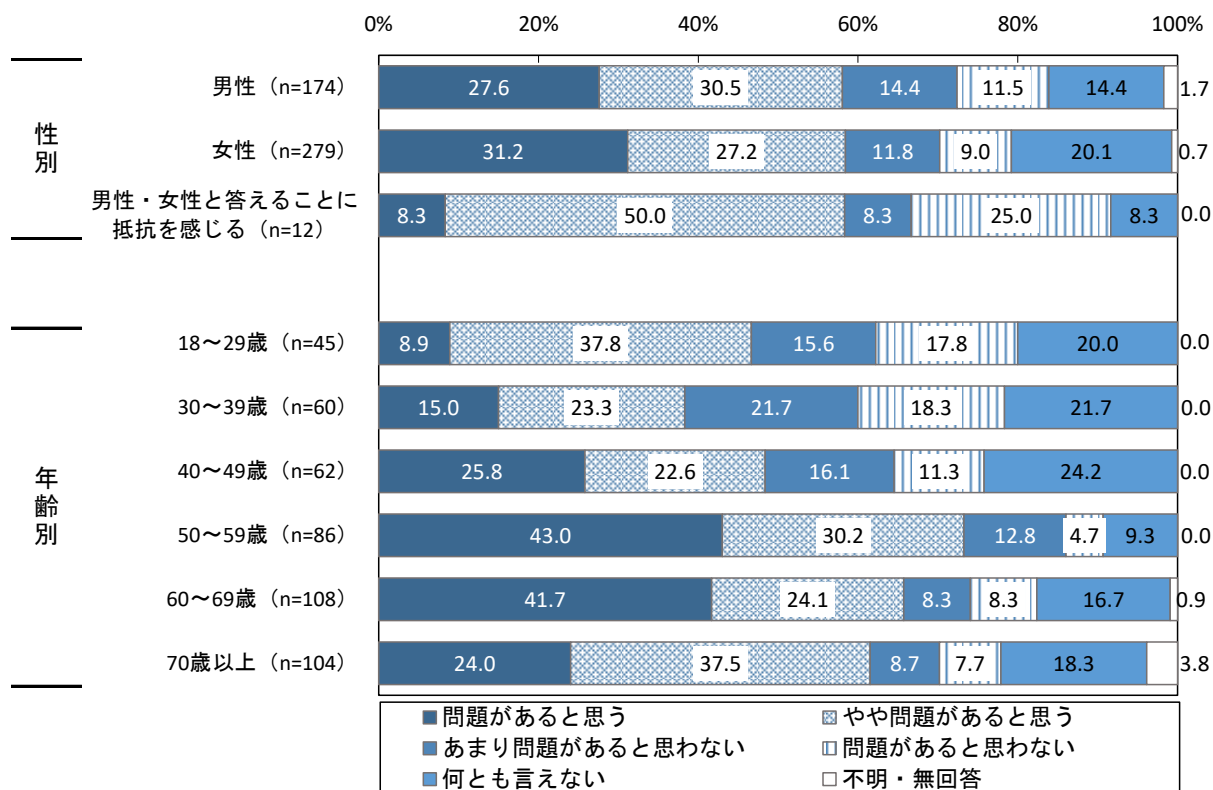
【(13) インターネットのサイトに他人の誹謗中傷を書き込む】



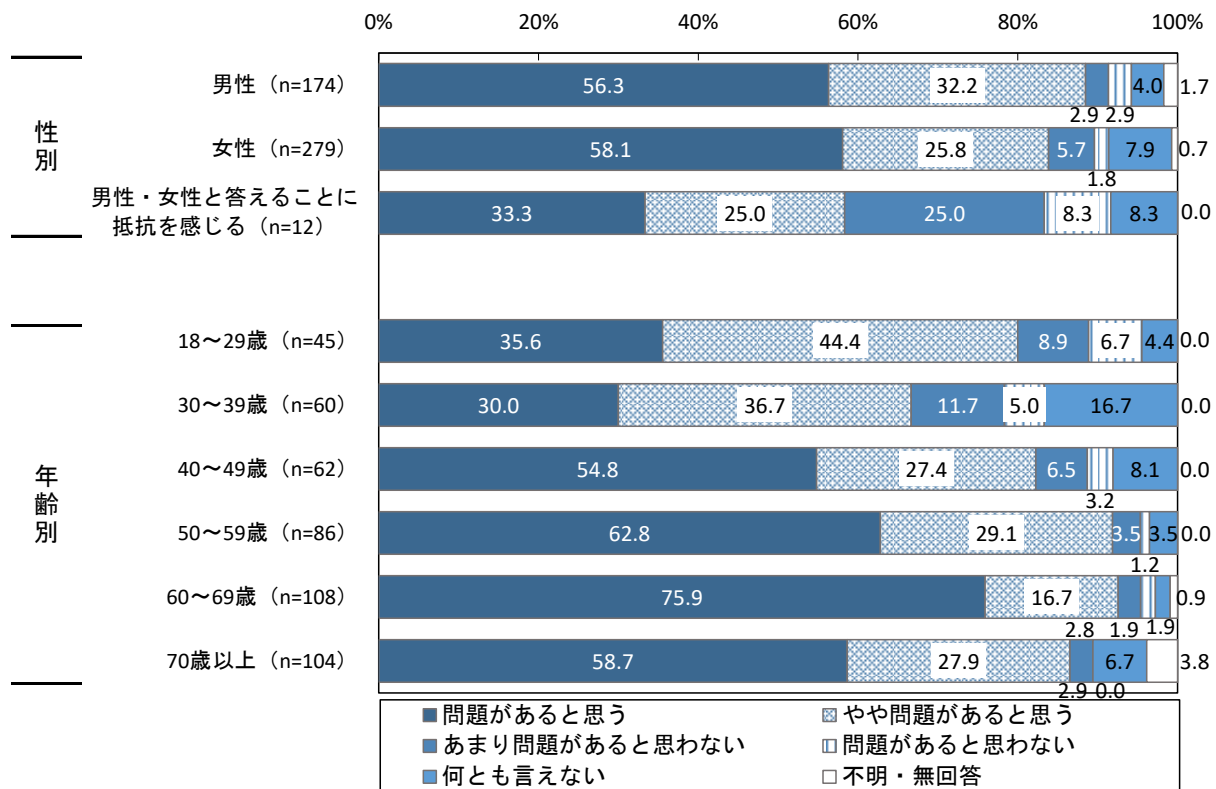
【(14) 災害時に支援が必要な人のリストを作成するため、自治会が住民に緊急時連絡先や疾病、障がいの有無などを尋ねる】



【(15) ニートや引きこもりの人に「怠けていないで働きなさい」と言う】



【(16) 恋人や配偶者の携帯電話やスマートフォンの通信履歴を見る】

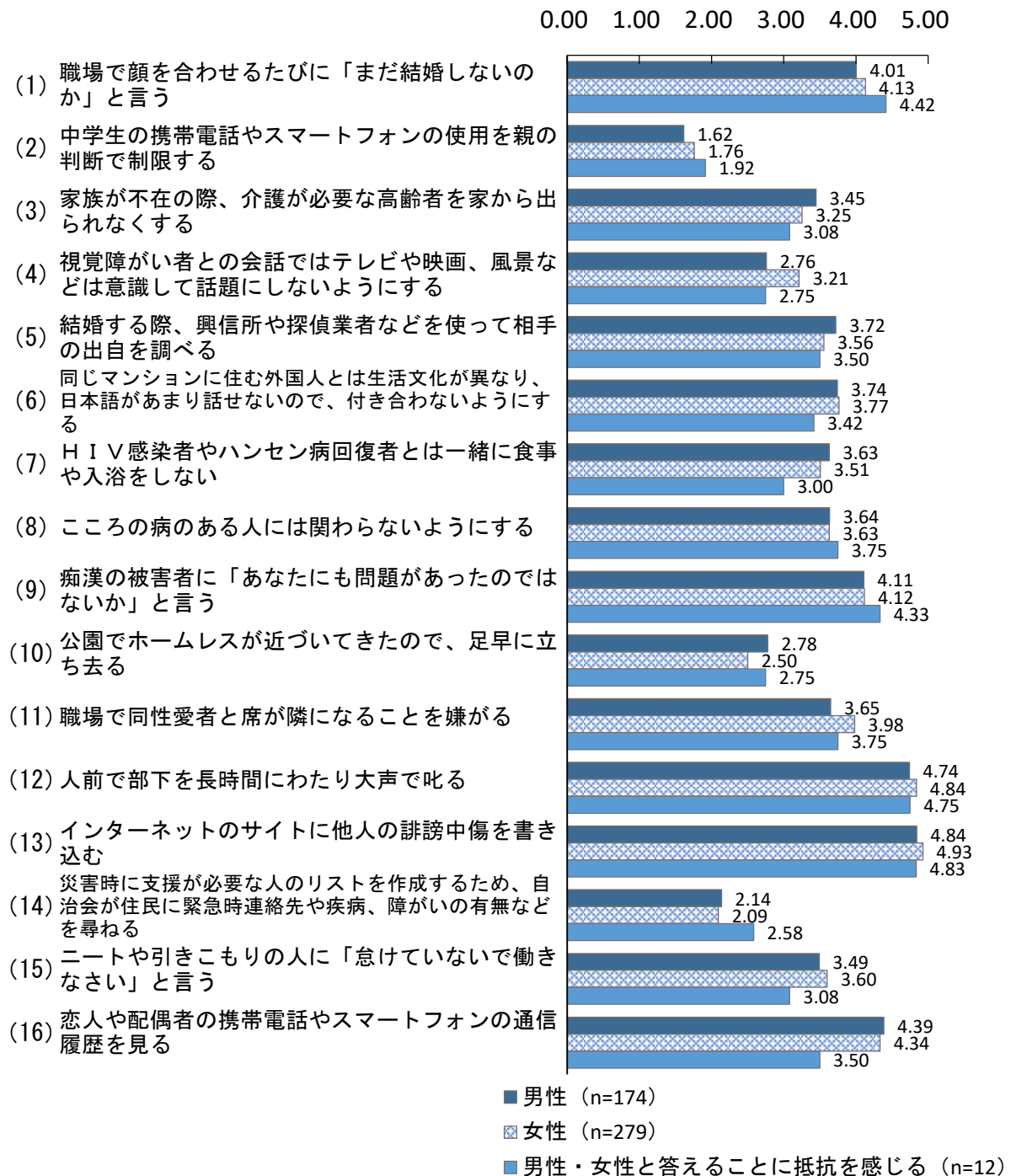


また、性別・年齢別に見るにあたり、「問題があると思う」を5点、「やや問題があると思う」を4点、「何とも言えない」を3点、「あまり問題があると思わない」を2点、「問題があると思わない」を1点とし、性別・年齢別の加重平均を求めた。これにより、値が大きいほど“問題がある”と考えられており、値が小さいほど“問題がない”と考えられていると判断できる。なお、加重平均を求めるにあたり、「不明・無回答」は除外した。

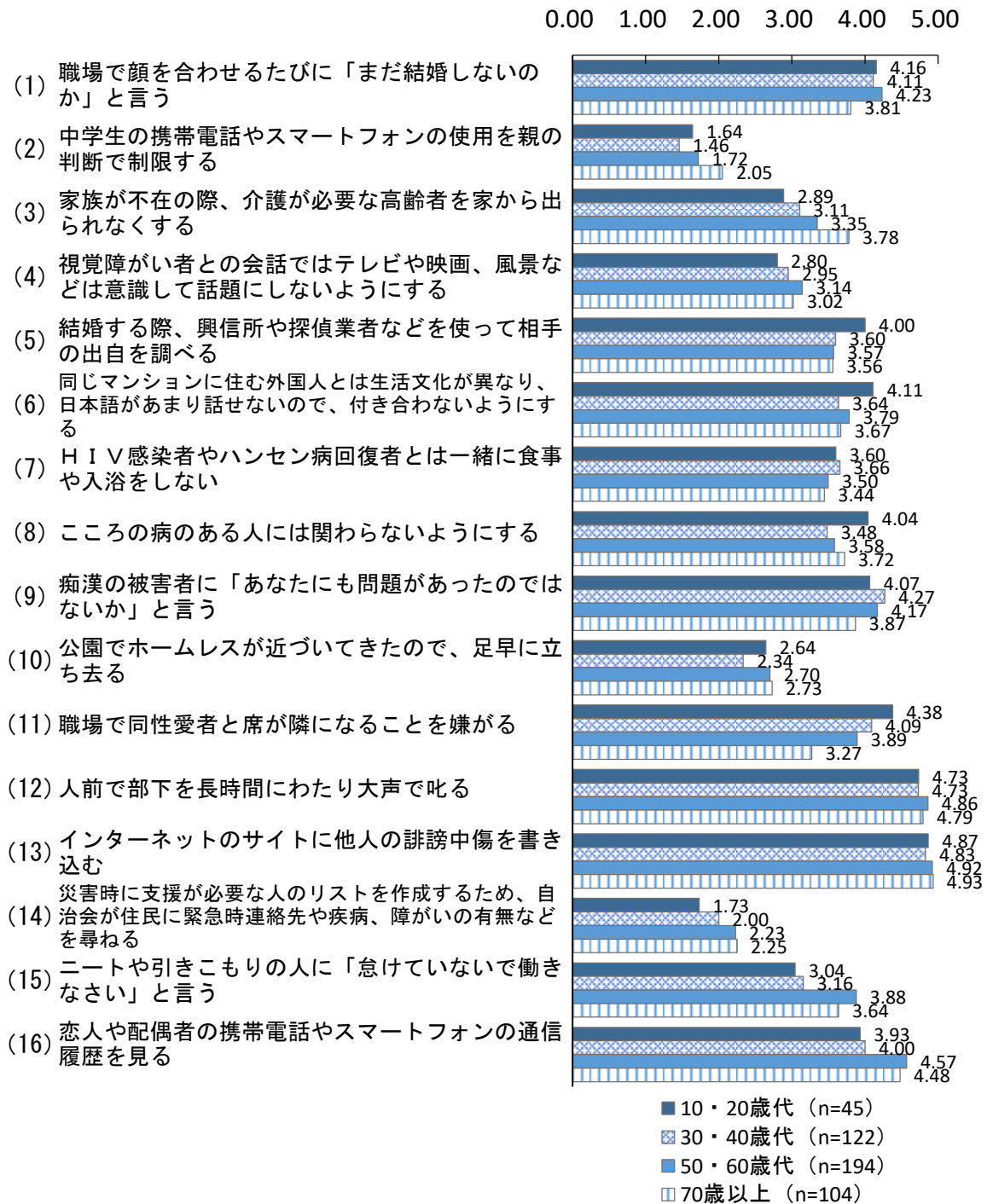
加重平均値を性別でみると、「(4) 視覚障がい者との会話ではテレビや映画、風景などは意識して話題にしないようにする」では女性に比べ男性で“問題がない”と考える傾向があるといえる。

また、加重平均値を年齢別でみると、「(3) 家族が不在の際、介護が必要な高齢者を家から出られなくする」では年齢が下がるにつれて“問題がない”と考える傾向があり、「(11) 職場で同性愛者と席が隣になることを嫌がる」では年齢が上がるにつれて“問題がない”と考える傾向があるといえる。

図表 2-4 性別 主要な人権問題に関する基本的な意識 加重平均



図表 2-5 年齢別 主要な人権問題に関する基本的な意識 加重平均



1-2. 差別に関する基本的な考え

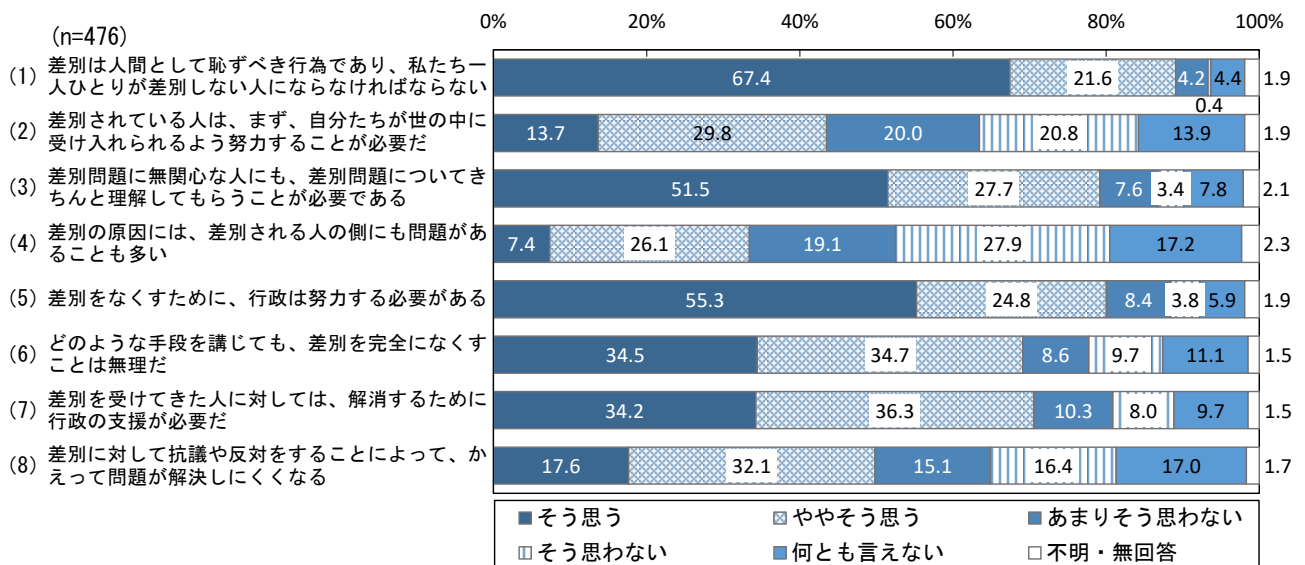
問 2	一般的に「差別」というものについて、あなたはどのような考えをお持ちですか？（(1)～(8)それぞれについて、いずれか1つに○）
-----	---

(1) 全体

差別に関する基本的な考えについて、『そう思う』（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）では、「(1) 差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならないといけない」が 89.1%で最も高く、次いで「(5) 差別をなくすために、行政は努力する必要がある」が 80.0%、「(3) 差別問題に関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である」が 79.2%と続いている。

一方、「(4) 差別の原因には、差別される人の側にも問題があることも多い」が 33.4%で最も低く、次いで「(2) 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ」が 43.5%、「(8) 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる」が 49.8%と続いている。

図表 2-6 差別に関する基本的な考え



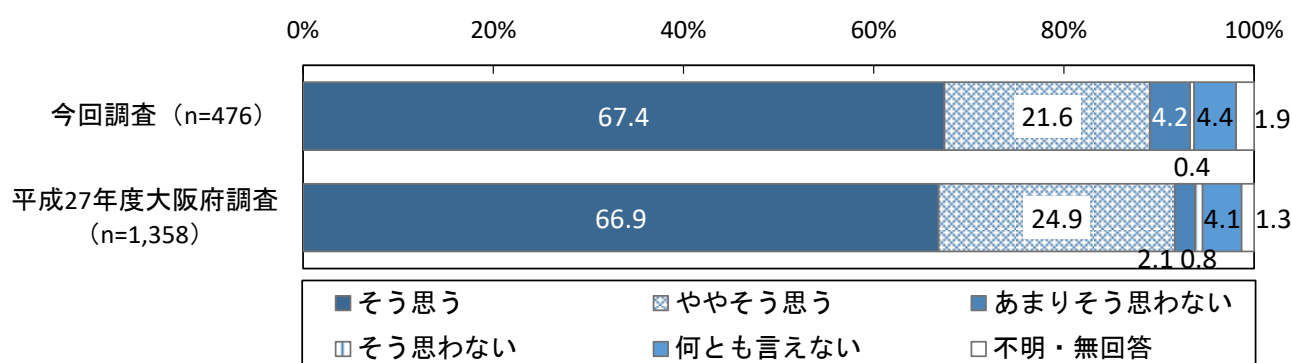
（２）大阪府調査との比較

大阪府調査と比較すると、『そう思う』では、「(7) 差別を受けてきた人に対しては、解消するために行政の支援が必要だ」について大阪府調査（62.3%）より 8.3 ポイント高くなっている。

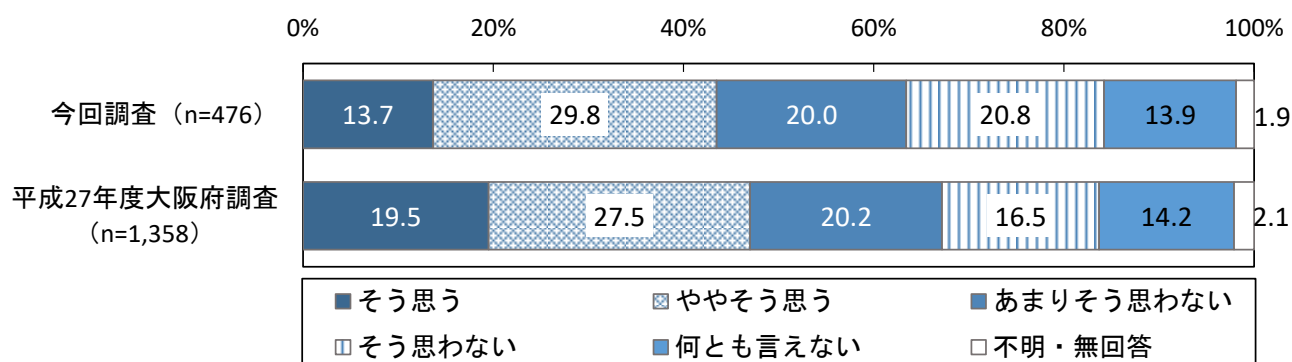
一方、『そう思わない』では、「(2) 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ」について、大阪府調査（36.7%）より 4.1 ポイント高く、「(4) 差別の原因には、差別される人の側にも問題があることも多い」について、大阪府調査（41.4%）より 5.7 ポイント高くなっている。

図表 2-7 差別に関する基本的な考え 大阪府調査との比較

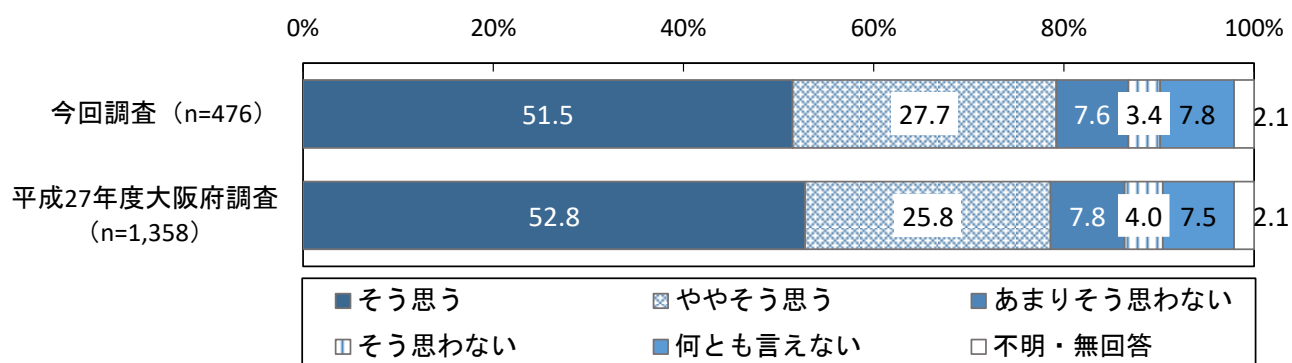
【(1) 差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない】



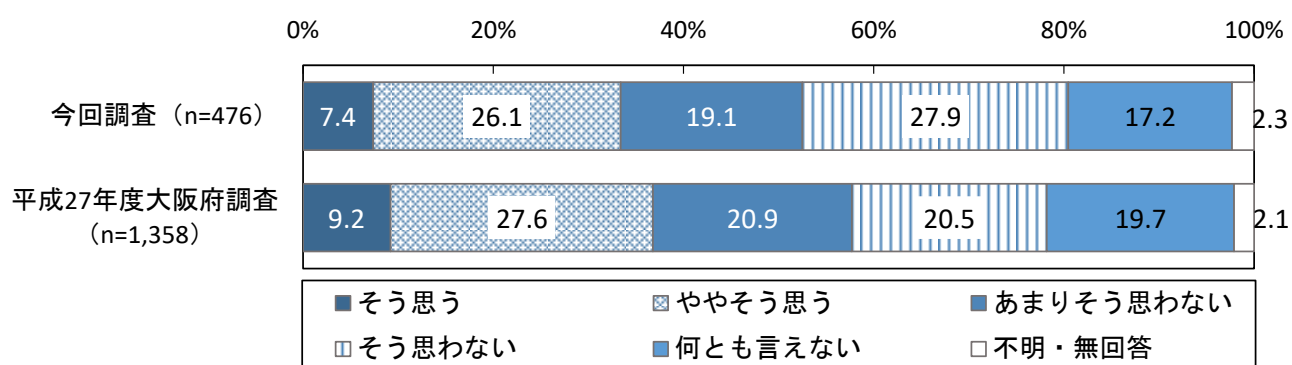
【(2) 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ】



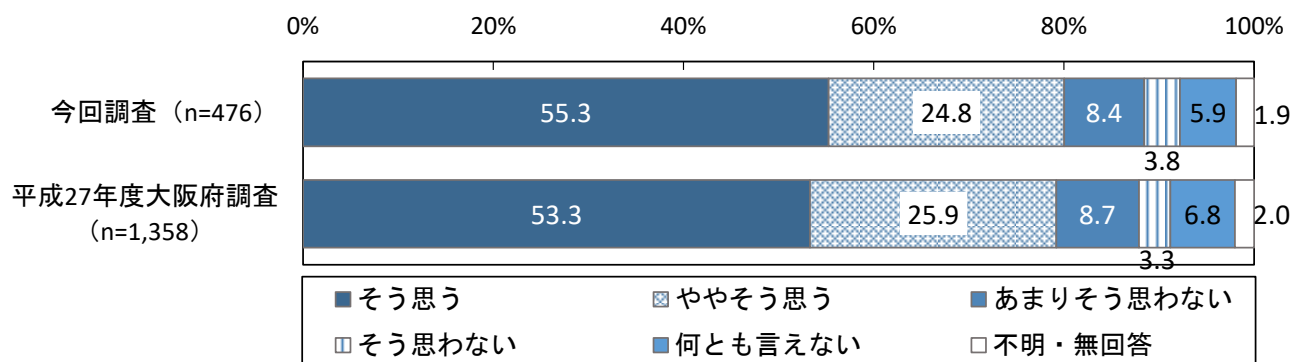
【(3) 差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である】



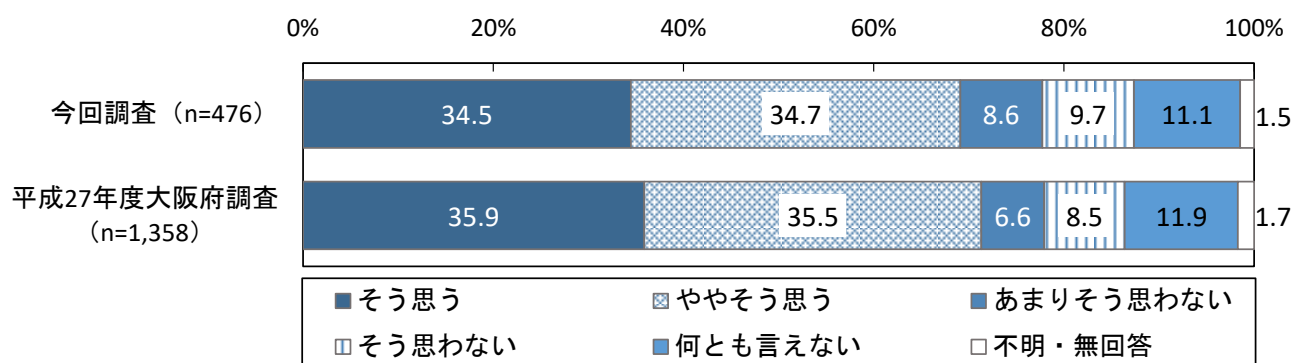
【(4) 差別の原因には、差別される人の側にも問題があることも多い】



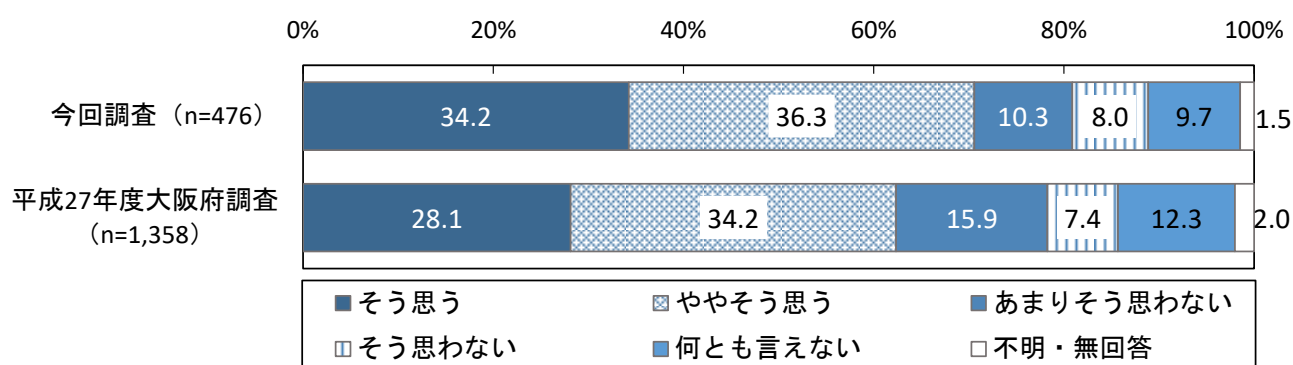
【(5) 差別をなくすために、行政は努力する必要がある】



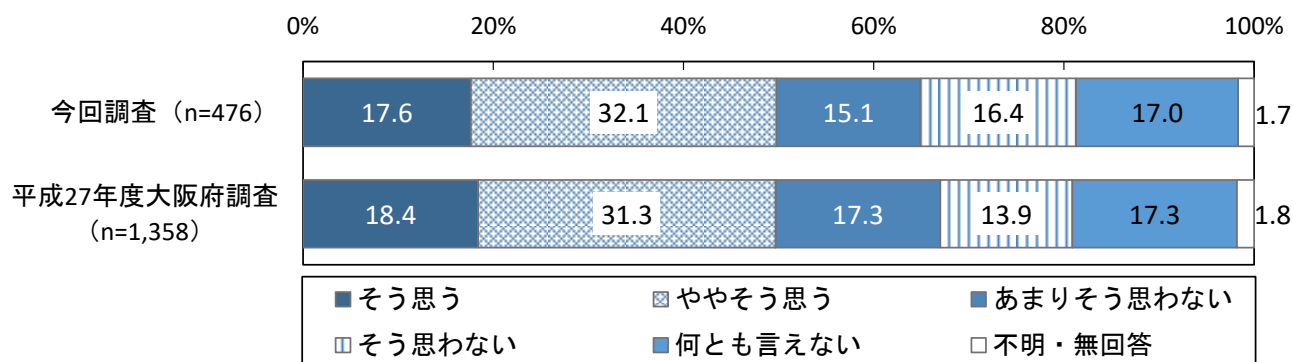
【(6) どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ】



【(7) 差別を受けてきた人に対しては、解消するために行政の支援が必要だ】



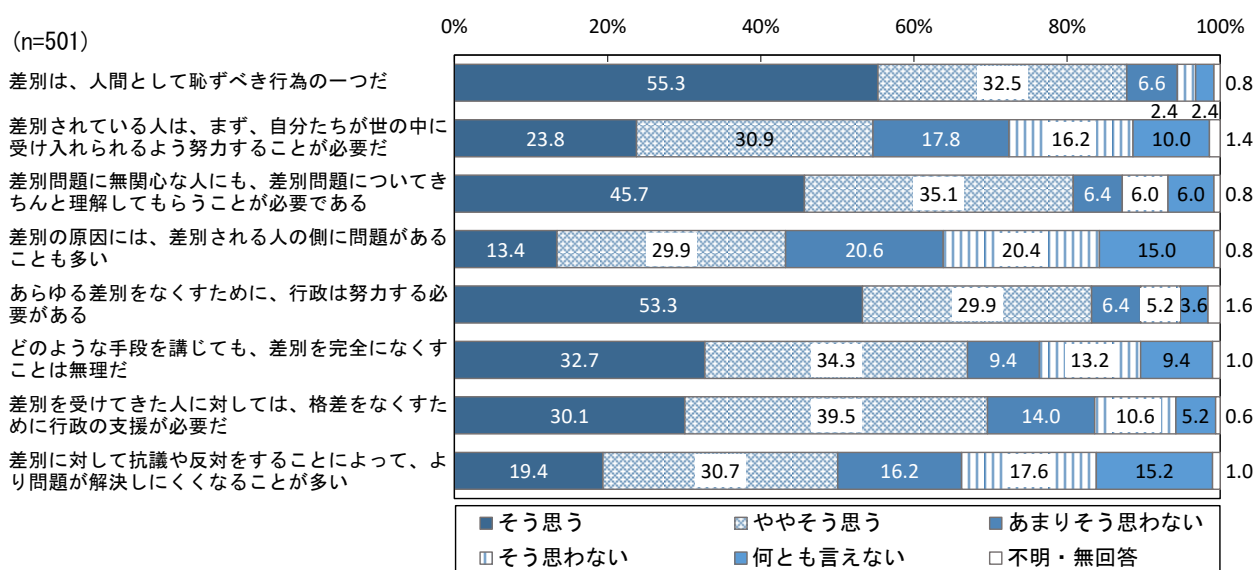
【(8) 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる】



（３）前回調査との比較

平成 24（2012）年調査とは設問内容が異なるが、質問の意図が同じであるため、比較すると、「(2) 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ」では、『そう思う』が 11.2 ポイント減少し、「(4) 差別の原因には、差別される人の側にも問題があることも多い」では、『そう思う』が 9.9 ポイント減少し、「(6) どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ」では、『そう思わない』が 4.3 ポイント減少し、「(7) 差別を受けてきた人に対しては、解消するために行政の支援が必要だ」では、『そう思わない』が 6.3 ポイント減少している。

図表 2-8 差別に関する基本的な認識 平成 24（2012）年調査結果



（注）平成 24（2012）年調査 問 2 より抜粋

（４）性別・年齢別

「(2) 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ」について、年齢別でみると、『そう思う』では 30 歳代（25.0%）以上で年齢が上がるにつれて概ね割合が高くなり、70 歳以上（60.6%）が最も高く、差が 35.6 ポイントと他の項目に比べ差が最も大きくなっている。

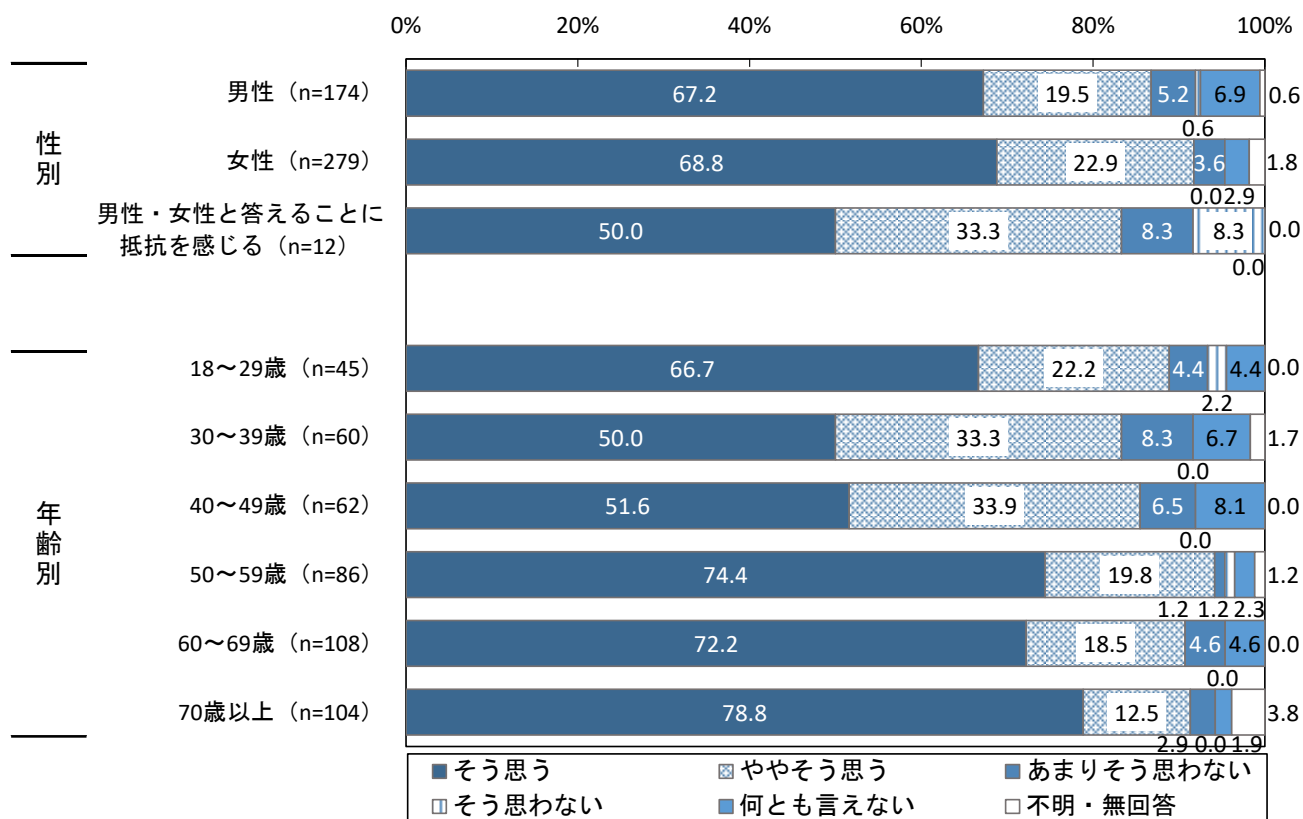
「(8) 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる」については、年齢別でみると、『そう思う』では、70 歳以上（65.4%）が最も高く、18～29 歳（37.8%）が最も低く、差が 27.6 ポイントで 2 番目に差が大きい項目となっている。

「(4) 差別の原因には、差別される人の側にも問題があることも多い」について、『そう思う』では、性別でみると、男性の割合が女性より 5.1 ポイント高く、年齢別でみると、70 歳以上（43.3%）が最も高く 18～29 歳（20.0%）が最も低く、差が 23.3 ポイントで 3 番目に差が大きい項目となっている。

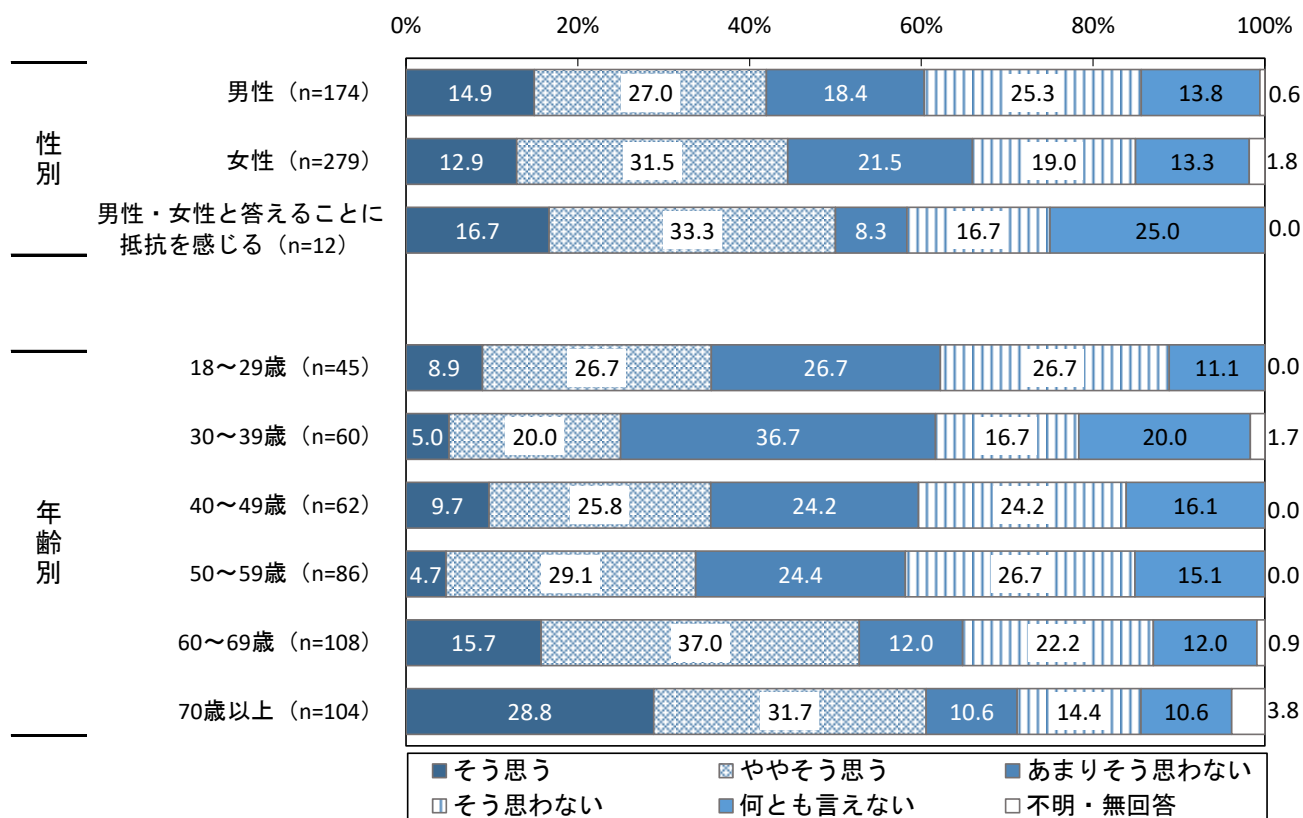
「(6) どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ」について、年齢別でみると、『そう思う』では、18～29 歳が最も高く 80.0%で、他の年齢層と比較しても高い割合となっている。

図表 2-9 性別・年齢別 差別に関する基本的な考え

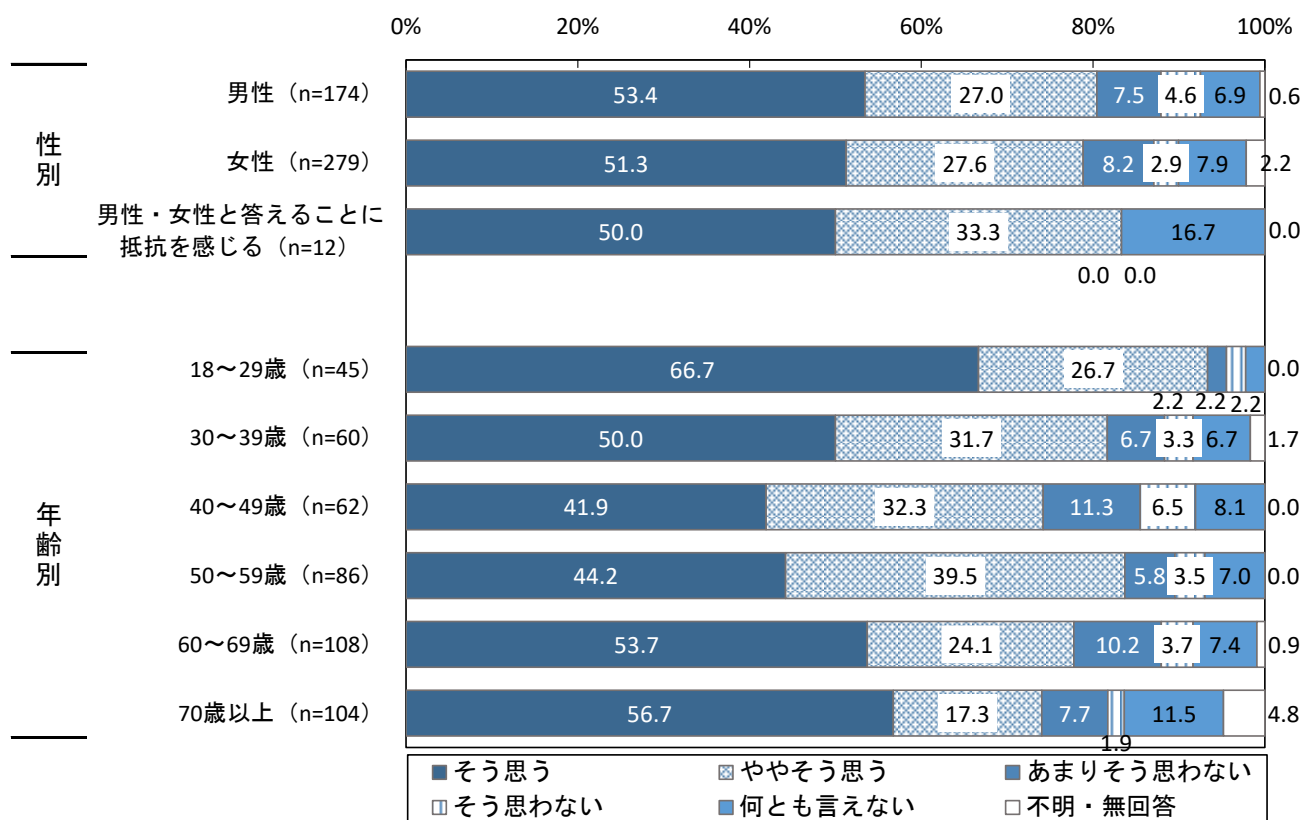
【(1) 差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない】



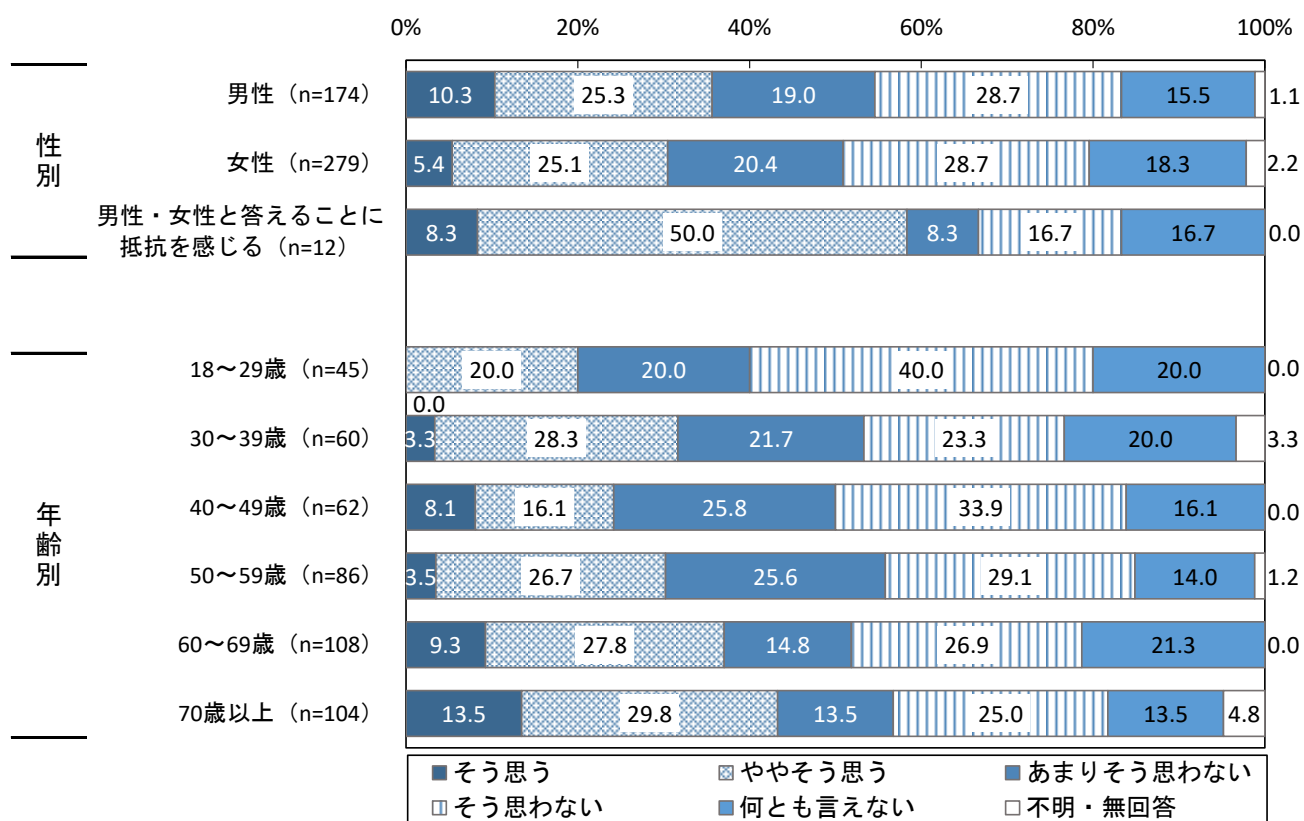
【(2) 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ】



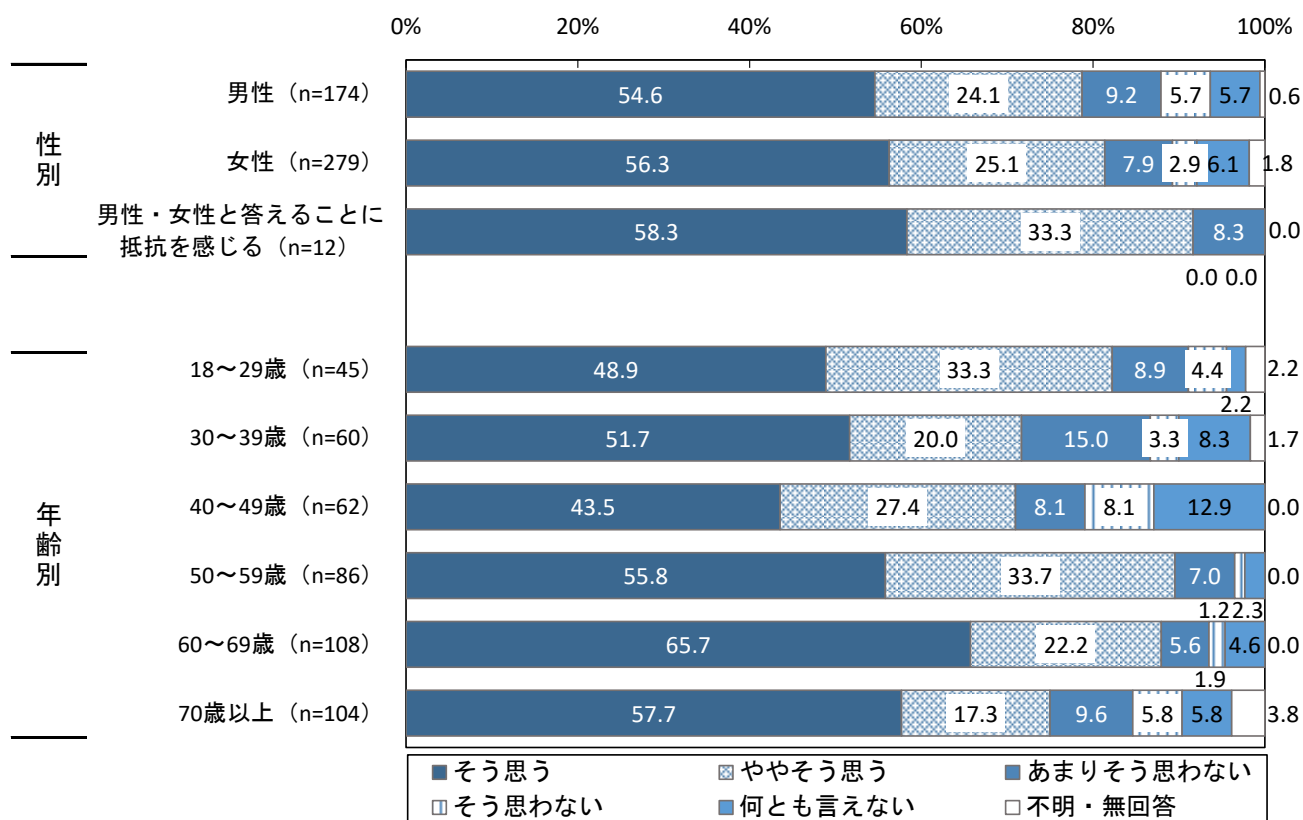
【(3) 差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらう必要がある】



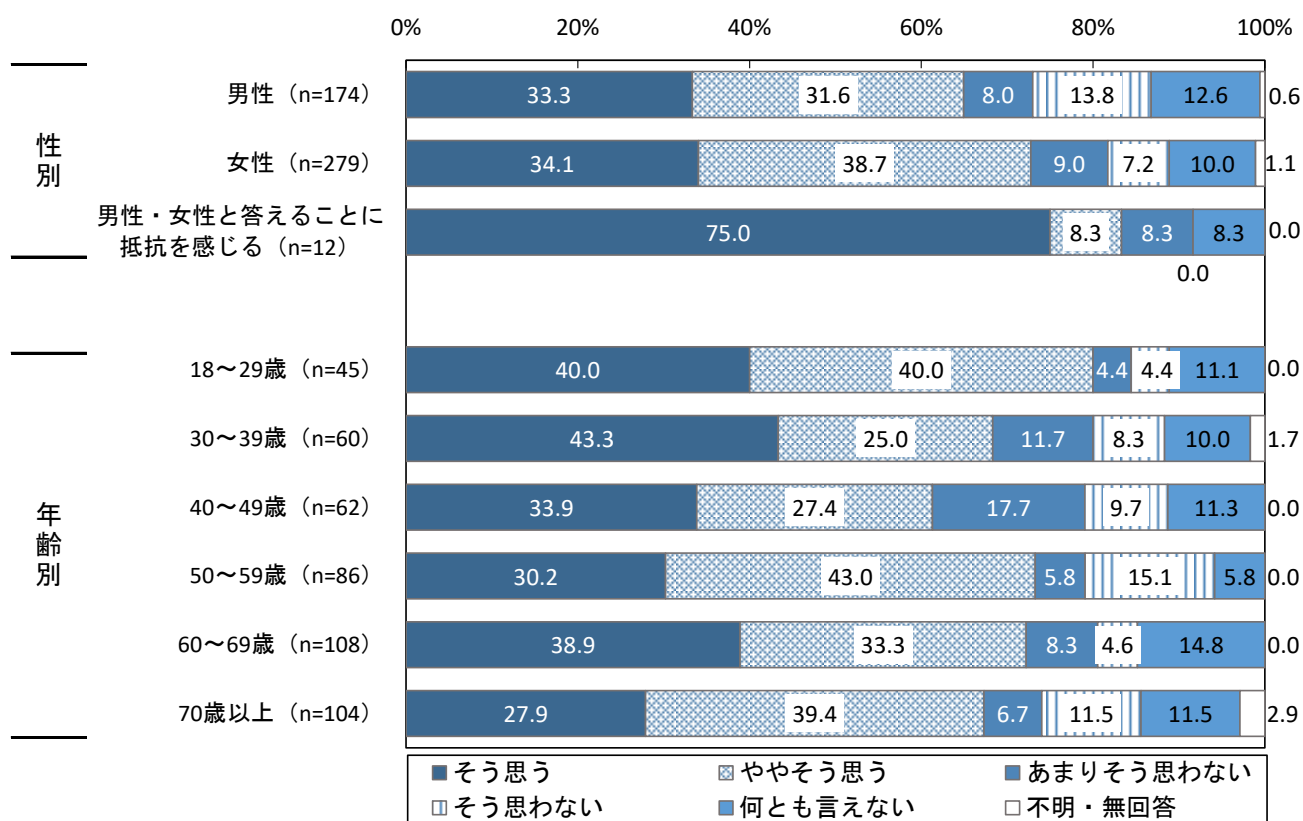
【(4) 差別の原因には、差別される人の側にも問題があることも多い】



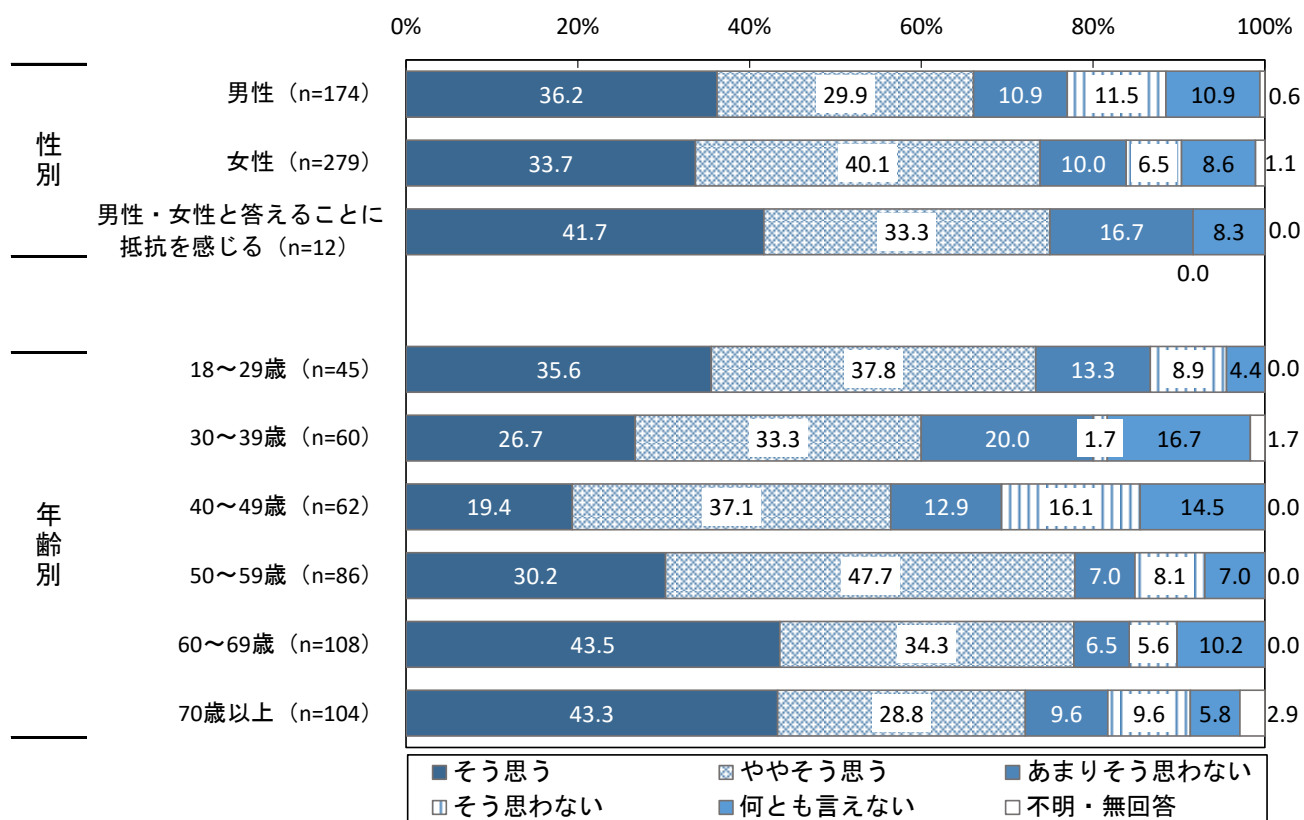
【(5) 差別をなくすために、行政は努力する必要がある】



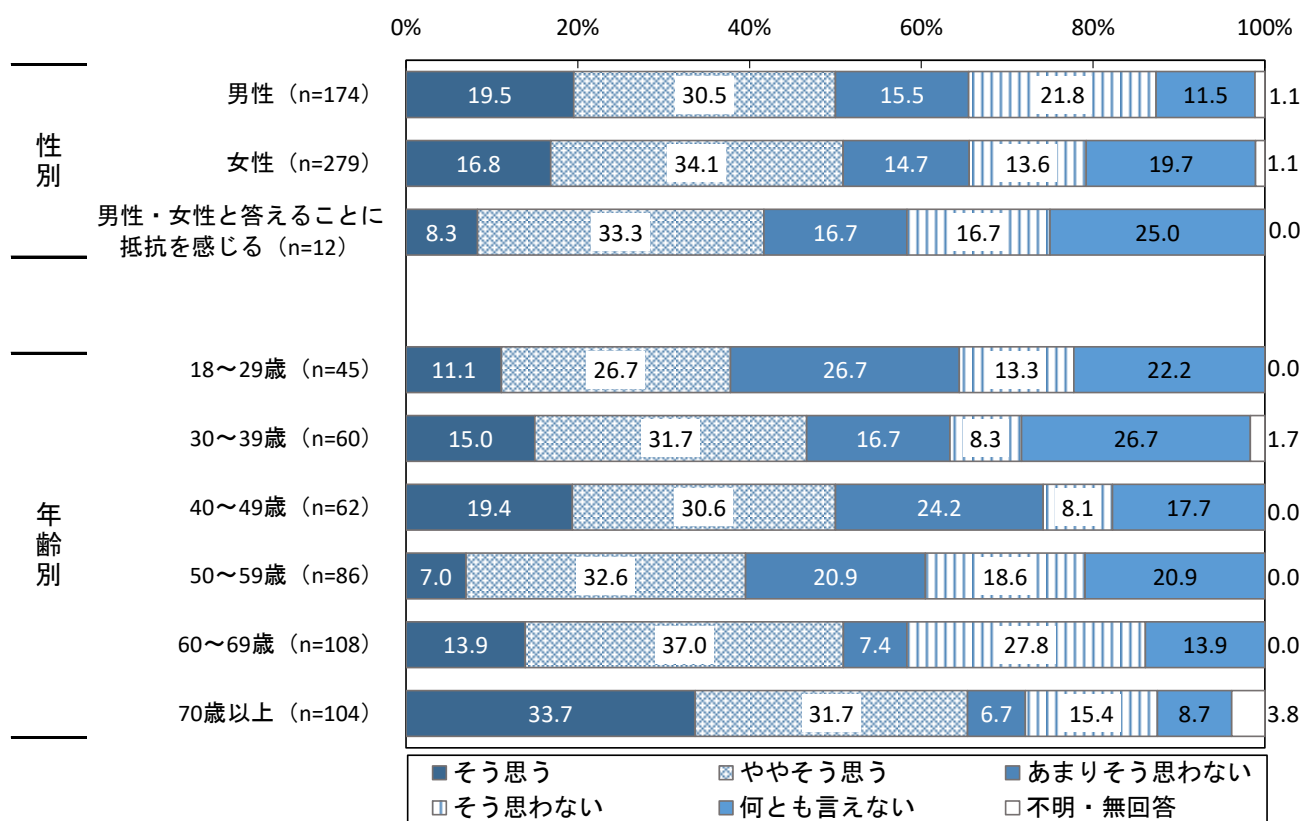
【(6) どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ】



【(7) 差別を受けてきた人に対しては、解消するために行政の支援が必要だ】



【(8) 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる】



第2章 人権問題の認知の状況等

2-1. 個別の人権問題の認知度・急いで対応すべき人権問題

問3	あなたは、次の人権問題を知っていますか？（知っているものに○）
問3-1	これらのうち、急いで対応すべきものはどれだと思いますか？ （3つまで）

（1）全体

人権問題の認知度については、「子どもの人権問題」が84.2%で最も高く、次いで「高齢者の人権問題」が79.0%、「障がい者の人権問題」が77.7%と続いている。

一方、「性的マイノリティの人権問題」が49.2%で最も低く、次いで「ホームレスの人権問題」が52.1%、「職業や雇用をめぐる人権問題」が52.9%と続いている。

急いで対応すべき人権問題については、「子どもの人権問題」が72.9%で最も高く、次いで「高齢者の人権問題」が40.1%、「インターネットによる人権侵害」が33.4%と続いている。

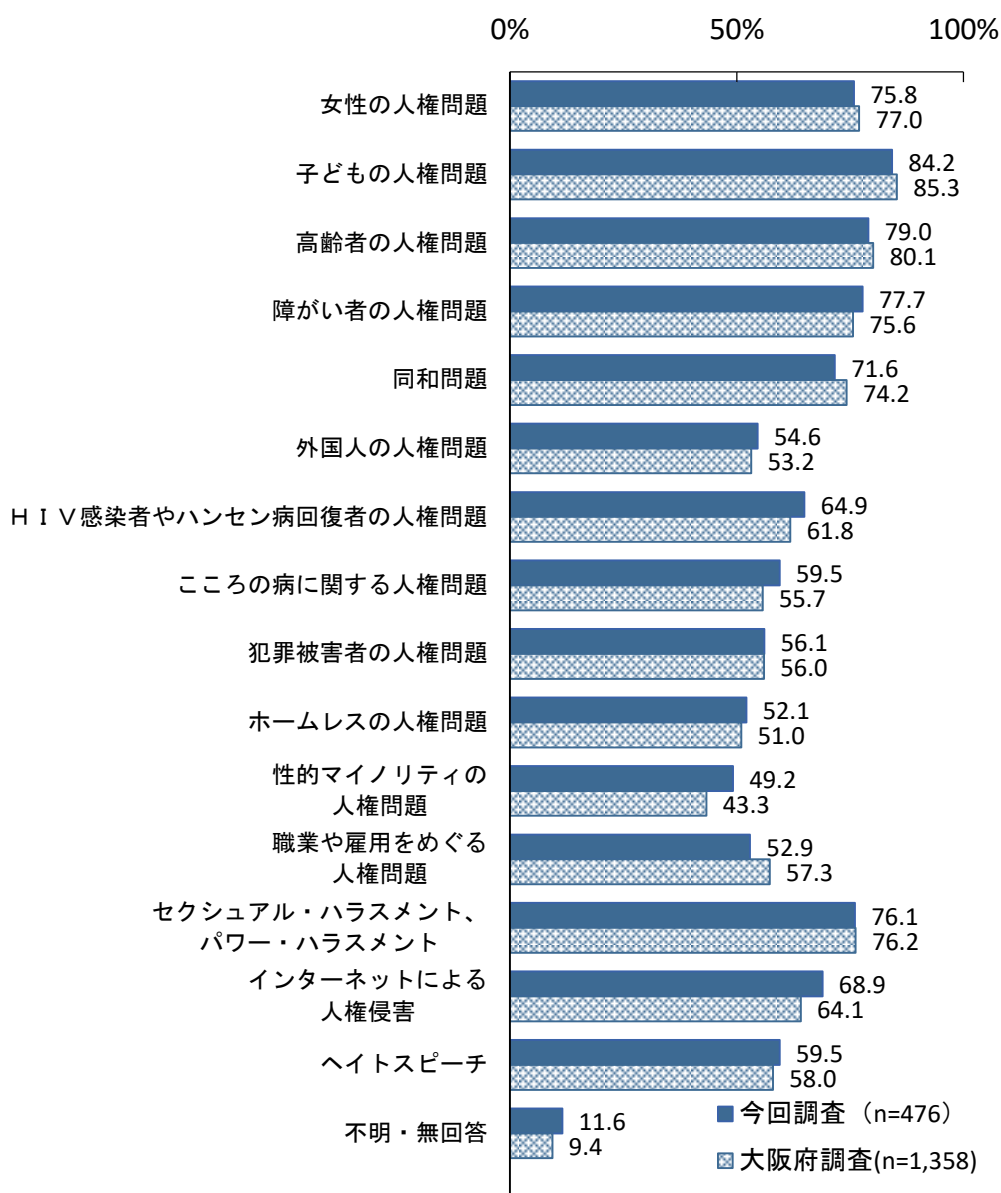
（2）大阪府調査との比較

人権問題の認知度について、大阪府調査と比較すると、「女性の人権問題」、「子どもの人権問題」、「高齢者の人権問題」、「同和問題」、「職業や雇用をめぐる人権問題」、「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」で大阪府調査より割合が低くなっており、「職業や雇用をめぐる人権問題」では4.4ポイント低くなっている。一方、「性的マイノリティの人権問題」では大阪府調査より5.9ポイント高く、「インターネットによる人権侵害」では4.8ポイント高い。

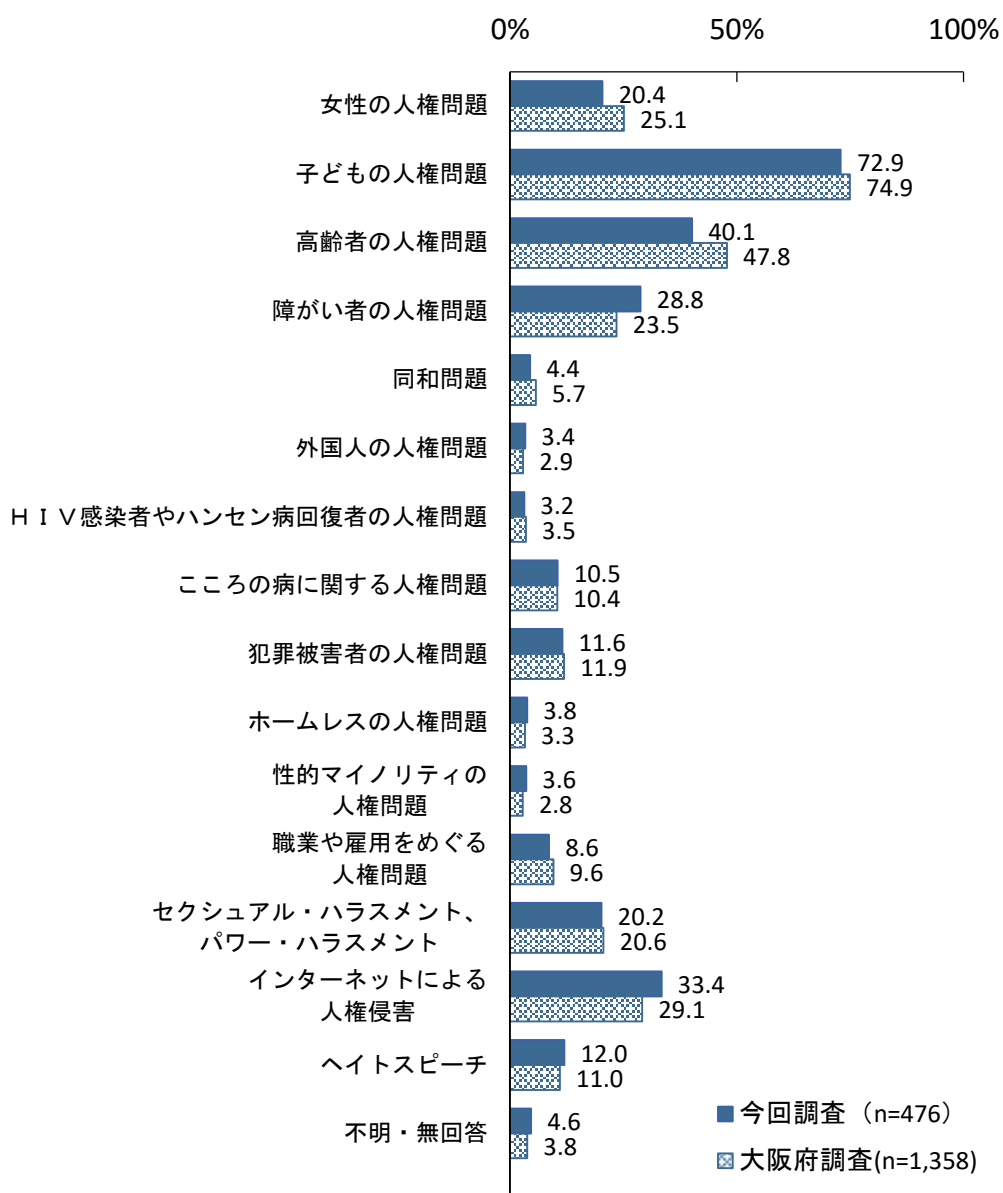
また、今回調査・大阪府調査いずれも「子どもの人権問題」が最も高く、次いで「高齢者の人権問題」が高くなっているが、今回調査では次いで「障がい者の人権問題」、「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」、「女性の人権問題」と続いており、一方大阪府調査では次いで「女性の人権問題」、「セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント」、「障がい者の人権問題」と続いている。

急いで対応すべき人権問題については、「障がい者の人権問題」、「外国人の人権問題」、「こころの病に関する人権問題」、「ホームレスの人権問題」、「性的マイノリティの人権問題」、「インターネットによる人権侵害」、「ヘイトスピーチ」で大阪府調査より割合が高くなっており、「障がい者の人権問題」では大阪府調査より5.3ポイント高く、「インターネットによる人権侵害」では4.3ポイント高い。一方、「高齢者の人権問題」では大阪府調査より7.7ポイント低くなっている。

図表 2-10 個別の人権問題の認知度



図表 2-11 急いで対応すべき人権問題



(3) 性別・年齢別

人権問題の認知度について、性別でみると、「ヘイトスピーチ」では、男性が 67.2%で、女性 (55.2%) よりも 12.0 ポイント高く、「職業や雇用をめぐる人権問題」では、男性が 58.0%で、女性 (50.5%) より 7.5 ポイント高くなっている。

また、年齢別で差をみると、「同和問題」(40 歳代 82.3%、18～29 歳 48.9%) が 33.4 ポイントで最も差が大きく、次いで「インターネットによる人権侵害」(18～29 歳 82.2%、70 歳以上 52.9%) で 29.3 ポイント、「外国人の人権問題」(50 歳代 66.3%、70 歳以上 38.5%) が 27.8 ポイントと続いており、「子どもの人権問題」(50 歳代 87.2%、70 歳以上 82.7%) が 4.5 ポイントで最も差が小さい。

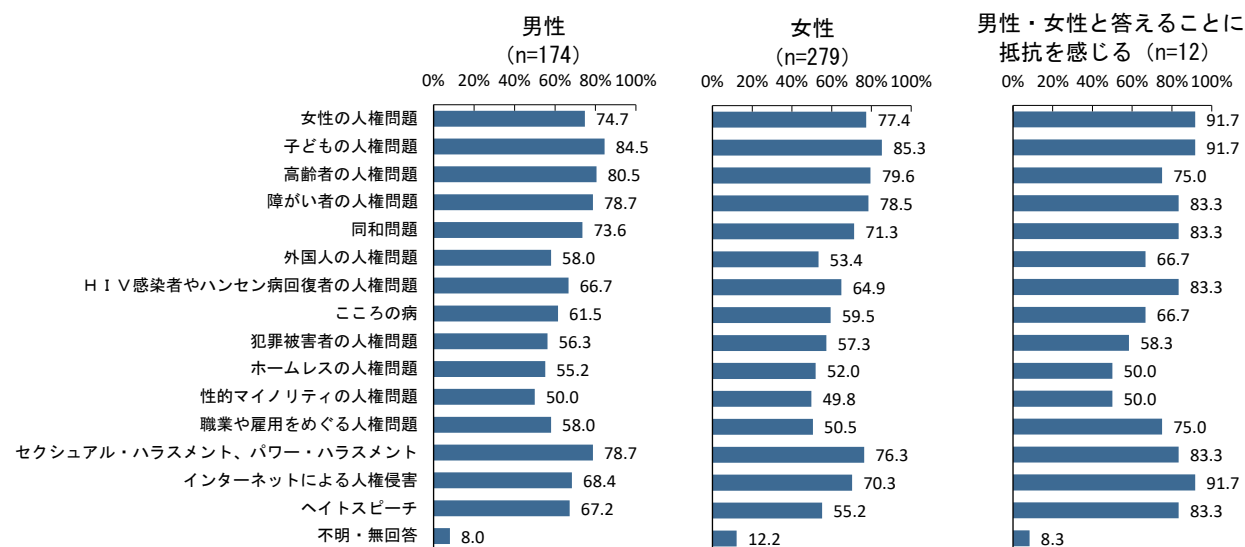
急いで対応すべき人権問題については、全ての性別、年齢別において「子どもの人権問題」が最も高くなっている。

また、性別でみると、男性では次いで「インターネットによる人権侵害」が高く、女性では次いで「高齢者の人権問題」が高くなっている。

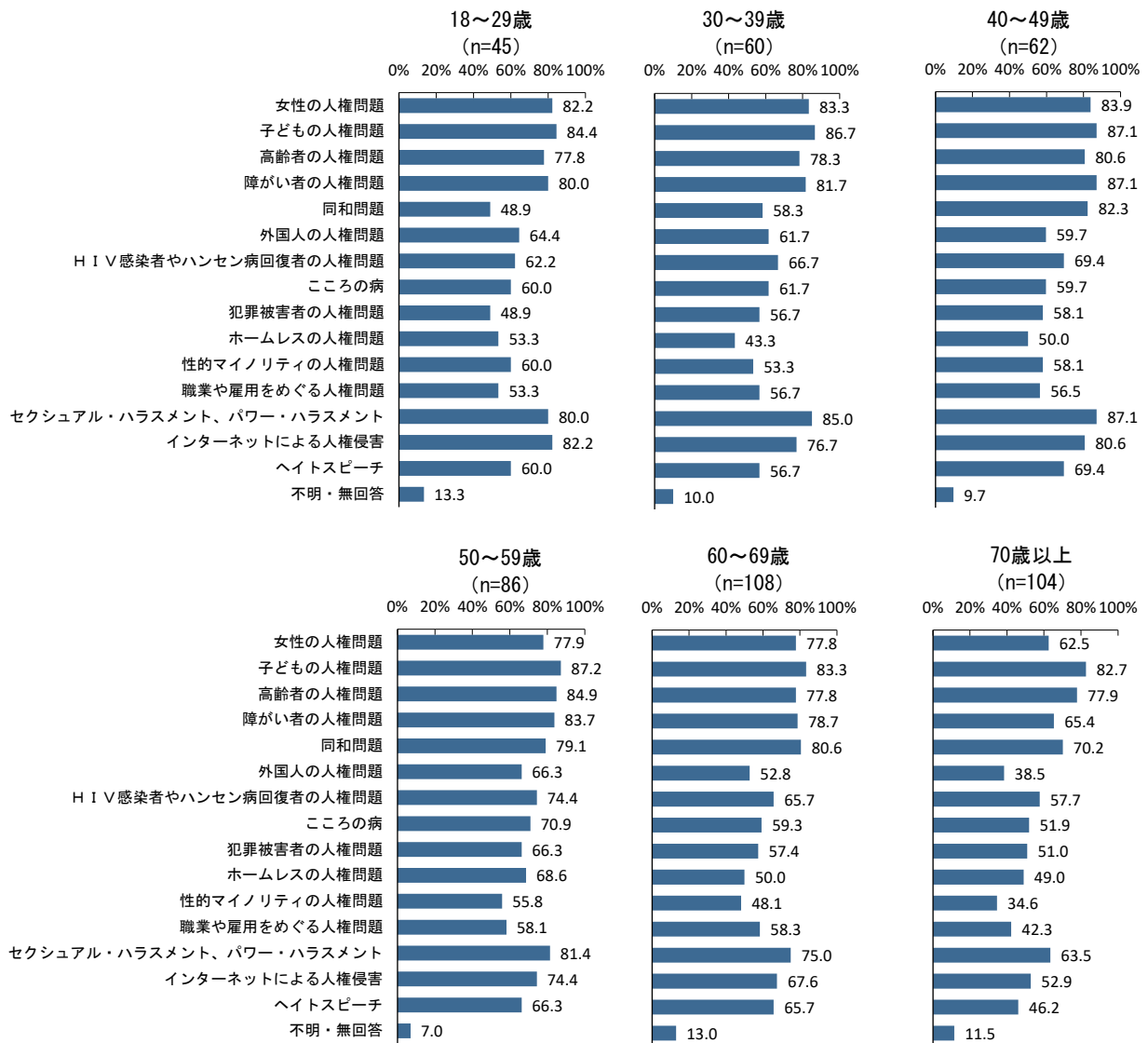
さらに、年齢別では、18～29 歳では次いで「女性の人権問題」が高く、30～40 歳代では次いで「インターネットによる人権侵害」が高く、50 歳以上では次いで「高齢者の人権問題」が高くなっている。

図表 2-12 性別・年齢別 個別の人権問題の認知度

【性別】

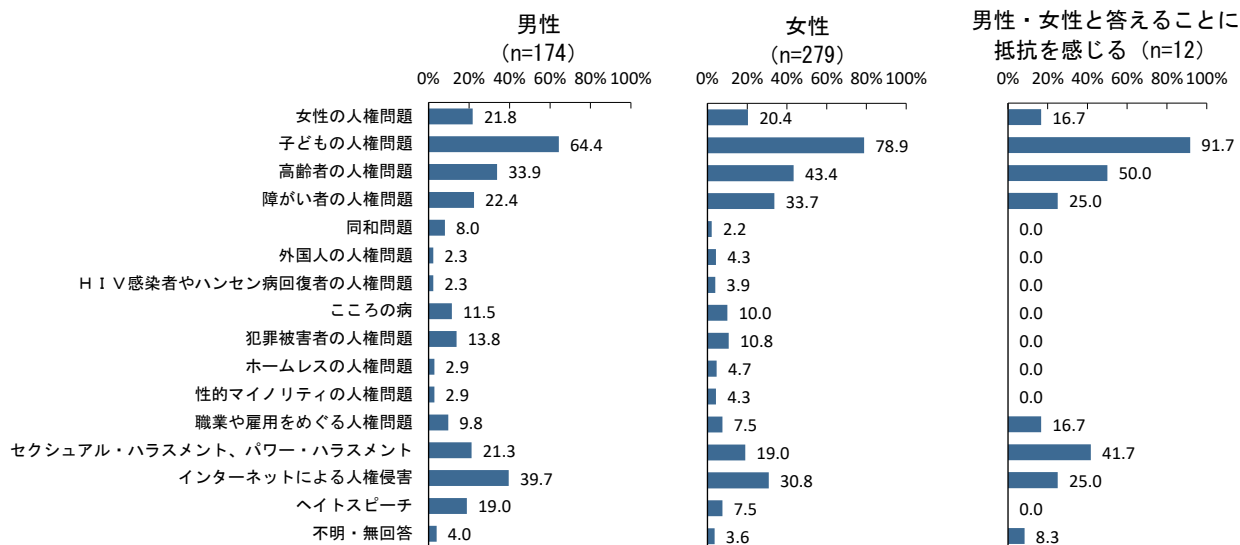


【年齢別】

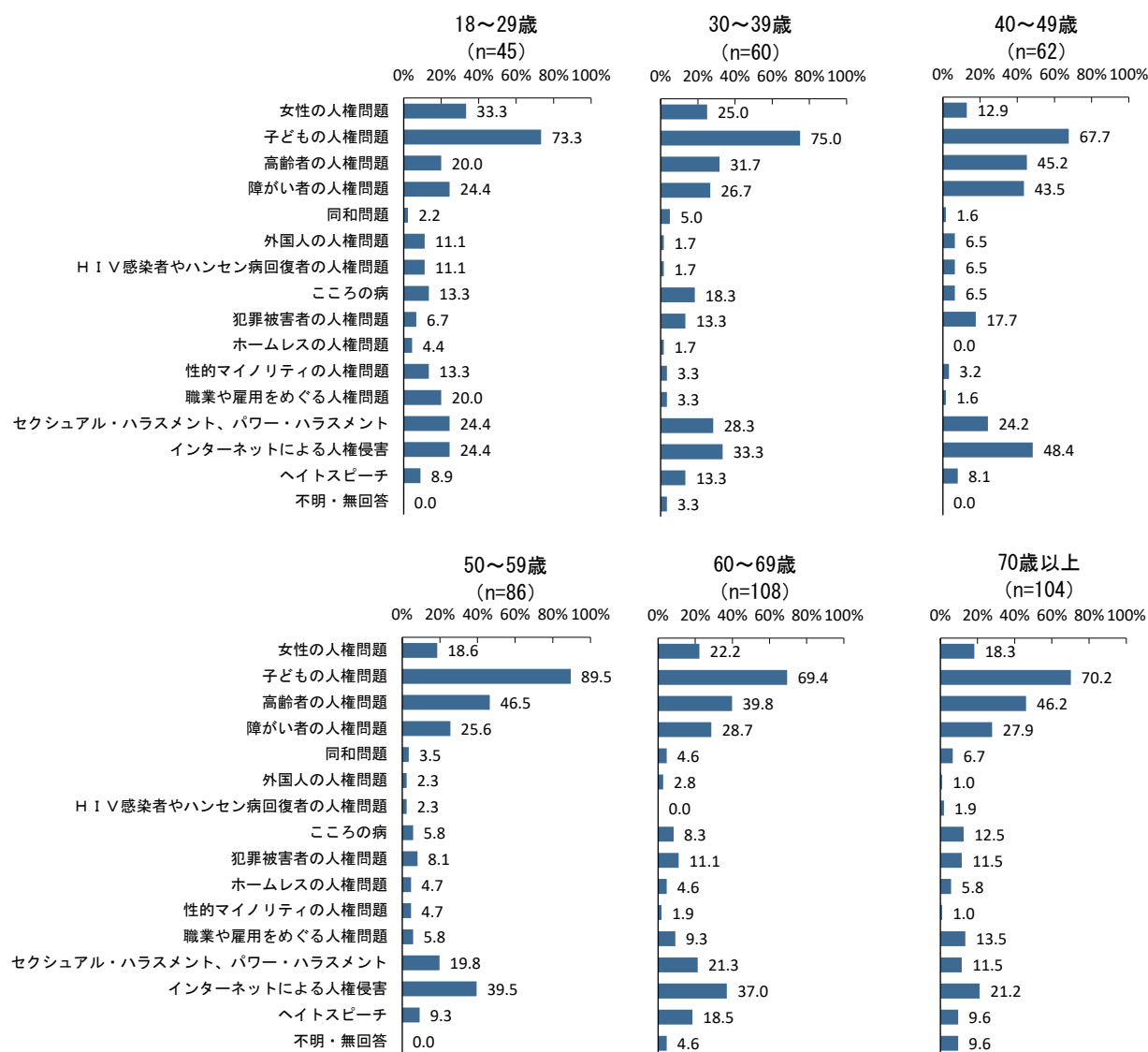


図表 2-13 性別・年齢別 急いで対応すべき人権問題

【性別】



【年齢別】



第3章 人権問題についての情報・知識の入手経路

3-1. 人権問題についての情報・知識の入手経路

問 4	あなたは、人権問題についての情報や知識は主にどこで（何で）知りましたか？ （〇はいくつでも）
-----	---

（1）全体

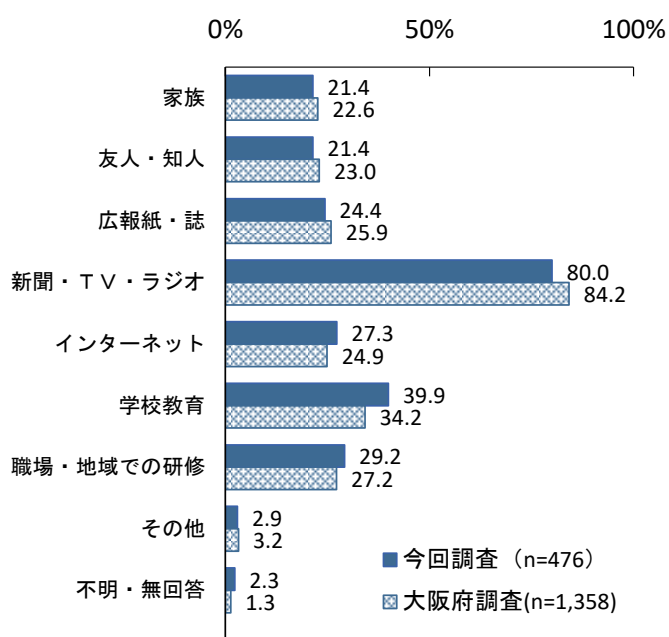
人権問題についての情報・知識の入手経路については、「新聞・ＴＶ・ラジオ」が 80.0%で最も高く、次いで「学校教育」が 39.9%、「職場・地域での研修」が 29.2%と続いている。

「その他」の自由記述は、「書籍・本」（7 件）、「生活の中」（2 件）等となっている。

（2）大阪府調査との比較

大阪府調査と比較すると、「インターネット」、「学校教育」、「職場・地域での研修」で今回調査の割合が高く、特に「学校教育」については、大阪府調査より 5.7 ポイント高くなっている。

図表 2-14 人権問題についての情報・知識の入手経路



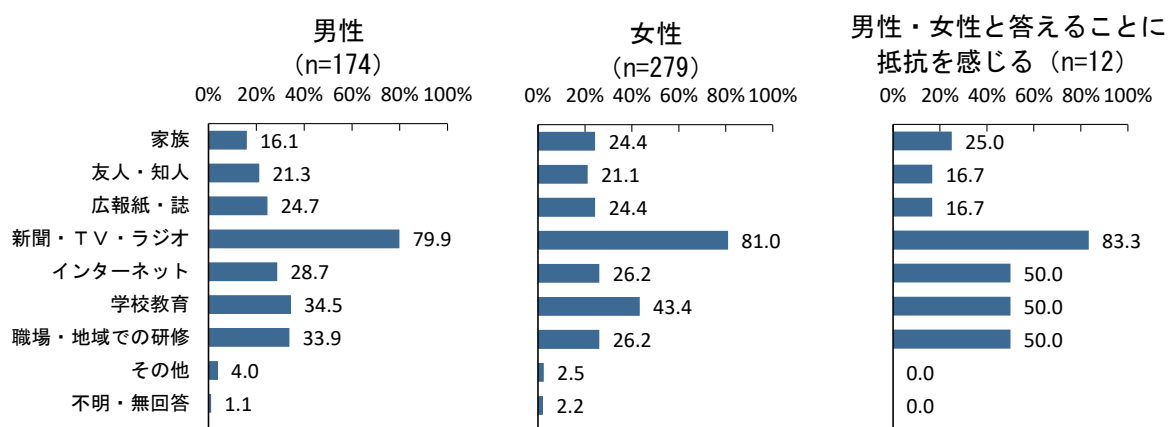
(3) 性別・年齢別

性別でみると、他の項目に比べ、男性で「職場・地域での研修」の割合が女性より高く、女性で「家族」、「学校教育」の割合が男性より高くなっている。

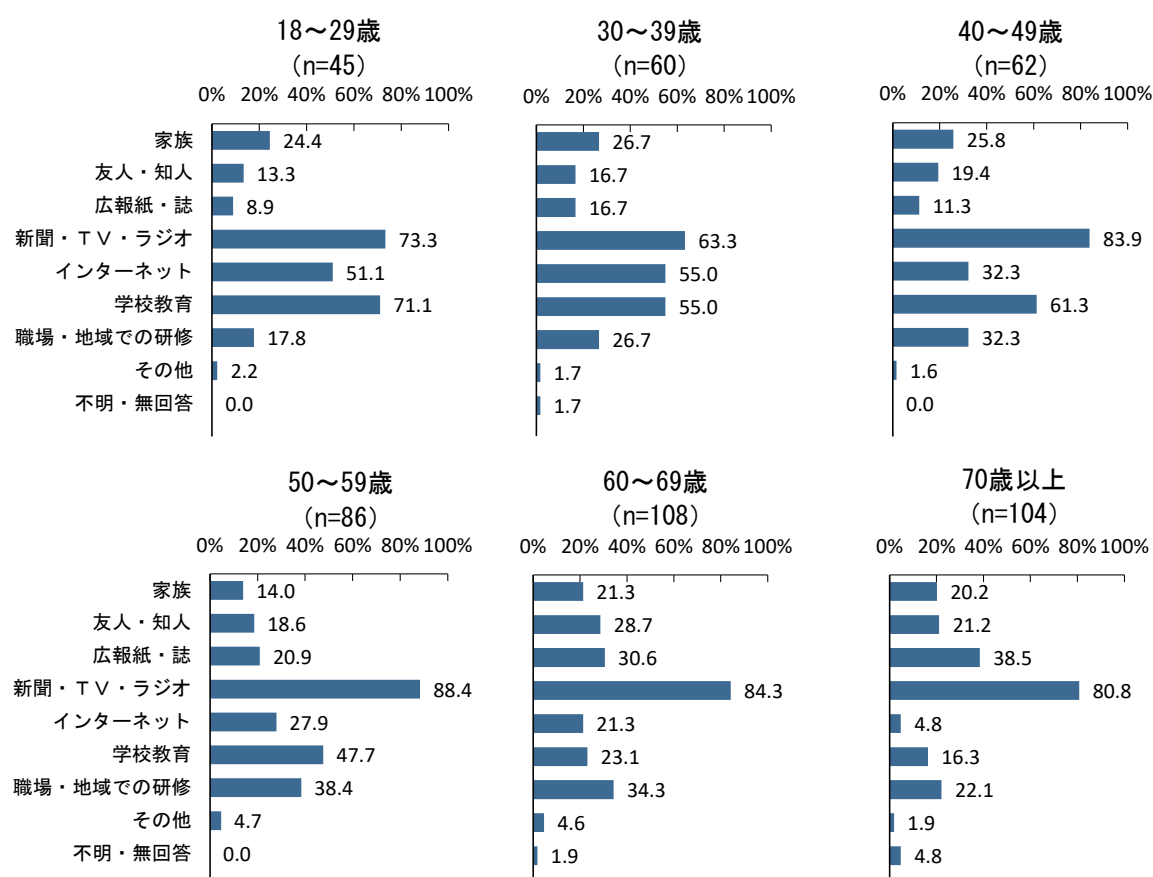
年齢別でみると、全ての年齢層において「新聞・ＴＶ・ラジオ」の割合が高くなっており、年齢が上がるにつれて「広報紙・誌」の割合が概ね高くなり、「学校教育」の割合が概ね低くなり、年齢が下がるにつれて「インターネット」の割合が高くなっている。

図表 2-15 性別・年齢別 人権問題についての情報・知識の入手経路

【性別】



【年齢別】



問4で「学校教育」と回答した方

問4	付問	該当するものに○をつけてください。
----	----	-------------------

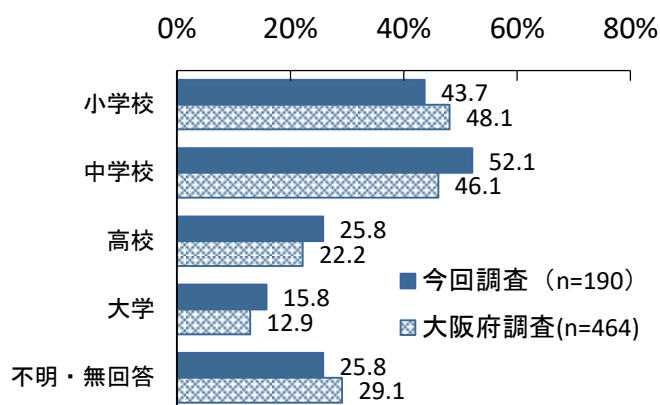
(1) 全体

「学校教育」の具体的な場所については、「中学校」が52.1%で最も高く、次いで「小学校」が43.7%、「高校」が25.8%と続いている。

(2) 大阪府調査との比較

大阪府調査と比較すると、「小学校」以外の項目で今回調査の割合が高くなっている。

図表 2-16 「学校教育」の具体的な場所



(3) 性別・年齢別

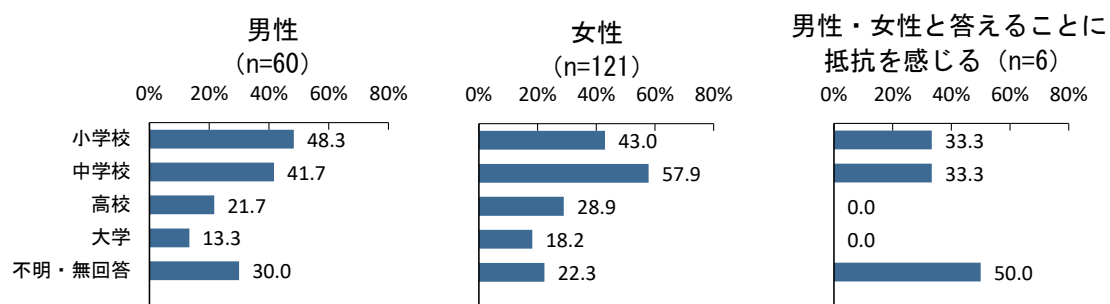
性別でみると、「小学校」では男性の割合が女性より高く、「中学校」、「高校」、「大学」では女性の割合が男性より高くなっている。

年齢別でみると、すべての年齢層で「中学校」が最も高く、30歳代、40歳代、70歳代以上では「小学校」も同様に最も高くなっている。

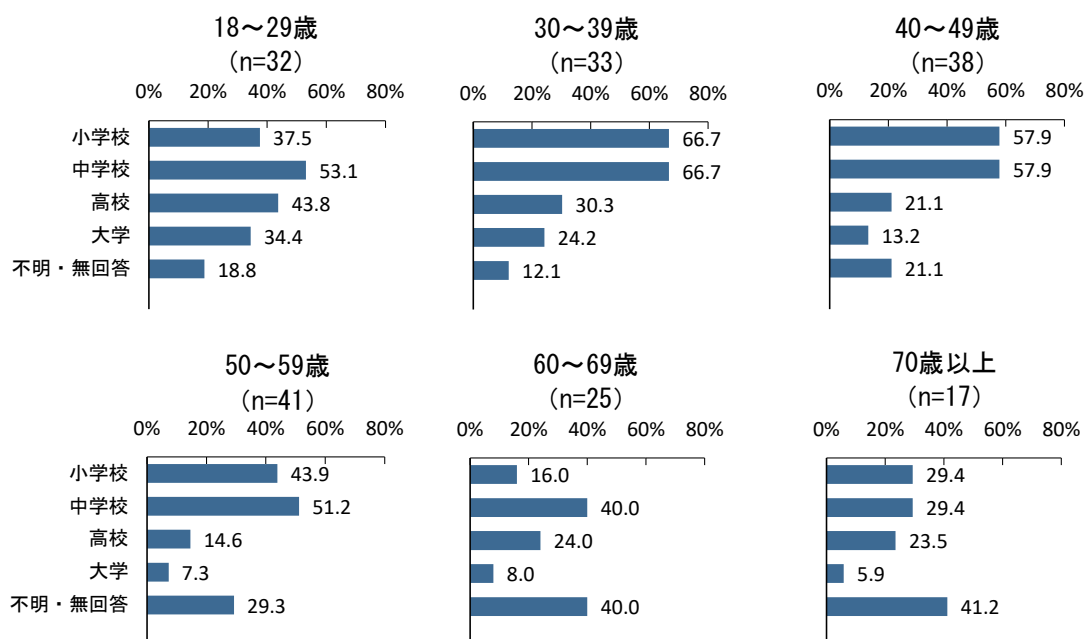
大阪府調査と比較すると、「小学校」以外の項目で今回調査の割合が高くなっている。

図表 2-17 性別・年齢別 「学校教育」の具体的な場所

【性別】



【年齢別】



第4章 人権施策の認知度等

4-1. 個別の人権施策の認知度、評価

問5	あなたは、人権問題の解決に向けた次のような施策を知っていますか？また、見て、あるいは利用・参加して役に立ちましたか？ （(1)～(9)それぞれについて、いずれか1つに○）
----	--

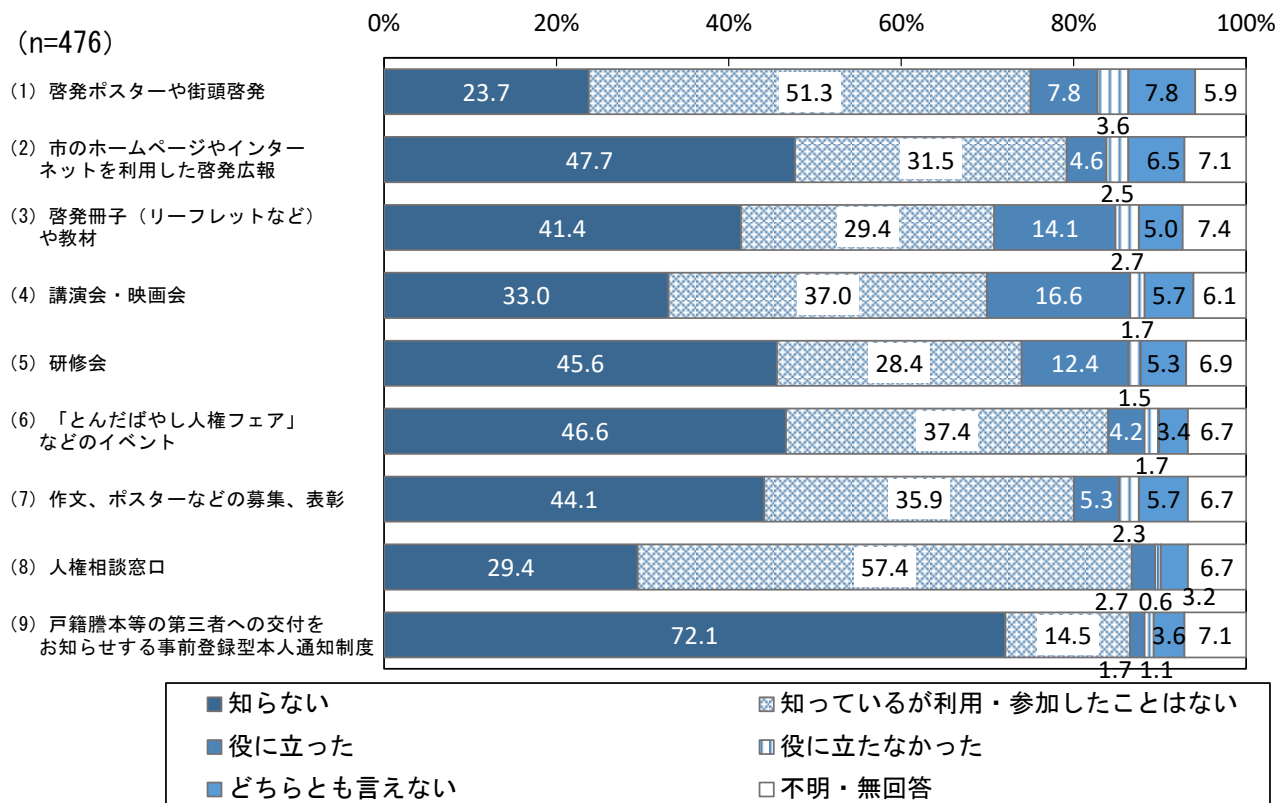
(1) 全体

人権施策の認知度については、『知っている』（「知っているが利用・参加したことはない」と「役に立った」「役に立たなかった」「どちらとも言えない」の合計）では、「(1) 啓発ポスターや街頭啓発」が70.4%で最も高く、次いで「(8) 人権相談窓口」が63.9%、「(4) 講演会・映画会」が60.9%と続いている。

また、「役に立った」では、「(4) 講演会・映画会」が16.6%で最も高く、次いで「(3) 啓発冊子（リーフレットなど）や教材」が14.1%、「(5) 研修会」が12.4%と続いている。

一方、「知らない」では、「(9) 戸籍謄本等の第三者への交付をお知らせする事前登録型本人通知制度」が72.1%で最も高く、次に高くなっている「(2) 市のホームページやインターネットを利用した啓発広報」（47.7%）との差は24.4ポイントと差が大きくなっている。

図表 2-18 個別の人権施策の認知度、評価

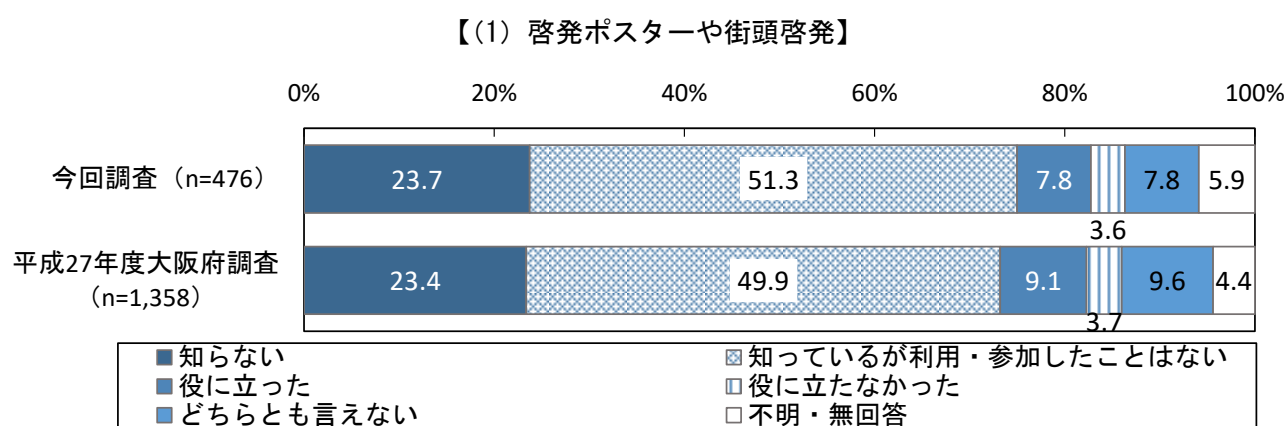


（２）大阪府調査との比較

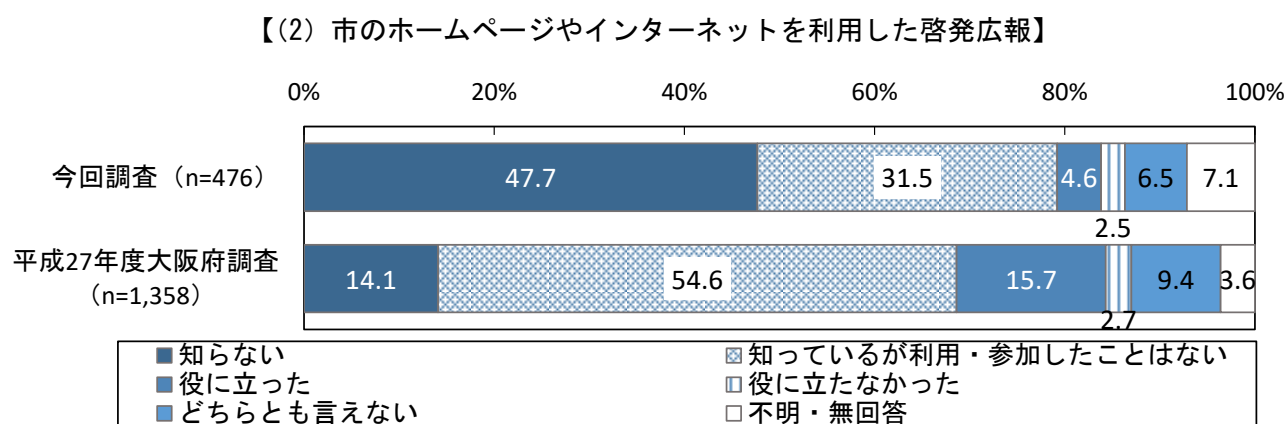
大阪府調査とは設問項目が異なるものがあるが、質問が類似しているので比較すると、「(8) 人権相談窓口」について『知っている』では、今回調査が 63.9%で、大阪府調査（60.0%）より 3.9 ポイント高い。

また、「知らない」では、「(3) 啓発冊子（リーフレットなど）や教材」（41.4%）が大阪府調査（38.3%）より 3.1 ポイント高く、「(6) 『とんだばやし人権フェア』などのイベント」（46.6%）が大阪府調査（38.8%）より 7.8 ポイント高く、「(7) 作文、ポスターなどの募集、表彰」（44.1%）が大阪府調査（36.4%）より 7.7 ポイント高くなっている。

図表 2-19 個別の人権施策の認知度、評価 大阪府調査との比較

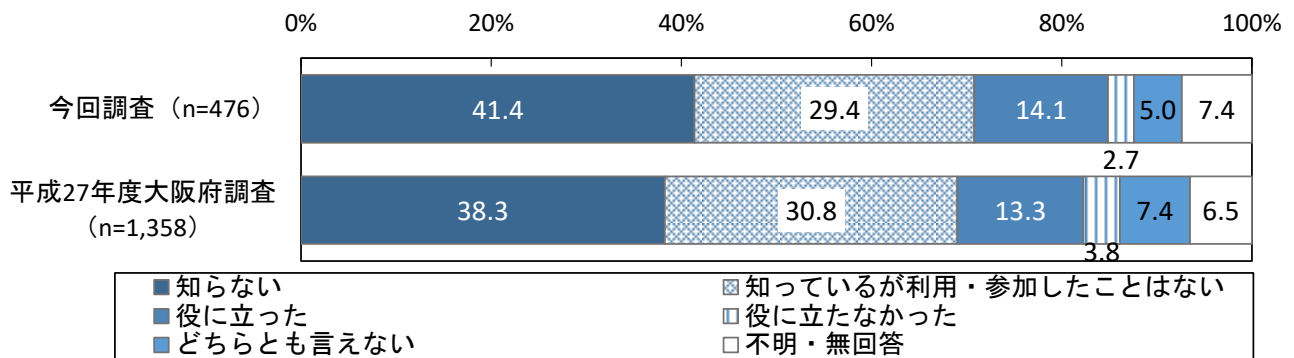


(注) 大阪府調査の設問は「啓発ポスターや車内吊り広告」



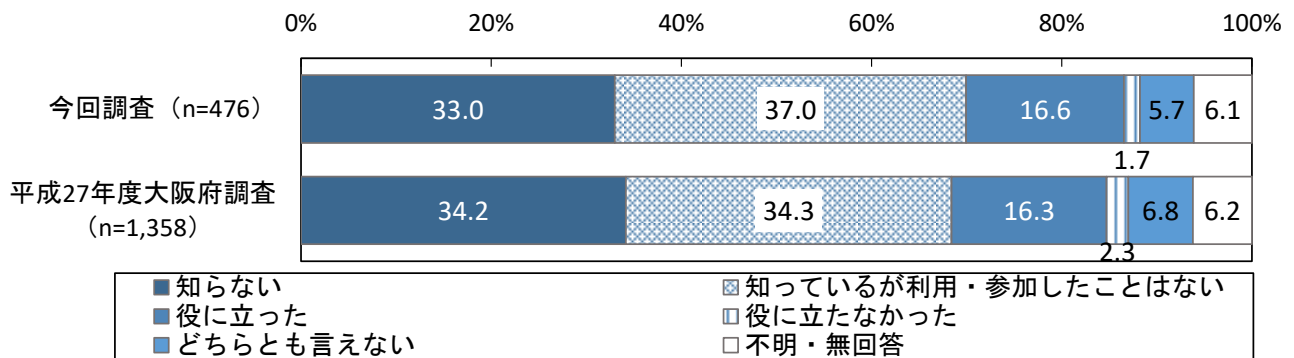
(注) 大阪府調査の設問は「新聞・雑誌、テレビ・ラジオ、インターネットなどを利用した啓発広報」

【(3) 啓発冊子（リーフレットなど）や教材】

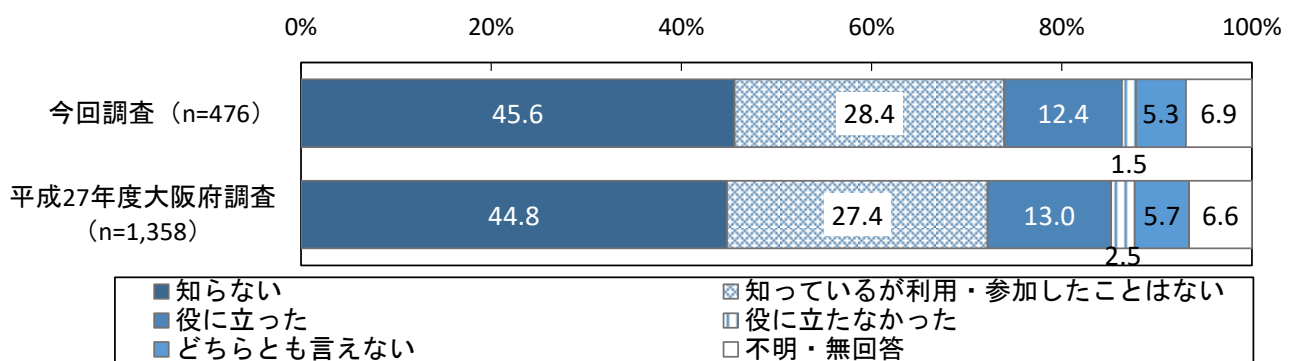


(注) 大阪府調査の設問は「啓発冊子や教材」

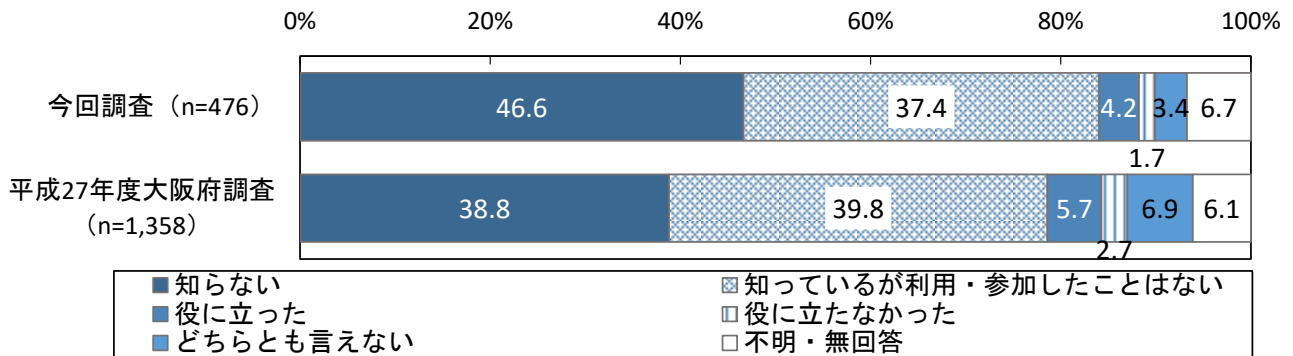
【(4) 講演会・映画会】



【(5) 研修会】

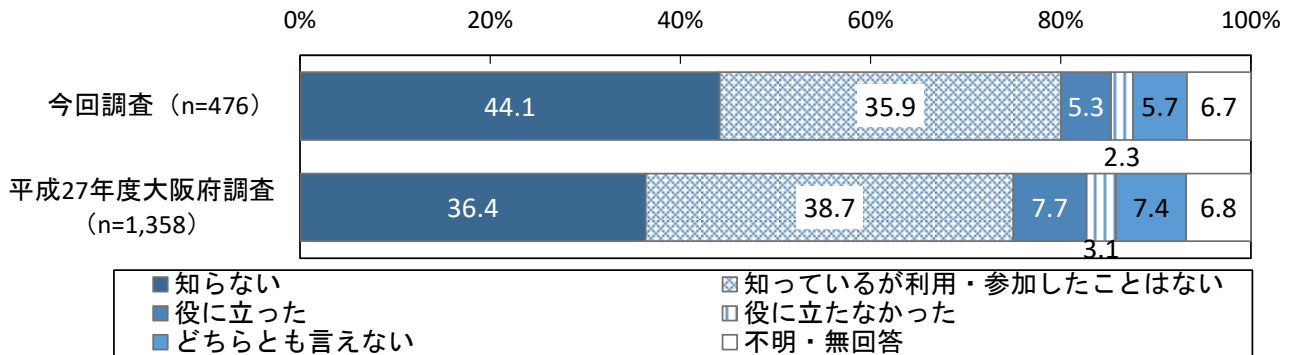


【(6)「とんだばやし人権フェア」などのイベント】



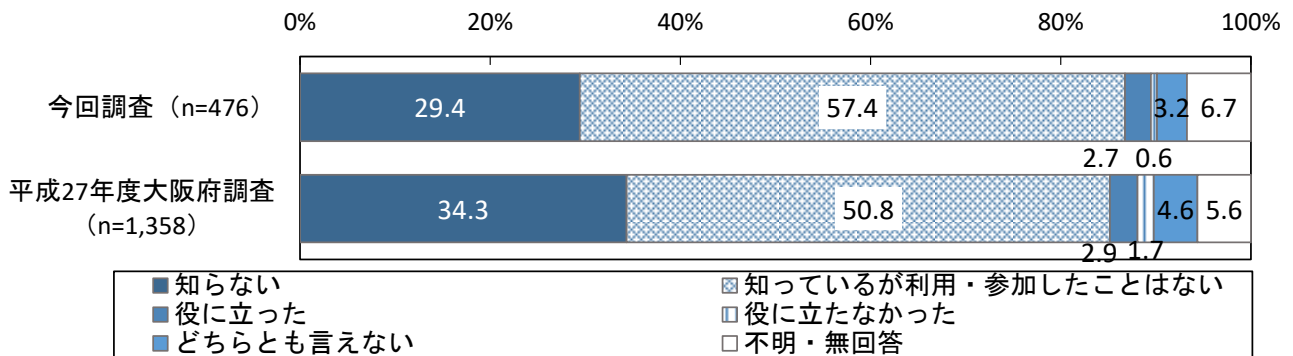
(注) 大阪府調査の設問は「人権啓発フェスティバルなどのイベント」

【(7) 作文、ポスターなどの募集、表彰】



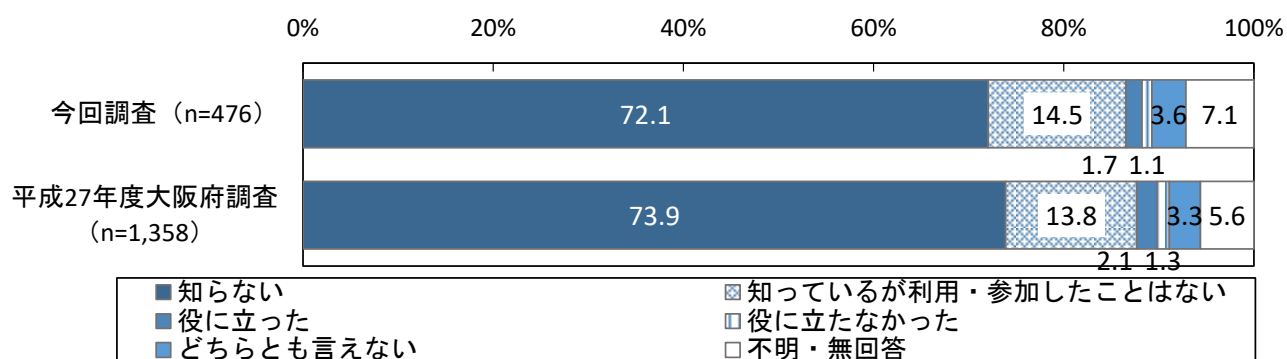
(注) 大阪府調査の設問は「作文、詩、読書感想文、ポスターなどの募集、表彰」

【(8) 人権相談窓口】



(注) 大阪府調査の設問は「大阪府・市町村などの人権相談窓口」

【(9) 戸籍謄本等の第三者への交付をお知らせする事前登録型本人通知制度】



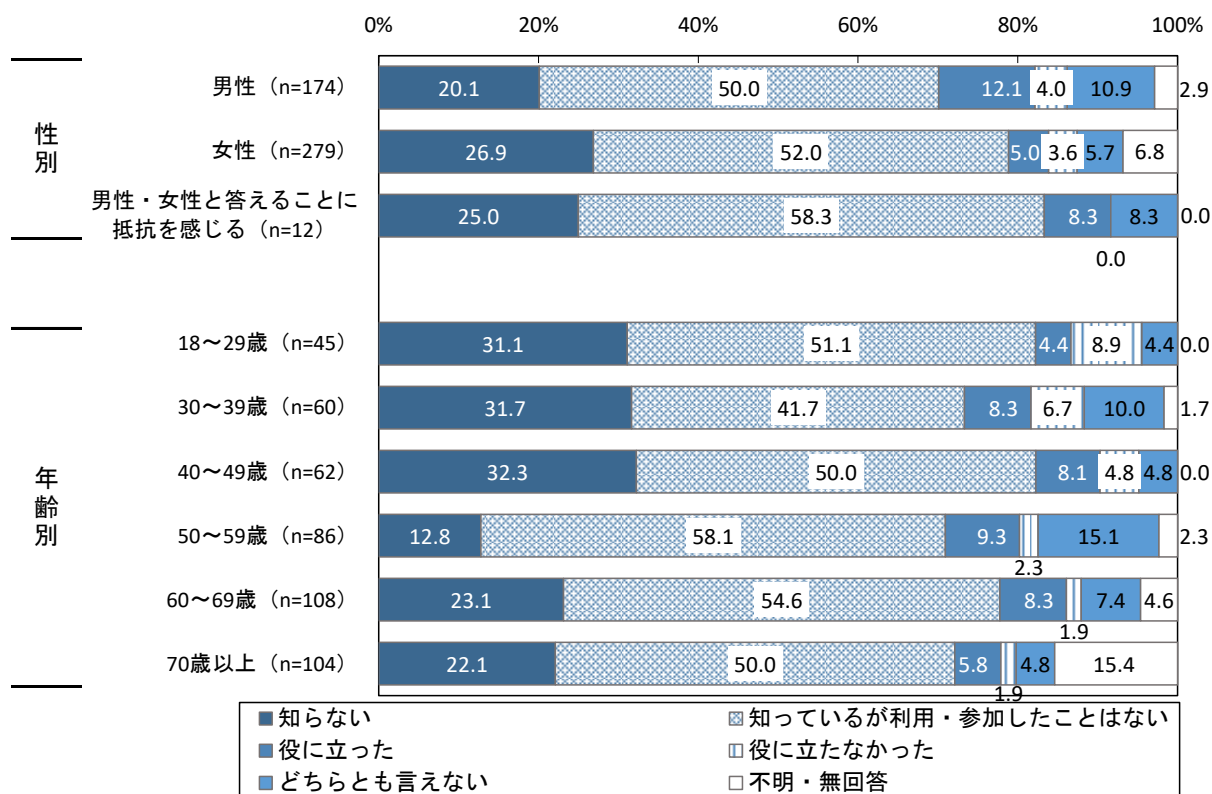
(3) 性別・年齢別

性別でみると、『知っている』では、他の項目に比べ、男性で「(1) 啓発ポスターや街頭啓発」、「(2) 市のホームページやインターネットを利用した啓発広報」、「(3) 啓発冊子（リーフレットなど）や教材」、「(5) 研修会」、「(9) 戸籍謄本等の第三者への交付をお知らせする事前登録型本人通知制度」の割合が女性より高く、女性で「(4) 講演会・映画会」、「(6) 『とんだばやし人権フェア』などのイベント」、「(7) 作文、ポスターなどの募集、表彰」の割合が男性より高くなっている。

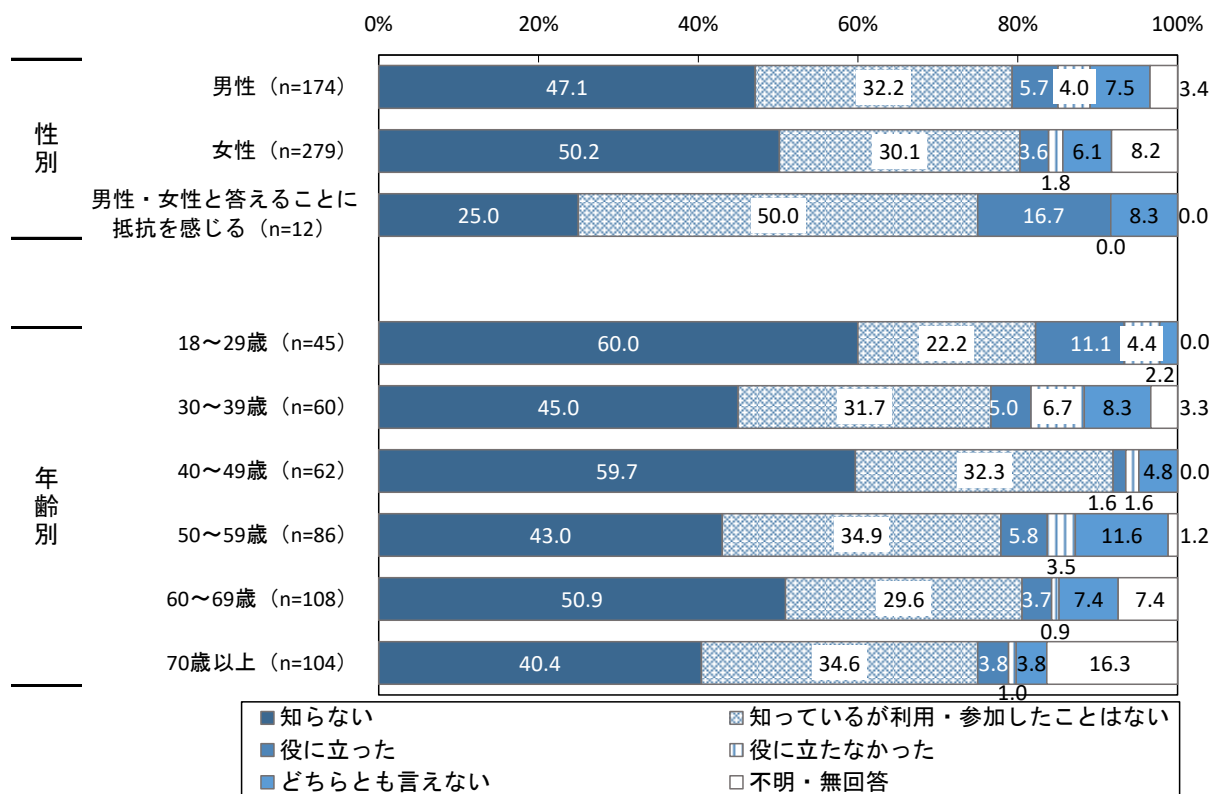
年齢別で『知っている』の差をみると、「(6) 『とんだばやし人権フェア』などのイベント」（50 歳代 65.1%、18～29 歳 31.1%）が 34.0 ポイントで最も差が大きく、次いで「(3) 啓発冊子（リーフレットなど）や教材」（30 歳代 63.3%、70 歳以上 36.5%）が 26.8 ポイント、「(7) 作文、ポスターなどの募集、表彰」（18～29 歳 62.2%、70 歳以上 36.5%）が 25.7 ポイントと続いている。

図表 2-20 性別・年齢別 個別の人権施策の認知度、評価

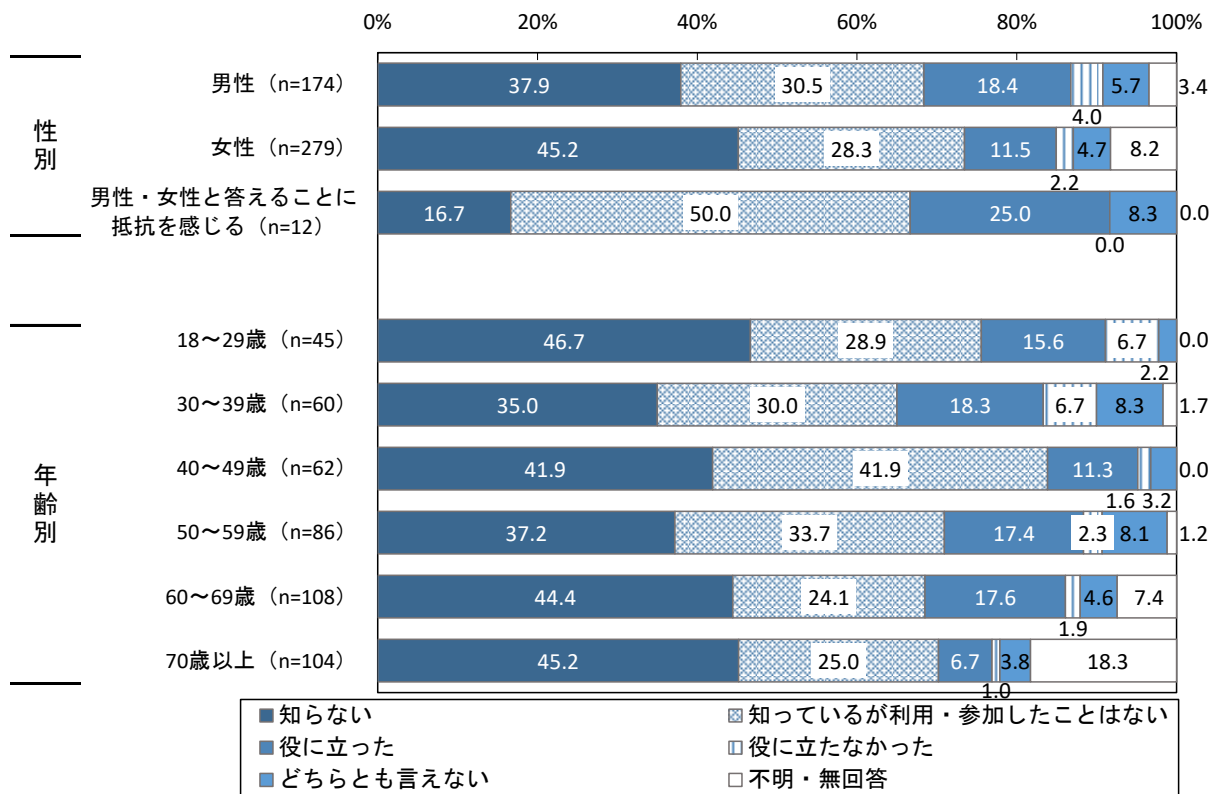
【(1) 啓発ポスターや街頭啓発】



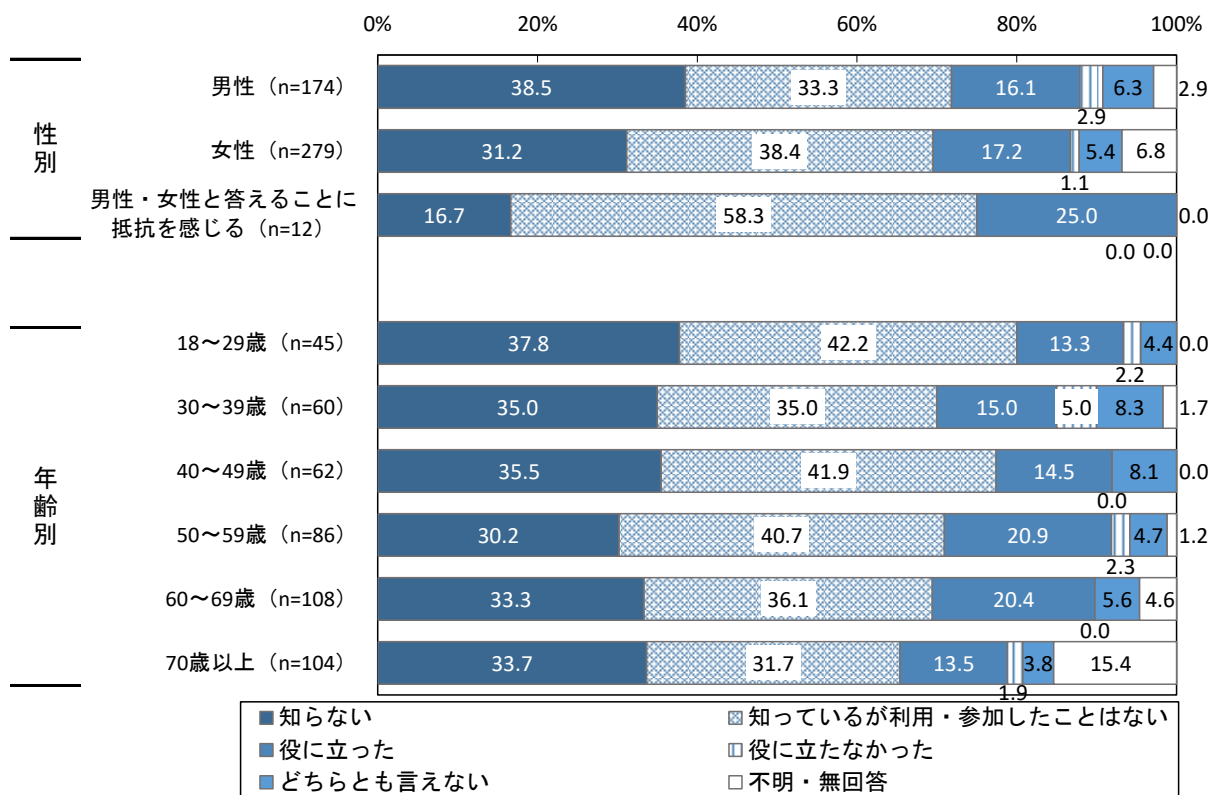
【(2) 市のホームページやインターネットを利用した啓発広報】



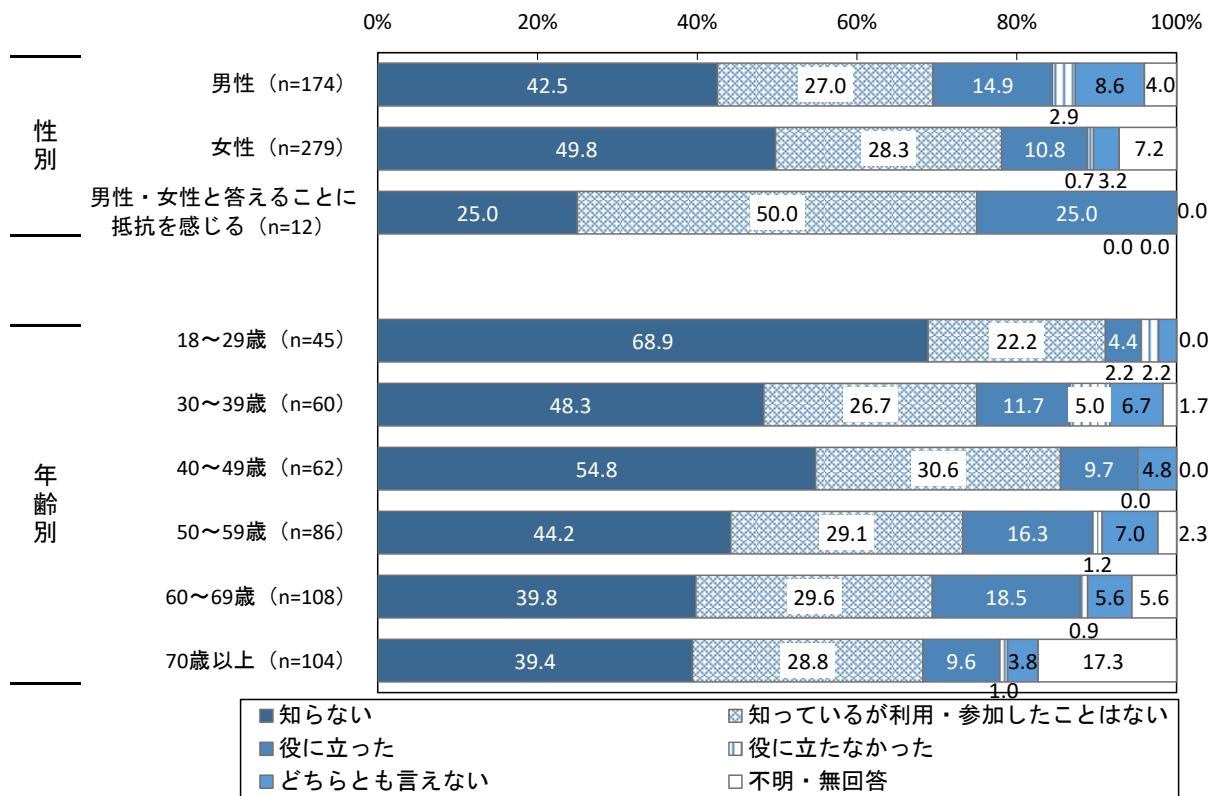
【(3) 啓発冊子（リーフレットなど）や教材】



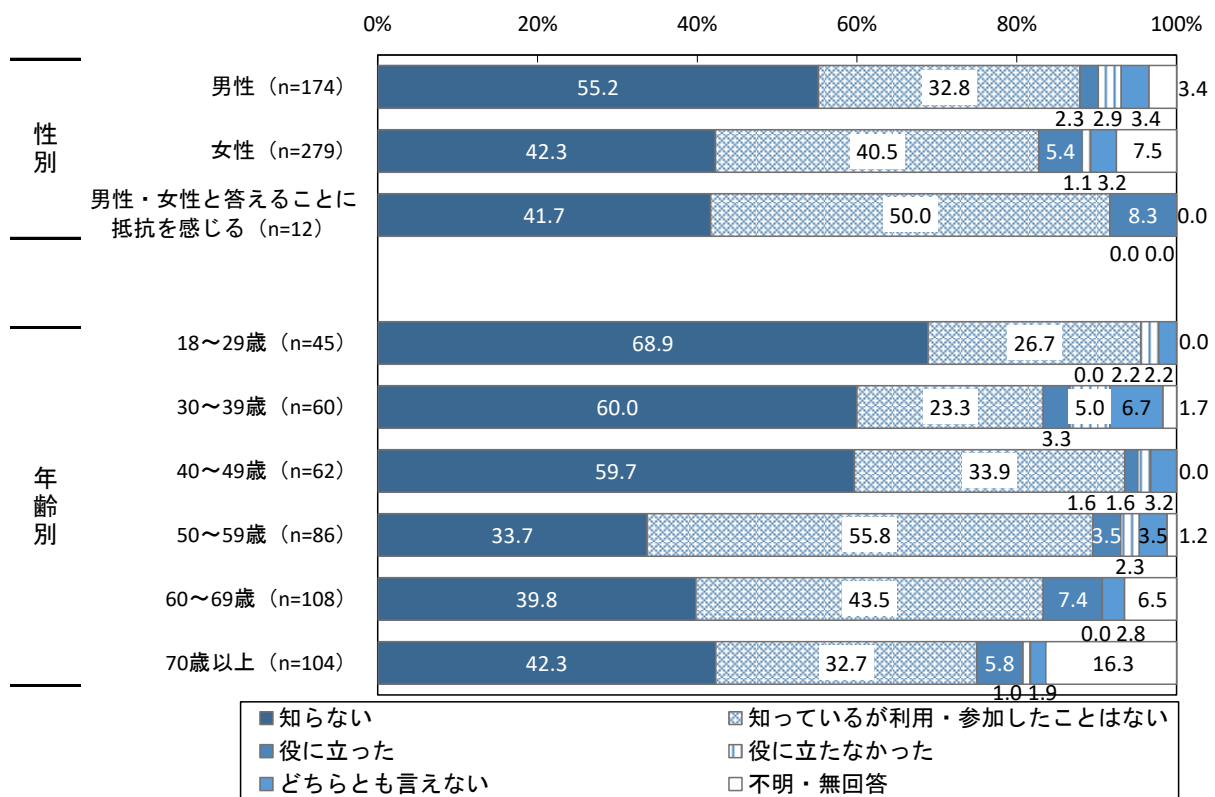
【(4) 講演会・映画会】



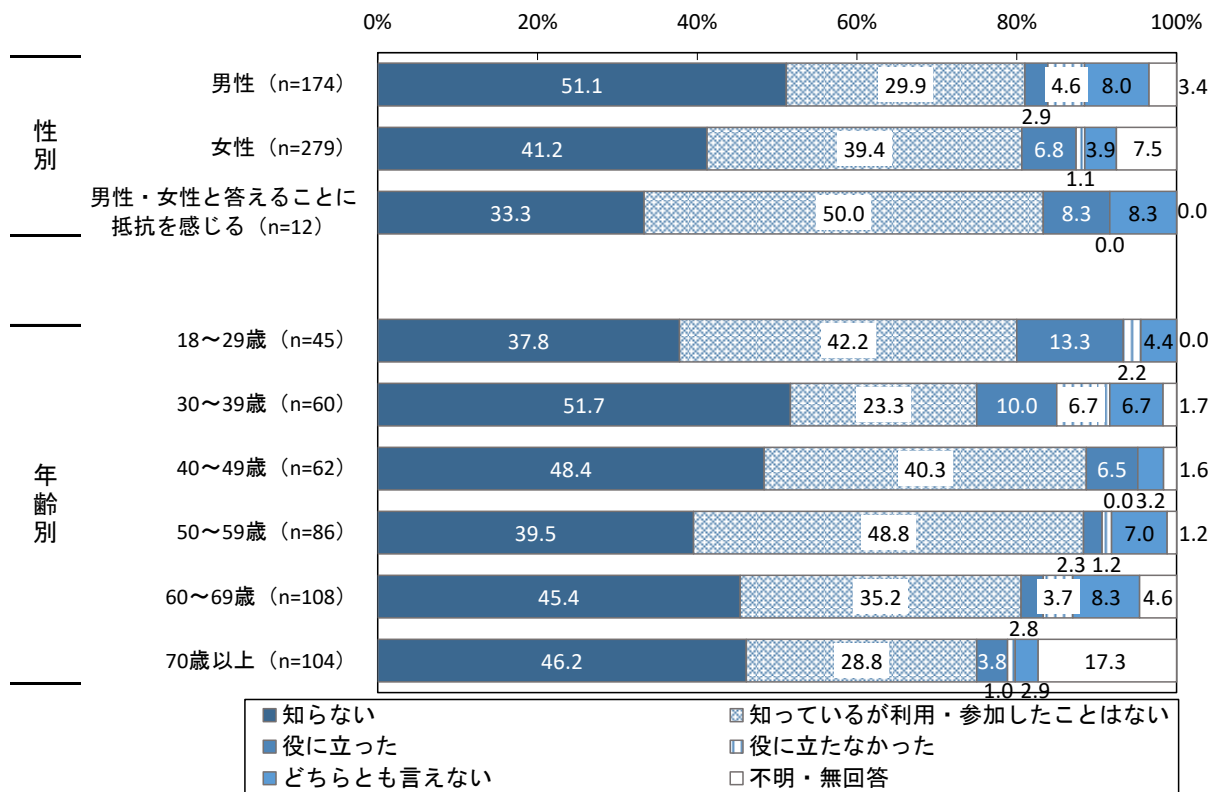
【(5) 研修会】



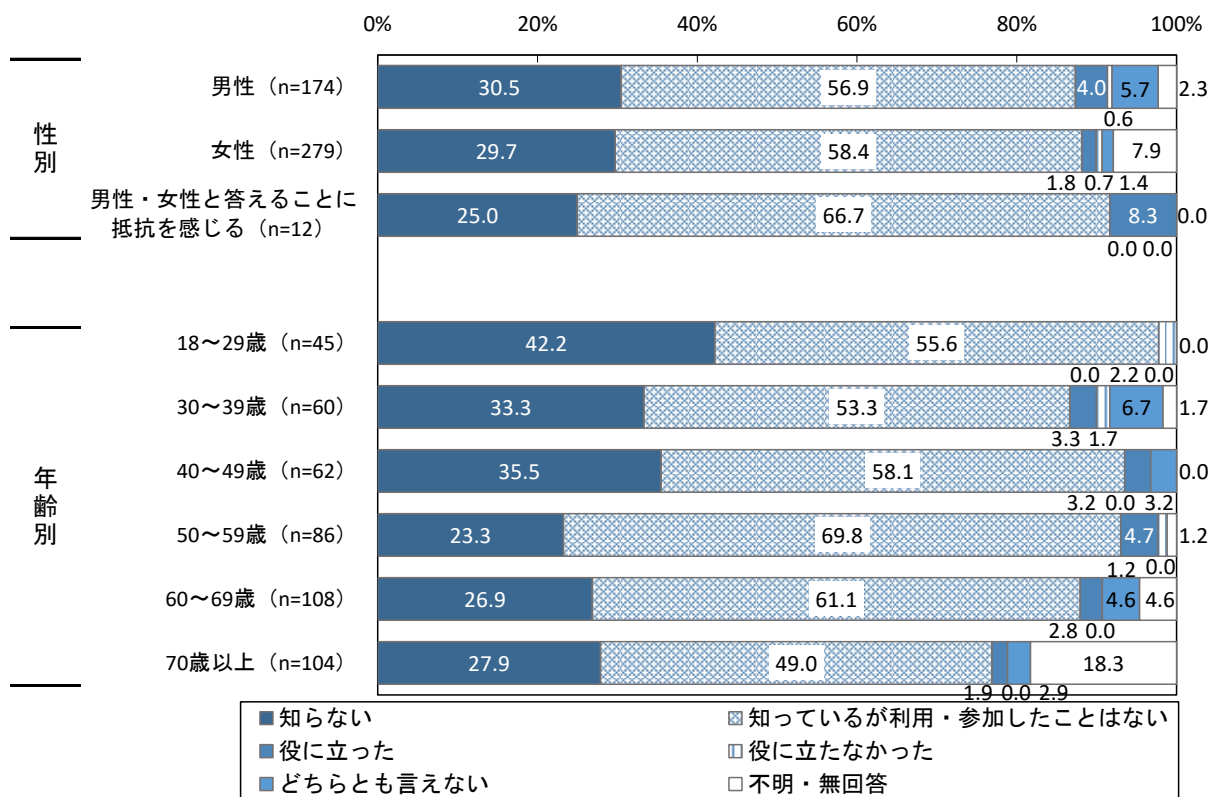
【(6) 「とんだばやし人権フェア」などのイベント】



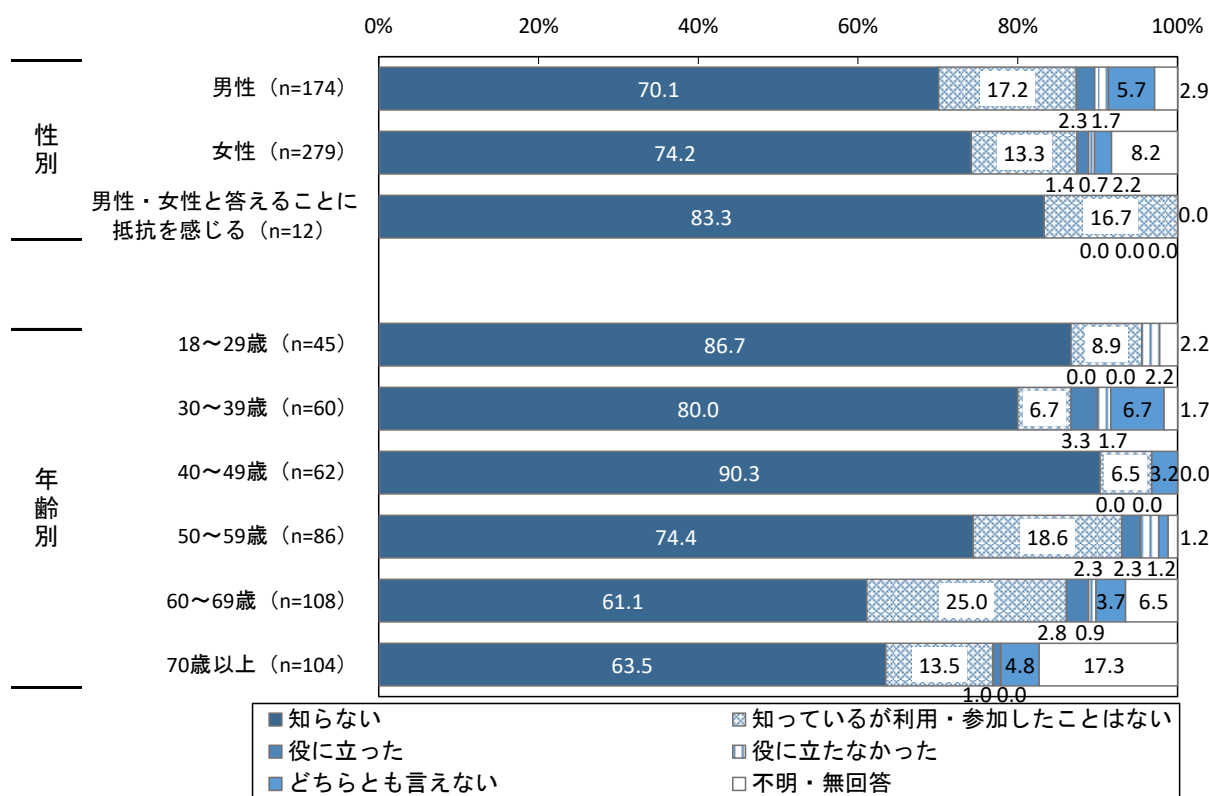
【(7) 作文、ポスターなどの募集、表彰】



【(8) 人権相談窓口】



【(9) 戸籍謄本等の第三者への交付をお知らせする事前登録型本人通知制度】



4-1-1. 個別の人権施策の今後の方向

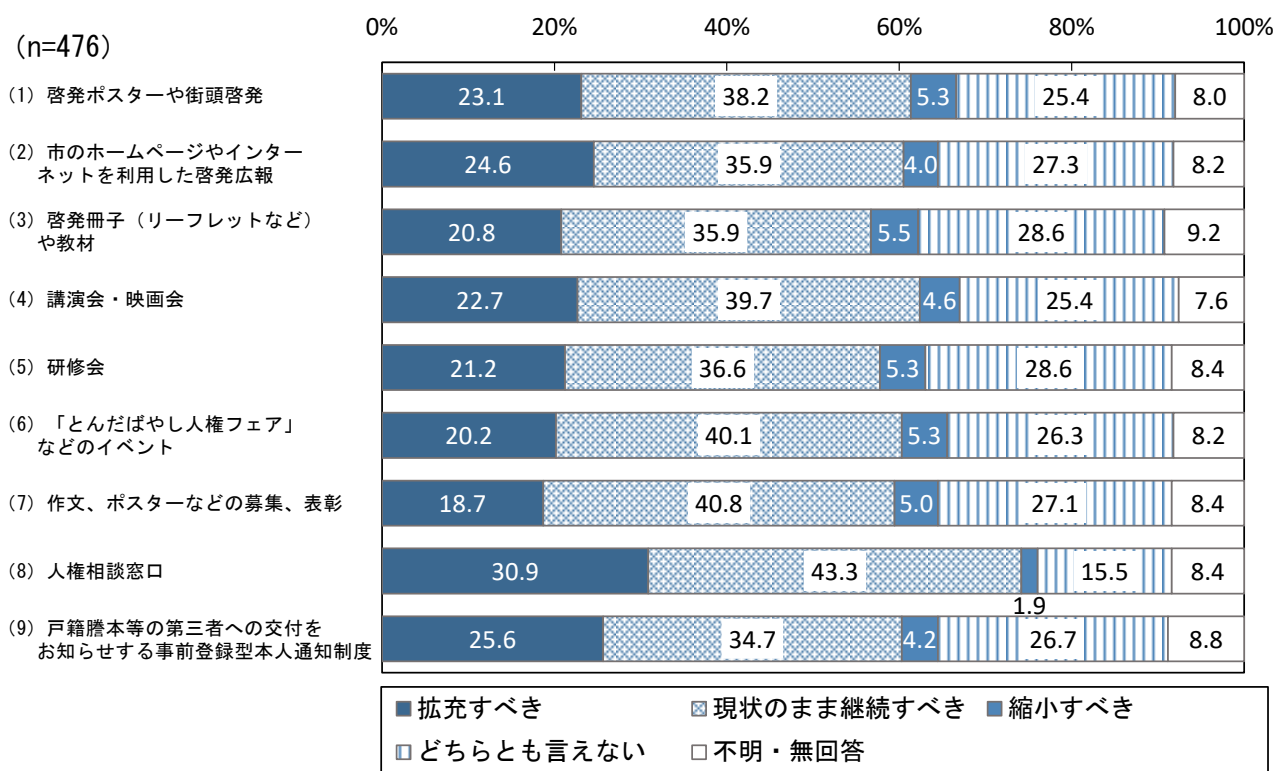
問 5-1	今後も続けていくべきだと思いますか？ ((1)～(9)それぞれについて、いずれか1つに○)
-------	--

(1) 全体

人権施策の今後の方向について、「拡充すべき」では、「(8)人権相談窓口」が30.9%で最も高く、次いで「(9) 戸籍謄本等の第三者への交付をお知らせする事前登録型本人通知制度」が25.6%、「市のホームページやインターネットを利用した啓発広報」が24.6%と続いている。

また、いずれの施策においても、「現状のまま継続すべき」が最も高くなっている。

図表 2-21 個別の人権施策の今後の方向

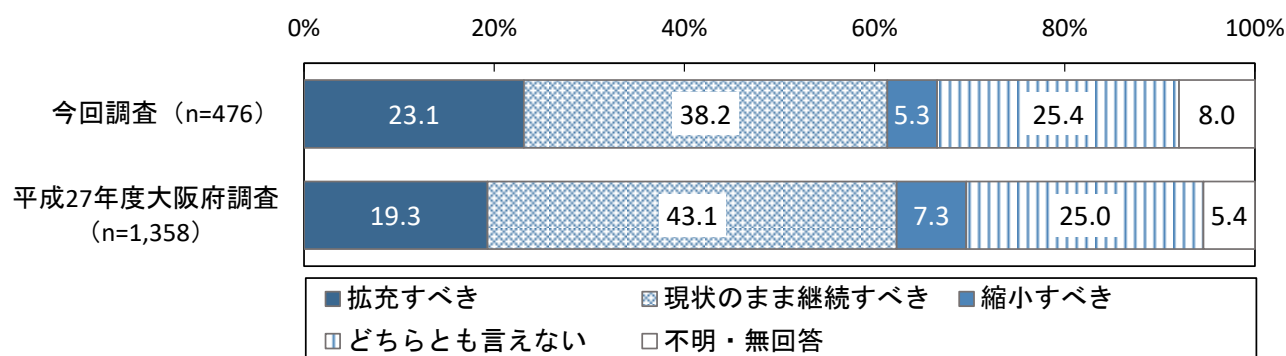


（２）大阪府調査との比較

大阪府調査とは設問項目が異なるものがあるが、項目が類似しているので比較すると、「縮小すべき」では、全ての項目で大阪府調査より割合が低くなっており、「（２）市のホームページやインターネットを利用した啓発広報」以外の項目で「拡充すべき」の割合が高くなっている。

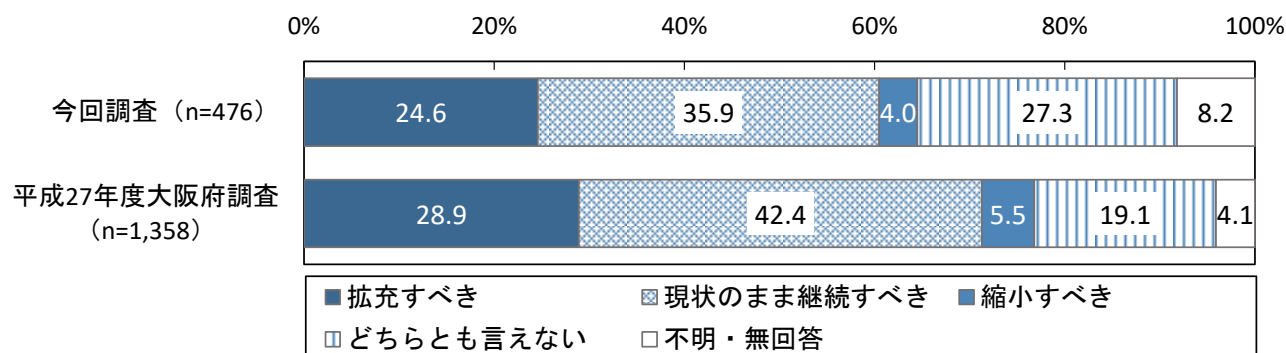
図表 2-22 個別の人権施策の今後の方向 大阪府調査との比較

【（１）啓発ポスターや街頭啓発】



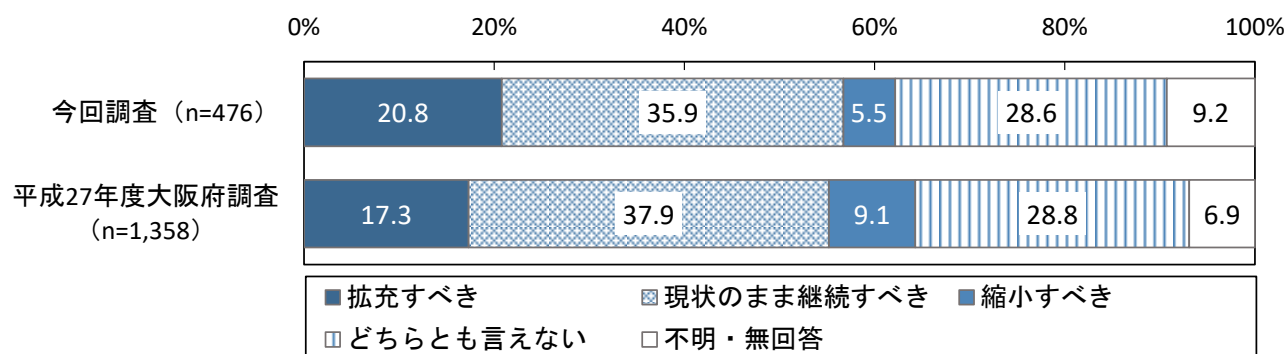
（注）大阪府調査の設問は「啓発ポスターや車内吊り広告」

【（２）市のホームページやインターネットを利用した啓発広報】



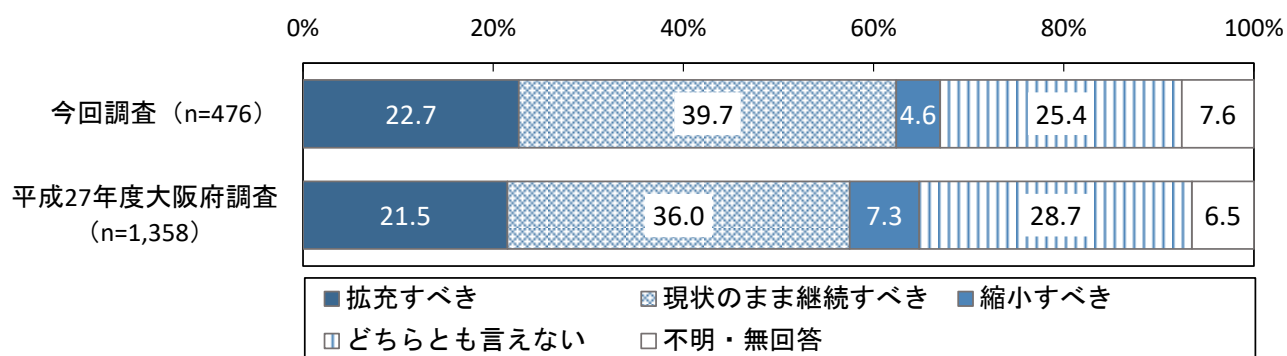
（注）大阪府調査の設問は「新聞・雑誌、テレビ・ラジオ、インターネットなどを利用した啓発広報」

【（３）啓発冊子（リーフレットなど）や教材】

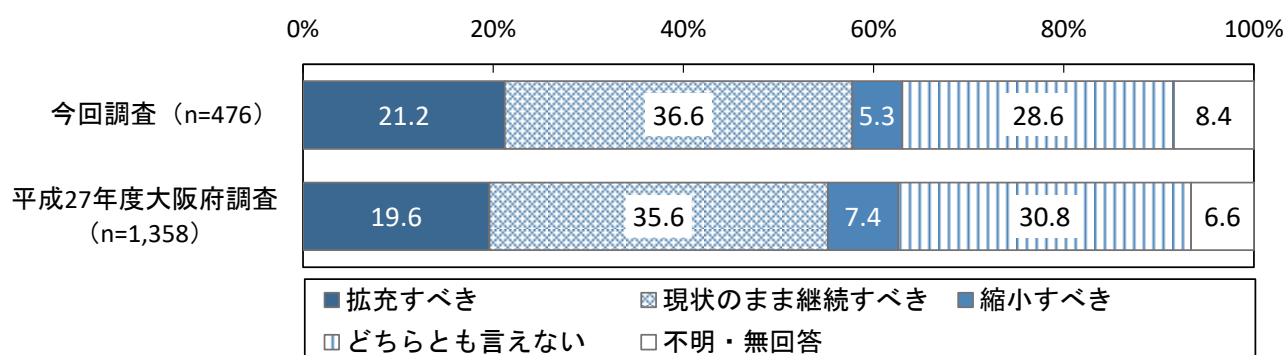


（注）大阪府調査の設問は「啓発冊子や教材」

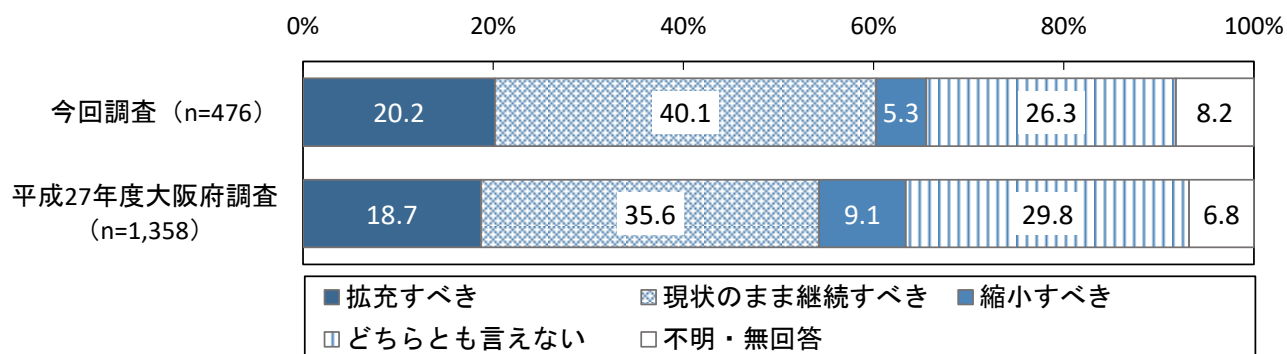
【(4) 講演会・映画会】



【(5) 研修会】

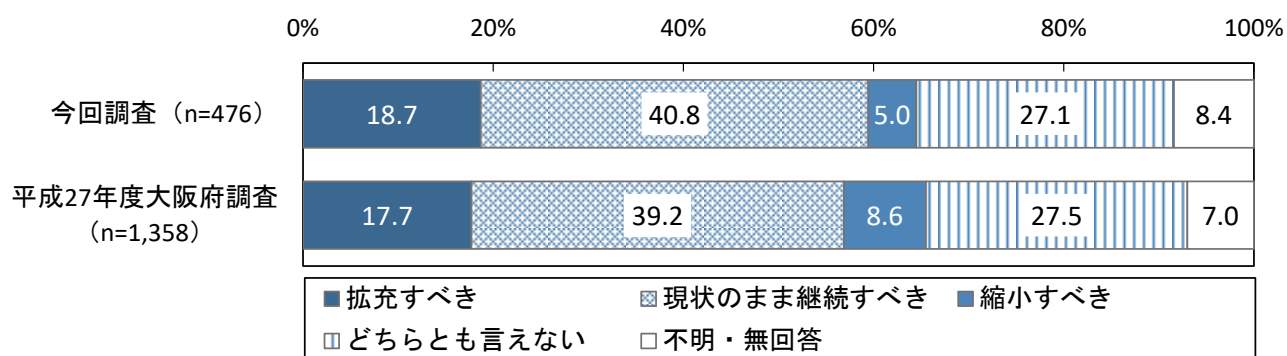


【(6) 「とんだばやし人権フェア」などのイベント】



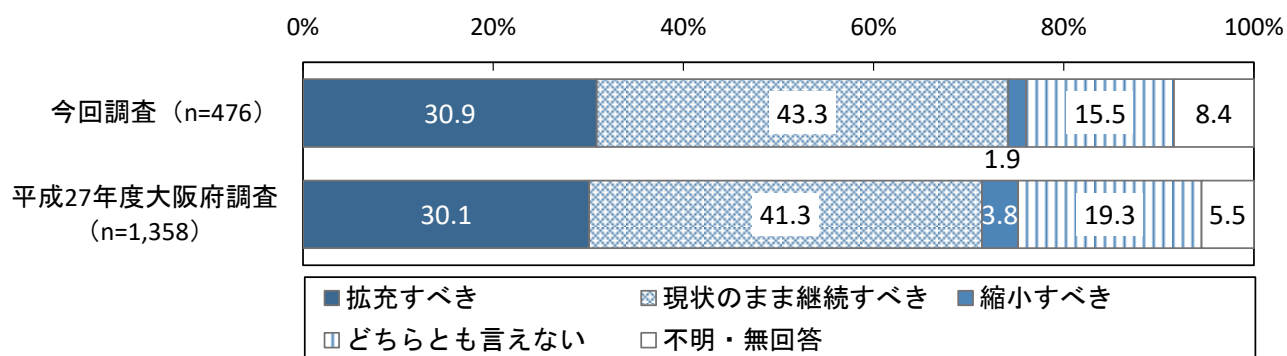
(注) 大阪府調査の設問は「人権啓発フェスティバルなどのイベント」

【(7) 作文、ポスターなどの募集、表彰】



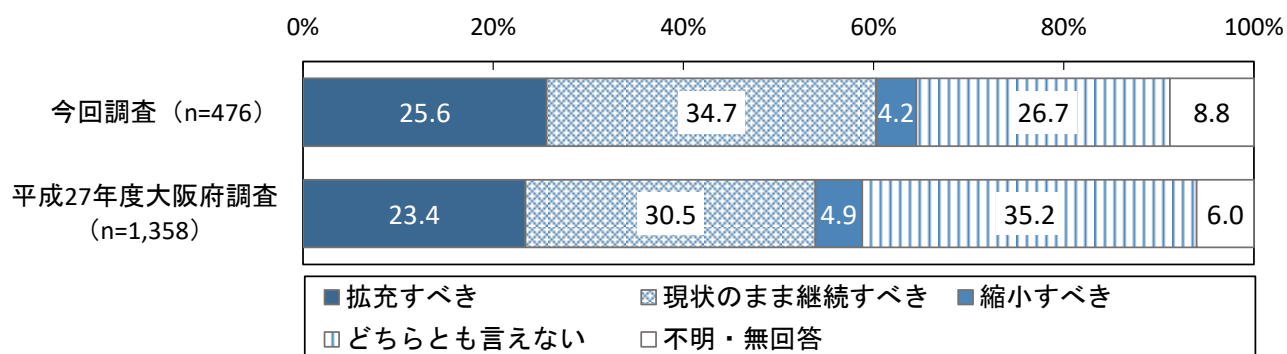
(注) 大阪府調査の設問は「作文、詩、読書感想文、ポスターなどの募集、表彰」

【(8) 人権相談窓口】



(注) 大阪府調査の設問は「大阪府・市町村などの人権相談窓口」

【(9) 戸籍謄本等の第三者への交付をお知らせする事前登録型本人通知制度】



(3) 性別・年齢別

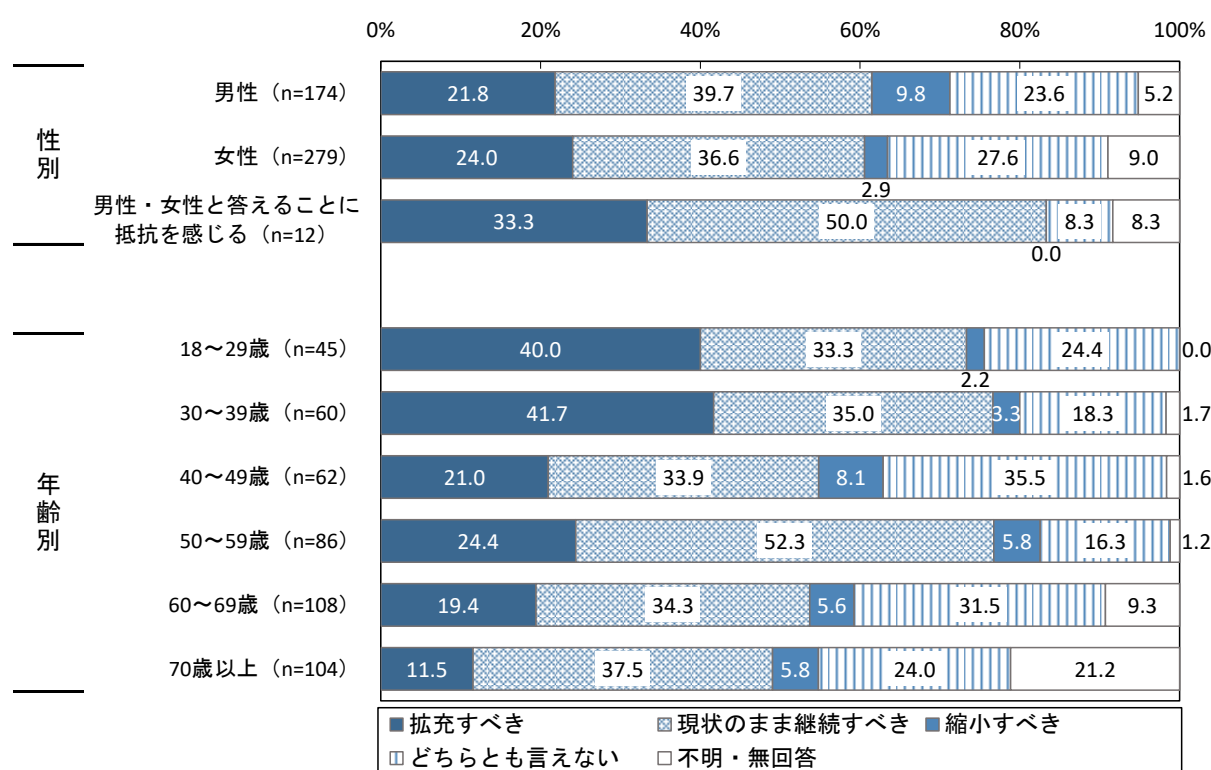
性別でみると、「縮小すべき」では、全ての項目で男性の割合が女性より高くなっている。

年齢別でみると、「拡充すべき」では、「(3) 啓発冊子（リーフレットなど）や教材」では18～29歳の割合が最も高く、それ以外の項目では30歳代が最も高くなっており、70歳以上が全ての項目で最も低くなっている。

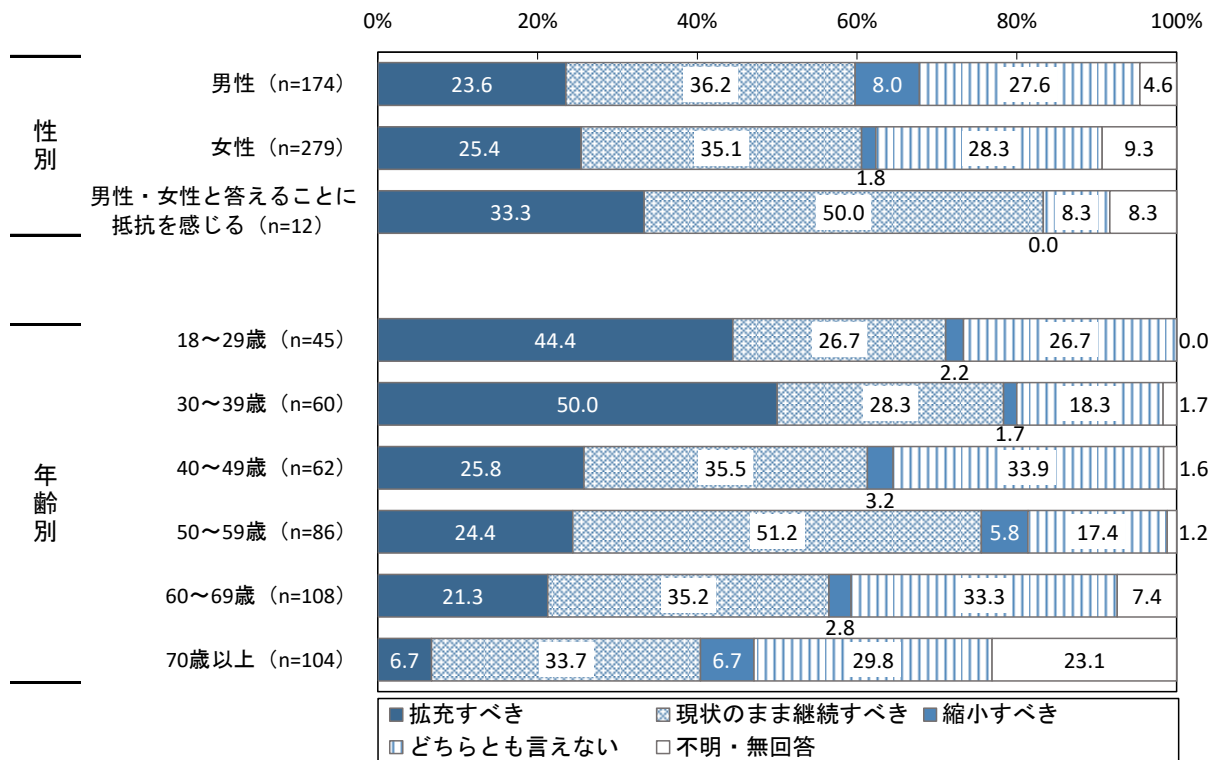
その中でも、「(2) 市のホームページやインターネットを利用した啓発広報」(30歳代 50.0%、70歳以上 6.7%)の差が43.3ポイントで最も差が大きく、次いで「(3) 啓発冊子（リーフレットなど）や教材」(18～29歳 40.0%、70歳以上 8.7%)が31.3ポイント差となっている。

図表 2-23 性別・年齢別 個別の人権施策の今後の方向

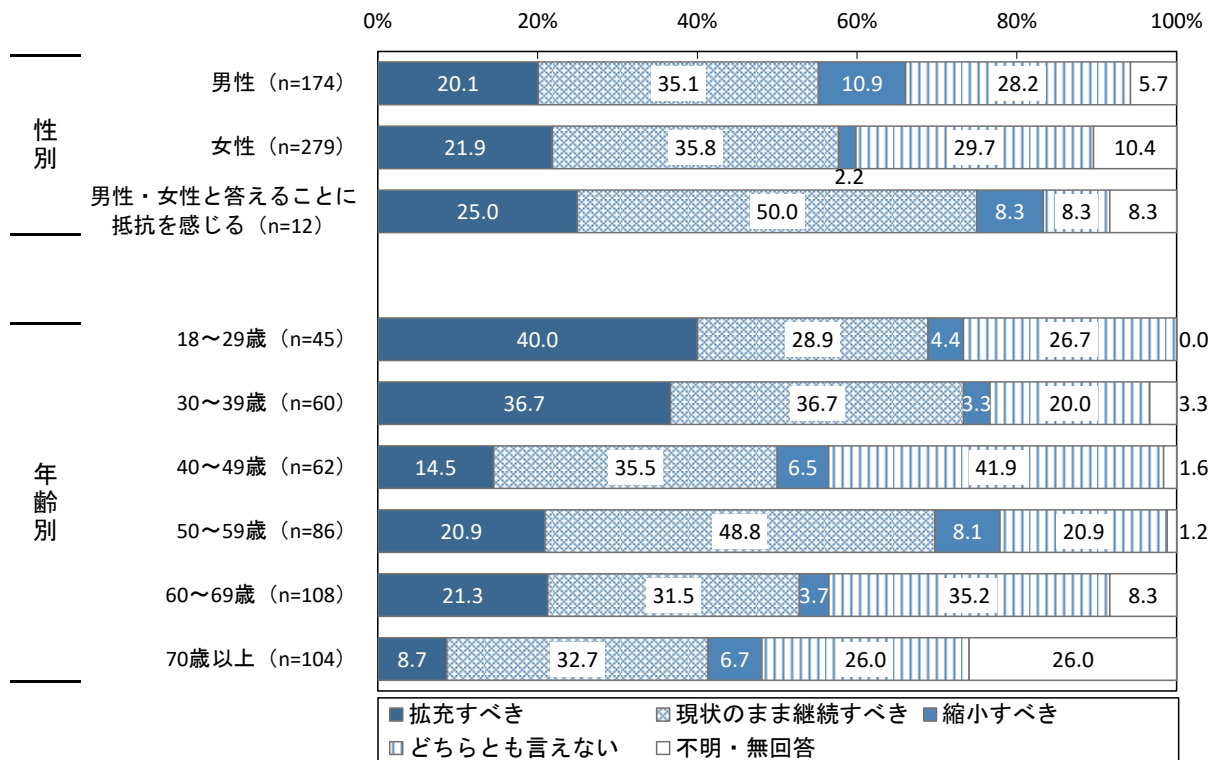
【(1) 啓発ポスターや街頭啓発】



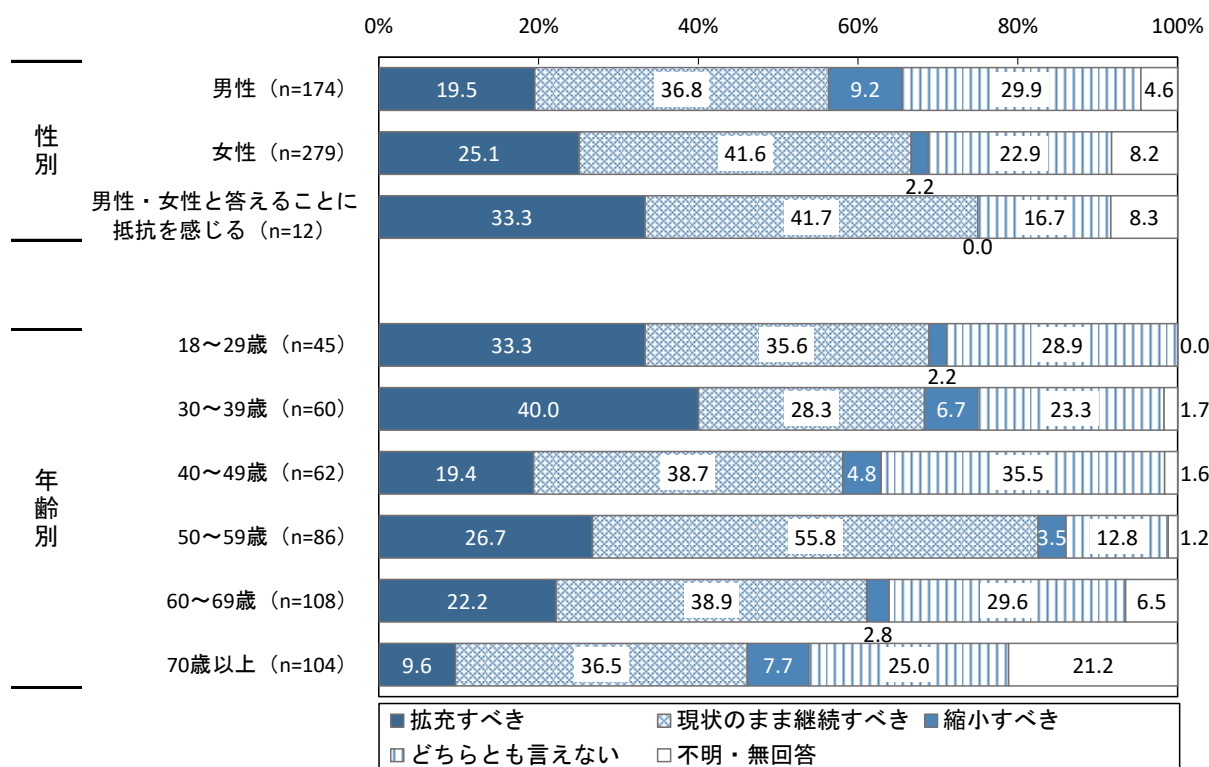
【(2) 市のホームページやインターネットを利用した啓発広報】



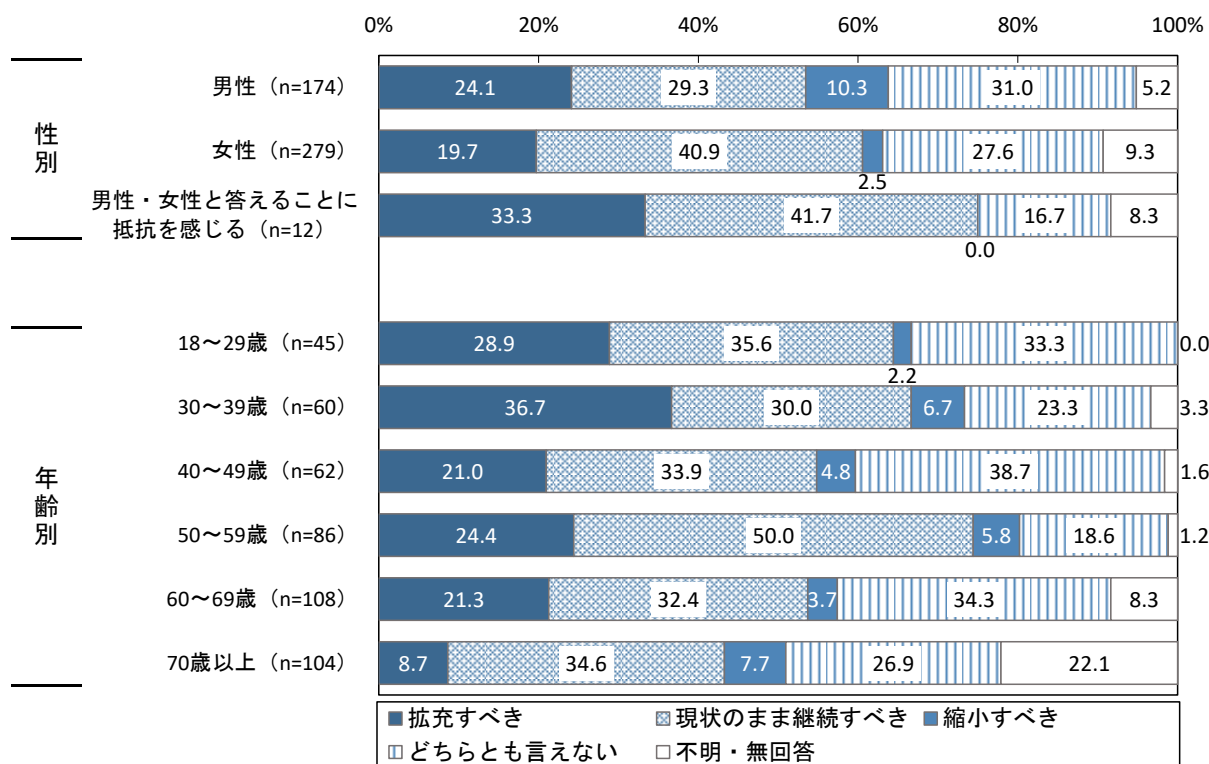
【(3) 啓発冊子（リーフレットなど）や教材】



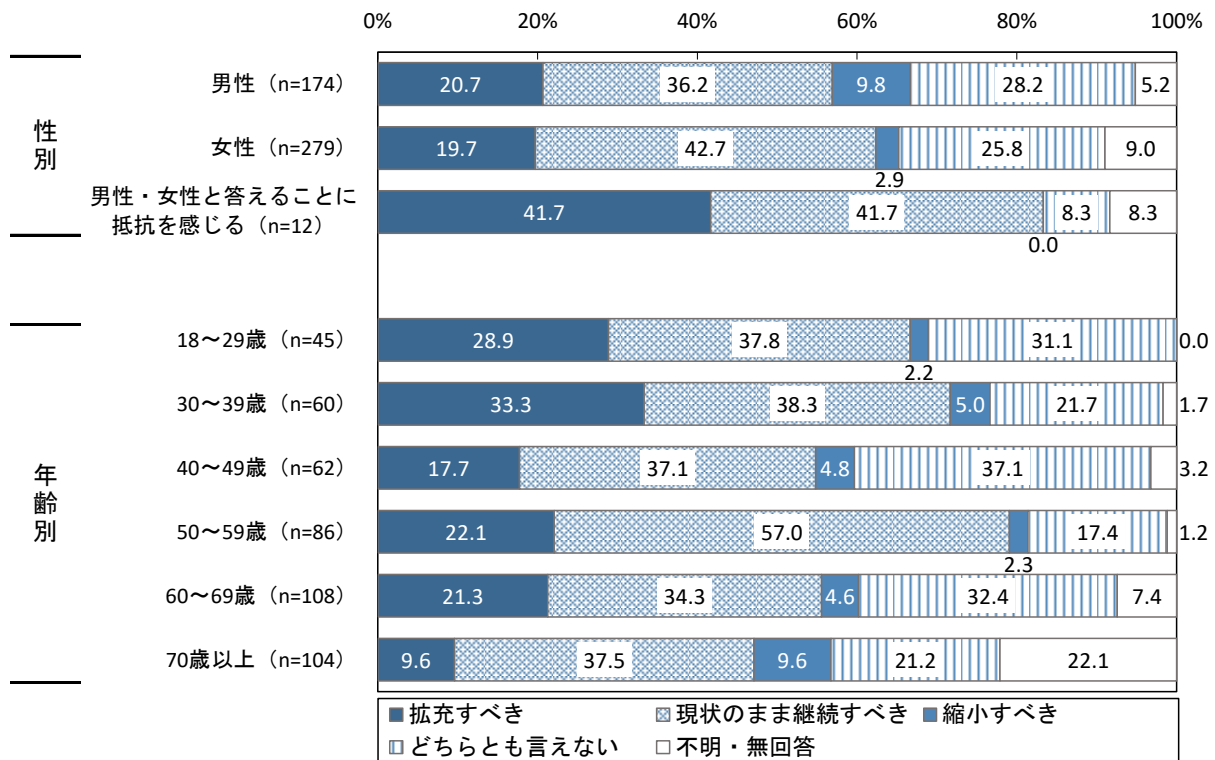
【(4) 講演会・映画会】



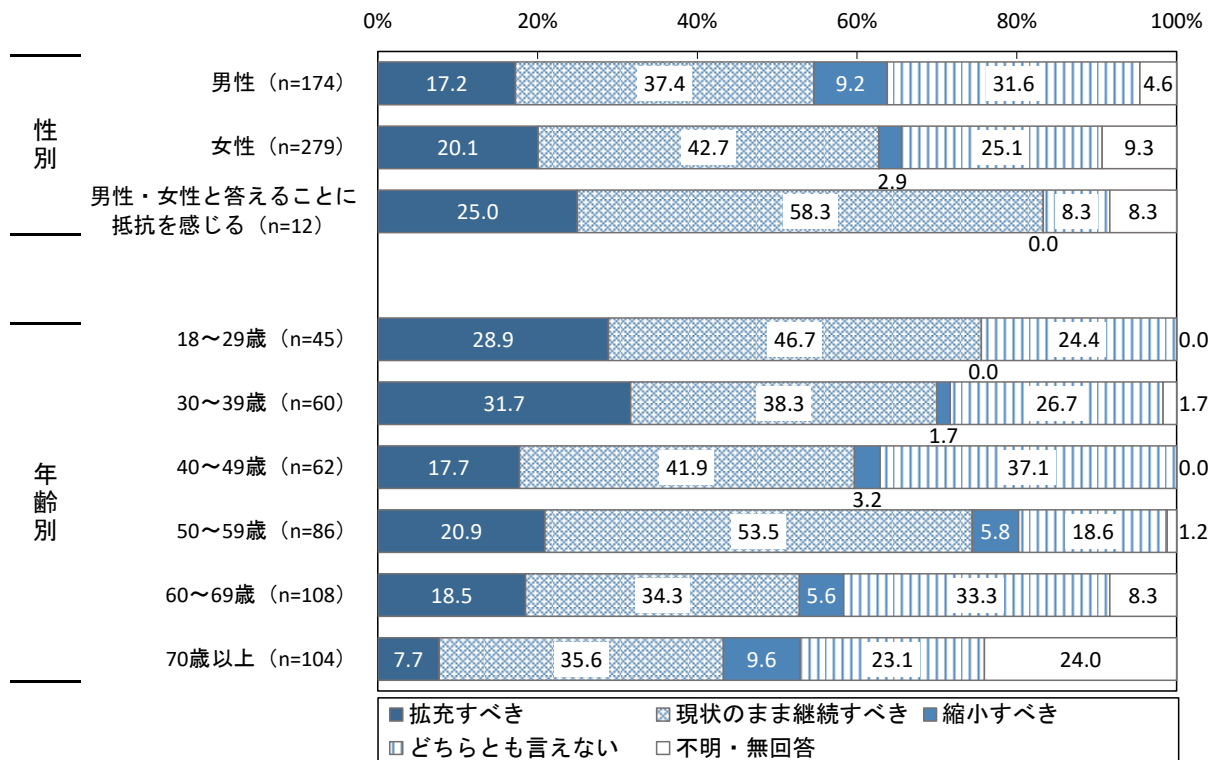
【(5) 研修会】



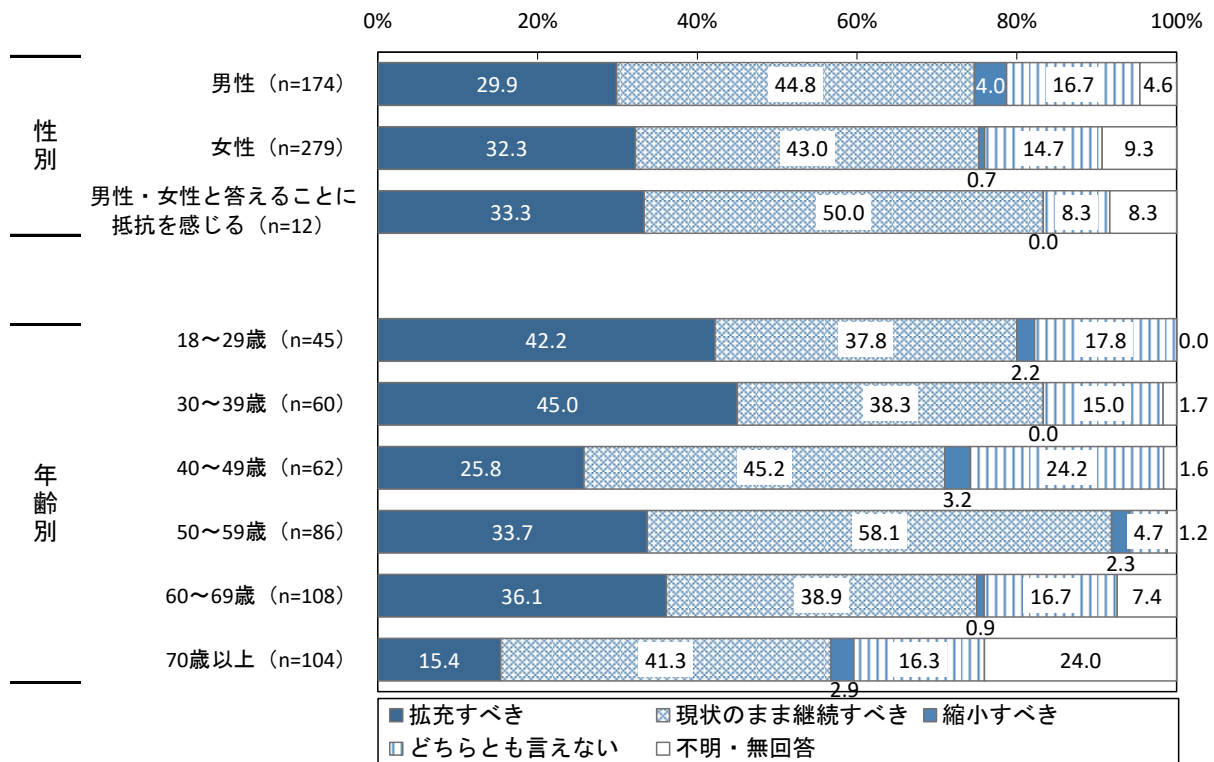
【(6) 「とんだばやし人権フェア」などのイベント】



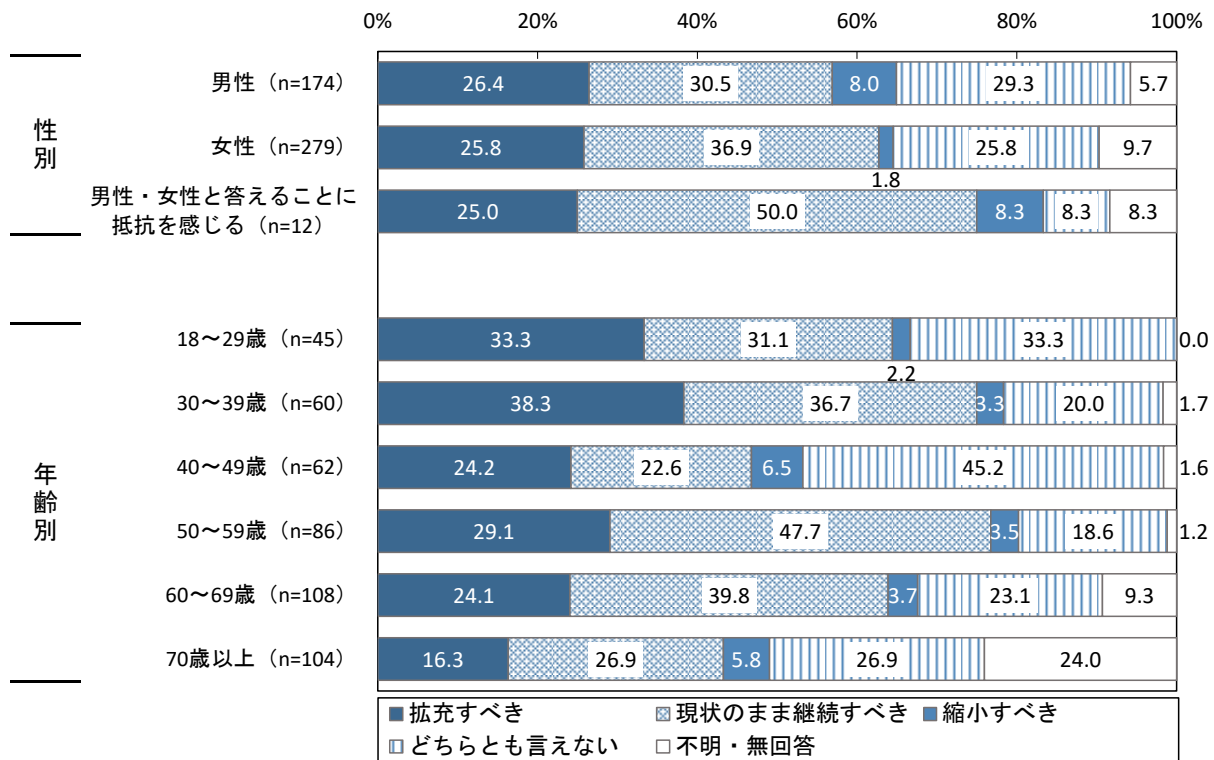
【(7) 作文、ポスターなどの募集、表彰】



【(8) 人権相談窓口】



【(9) 戸籍謄本等の第三者への交付をお知らせする事前登録型本人通知制度】



4－2. 「交流」「協働」の取組への参加の状況

問 6	あなたは「人権上の課題を有する人やその支援者との交流会」や「子どもの居場所づくりや高齢者の見守りなど地域の自主的な活動」に参加したことがありますか？（いずれか1つに○）
-----	--

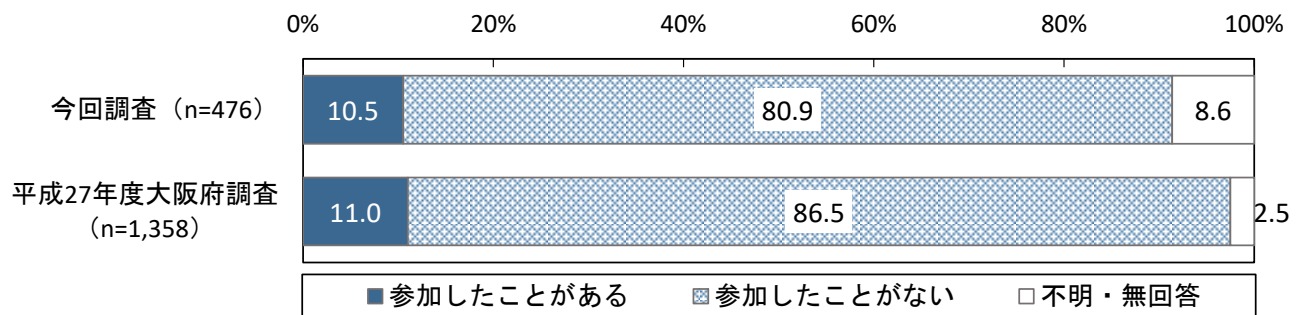
（1）全体

「交流」「協働」の取組への参加の状況については、「参加したことがある」が10.5%、「参加したことがない」が80.9%となっている。

（2）大阪府調査との比較

大阪府調査と比較すると、「参加したことがない」では、今回調査が80.9%で、大阪府調査（86.5%）より5.6ポイント低い。

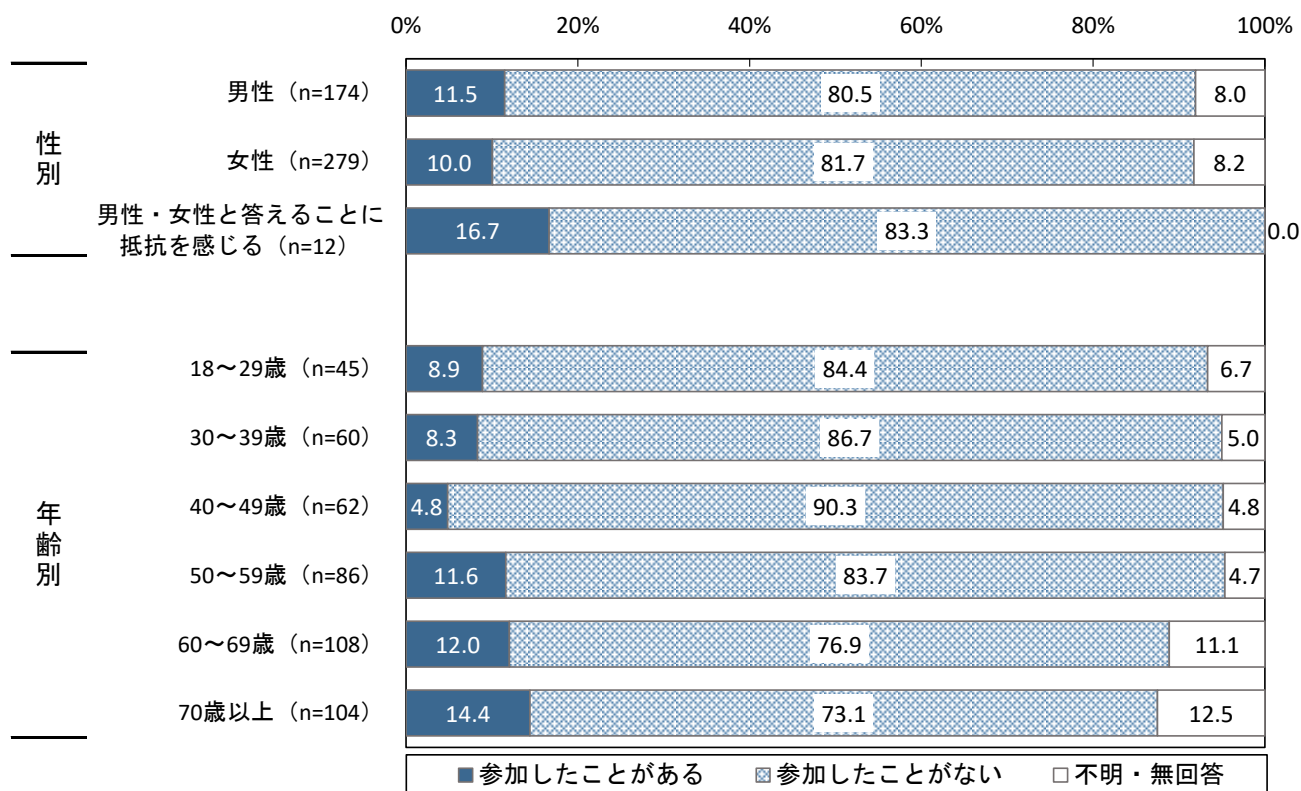
図表 2-24 「交流」「協働」の取組への参加の状況



(3) 性別・年齢別

年齢別でみると、50歳以上で「参加したことがある」の割合が高くなり、70歳以上が14.4%で最も高い。

図表 2-25 性別・年齢別 「交流」「協働」の取組への参加の状況



4－2－1．今後の参加意向、参加したくなる取組

問6で「参加したことがある」と回答した方

問6-1a	また参加したいですか？（いずれか1つに○）
-------	-----------------------

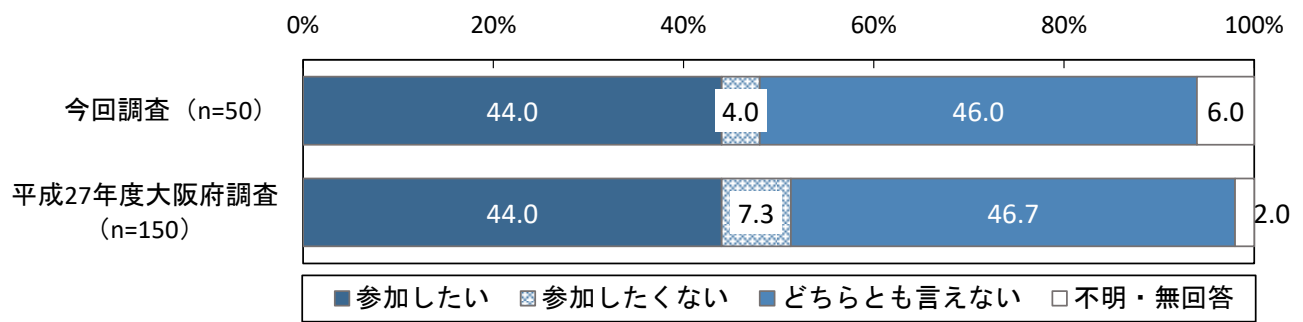
（1）全体

今後の参加意向については、「どちらとも言えない」が46.0%で最も高く、次いで「参加したい」が44.0%、「参加したくない」が4.0%となっている。

（2）大阪府調査との比較

大阪府調査と比較すると、大きな差はみられない。

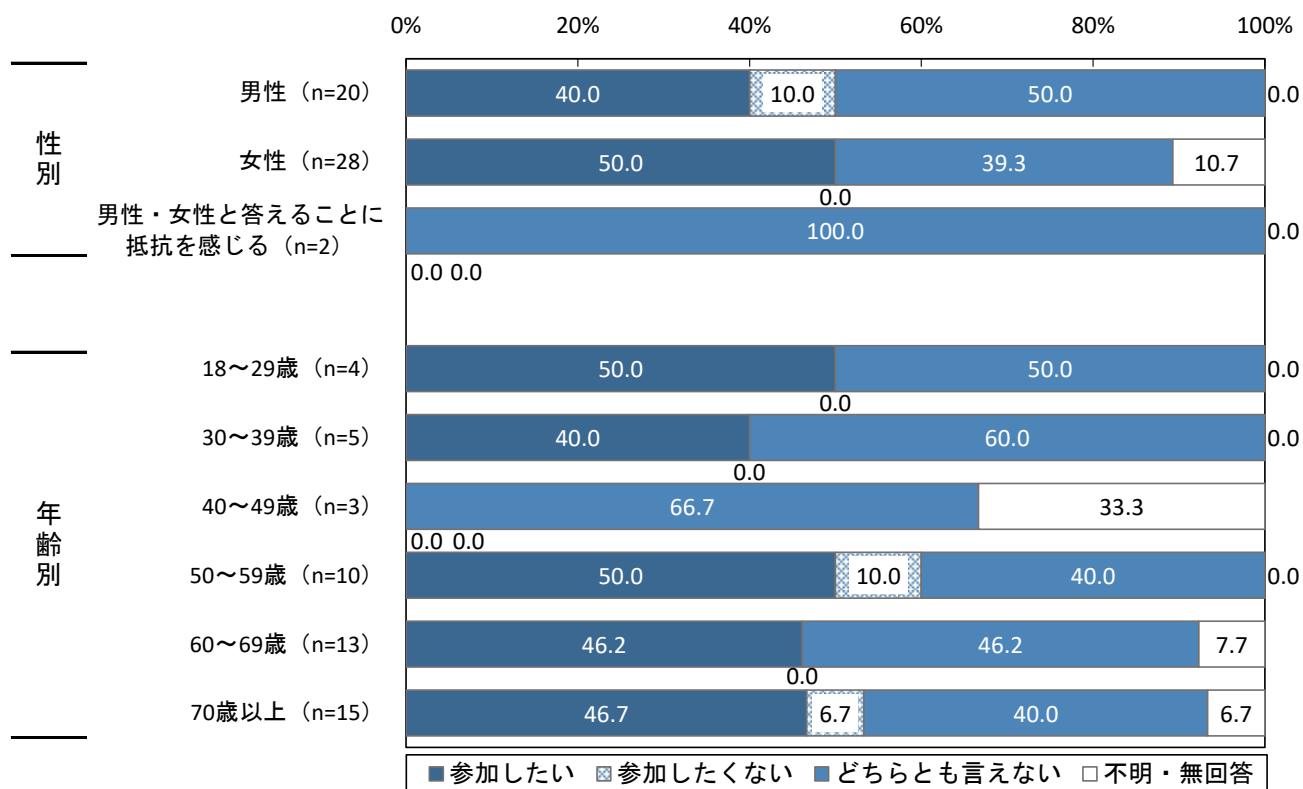
図表 2-26 今後の参加意向



（３）性別・年齢別

性別でみると、「参加したい」では、女性が 50.0%で、男性（40.0%）より 10.0 ポイント高くなっている。

図表 2-27 性別・年齢別 今後の参加意向



問6で「参加したことがない」と回答した方

問6-1b	どうすれば参加しようと思いますか？（○はいくつでも）
-------	----------------------------

（1）全体

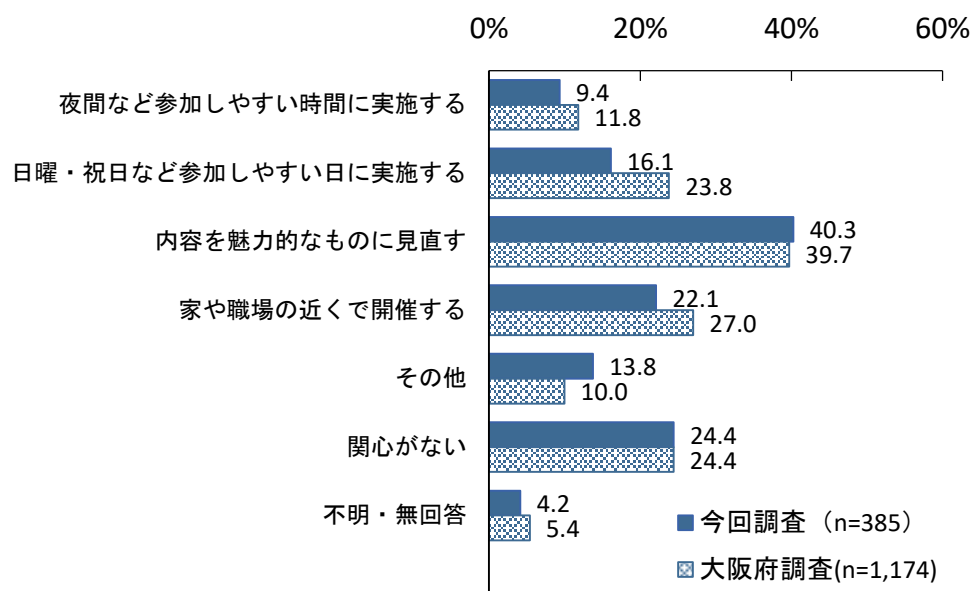
参加したくなる取組については、「内容を魅力的なものに見直す」が40.3%で最も高く、次いで「関心がない」が24.4%、「家や職場の近くで開催する」が22.1%と続いている。

「その他」の自由記述は、「広報の充実」（3件）、「義務にする」（3件）等となっている。一方、「時間がない、余裕がない」（9件）、「必要になれば」（4件）といった記述も目立った。

（2）大阪府調査との比較

大阪府調査と比較すると、「内容を魅力的なものに見直す」、「その他」で大阪府調査より割合が高く、「日曜・祝日など参加しやすい日に実施する」では、大阪府調査より7.7ポイント低くなっている。

図表 2-28 参加したくなる取組



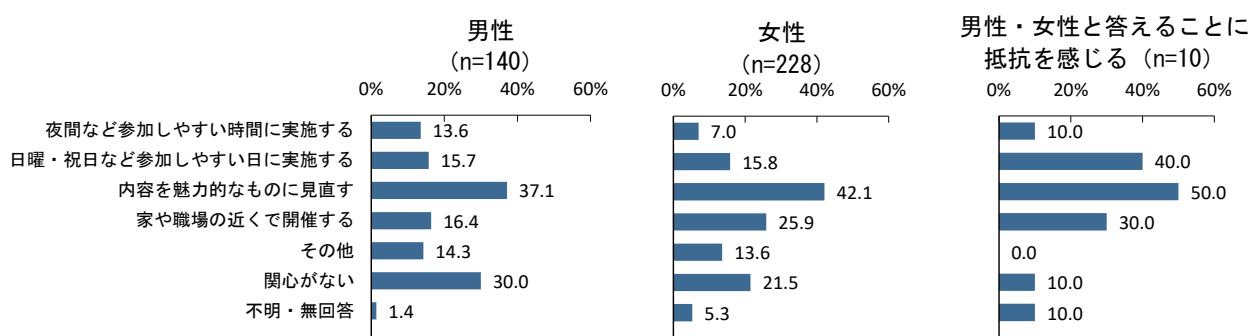
(3) 性別・年齢別

性別でみると、他の項目に比べ、男性では「夜間など参加しやすい時間に実施する」、「関心がない」の割合が女性より高く、女性では「内容を魅力的なものに見直す」、「家や職場の近くで開催する」の割合が男性より高くなっている。

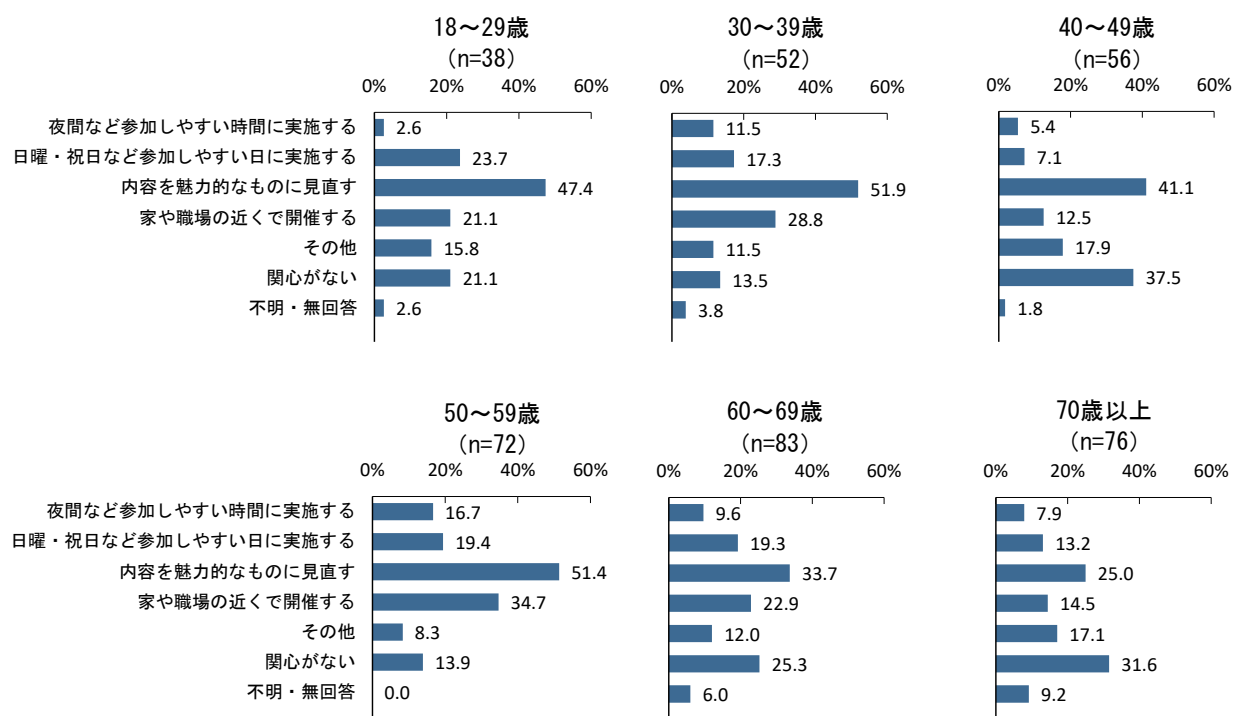
年齢別でみると、70歳以上で「関心がない」が最も高く、それ以外の年齢層で「内容を魅力的なものに見直す」が最も高くなっている。また、「関心がない」では、40歳代が最も高く 37.5%となっている。

図表 2-29 性別・年齢別 参加したくなる取組

【性別】



【年齢別】



第5章 具体的な事象における人権意識の状況

5-1. 住宅を選ぶ際に重視する立地条件

問7	あなたが家を買ったり借りたりする際に重視する（した）立地条件は何ですか？ （〇はいくつでも）
----	---

（1）全体

住宅を選ぶ際に重視する立地条件については、「公共施設や商業、医療施設、公園緑地などの状況」が71.4%で最も高く、次いで「都心部、最寄り駅や幹線道路へのアクセス」が71.2%、「日照・眺望など」が57.6%と続いている。

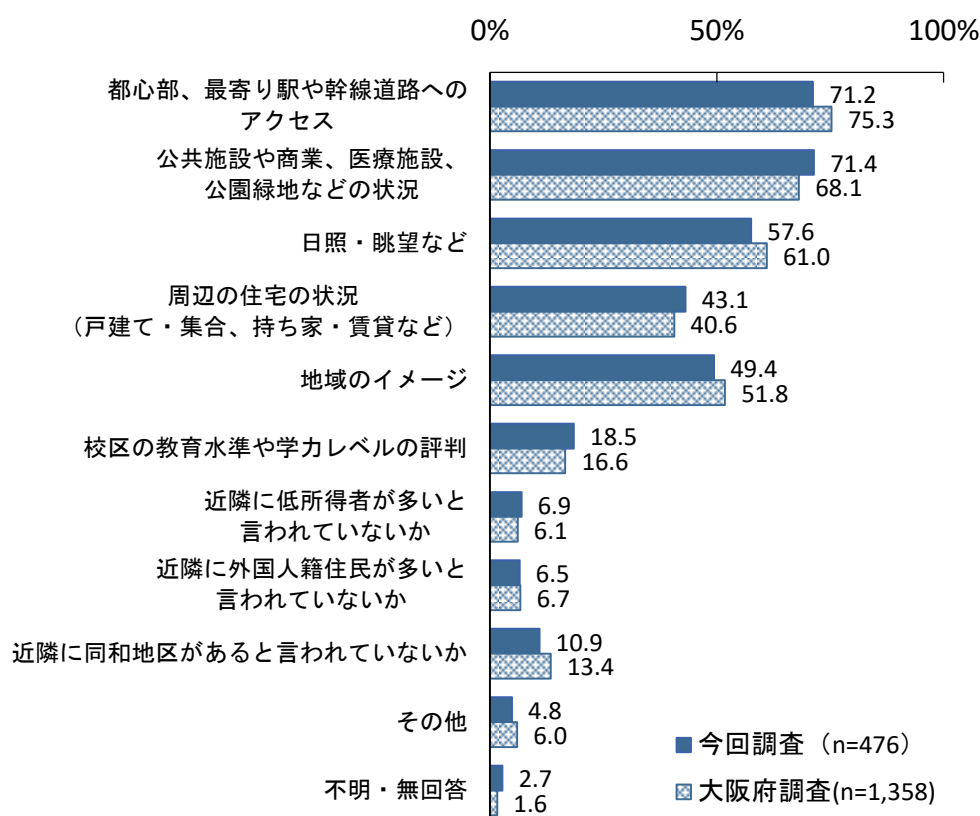
また、物理的な立地条件以外では、「地域のイメージ」が49.4%で最も高く、次いで「校区の教育水準や学力レベルの評判」が18.5%、「近隣に同和地区があると言われていないか」が10.9%と続いている。

「その他」の自由記述は、「治安」（2件）、「災害が起きにくい」（2件）等となっている。

（2）大阪府調査との比較

大阪府調査と比較すると、大阪府調査に比べ、「公共施設や商業、医療施設、公園緑地などの状況」、「周辺の住宅の状況（戸建て・集合、持ち家・賃貸など）」、「校区の教育水準や学力レベルの評判」、「近隣に低所得者が多いと言われていないか」の割合が高くなっている。

図表 2-30 住宅を選ぶ際に重視する立地条件



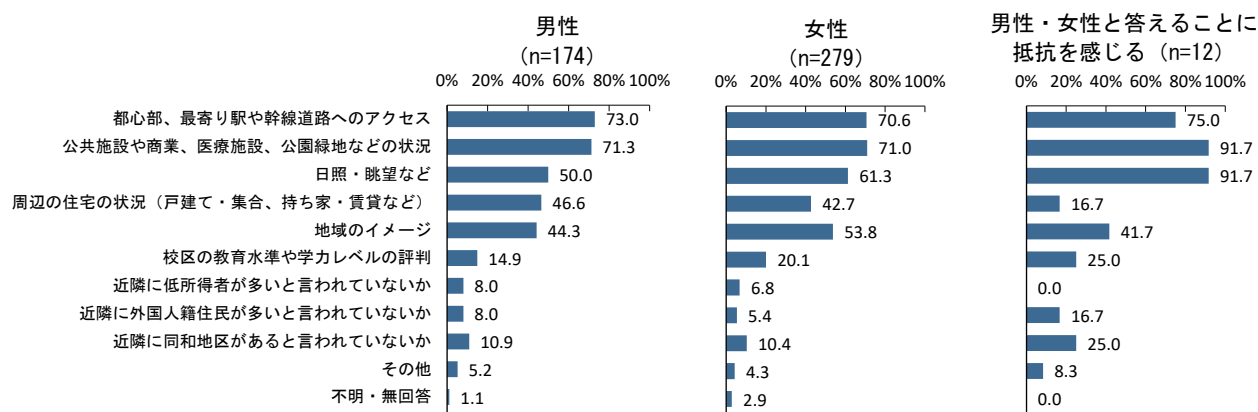
(3) 性別・年齢別

性別でみると、他の項目に比べ、女性では「日照・眺望など」、「地域のイメージ」、「校区の教育水準や学力レベルの評判」の割合が男性より高くなっている。

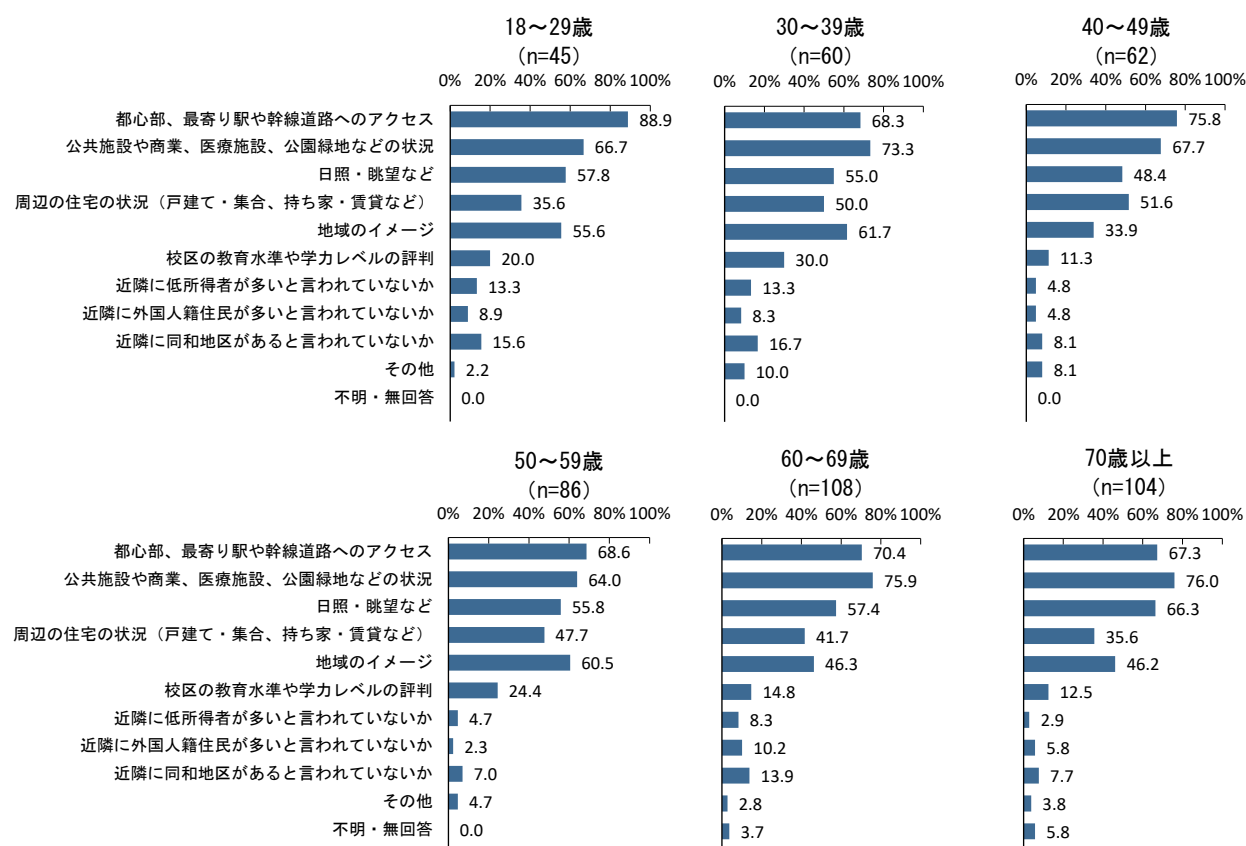
年齢別でみると、18～29歳、40～50歳代では「都心部、最寄り駅や幹線道路へのアクセス」の割合が最も高く、30歳代、60歳以上では「公共施設や商業、医療施設、公園緑地などの状況」が最も高くなっている。

図表 2-31 性別・年齢別 住宅を選ぶ際に重視する立地条件

【性別】



【年齢別】



5-2. 人権上問題と思う採用面接時の質問

問 8	採用面接における質問で、あなたが人権上問題があると思うことはどれですか？ (〇はいくつでも)
-----	---

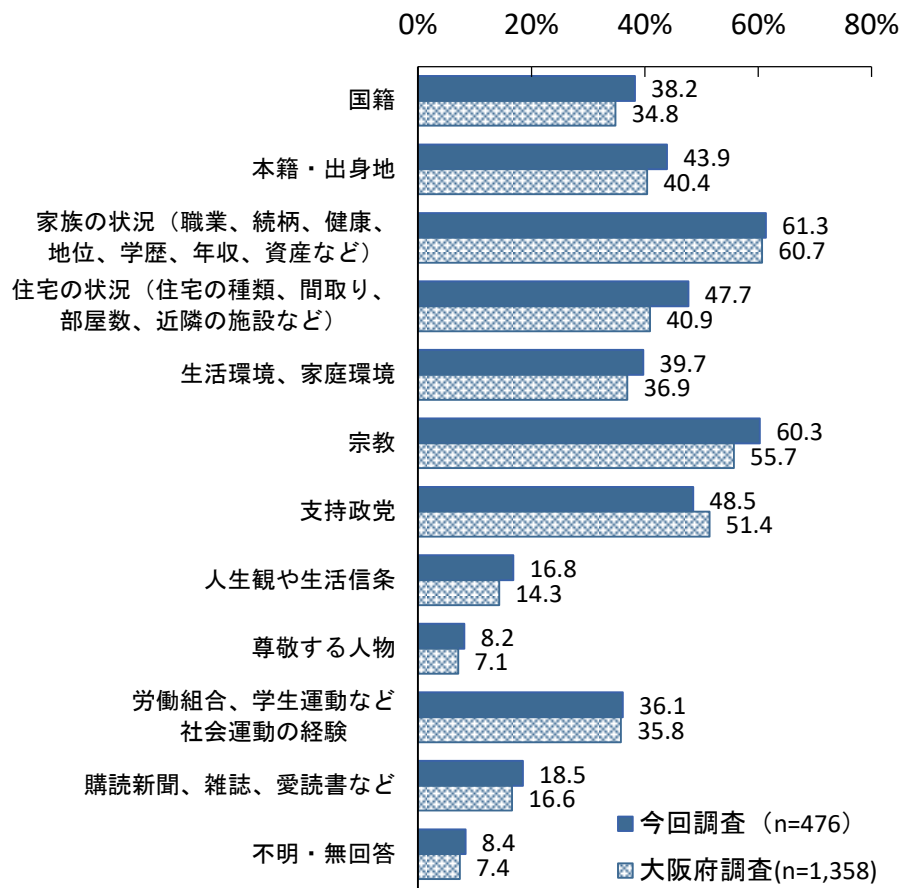
(1) 全体

人権上問題と思う採用面接時の質問については、「家族の状況（職業、続柄、健康、地位、学歴、年収、資産など）」が61.3%で最も高く、次いで「宗教」が60.3%、「支持政党」が48.5%と続いている。

(2) 大阪府調査との比較

大阪府調査と比較すると、「支持政党」以外の項目で大阪府調査より高くなっている。

図表 2-32 人権上問題と思う採用面接時の質問

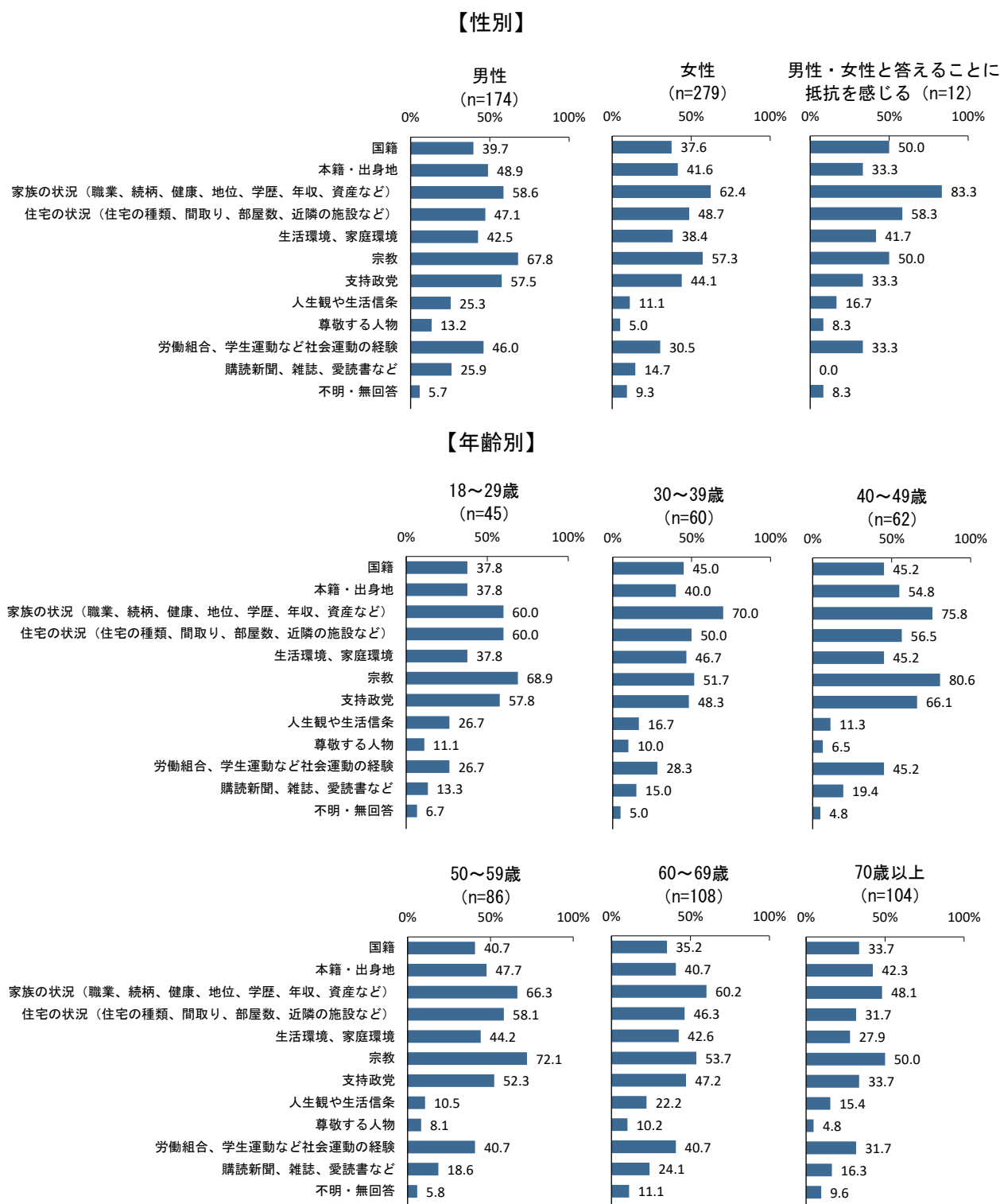


(3) 性別・年齢別

性別でみると、「家族の状況（職業、続柄、健康、地位、学歴、年収、資産など）」、「住宅の状況（住宅の種類、間取り、部屋数、近隣の施設など）」以外の項目で男性の割合が女性より高くなっている。

年齢別でみると、他の年齢層に比べ、40歳代で「本籍・出身地」、「宗教」、「支持政党」の割合が他の年齢層よりも高くなっている。

図表 2-33 性別・年齢別 人権上問題と思う採用面接時の質問



5－3．結婚相手を選ぶ際に重視すること

問 9	あなたが結婚相手について重視する（した）ことはどんなことですか？ （〇はいくつでも）
-----	---

（１）全体

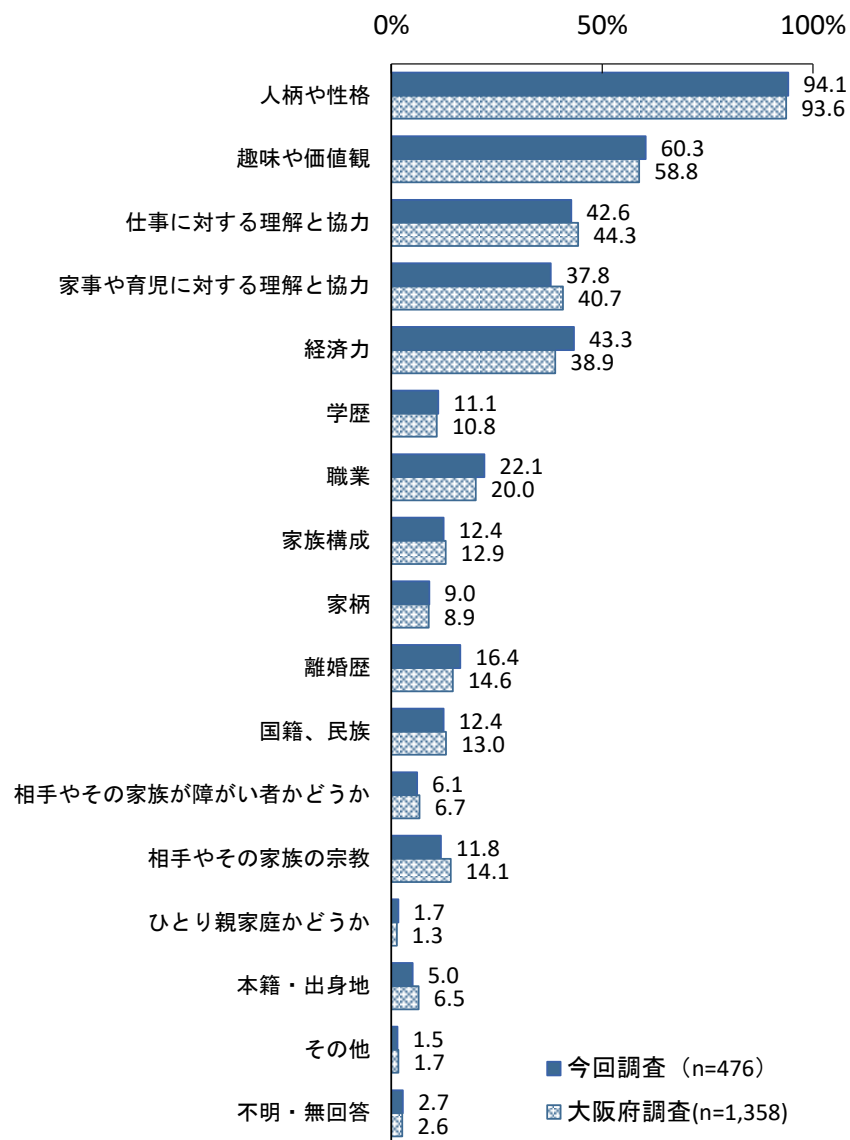
結婚相手を選ぶ際に重視することについては、「人柄や性格」が94.1%で最も高く、次いで「趣味や価値観」が60.3%、「経済力」が43.3%、「仕事に関する理解と協力」が42.6%と続いている。

「その他」の自由記述は、「外見・容姿」、「病気を理解してくれるか」（以上各1件）等となっている。

（２）大阪府調査との比較

大阪府調査と比較すると、今回調査、大阪府調査いずれも「人柄や性格」が最も高く、次いで「趣味や価値観」と続いているが、今回調査では次いで「経済力」が高く、大阪府調査では次いで「仕事に対する理解と協力」が高くなっている。

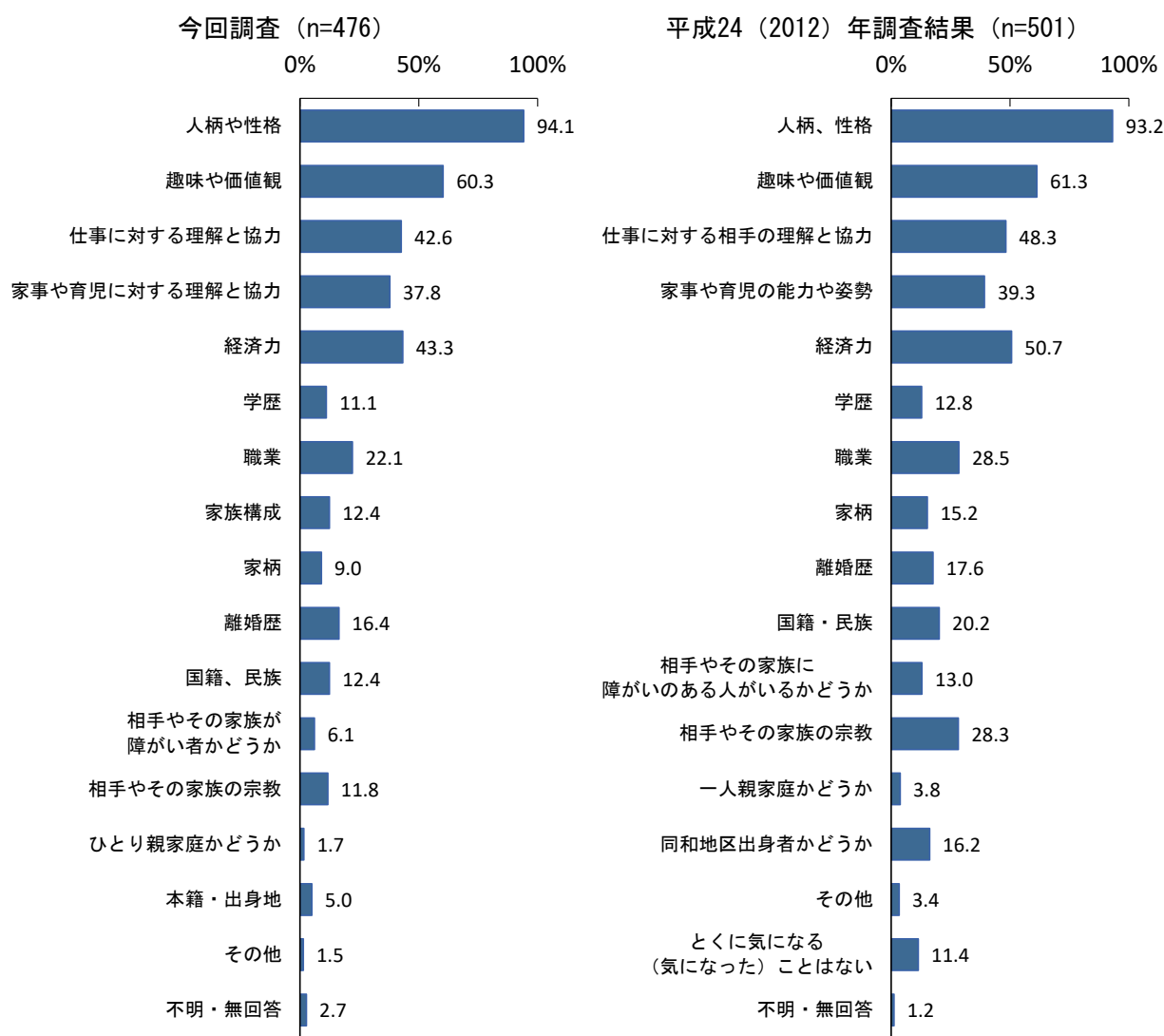
図表 2-34 結婚相手を選ぶ際に重視すること



（３）前回調査との比較

平成 24（2012）年調査とは設問内容が異なるが、質問の意図が同じであるため、比較できる項目で見ると、他の項目に比べ「仕事に対する理解と協力」、「経済力」、「職業」、「国籍・民族」、「相手やその家族が障がい者かどうか」、「相手やその家族の宗教」で前回調査より割合が低下している。

図表 2-35 結婚相手を選ぶ際に重視すること 平成 24（2012）年調査との比較



（注）平成 24（2012）年調査では「結婚相手を考える際に、気になること（なったこと）はどんなことですか」で、今回の調査では、「同和地区出身者かどうか」、「とくに気になる（気になった）ことはない」が削除され「家族構成」「本籍・出身地」が追加されている。

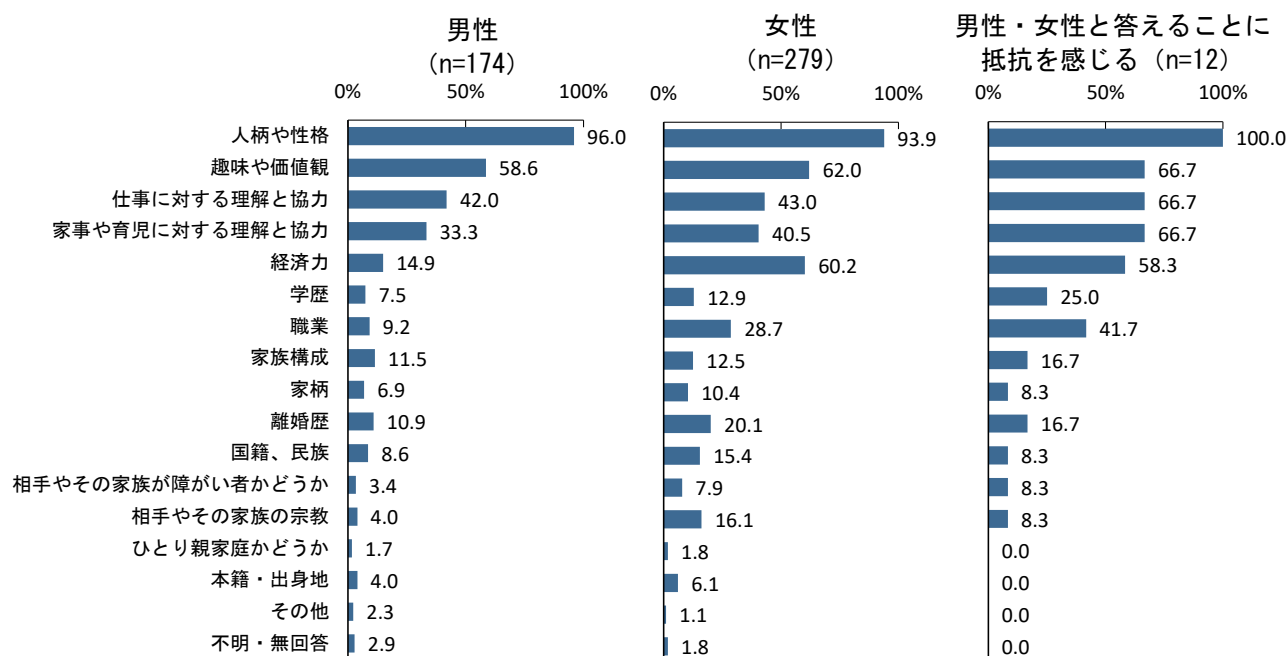
(4) 性別・年齢別

性別でみると、「人柄や性格」、「その他」以外の項目で女性の割合が男性より高くなっている。

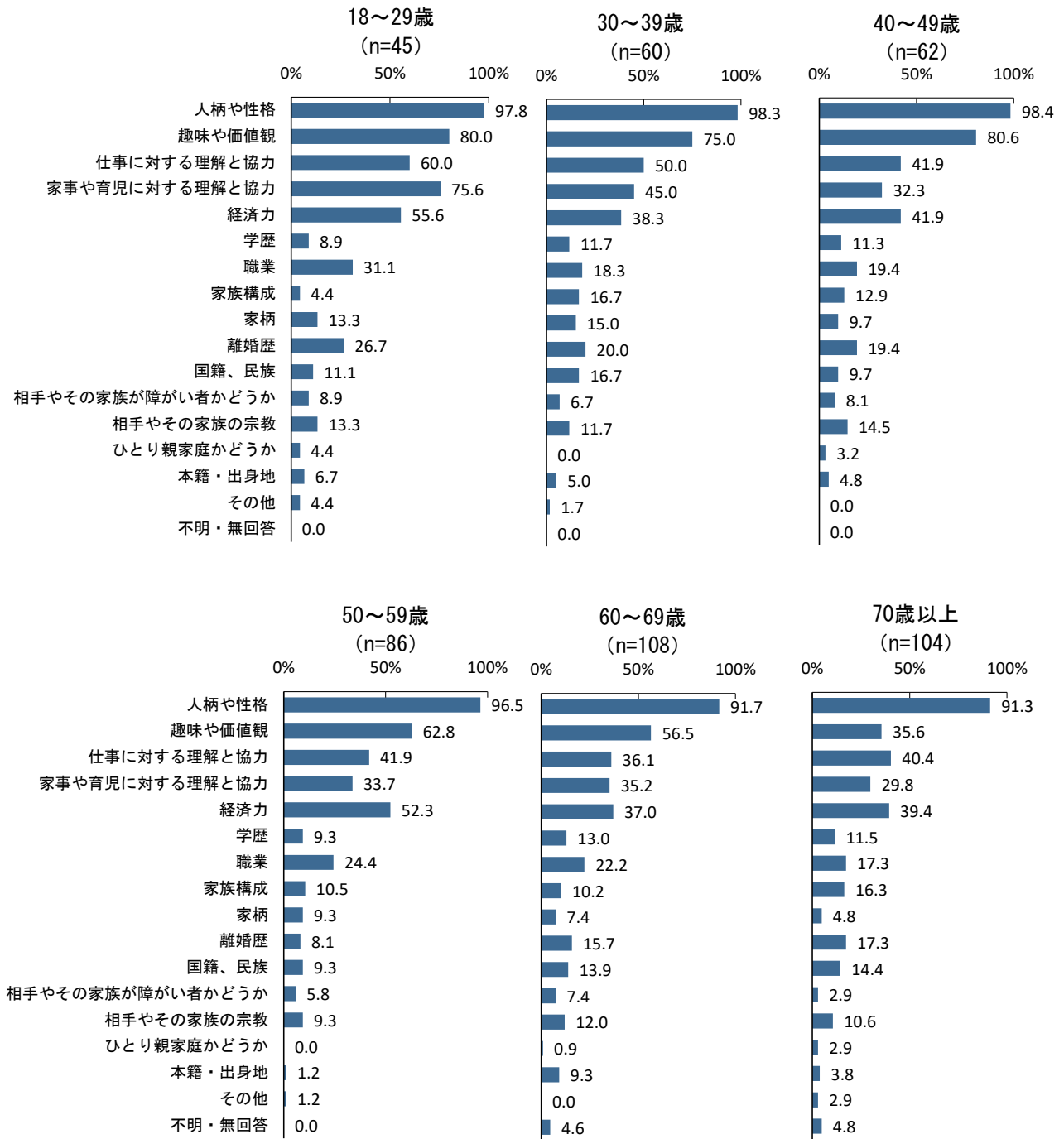
また、男性、女性いずれも「人柄や性格」が最も高く、次いで「趣味や価値観」と続いているが、男性では次いで「仕事に対する理解と協力」が高く、女性では次いで「経済力」が高くなっている。

年齢別でみると、全ての年齢層で「人柄や性格」が最も高くなっているが、18～29歳では次いで「趣味や価値観」、「家事や育児に対する理解と協力」が高く、30歳代では次いで「趣味や価値観」、「仕事に対する理解と協力」が高く、40代では「趣味や価値観」、「仕事に対する理解と協力」・「経済力」（同割合）が高く、50～60歳代では「趣味や価値観」、「経済力」が高く、70歳以上では「仕事に対する理解と協力」、「経済力」が高い。また、「家事や育児に対する理解と協力」では、18～29歳が他の年齢層に比べ高くなっている。

図表 2-36 性別・年齢別 結婚相手を選ぶ際に重視すること
【性別】



【年齢別】



5-4. 「結婚」についての基本的な意識

問 10	結婚について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか？ (いずれか1つに○)
------	--

(1) 全体

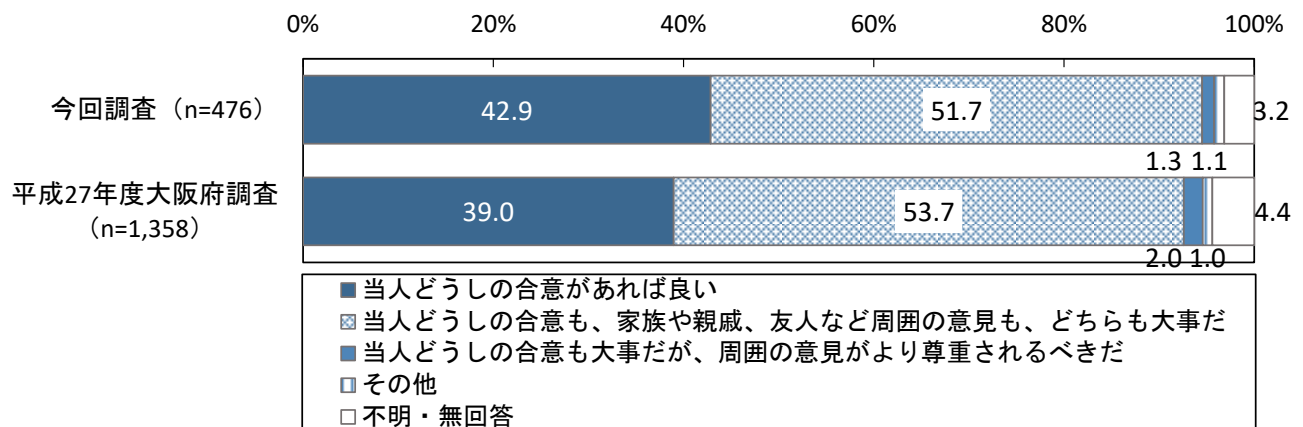
結婚についての基本的な意識については、「当人どうしの合意も、家族や親戚、友人など周囲の意見も、どちらも大事だ」が51.7%で最も高く、次いで「当人どうしの合意があればよい」が42.9%となっている。また、「当人どうしの合意も大事だが、周囲の意見がより尊重されるべきだ」と回答した人も1.3%いる。

「その他」の自由記述は、「当人どうしの合意も、周囲の意見も、どちらも大事だ」と同趣旨のものが4件であった。

(2) 大阪府調査との比較

大阪府調査と比較すると、大きな差異はみられない。

図表 2-37 「結婚」についての基本的な意識

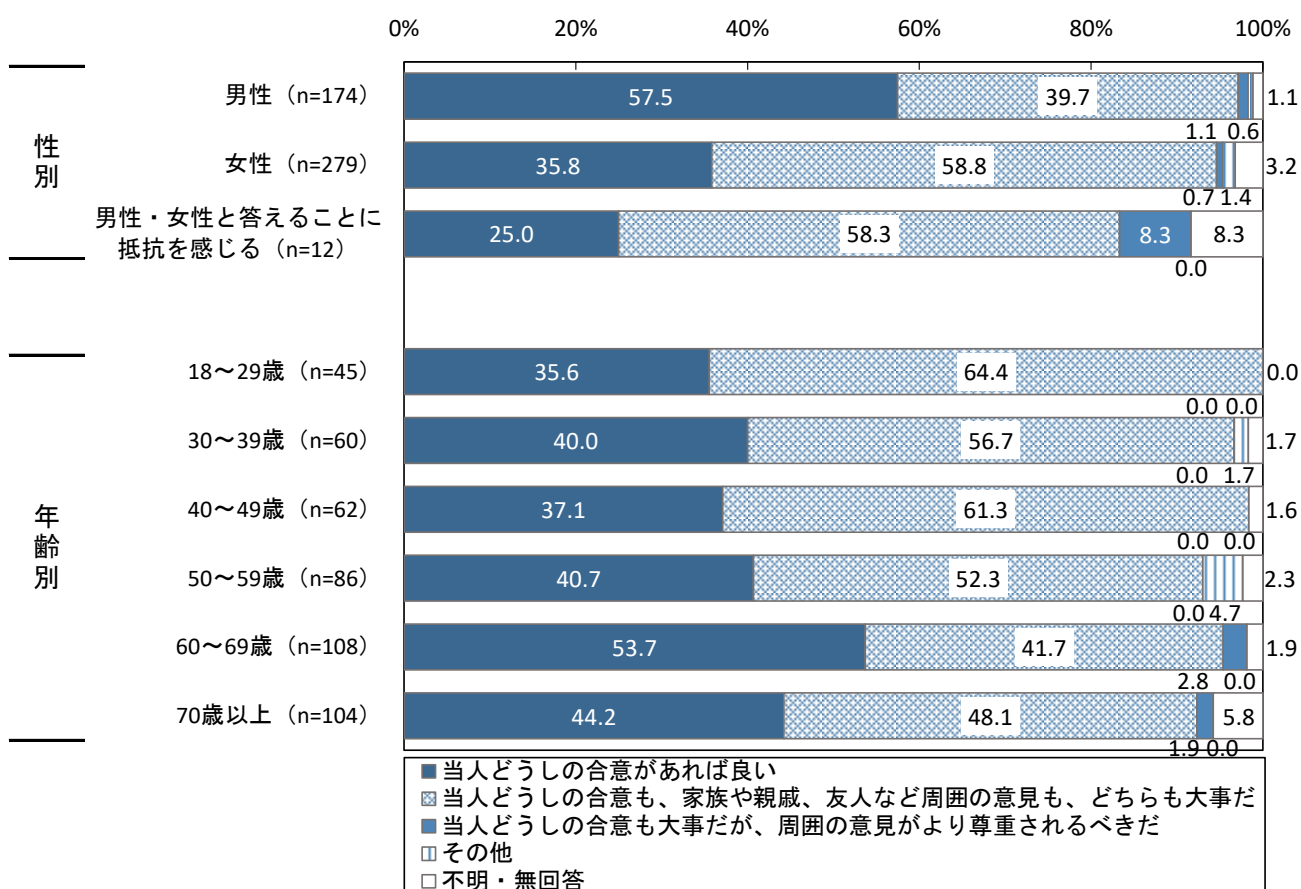


（３）性別・年齢別

性別でみると、男性では「当人どうしの合意があれば良い」が 57.5%で最も高いのに対し、女性では「当人どうしの合意も、家族や親戚、友人など周囲の意見も、どちらも大事だ」が 58.8%で最も高くなっている。

年齢別でみると、「当人どうしの合意があれば良い」では、60歳代が他の年齢層よりも高く、「当人どうしの合意も、家族や親戚、友人など周囲の意見も、どちらも大事だ」では、18～29歳が他の年齢層よりも高くなっている。また、「当人どうしの合意も大事だが、周囲の意見がより尊重されるべきだ」では、60歳以上のみの回答となっている。

図表 2-38 性別・年齢別 「結婚」についての基本的な意識



第6章 人権侵害事象への接触、対応

6－1. 人権侵害事象への接触の状況

問 11	あなたは、最近5年間に人権上問題と思われる言動を身近で見聞きしたことがありますか？複数ある場合は、一番印象に残っているものについてお答えください。 (いずれか1つに○)
------	---

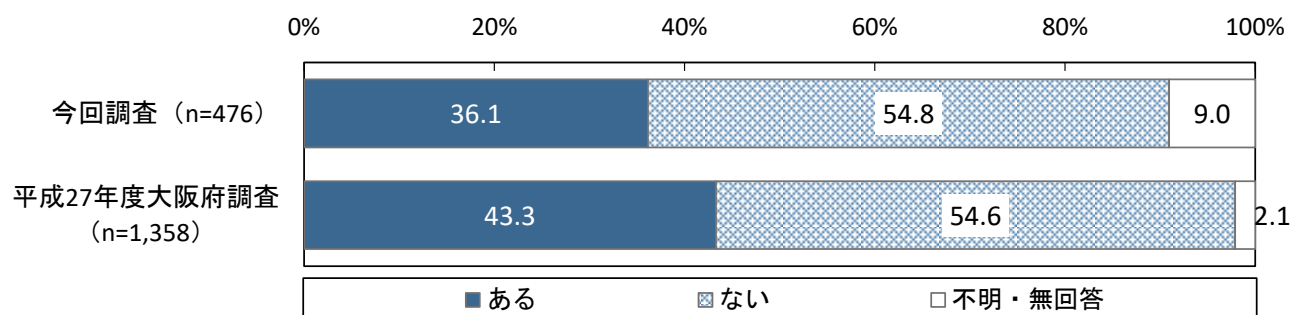
(1) 全体

人権侵害事象への接触の状況については、「ある」が36.1%、「ない」が54.8%となっている。

(2) 大阪府調査との比較

大阪府調査と比較すると、「ある」では、今回調査が36.1%で、大阪府調査(43.3%)より7.2ポイント低くなっている。

図表 2-39 人権侵害事象への接触の状況

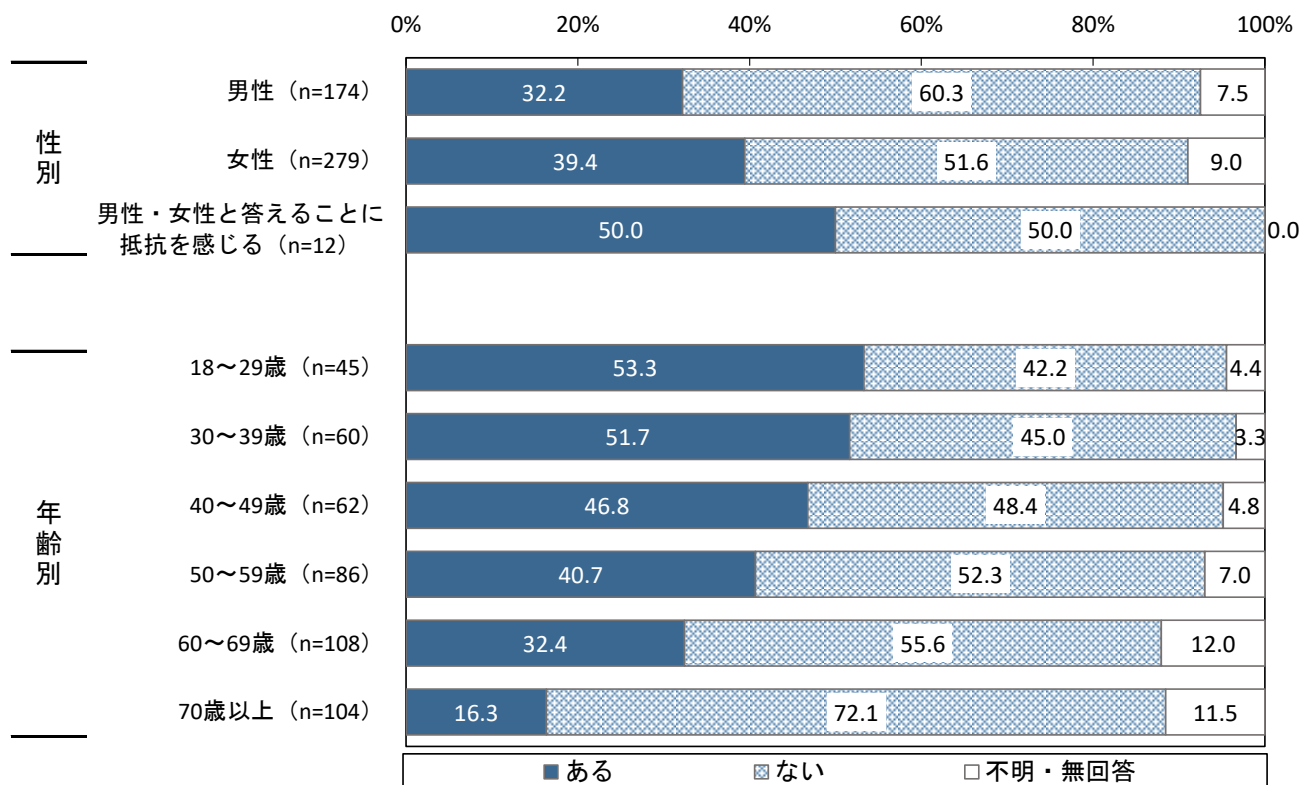


(3) 性別・年齢別

性別でみると、「ある」では、女性が39.4%で、男性（32.2%）よりも高くなっている。

年齢別でみると、「ある」では、年齢が低くなるにつれて割合が高くなり、18～29歳が53.3%で最も高くなっている。

図表 2-40 性別・年齢別 人権侵害事象への接触の状況



6-1-1. 事象の分野、内容、接触場所

問 11 で「ある」と回答した方

問 11-1	それはどのような人権問題に関するものでしたか？（いずれか 1 つに○）
--------	-------------------------------------

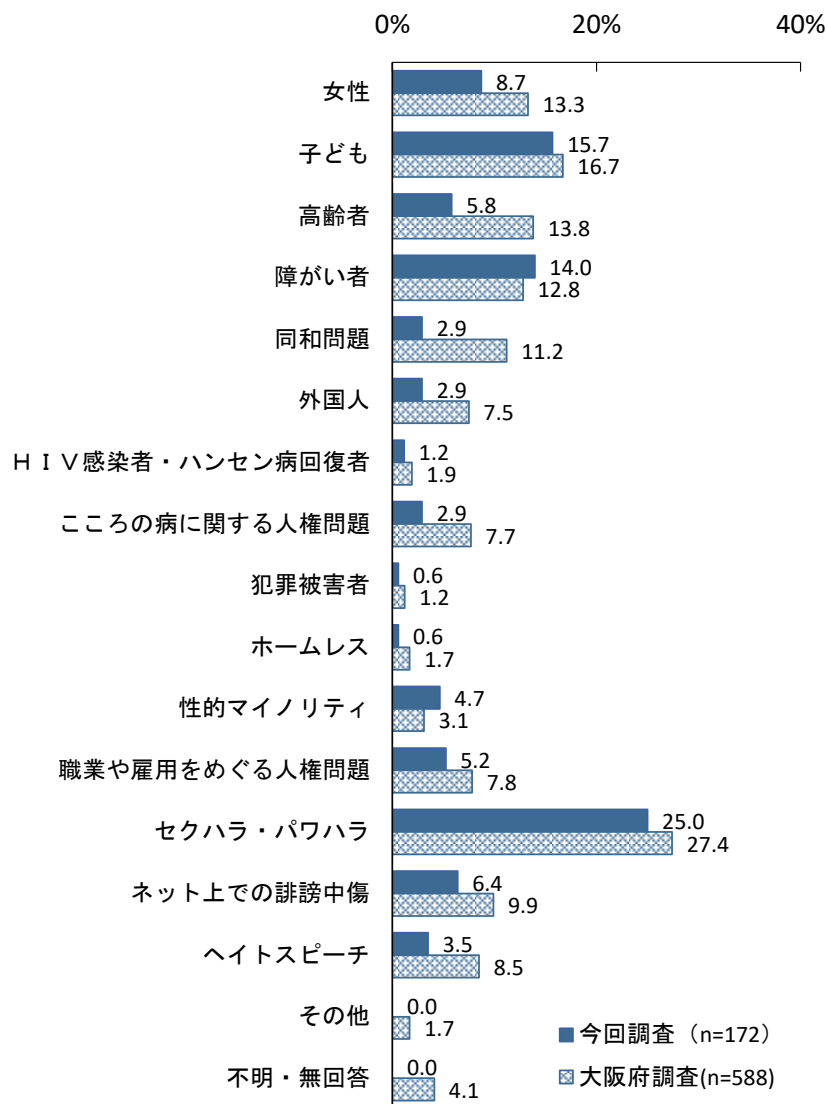
（１）全体

接触した人権侵害事象の分野については、「セクハラ・パワハラ」が 25.0%で最も高く、次いで「子ども」が 15.7%、「障がい者」が 14.0%と続いている。

（２）大阪府調査との比較

大阪府調査との比較は、回答数が異なるため参考とする。

図表 2-41 事象の分野



(注) 大阪府調査は、単数回答の質問だが複数回答で集計している。

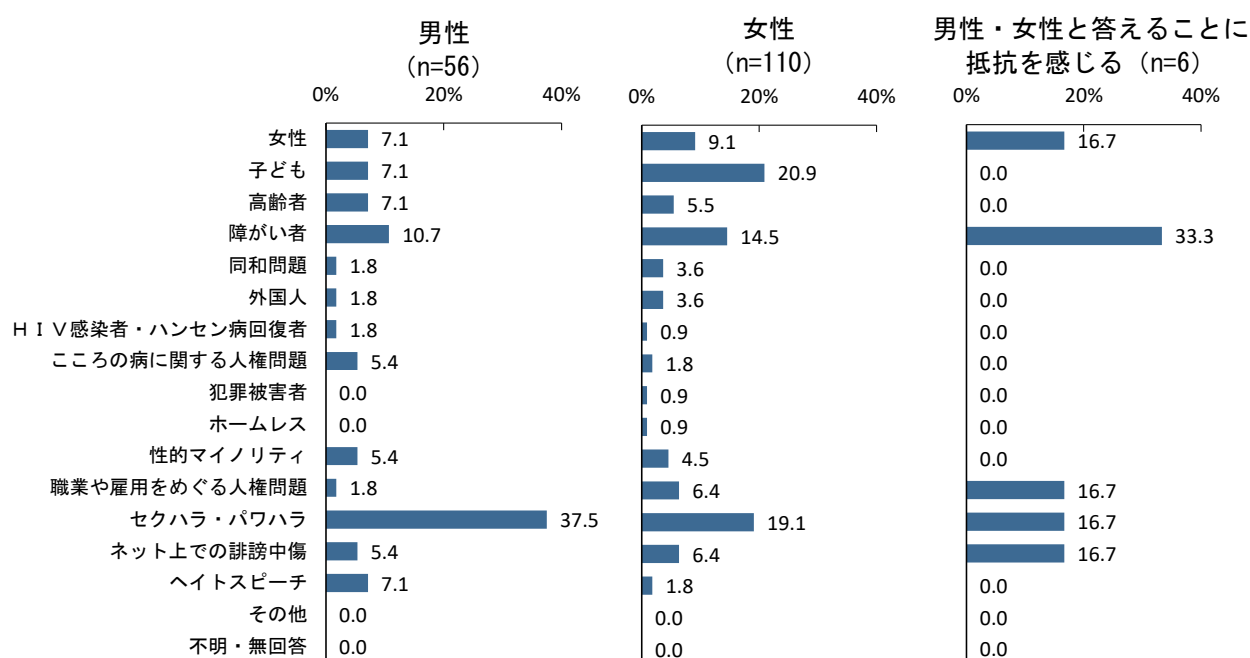
(3) 性別・年齢別

性別でみると、男性では「セクハラ・パワハラ」が 37.5%で最も高く、次いで「障がい者」(10.7%)と続いており、女性では「子ども」が 20.9%で最も高く、次いで「セクハラ・パワハラ」(19.1%)と続いている。

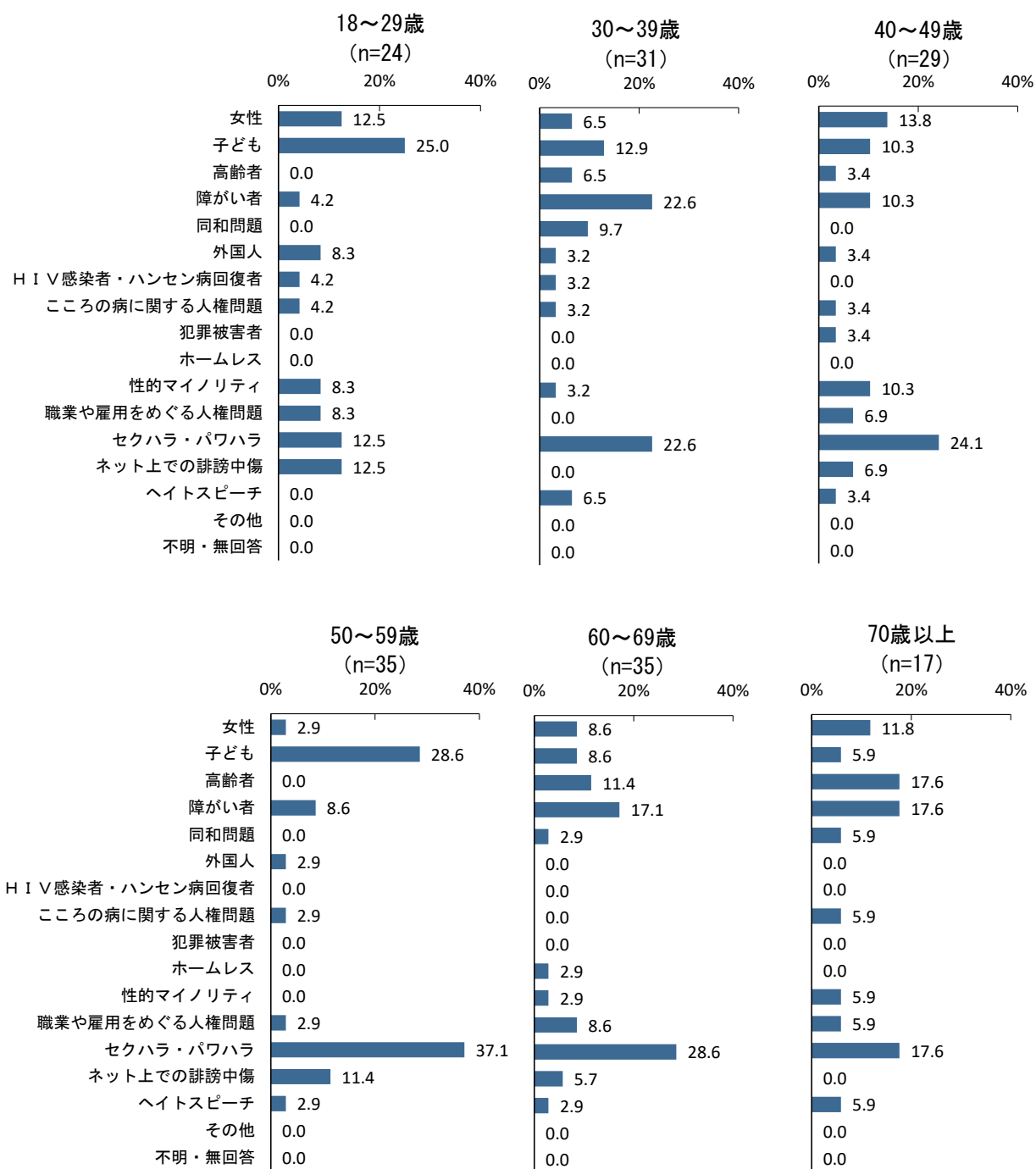
年齢別でみると、18～29 歳では「子ども」が最も高く、30 歳代では「障がい者」・「セクハラ・パワハラ」が最も高く、40～60 歳代では「セクハラ・パワハラ」が最も高く、70 歳以上では「高齢者」・「障がい者」・「セクハラ・パワハラ」が最も高くなっている。

図表 2-42 性別・年齢別 事象の分野

【性別】



【年齢別】



問 11 で「ある」と回答した方

問 11-2	それはどのような内容でしたか？（いずれか 1 つに○）
--------	-----------------------------

（１）全体

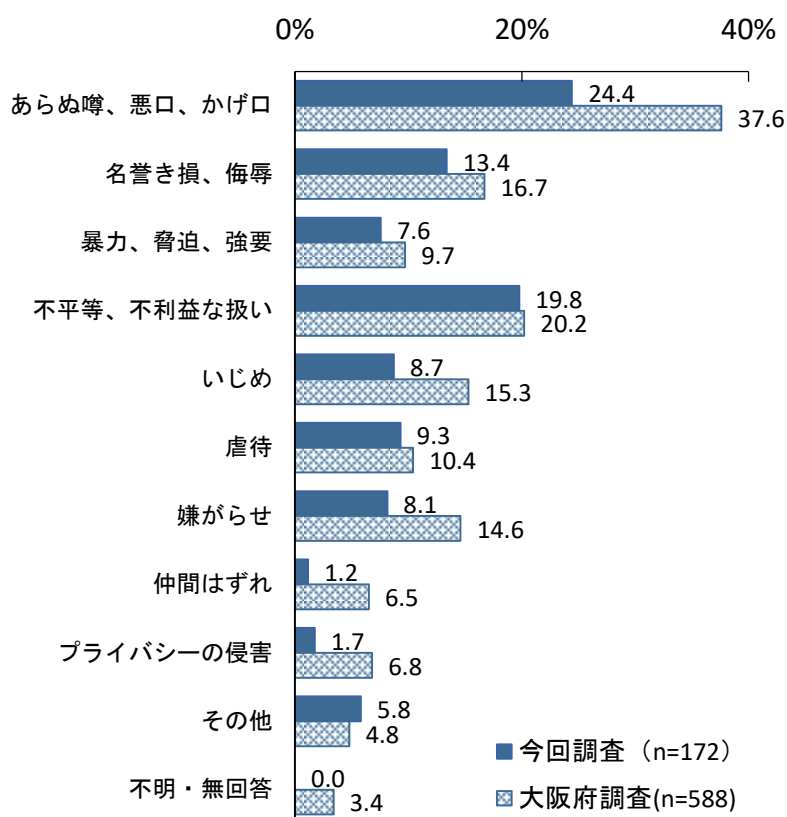
接触した人権侵害事象の内容については、「あらぬ噂、悪口、かげ口」が 24.4%で最も高く、次いで「不平等、不利益な扱い」が 19.8%、「名誉き損、侮辱」が 13.4%、「虐待」が 9.3%と続いている。

「その他」の自由記述は、「暴言」（2 件）、「上司によるセクハラ・パワハラ」（2 件）等となっている。

（２）大阪府調査との比較

大阪府調査との比較は、回答数が異なるため参考とする。

図表 2-43 事象の内容



（注）大阪府調査は、単数回答の質問だが複数回答で集計している。

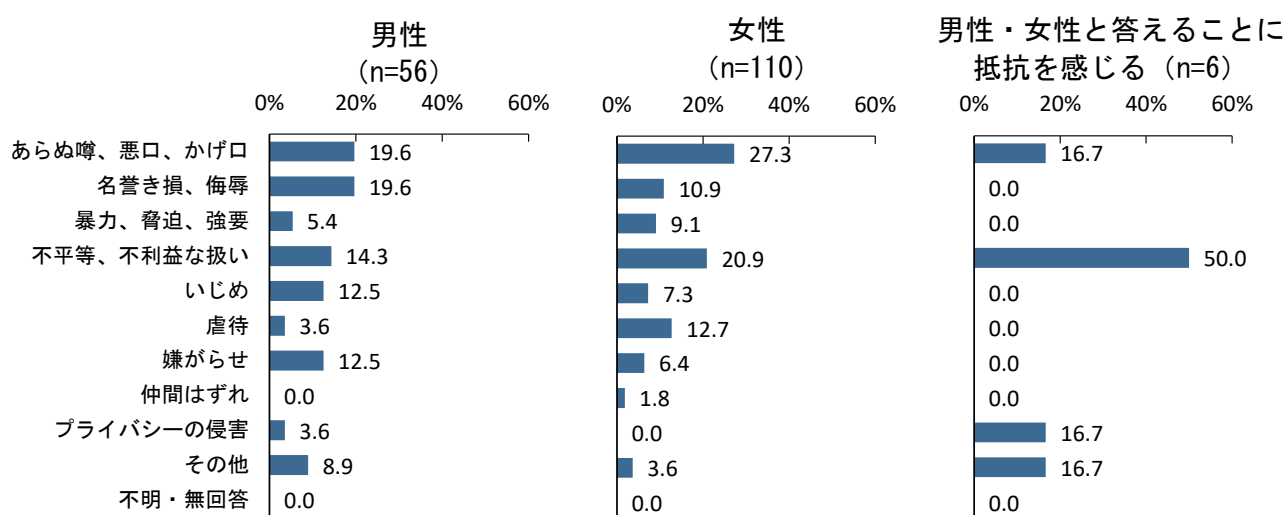
(3) 性別・年齢別

性別でみると、男性では「あらぬ噂、悪口、かげ口」・「名誉き損、侮辱」がいずれも 19.6%で最も高く、次いで「不平等、不利益な扱い」(14.3%)、「嫌がらせ」(12.5%)と続いており、女性では「あらぬ噂、悪口、かげ口」が 27.3%で最も高く、次いで「不平等、不利益な扱い」(20.9%)、「虐待」(12.7%)と続いている。

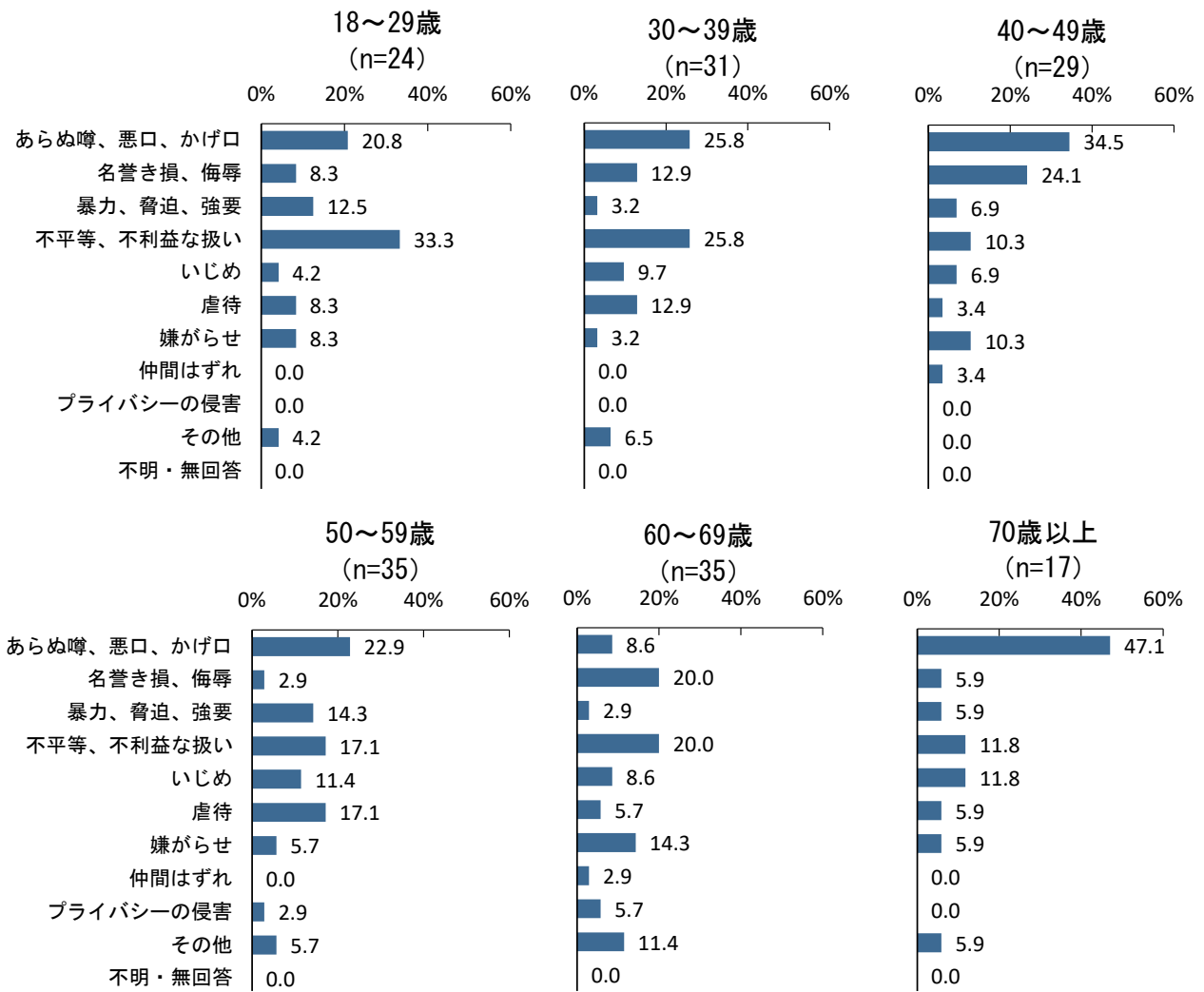
年齢別でみると、18～29 歳では「不平等、不利益な扱い」(33.3%)が最も高く、30 歳代では「あらぬ噂、悪口、かげ口」・「不平等、不利益な扱い」(いずれも 25.8%)が最も高く、40 歳代では「あらぬ噂、悪口、かげ口」(34.5%)が最も高く、50 歳代では「あらぬ噂、悪口、かげ口」(22.9%)が最も高く、60 歳代では「名誉き損、侮辱」・「不平等、不利益な扱い」(いずれも 20.0%)が最も高く、70 歳以上では「あらぬ噂、悪口、かげ口」(47.1%)が最も高くなっている。

図表 2-44 性別・年齢別 事象の内容

【性別】



【年齢別】



問 11 で「ある」と回答した方

問 11-3	それはどこで見聞きしましたか？（いずれか 1 つに○）
--------	-----------------------------

（１）全体

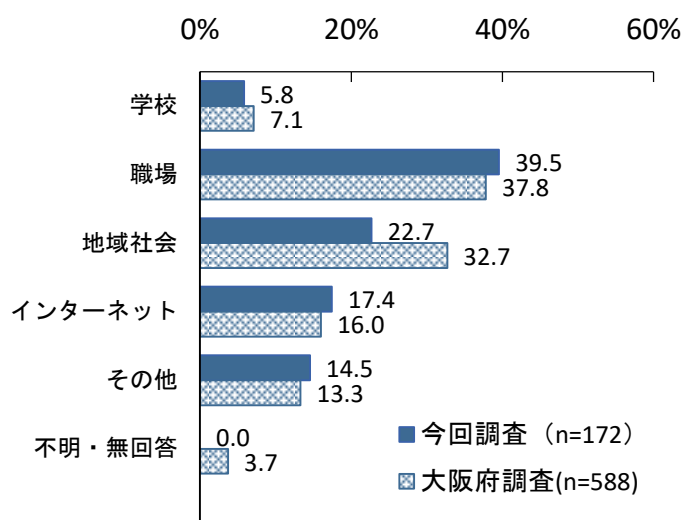
人権侵害事象の接触した場所については、「職場」が 39.5% で最も高く、次いで「地域社会」が 22.7%、「インターネット」が 17.4% と続いている。

「その他」の自由記述は、「報道」（12 件）、「家庭・家族等」（6 件）、「病院」（2 件）、「施設」（2 件）等となっている。

（２）大阪府調査との比較

大阪府調査との比較は、回答数が異なるため参考とする。

図表 2-45 事象の接触場所



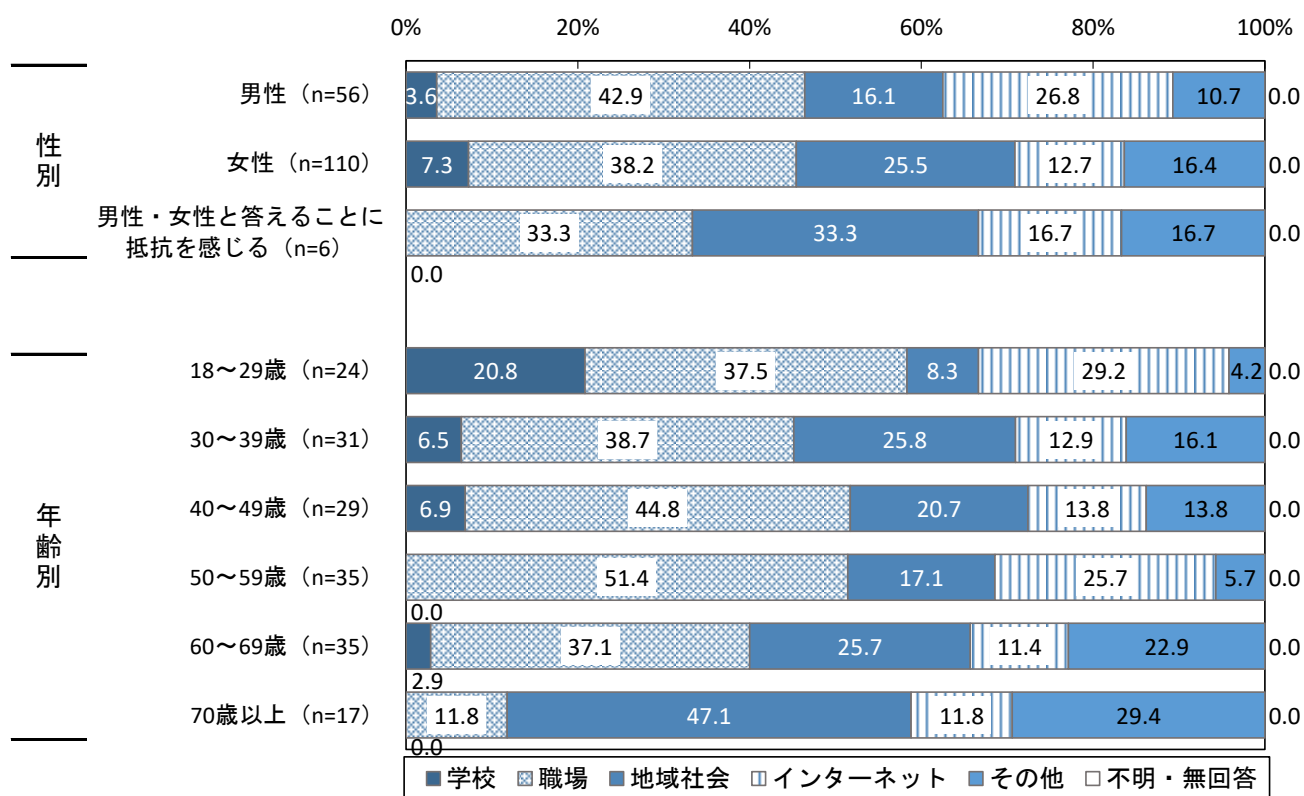
（注）大阪府調査は、単数回答の質問だが複数回答で集計している。

(3) 性別・年齢別

性別でみると、男性・女性いずれも「職場」が最も高くなっているが、男性では次いで「インターネット」が高く、女性では次いで「地域社会」が高くなっている。

年齢別でみると、70歳以上では「地域社会」が最も高く、その他の年齢層では「職場」が最も高くなっている。

図表 2-46 性別・年齢別 事象の接触場所



6－1－2．事象の対象（自分か他者か）

問 11 で「ある」と回答した方

問 11-4	それはあなた自身に対するものでしたか？（いずれか 1 つに○）
--------	---------------------------------

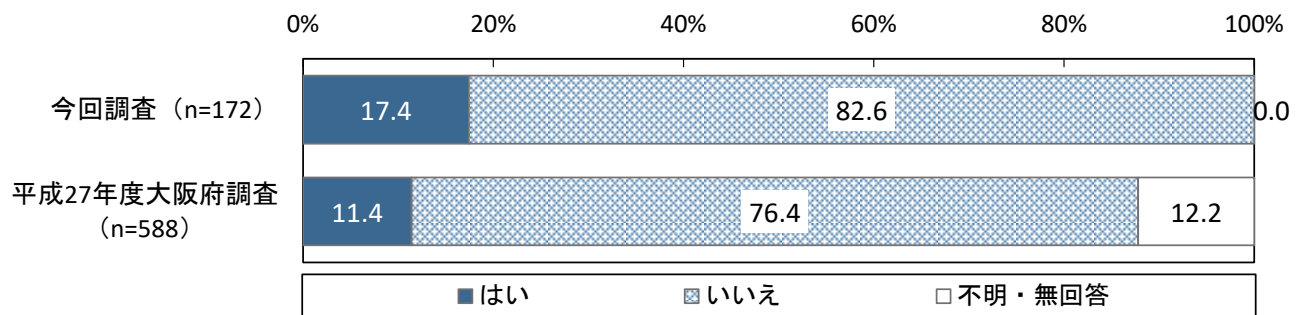
（１）全体

接触した人権侵害事象の対象については、「はい」が 17.4%、「いいえ」が 82.6%となっている。

（２）大阪府調査との比較

大阪府調査と比較すると、「はい」では、大阪府調査（11.4%）より 6.0 ポイント高くなっている。

図表 2-47 事象の対象

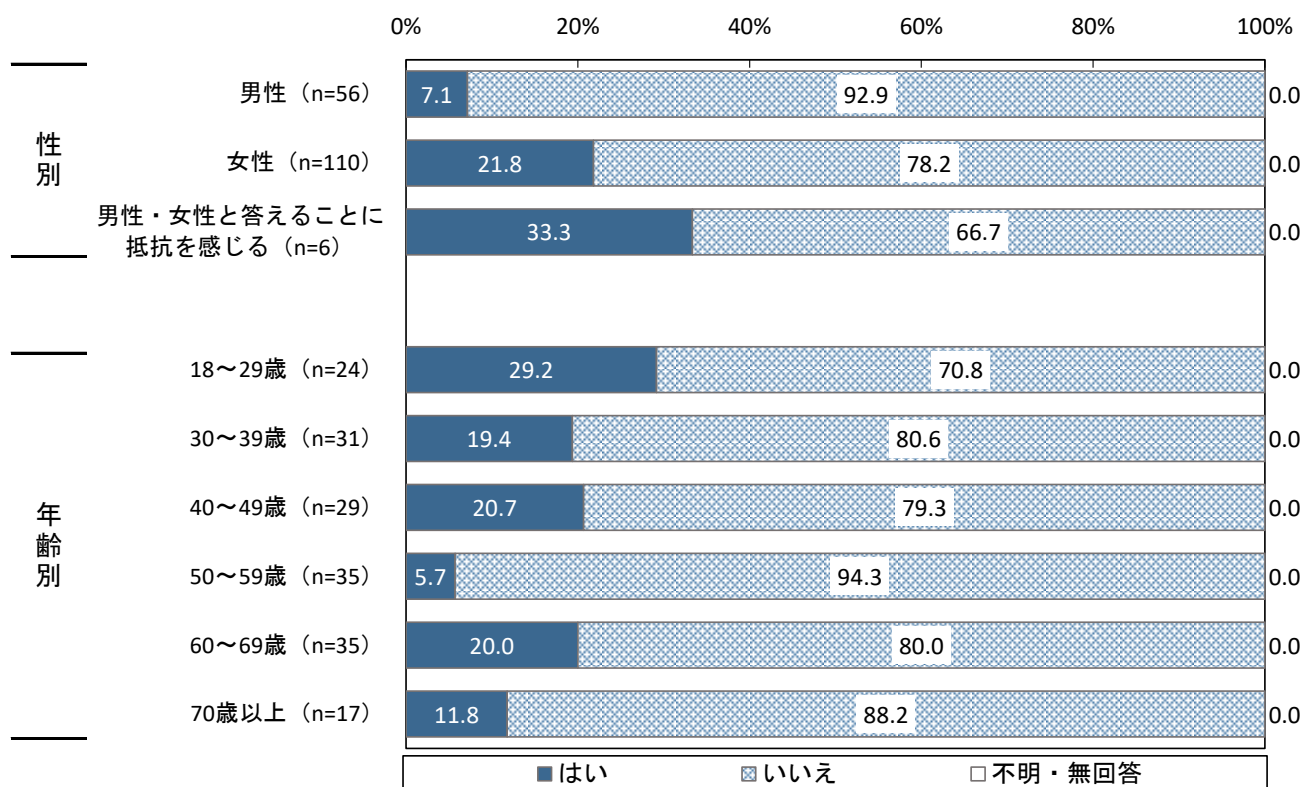


(3) 性別・年齢別

性別でみると、「はい」では、女性が21.8%で、男性（7.1%）よりも高くなっている。

年齢別でみると、「はい」では、18～29歳が29.2%で最も高く、次いで40歳代（20.7%）、60歳代（20.0%）と続いている。

図表 2-48 性別・年齢別 事象の対象



6-1-2-1. 事象に対しとった行動、解決したかどうか

問 11 で「ある」および問 11-4 で「はい」と回答した方

問 11-5a	どう対応しましたか？（いずれか 1 つに○）
---------	------------------------

（１）全体

接触した人権侵害事象に対しとった行動については、「我慢した」が 56.7%で最も高く、次いで「相談した」が 20.0%、「抗議、反論した」が 16.7%と続いている。

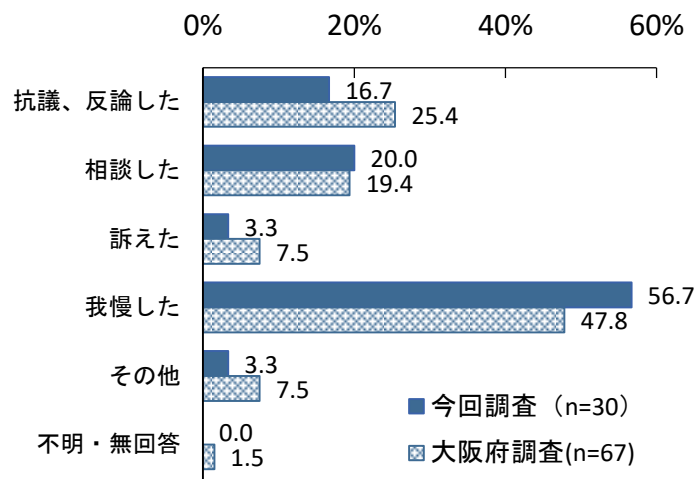
「相談した」の「どこに、誰に」の自由記述は、「市役所」（2 件）、「家族」、「上司」、「学校の先生」（以上各 1 件）等となっている。

「訴えた」の「どこに」の自由記述では、「裁判」（1 件）となっている。

（２）大阪府調査との比較

大阪府調査との比較は、回答数が異なるため参考とする。

図表 2-49 事象に対しとった行動



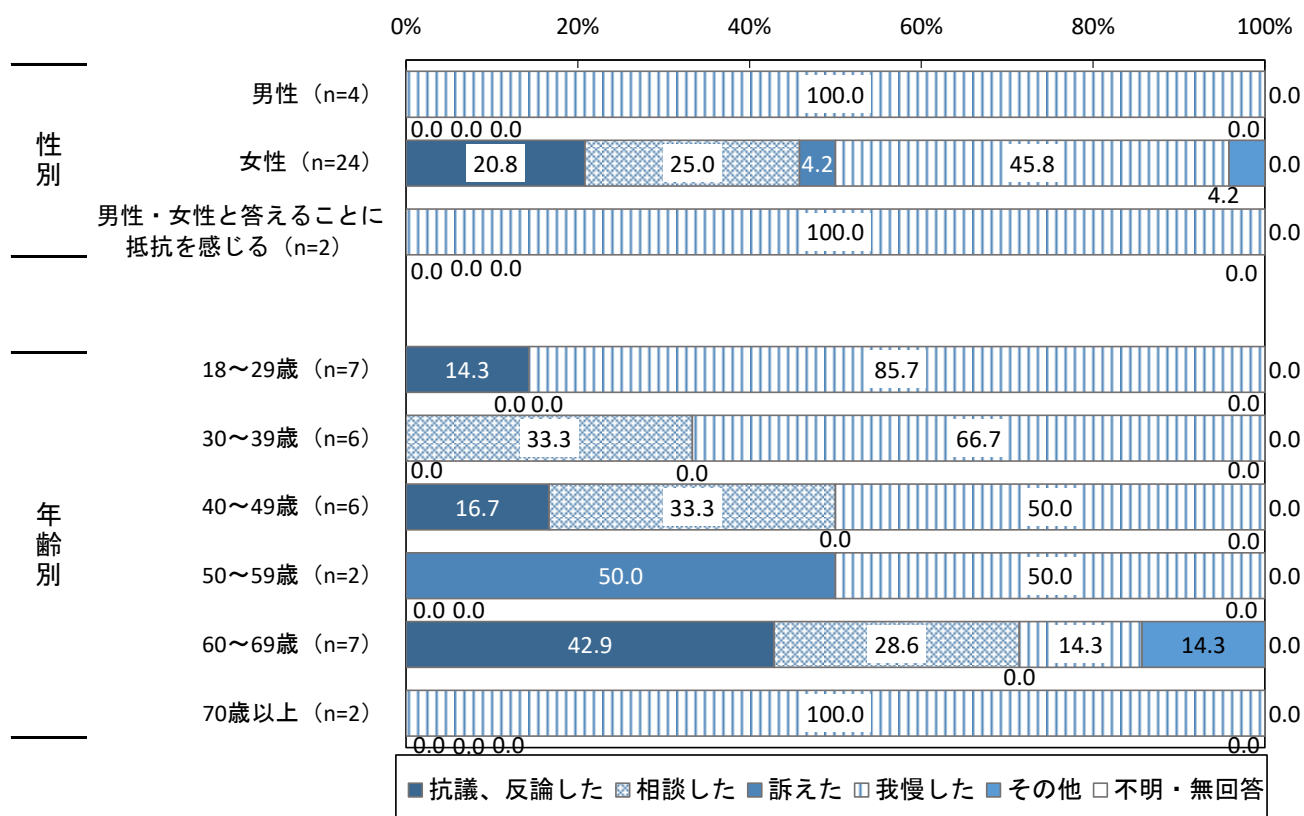
（注）大阪府調査は、単数回答の質問だが複数回答で集計している。

(3) 性別・年齢別

性別でみると、男性では、「我慢した」が100.0%で、女性では、「我慢した」が45.8%で最も高く、次いで「相談した」が25.0%、「抗議、反論した」が20.8%となっている。

年齢別でみると、60歳代では「抗議、反論した」が42.9%と最も高く、50歳代では「訴えた」・「我慢した」がいずれも50.0%と最も高く、それ以外の年齢層では「我慢した」が最も高くなっている。

図表 2-50 性別・年齢別 事象に対しとった行動



問 11 で「ある」および問 11-4 で「はい」と回答した方

問 11-6a	最終的に解決しましたか？（いずれか 1 つに○）
---------	--------------------------

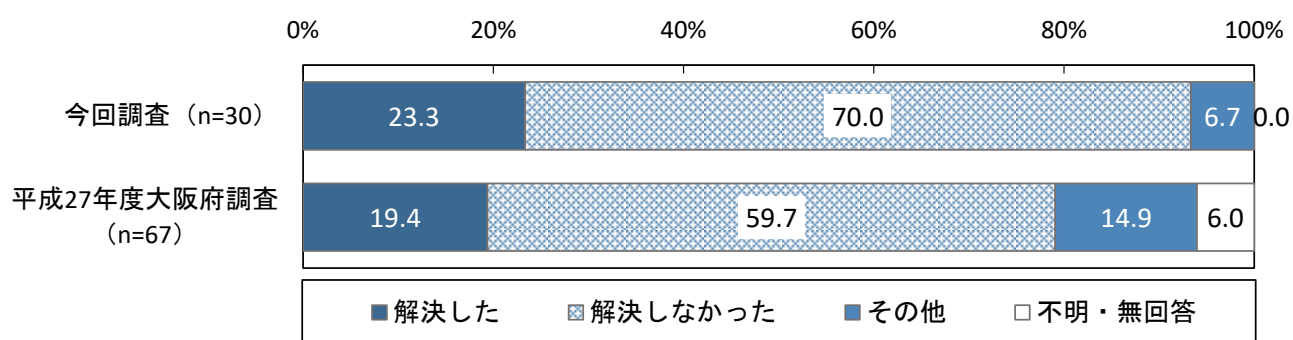
（１）全体

接触した人権侵害事象が解決したかどうかについては、「解決しなかった」が 70.0%で最も高く、次いで「解決した」が 23.3%、「その他」が 6.7%となっている。

（２）大阪府調査との比較

大阪府調査と比較すると、「解決しなかった」では、大阪府調査（59.7%）より 10.3 ポイント高くなっている。

図表 2-51 事象が解決したかどうか

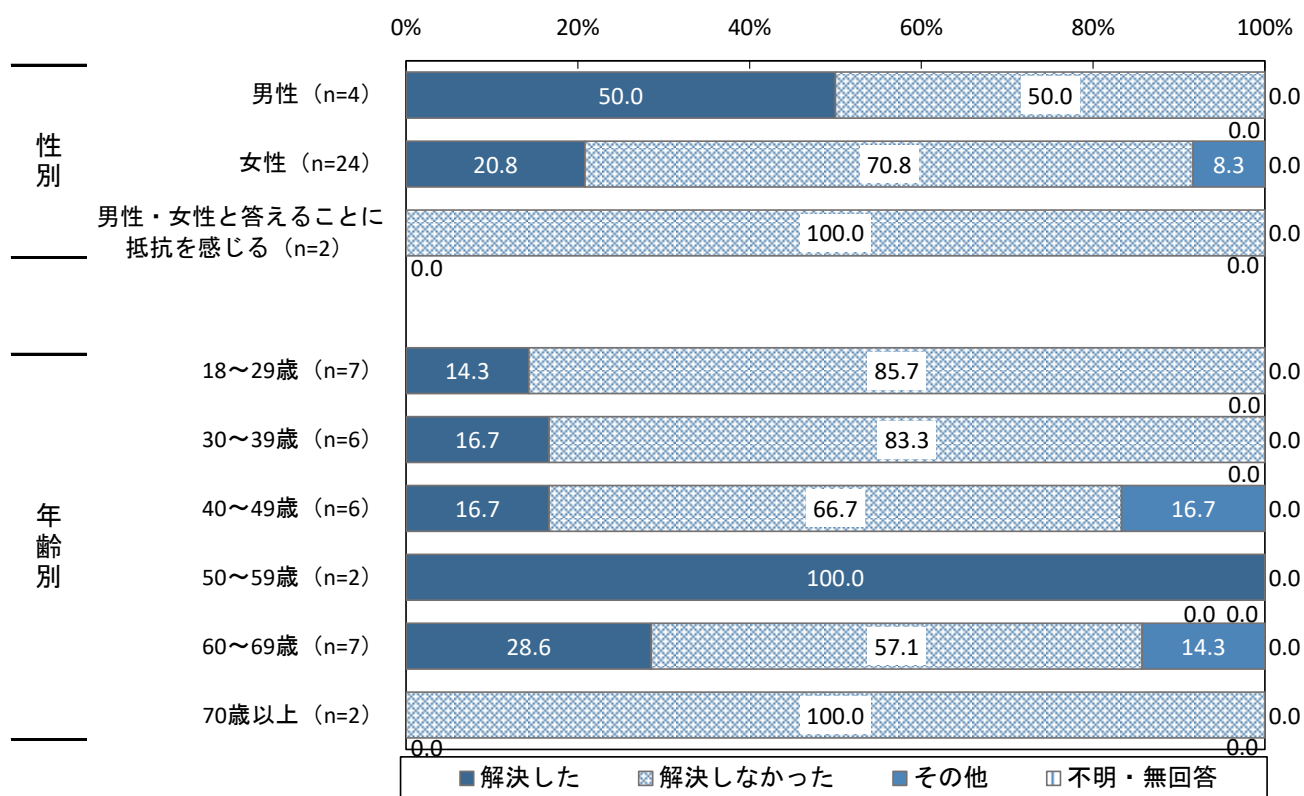


（３）性別・年齢別

性別でみると、男性では、「解決した」、「解決しなかった」がいずれも 50.0%となっており、女性では、「解決しなかった」が 70.8%で最も高く、次いで「解決した」が 20.8%となっている。

年齢別でみると、50 歳代では「解決した」が最も高く、その他の年齢層では「解決しなかった」が最も高くなっている。

図表 2-52 性別・年齢別 事象が解決したかどうか



6-1-2-2. 事象に対しとった行動、必要な対策

問 11 で「ある」および問 11-4 で「いいえ」と回答した方

問 11-5b	どう対応しましたか？（いずれか 1 つに○）
---------	------------------------

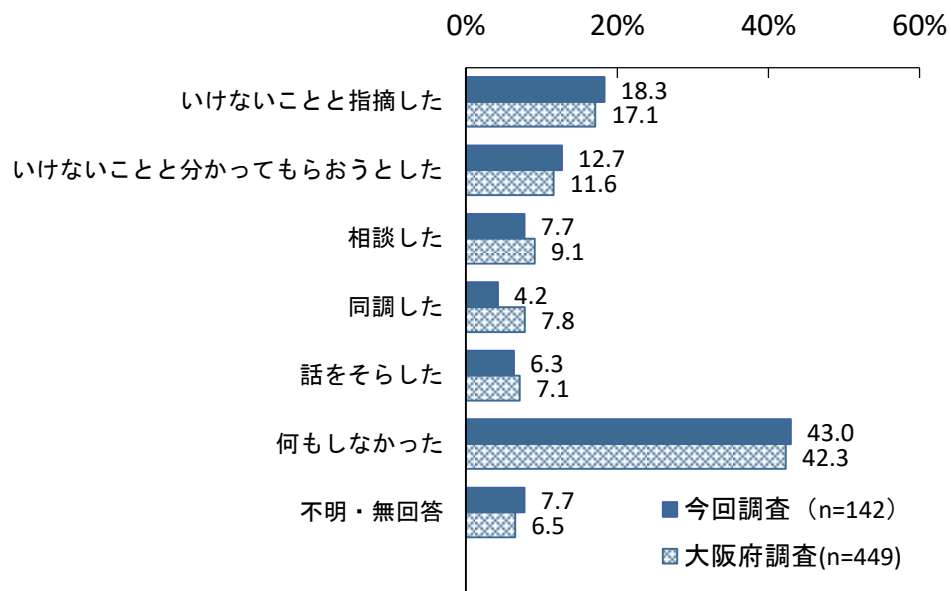
（１）全体

人権侵害事象の対象が自分以外だった場合の行動については、「何もしなかった」が 43.0%で最も高く、次いで「いけないことと指摘した」が 18.3%、「いけないことと分かってもらおうとした」が 12.7%と続いている。

（２）大阪府調査との比較

大阪府調査との比較は、回答数が異なるため参考とする。

図表 2-53 事象に対しとった行動



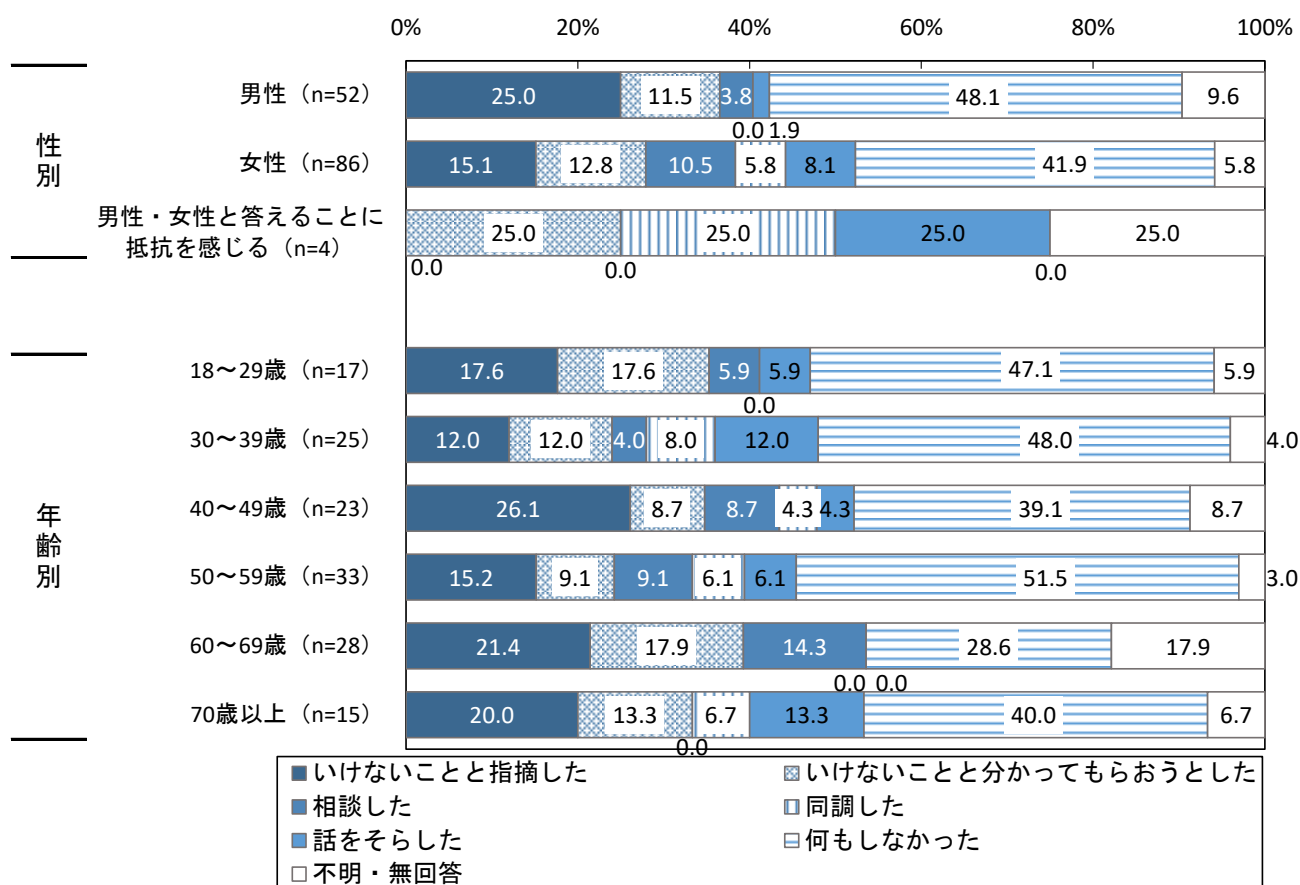
（注）大阪府調査は、単数回答の質問だが複数回答で集計している。

(3) 性別・年齢別

性別でみると、「いけないことと指摘した」では、男性が25.0%で、女性（15.1%）よりも9.9ポイント高く、「相談した」では、女性が10.5%で、男性（3.8%）より6.7ポイント高くなっている。

年齢別でみると、「いけないことと指摘した」では、40歳代が他の年齢層よりも高く、「相談した」では、60歳代が他の年齢層よりも高くなっている。

図表 2-54 性別・年齢別 事象に対しとった行動



問 11 で「ある」および問 11-4 で「いいえ」と回答した方

問 11-6b	そのような問題（事案）についてどうしたらよいと考えますか？ （〇はいくつでも）
---------	--

（１）全体

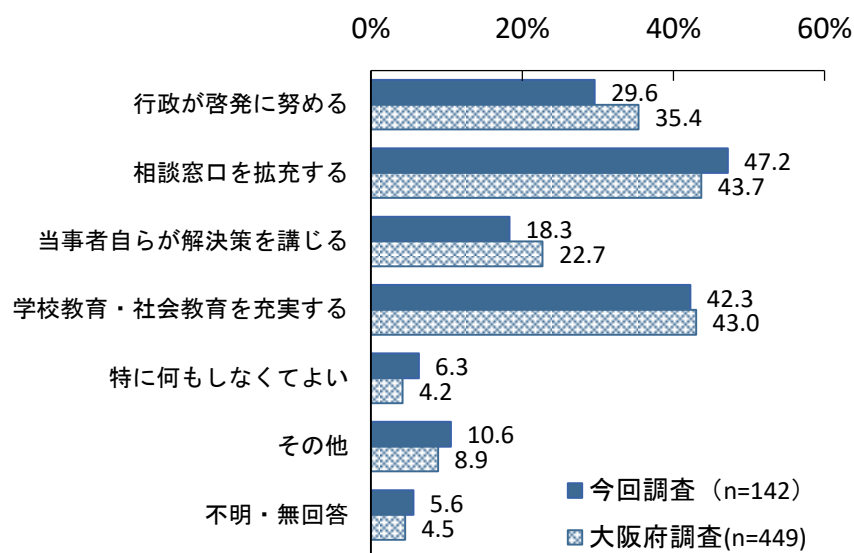
人権侵害事象に必要な対策については、「相談窓口を拡充する」が 47.2%で最も高く、次いで「学校教育・社会教育を充実する」が 42.3%、「行政が啓発に努める」が 29.6%と続いている。

「その他」の自由記述は、「自ら指摘できる力を身につける」、「一人一人が理解する」、「法の整備」、「組織を作りサポートする」（以上各 1 件）等となっている。

（２）大阪府調査との比較

大阪府調査と比較すると、大阪府調査に比べ「相談窓口を拡充する」、「特に何もしなくて良い」、「その他」の割合が高くなっている。

図表 2-55 人権侵害に必要な対策



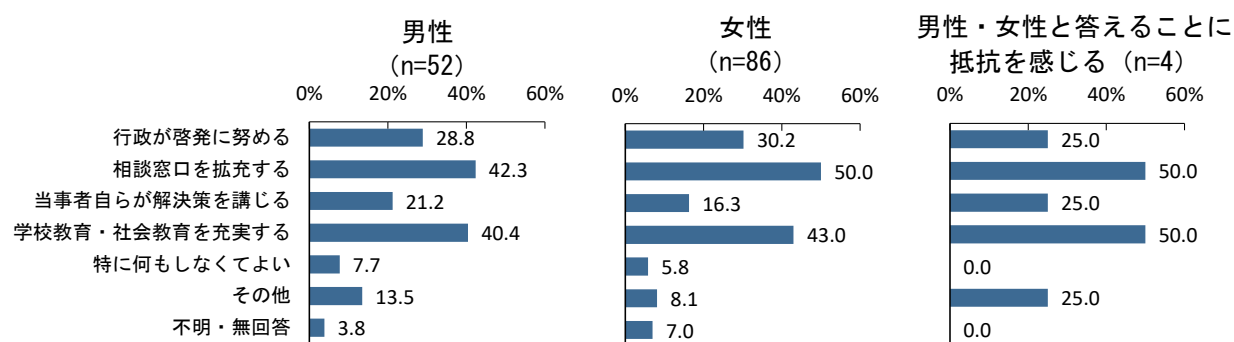
(3) 性別・年齢別

性別でみると、「相談窓口を拡充する」では、女性が50.0%で、男性（42.3%）よりも7.7ポイント高く、「当事者自らが解決策を講じる」では、男性が21.2%で、女性（16.3%）よりも4.9ポイント高くなっている。

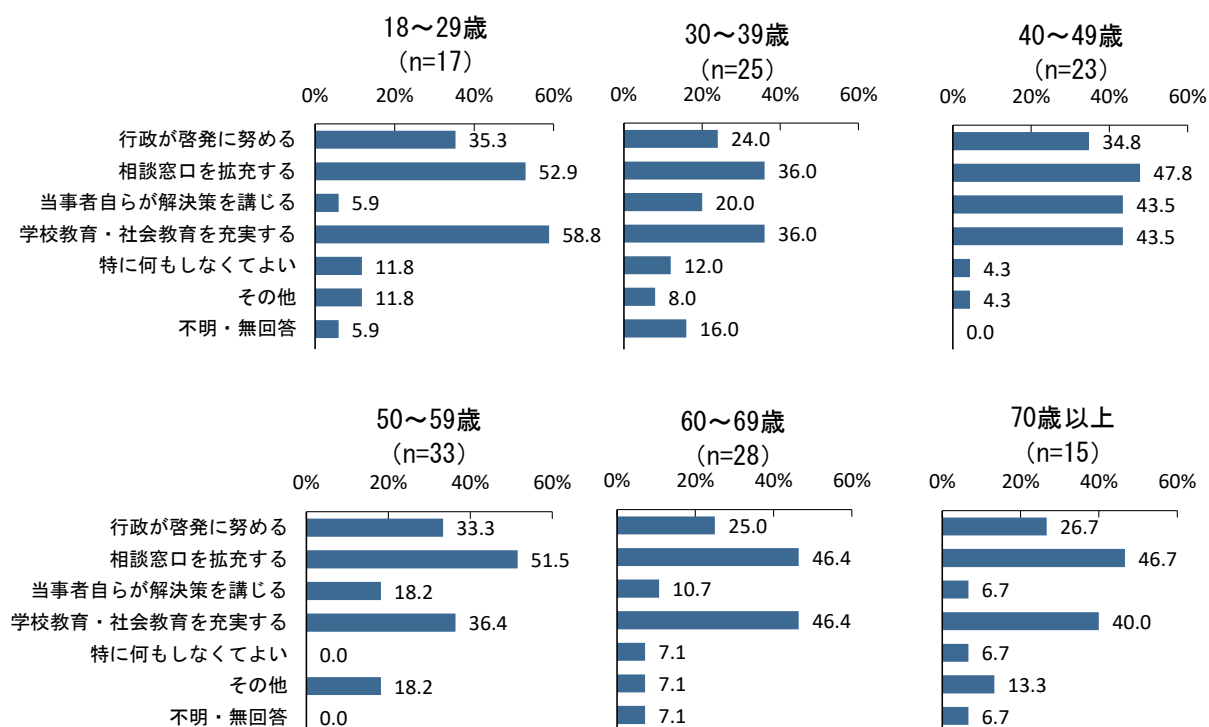
年齢別でみると、「当事者自らが解決策を講じる」では、40歳代が他の年齢層よりも高く、「学校教育・社会教育を充実する」では、18～29歳が他の年齢層よりも高くなっている。

図表 2-56 性別・年齢別 人権侵害に必要な対策

【性別】



【年齢別】



第7章 人権に対する考え方について

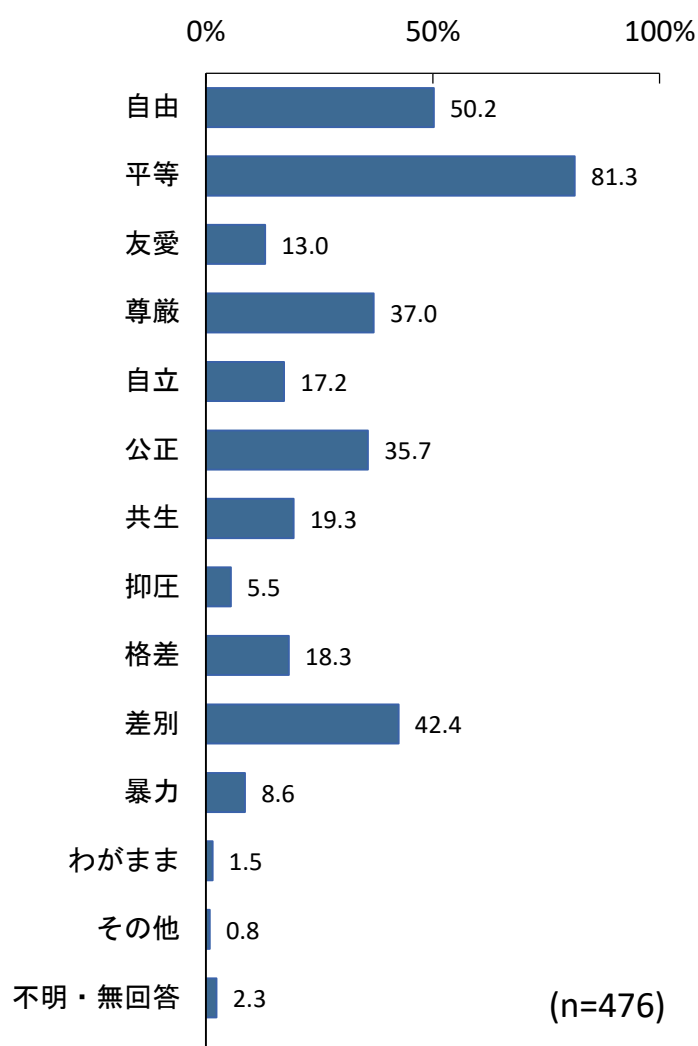
7-1. 人権から連想する言葉

問 12	あなたが「人権」から連想する言葉はどれですか？（〇はいくつでも）
------	----------------------------------

（1）全体

人権から連想する言葉については、「平等」が 81.3%で最も高く、次いで「自由」が 50.2%、「差別」が 42.4%と続いている。

図表 2-57 人権から連想する言葉

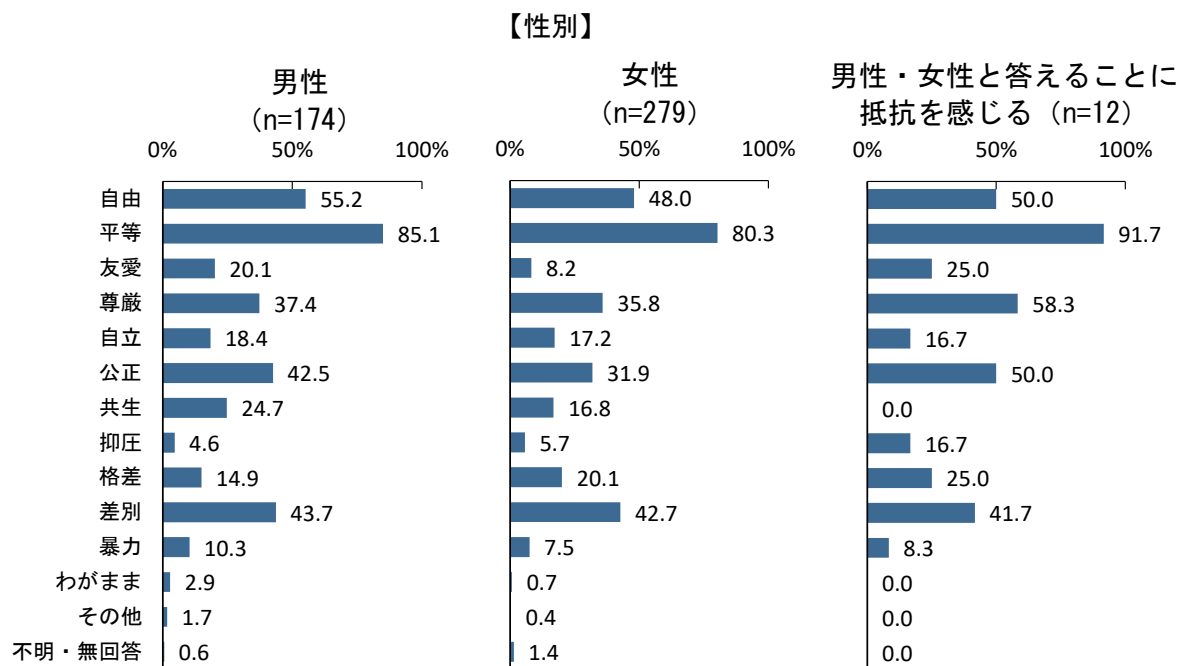


（２）性別・年齢別

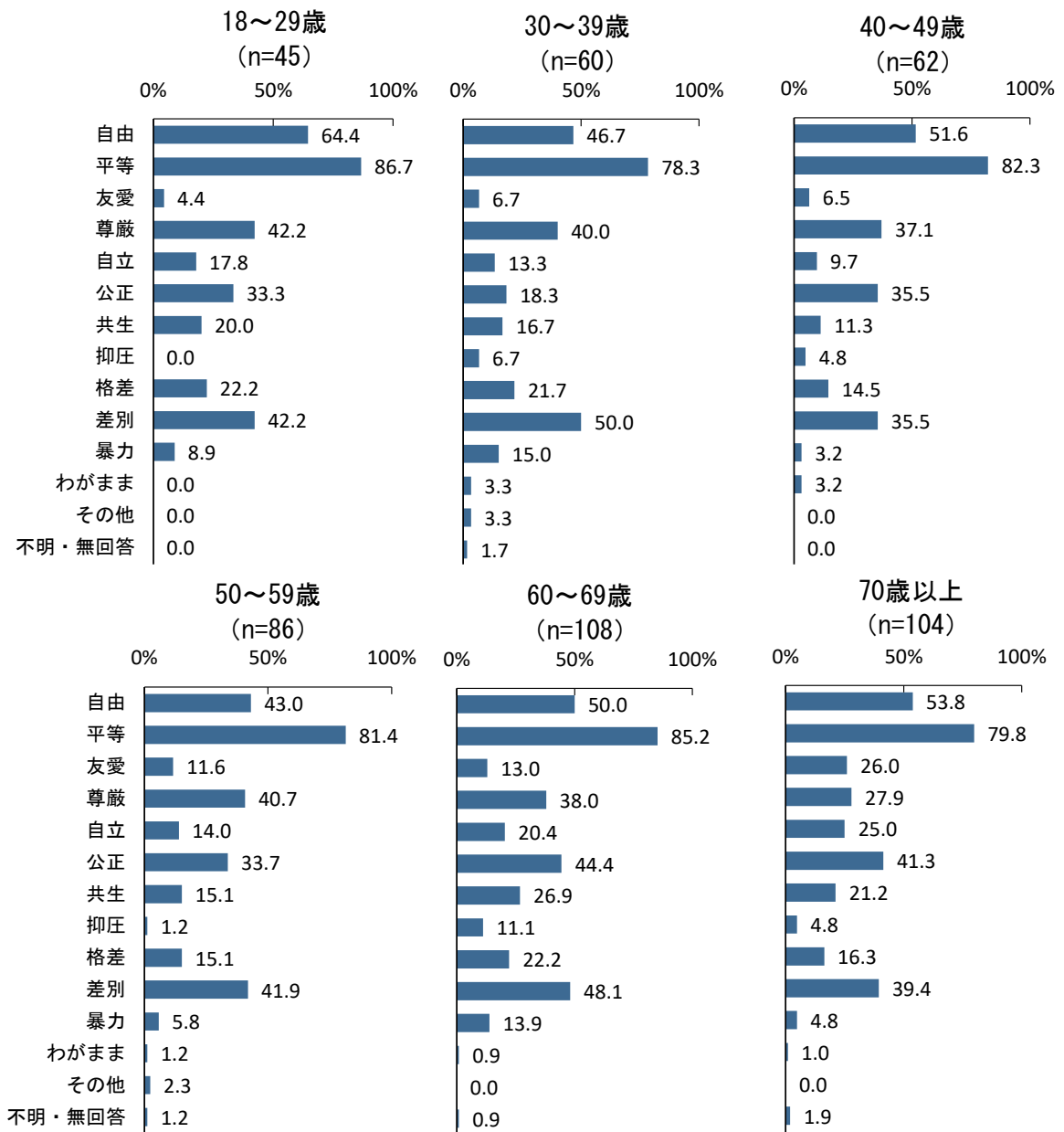
性別でみると、「抑圧」、「格差」以外の項目で男性の割合が女性より高くなっている。

年齢別でみると、全ての年齢層で「平等」の割合が最も高くなっており、30歳代では次いで「差別」が高く、その他の年齢層では次いで「自由」が高くなっている。

図表 2-58 性別・年齢別 人権から連想する言葉



【年齢別】



7-2. 人権に対する意識

問 13	あなたは、「人権」についてふだんどのように意識していますか？ (いずれか1つに○)
------	--

(1) 全体

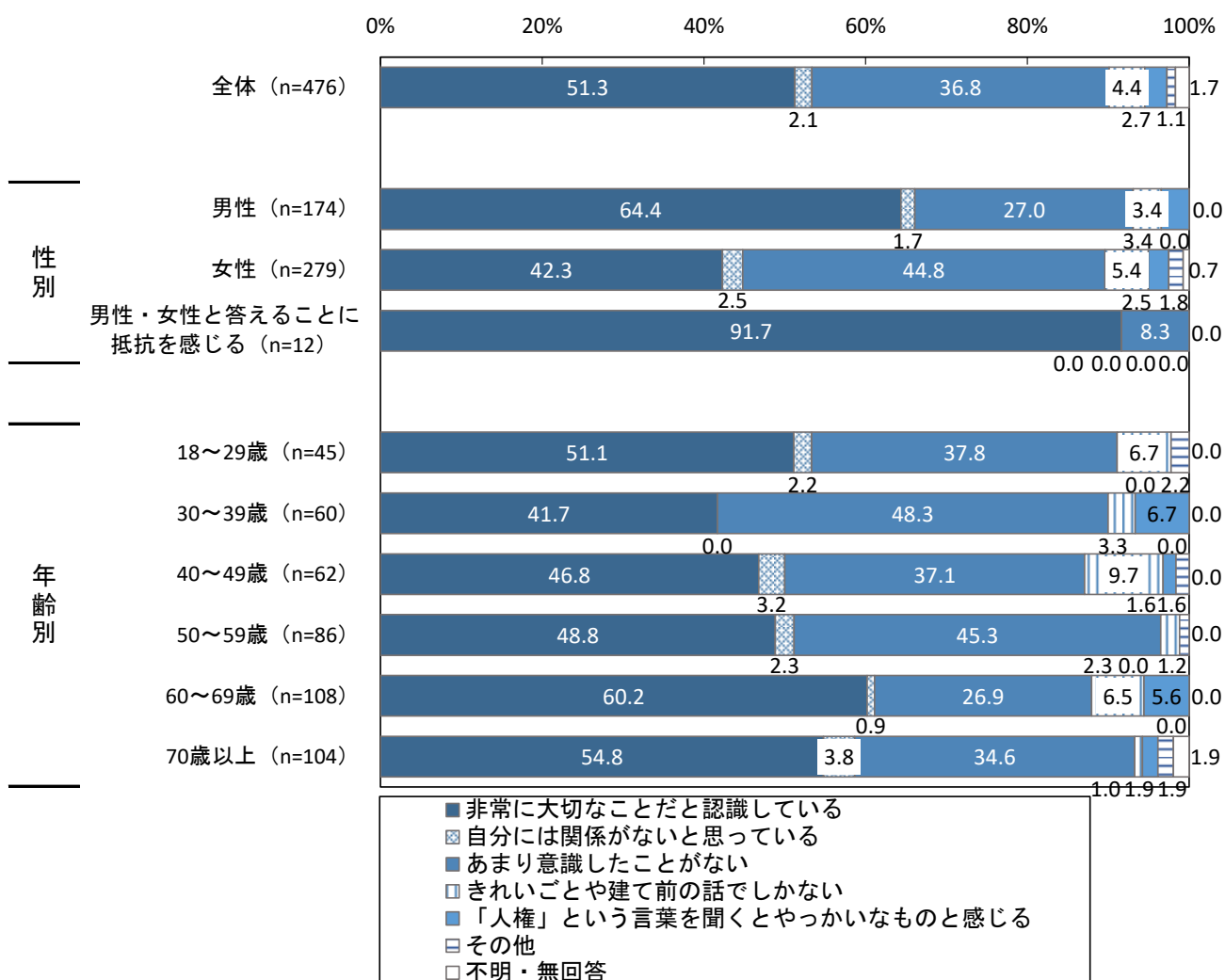
「非常に大切なことだと認識している」が 51.3%で最も高く、次いで「あまり意識したことがない」が 36.8%、「きれいごとや建て前の話でしかない」が 4.4%と続いている。

(2) 性別・年齢別

性別でみると、男性では「非常に大切なことだと認識している」が最も高く、女性では「あまり意識したことがない」が最も高くなっている。

年齢別でみると、30 歳代では「あまり意識したことがない」の割合が最も高く、それ以外の年齢層では「非常に大切なことだと認識している」が最も高くなっている。

図表 2-59 人権に対する意識



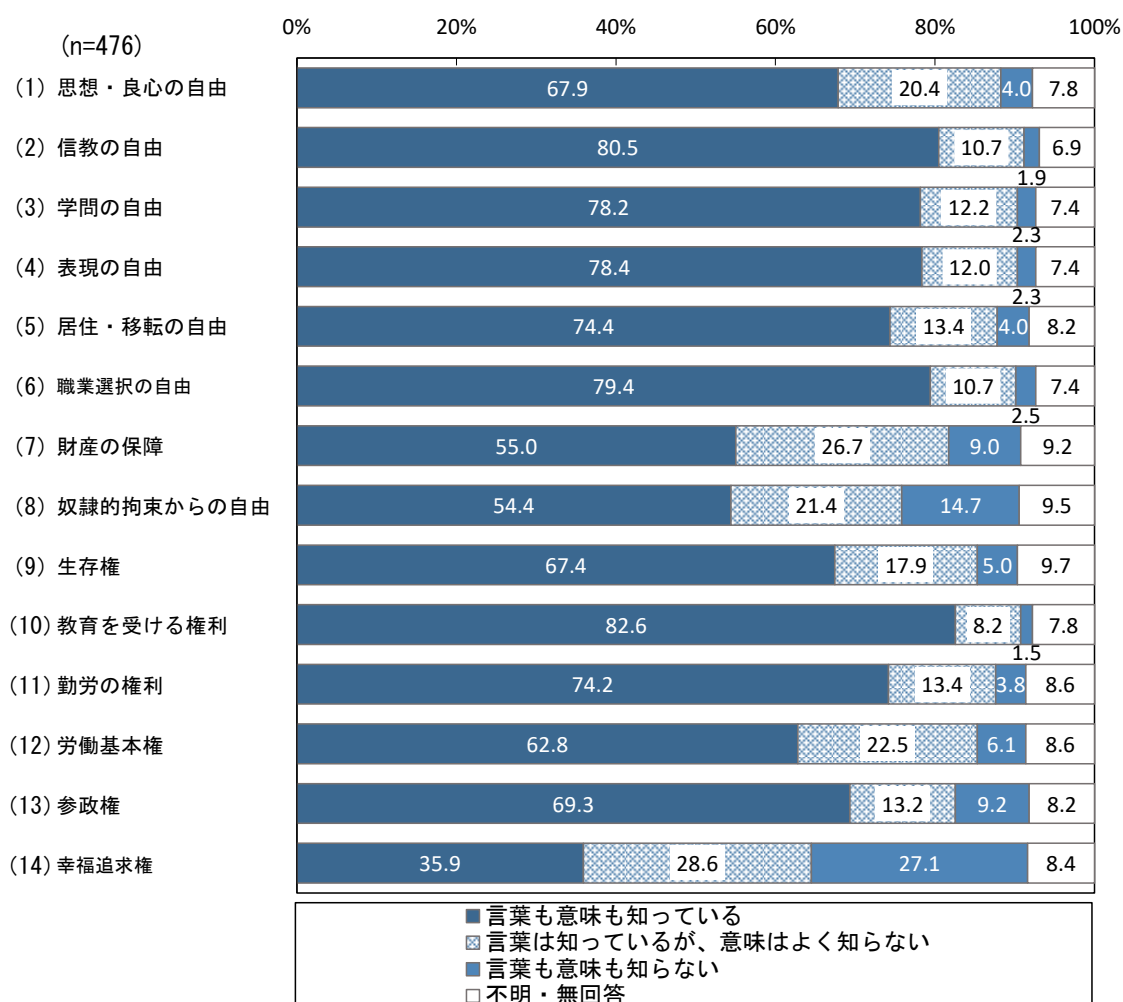
7-3. 憲法で保障される権利に対する認知度

問 14	あなたは、憲法で保障されている次の権利について知っていますか？ (いずれか1つに○)
------	---

憲法で保障される権利に対する認知度については、『知っている』（「言葉も意味も知っている」と「言葉は知っているが、意味はよく知らない」の合計）では、「(2) 信教の自由」が91.2%で最も高く、次いで「(10) 教育を受ける権利」が90.8%、「(3) 学問の自由」、「(4) 表現の自由」がいずれも90.3%と続いている。

一方、「言葉も意味も知らない」では、「(14) 幸福追求権」が27.1%で最も高く、次いで「(8) 奴隷的拘束からの自由」が14.7%、「(13) 参政権」が9.2%と続いている。

図表 2-60 憲法で保障される権利に対する認知度

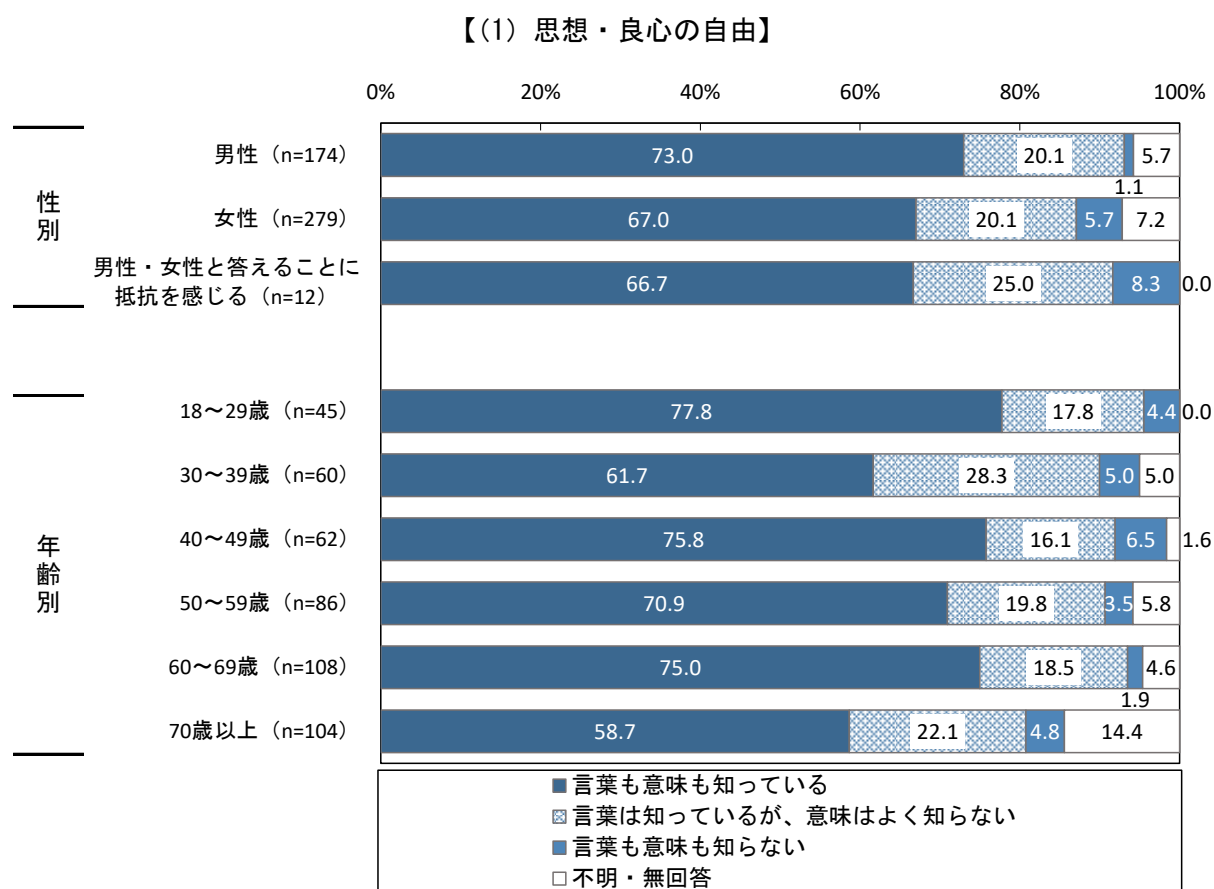


（２）性別・年齢別

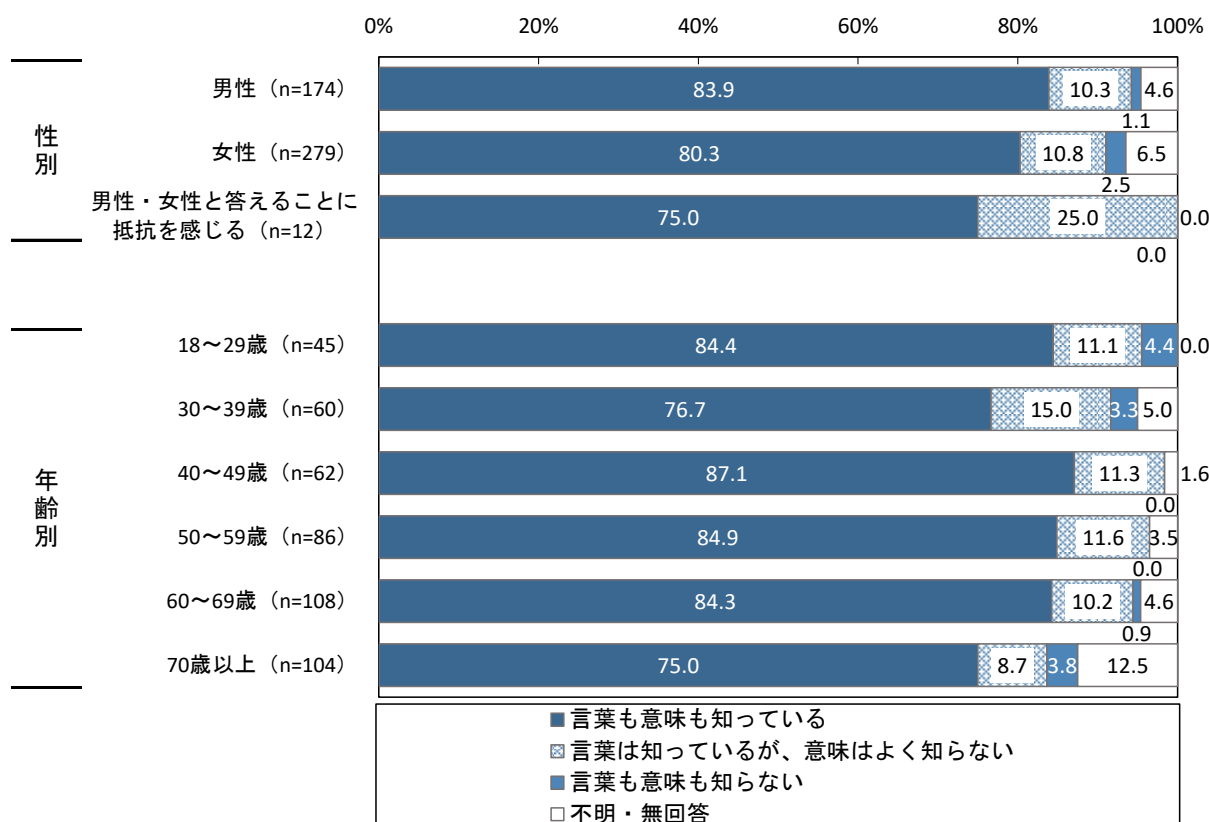
性別でみると、「言葉も意味も知っている」では全ての項目において男性の割合が女性より高くなっている。

年齢別で差をみると、「言葉も意味も知らない」では、「(14) 幸福追求権」（60 歳代 36.1%、18～29 歳 17.8%）が最も差が大きく 18.3 ポイントで、次いで「(13) 参政権」（30 歳代 18.3%、60 歳代 2.8%）が 15.5 ポイント、「(9) 生存権」（30 歳代 11.7%、18～29 歳 2.2%）が 9.5 ポイントとなっている。

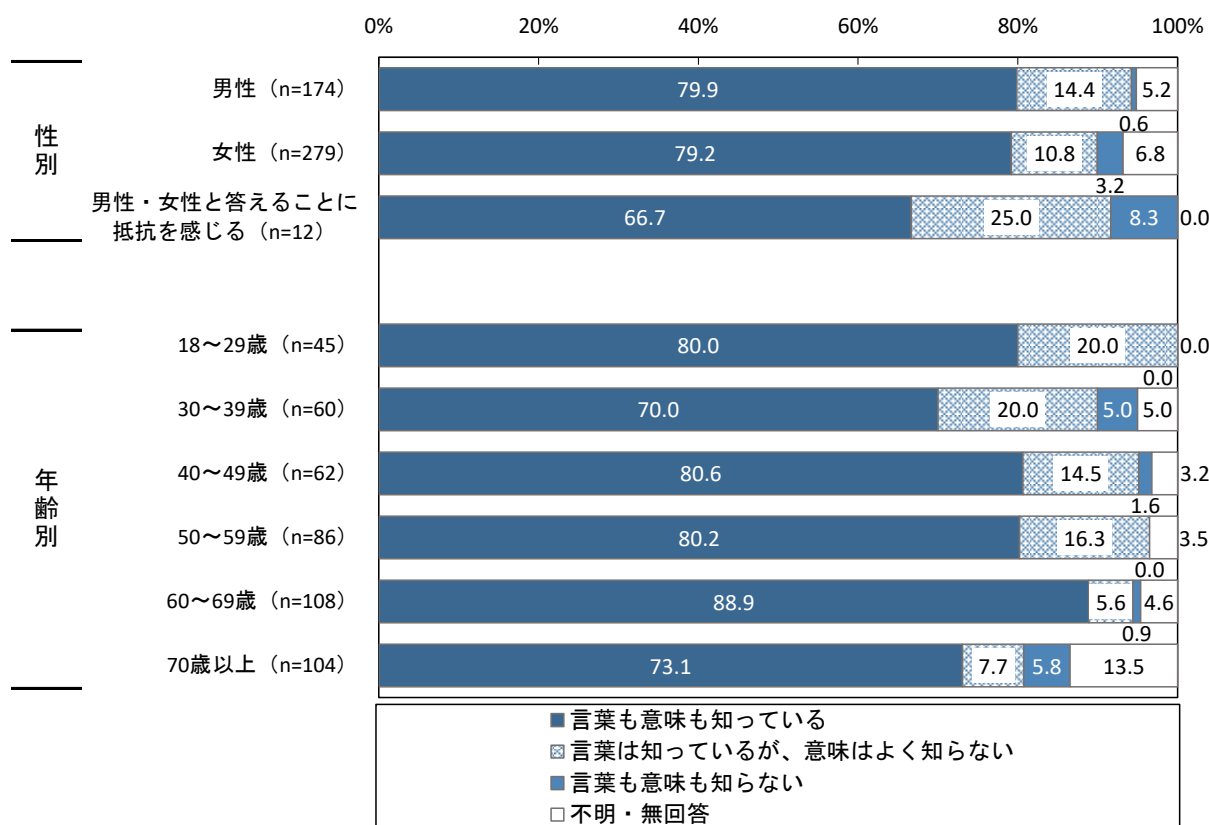
図表 2-61 性別・年齢別 憲法で保障される権利に対する認知度



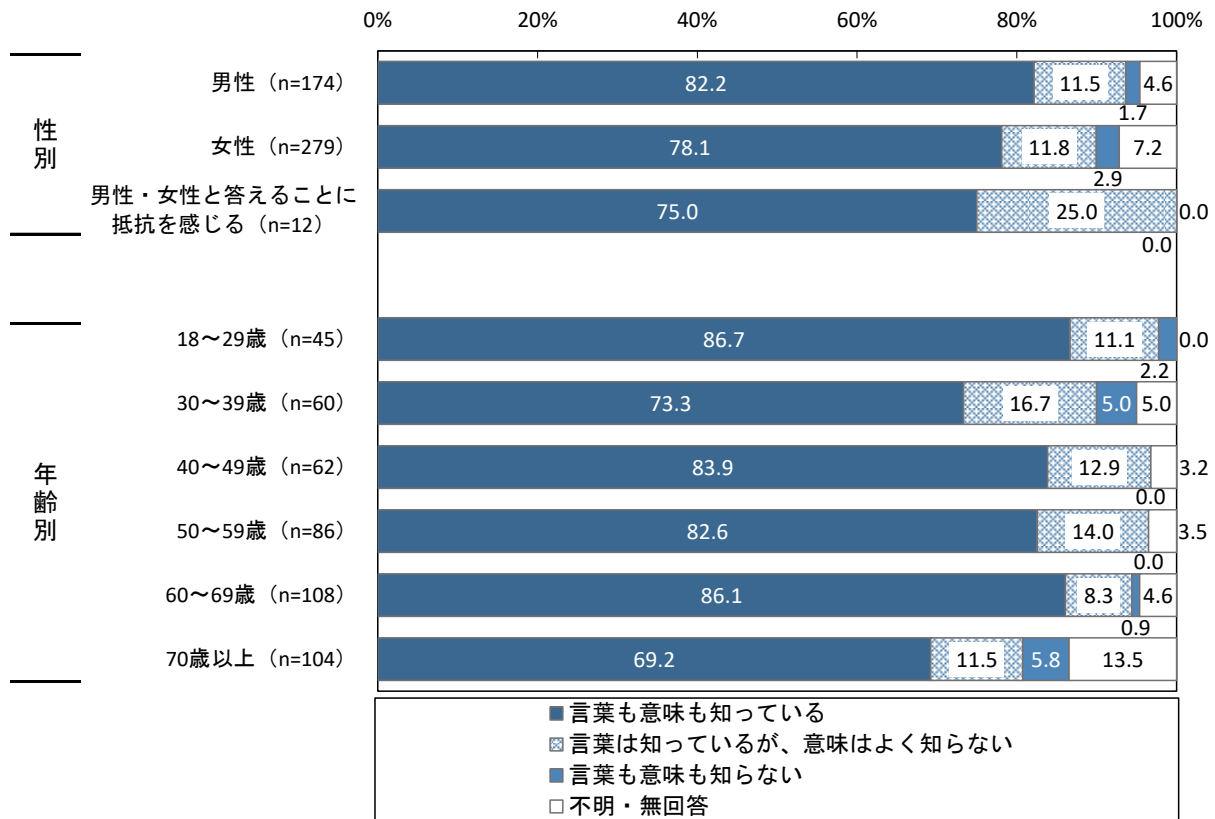
【(2) 信教の自由】



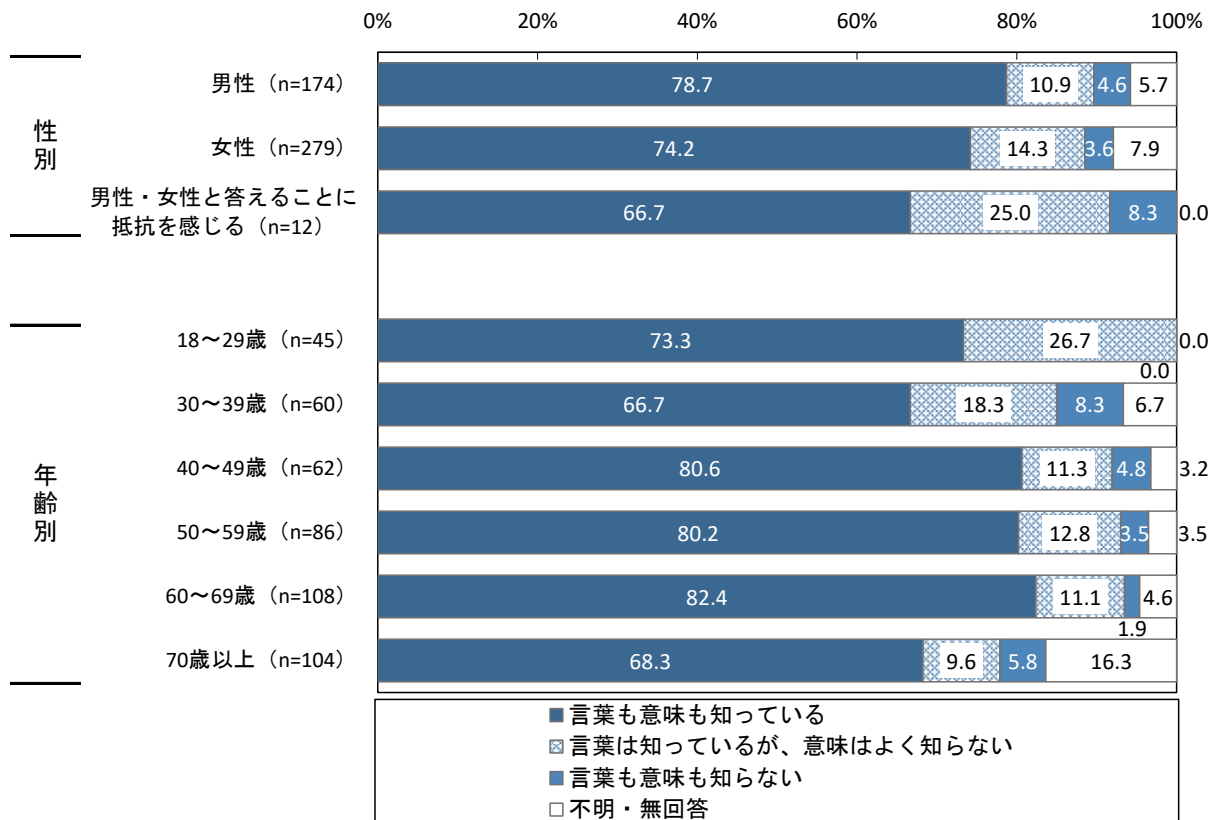
【(3) 学問の自由】



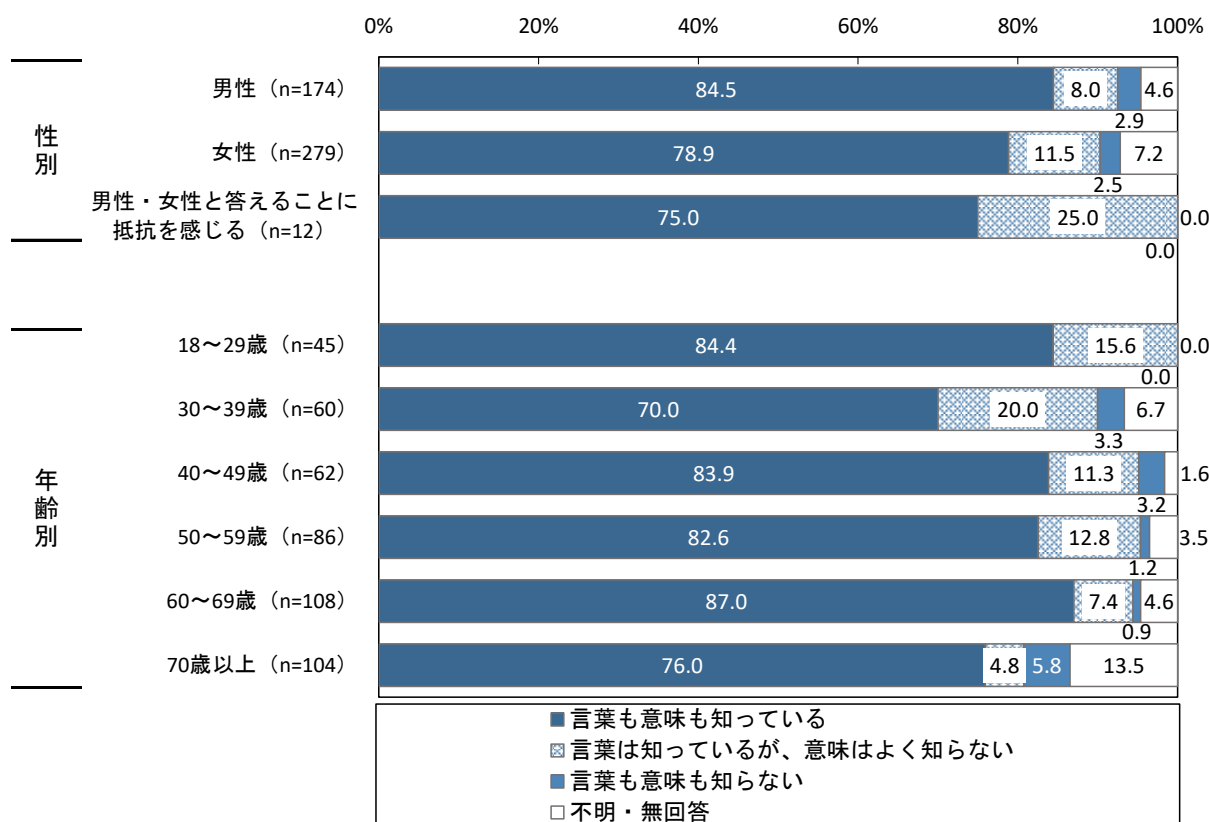
【(4) 表現の自由】



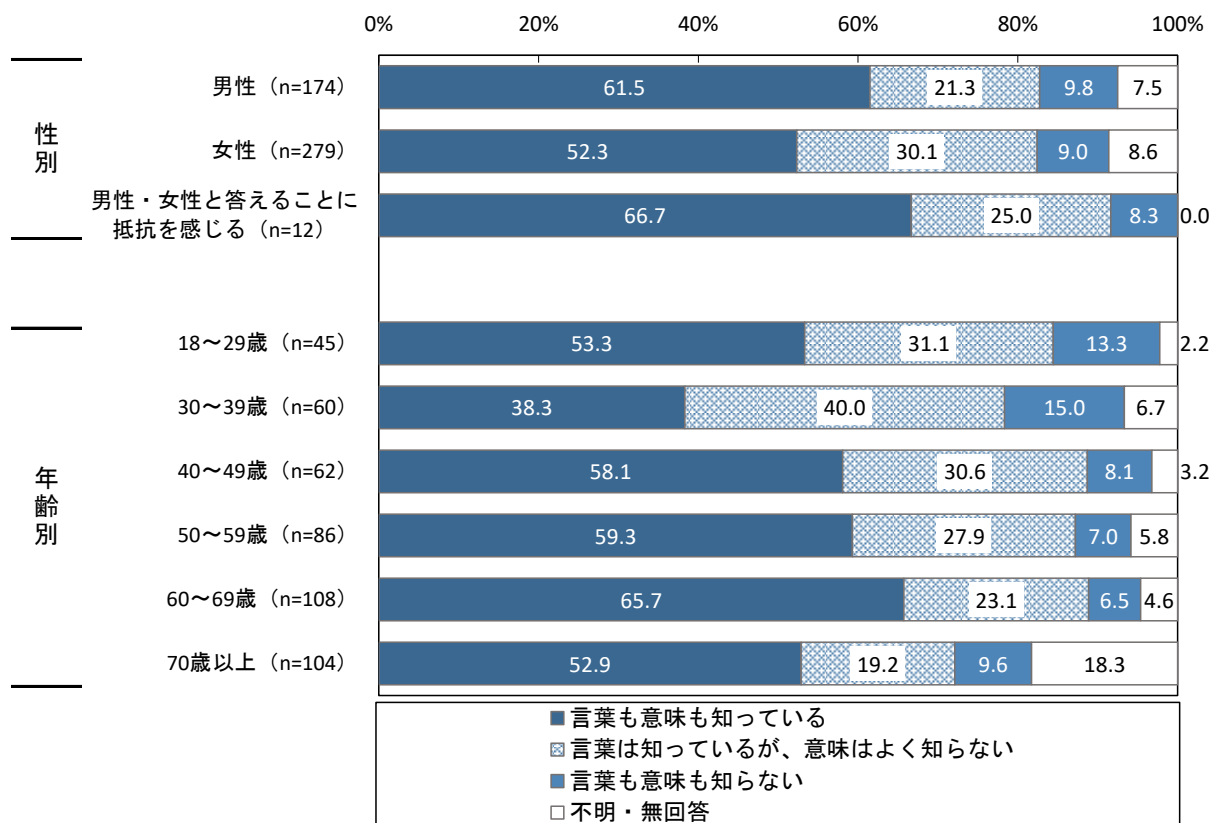
【(5) 居住・移転の自由】



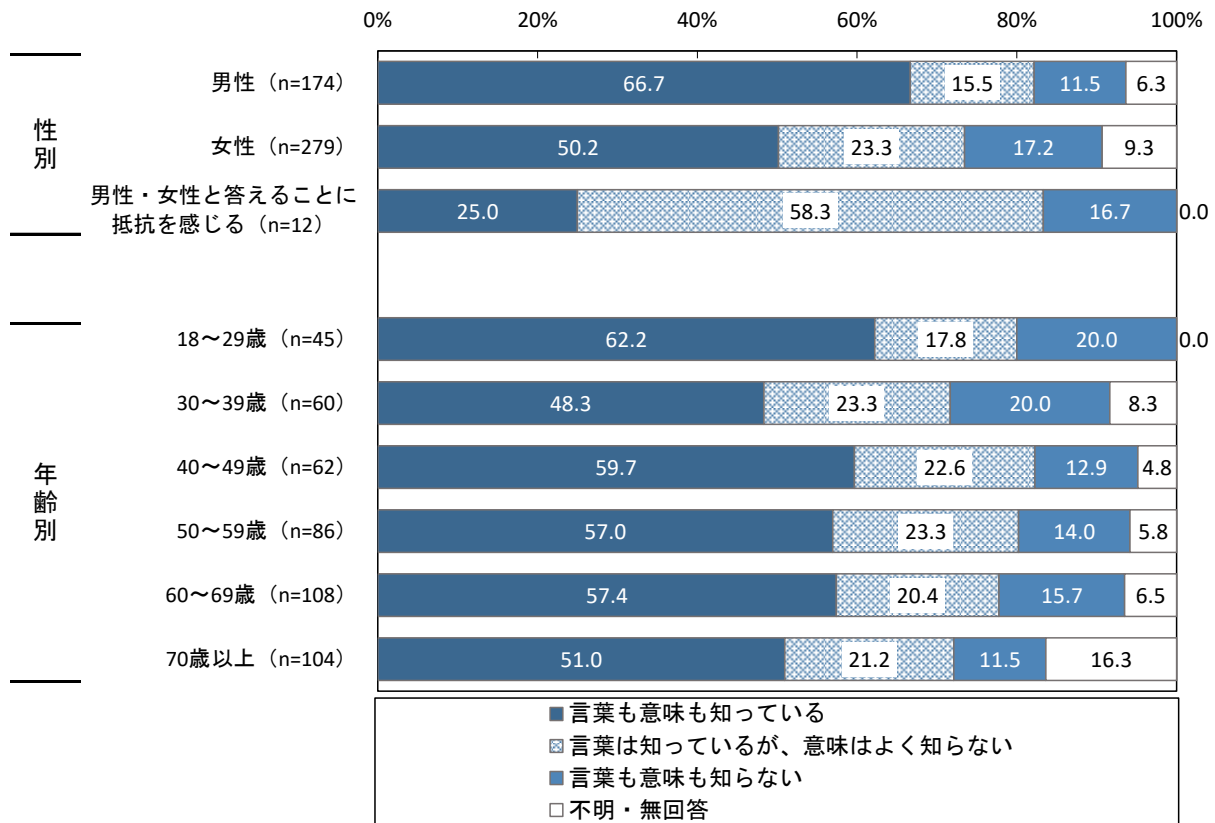
【(6) 職業選択の自由】



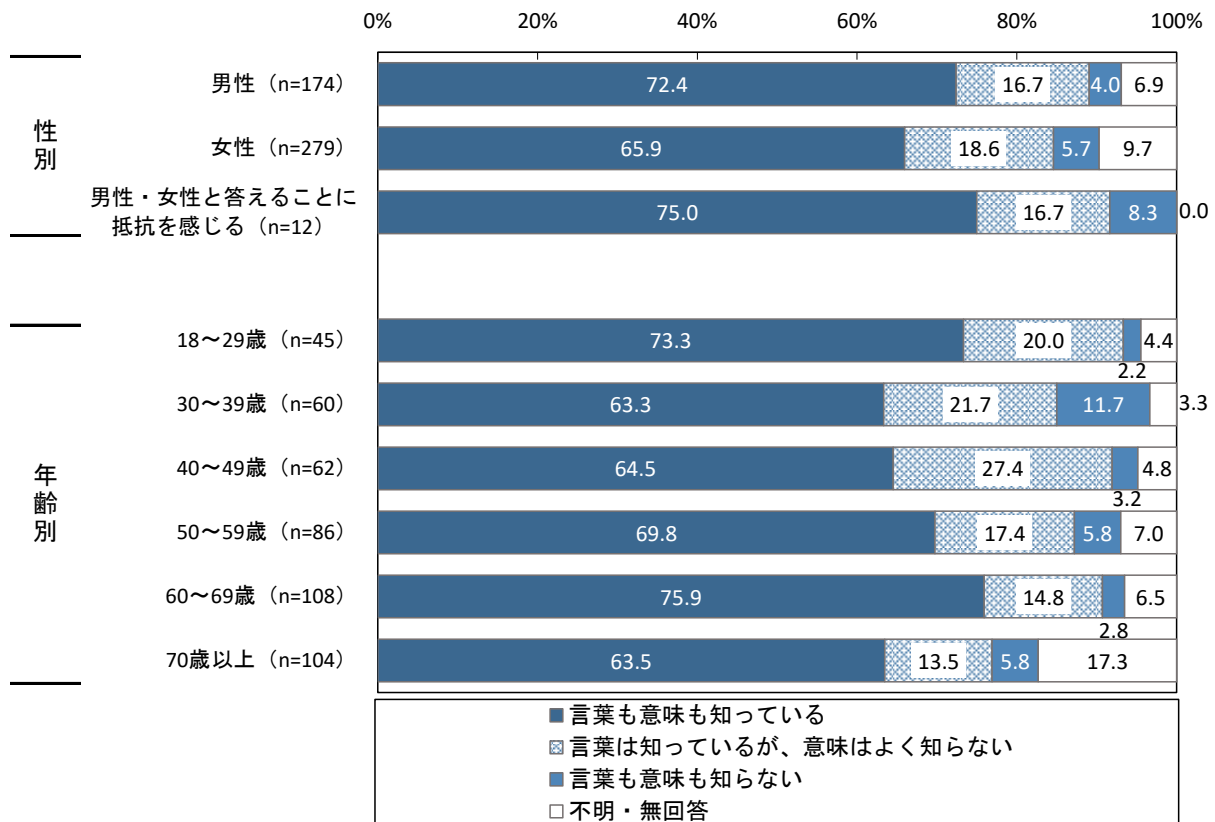
【(7) 財産の保障】



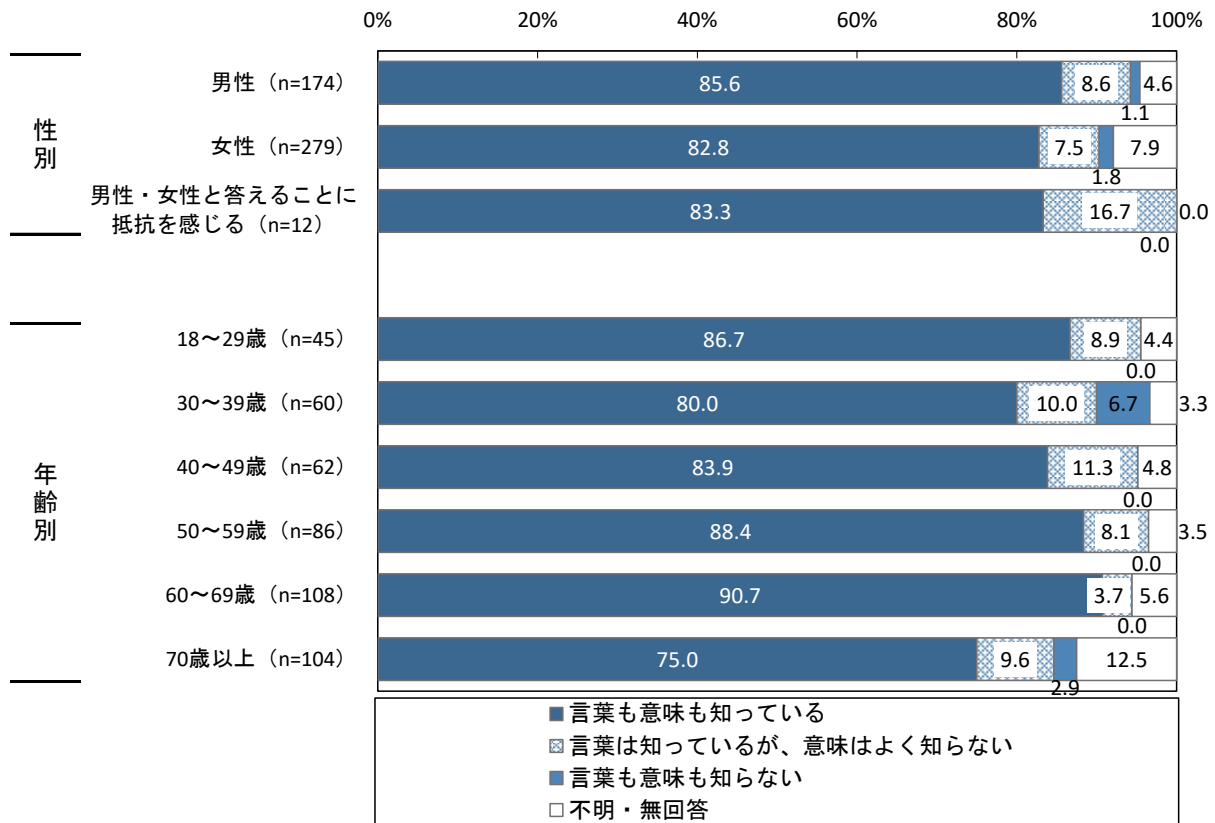
【(8) 奴隷的拘束からの自由】



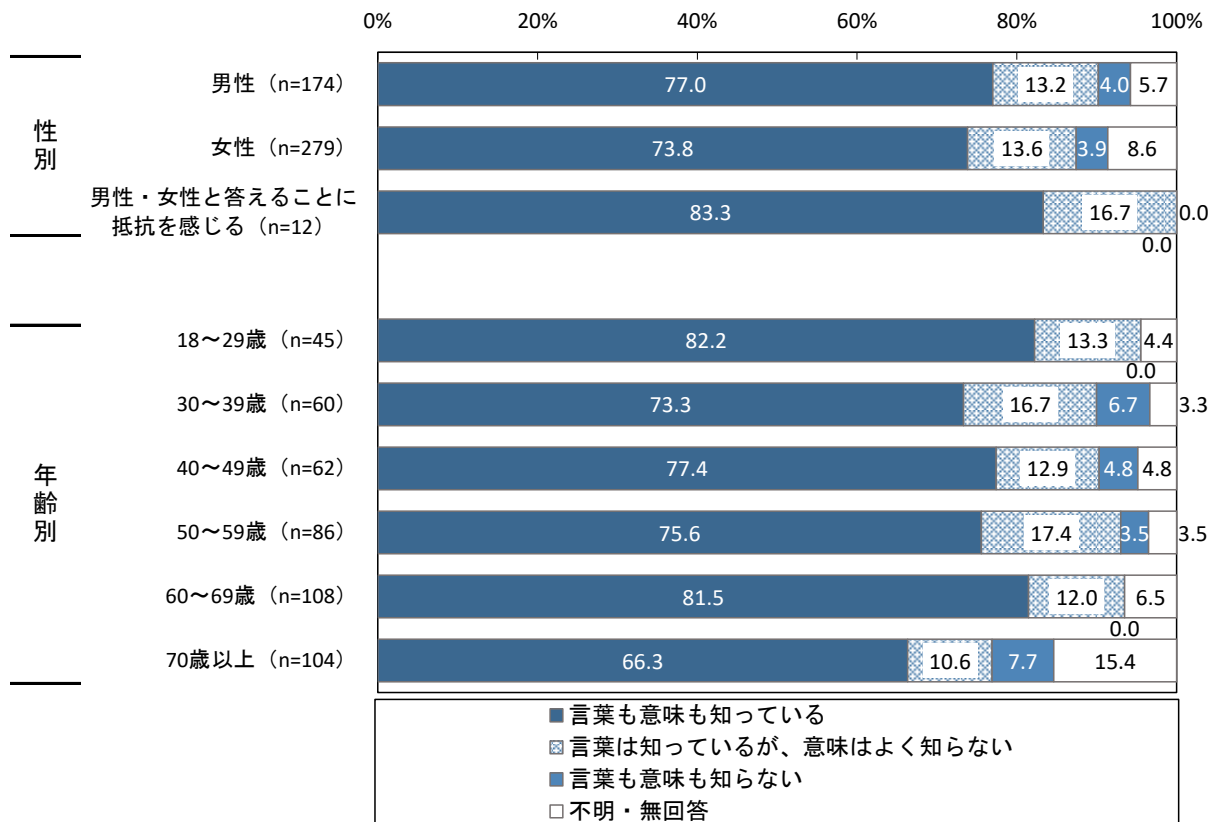
【(9) 生存権】



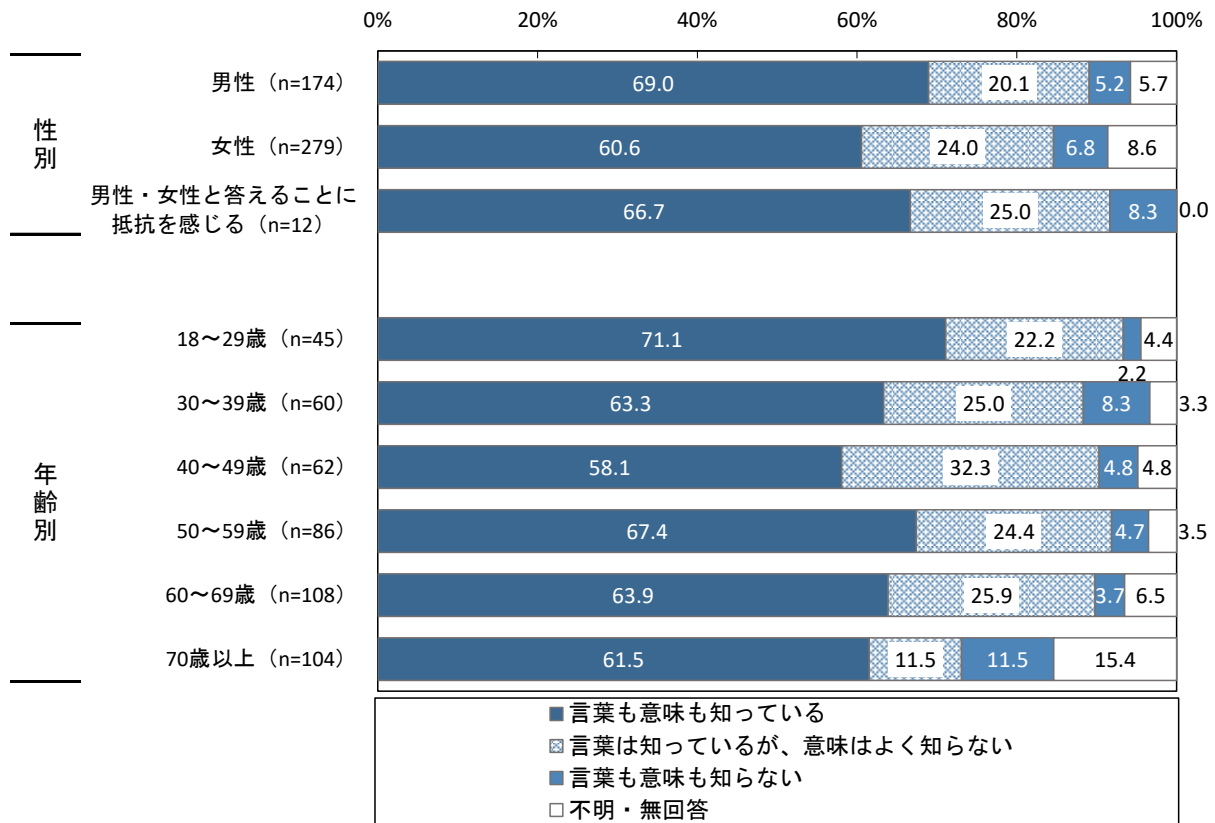
【(10) 教育を受ける権利】



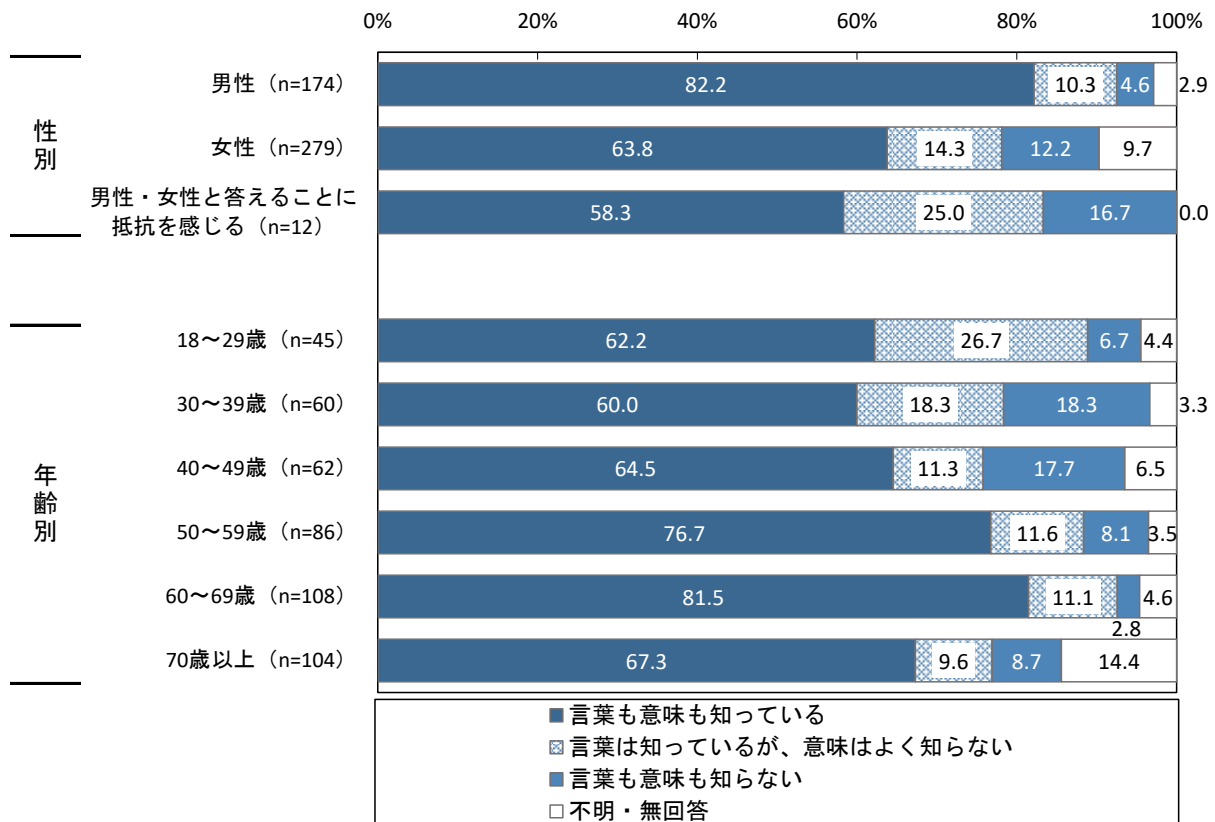
【(11) 勤労の権利】



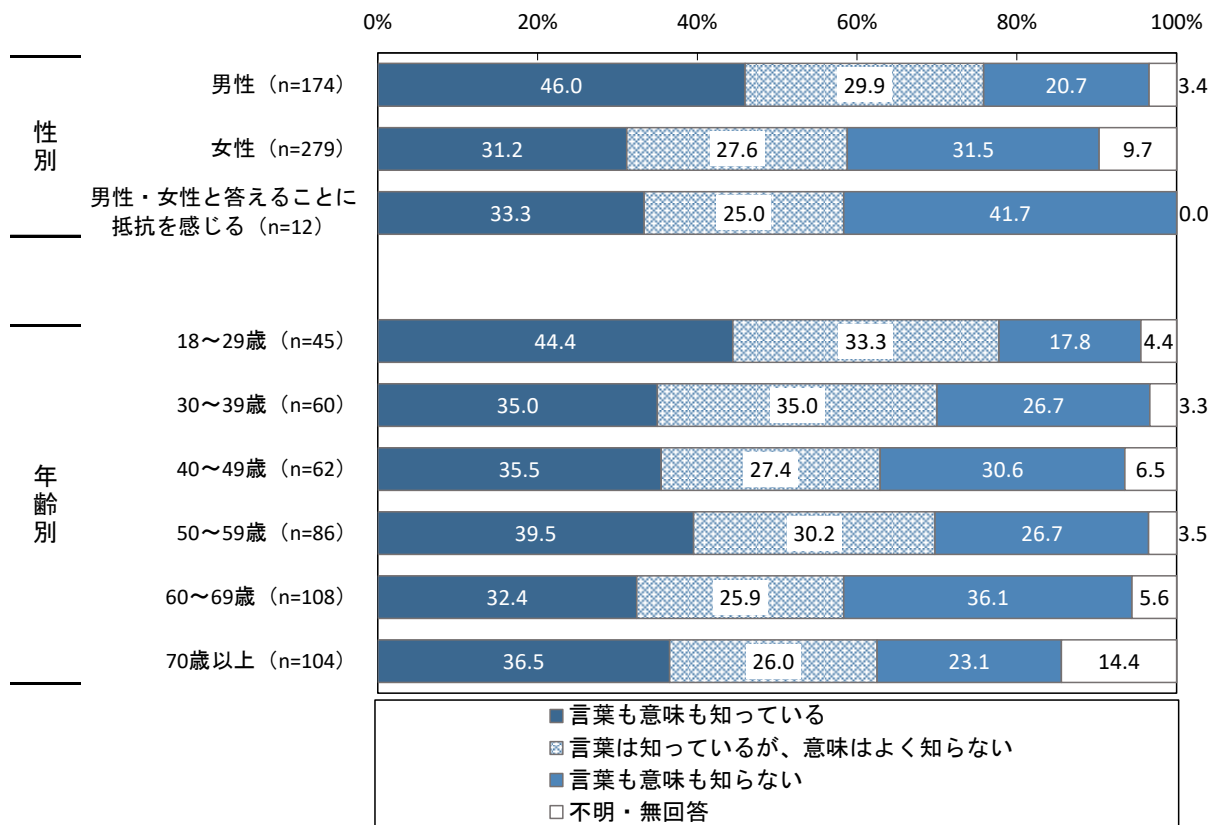
【(12) 労働基本権】



【(13) 参政権】



【(14) 幸福追求権】



第8章 人権問題や今後の人権教育・啓発についての意見・要望

問 20	人権問題や今後の人権教育・啓発について、ご意見・ご要望があればご自由にお書きください。
------	---

回答者総数 476 人中 93 人（19.5%）の意見・要望があり、内容は、おおむね以下のように分類できる。

なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、それぞれを 1 件として分類している。

- 人権の意義やその重要性についての正しい知識など、人権教育に力を入れてほしい。 29 件
- 行政による人権問題に対する正しい認識の普及・啓発に努めてほしい。 12 件
- 人権問題はむずかしい。 8 件
- 個人が人権に対する意識や関心をもつべき。 8 件
- 人権問題は逆差別につながる。 5 件
- メディアなどが人権問題を取り上げることでまた差別となる。 5 件
- 差別をなくして平等なまちになってほしい。 4 件
- アンケートに対する意見 5 件
- 差別は無くならない。 2 件
- その他 24 件
- 市政、行政全般に対する意見 10 件

III 分析編

第1章 調査結果の比較

今回の調査結果からみられる傾向と、大阪府が平成 27（2015）年に実施した「人権問題に関する府民意識調査」の結果、及び本市が前回〔平成 24（2012）年〕に実施した「人権問題に関する市民意識調査」の結果と比較したものです。

1－1. さまざまな人権問題に関する基本的な意識（問 1）

- H I V感染者やハンセン病回復者に対する認識に課題がある。
- ホームレス状態にある人々を避ける傾向が強く、30・40 歳代が特に強い。
- 障がい者に対する考え方や、高齢者の人権問題、性的マイノリティの人権問題に対する考え方について、性別や年齢によって差がある。
- 人権問題に対する認識や差別・偏見の解消に向け理解を深め、人権意識を高めてもらえるような啓発や学習機会の提供を、性別や年齢に考慮して行っていくことが必要である。

主要な人権問題に関する基本的な意識について、大阪府調査と比較すると、「(7) H I V感染者やハンセン病回復者とは一緒に食事や入浴をしない」で『問題がある』が 53.2%で、大阪府調査（50.4%）よりも 2.8 ポイント高くなっている一方、『問題があるとは思わない』が 23.5%で、大阪府調査（21.7%）より 1.8 ポイント高く、その中でも「あまり問題があるとは思えない」（15.3%）は大阪府調査（10.6%）より 4.7 ポイント高くなっており、H I V感染者やハンセン病回復者に対する認識の差についての課題が明らかになった（図表 2-2）。

また、「(10) 公園でホームレスが近づいてきたので、足早に立ち去る」に約 5 割の人が『問題があるとは思わない』と考えており、大阪府調査（51.7%）と同様に、ホームレス状態にある人々を避ける傾向がみられ（図表 2-2）、年齢別では 30・40 歳代が約 6 割『問題があるとは思わない』と考えている（図表 2-3）。

さらに、性別では、「(4) 視覚障がい者との会話ではテレビや映画、風景などは意識して話題にしないようにする」で女性に比べ男性で”問題がない”と考える傾向があり（図表 2-4）、年齢別では、「(3) 家族が不在の際、介護が必要な高齢者を家から出られなくする」では年齢が下がるにつれて”問題がない”と考える傾向があり、「(11) 職場で同性愛者と席が隣になることを嫌がる」では年齢が上がるにつれて”問題がない”と考える傾向がみられ（図表 2-5）、障がい者に対する考え方や、高齢者の人権問題、性的マイノリティの人権問題に対し、性別や年齢によって人権問題に対する考え方に差がみられた。

1-2. 「差別」についての基本的な認識（問2）

- 差別される側に原因や問題があると考えている人は減少しているが依然として存在する。
- 「差別」に関する基本的な認識については、50～60 歳代および 18～29 歳に高い傾向がみられる。
- 「差別」に関する基本的な認識度は大阪府調査結果よりも高く、前回調査時より向上していることが推測されるが、差別の解消に向けた認識に課題もみられる。
- 人権について「あまり意識したことがない」人が、「非常に大切なことだと認識している」という意識にもっていきけるよう、家庭、学校、地域、職場などあらゆる場において人権教育・啓発を推進する必要がある。

差別に関する基本的な考えについて、「(1) 差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない」と思う人が 89.1%、「(3) 差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である」と思う人が 79.2%いる一方で、「(6) どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ」と思う人が 69.1%で、差別は問題であると認識し、差別問題を理解する必要があると考える一方、差別は完全にはなくならないと感じる人が多いことがわかった（図表 2-6）。

前回調査では、「(6) どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ」と思う人が 67.0%で、前回より 2.1 ポイント増加しており、また、「(2) 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ」（今回調査 43.5%、前回調査 54.7%）、「(4) 差別の原因には、差別される人の側にも問題があることも多い」（今回調査 33.4%、前回調査 43.3%）が前回調査より減少しているが、差別される側に原因や問題があると考えている人は依然として存在することがわかった（図表 2-6、図表 2-8）。

差別に関する基本的な認識について、3 点満点で点数化した。

質問項目において、差別に反対し、人権を尊重する意識が高いかどうかを判断するための質問も含まれているため、「(1) 差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない」、「(3) 差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である」、「(5) 差別をなくすために、行政は努力する必要がある」、「(7) 差別を受けてきた人に対しては、解消するために行政の支援が必要だ」については、「そう思う」を 3 点、「ややそう思う」を 2 点、「あまりそう思わない」を 1 点、「そう思わない」を 0 点とし、「(2) 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ」、「(4) 差別の原因には、差別される人の側にも問題があることも多い」、「(6) どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ」、「(8) 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる」については、「そう思わない」を 3 点、「あまりそう思わない」を 2 点、「ややそう思う」を 1 点、「そう思う」を 0 点とした。なお、「何とも言えない」および不明・無回答は除外する。

性別でみると、質問項目の点数における男女の差は、「(6) どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ (反)」が 0.15 点で最も差が大きくなっているが、大きな差異はみられない。

図表 3-1 性別 差別に関する基本的な認識 点数化

	全体		男性		女性		男性・女性と答えることに抵抗を感じる	
	回答者数	点数	回答者数	点数	回答者数	点数	回答者数	点数
(1) 差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない	476	2.67	174	2.66	279	2.68	12	2.25
(2) 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ (反)	476	1.57	174	1.63	279	1.55	12	1.33
(3) 差別問題に関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である	476	2.41	174	2.40	279	2.41	12	2.60
(4) 差別の原因には、差別される人の側にも問題があることも多い (反)	476	1.84	174	1.79	279	1.91	12	1.40
(5) 差別をなくすために、行政は努力する必要がある	476	2.43	174	2.36	279	2.46	12	2.50
(6) どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ (反)	476	0.93	174	1.03	279	0.88	12	0.27
(7) 差別を受けてきた人に対しては、解消するために行政の支援が必要だ	476	2.09	174	2.03	279	2.12	12	2.27
(8) 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる (反)	476	1.37	174	1.45	279	1.32	12	1.56
点数合計	-	15.30	-	15.35	-	15.33	-	14.18

全体の点数より数値が高いものは太字

年齢別でみると、「(1) 差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない」、「(5) 差別をなくすために、行政は努力する必要がある」、「(7) 差別を受けてきた人に対しては、解消するために行政の支援が必要だ」については、年齢が高い方が点数が比較的高く、「(2) 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ (反)」、「(4) 差別の原因には、差別される人の側にも問題があることも多い (反)」については年齢が低い方が点数が比較的高い傾向がみられた。

また、全ての質問項目の合計した点数でみると、50 歳代が最も高く、次いで 18～29 歳、60 歳代と続いている。差別に関する基本的な認識については、50～60 歳代および 18～29 歳に高い傾向がみられる。

図表 3-2 年齢別 差別に関する基本的な認識 点数化

	全体		18～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70歳以上	
	回答者数	点数	回答者数	点数	回答者数	点数	回答者数	点数	回答者数	点数	回答者数	点数	回答者数	点数
(1) 差別は人間として恥すべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない	476	2.67	45	2.60	60	2.45	62	2.49	86	2.73	108	2.71	104	2.81
(2) 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ (反)	476	1.57	45	1.80	60	1.83	62	1.75	86	1.86	108	1.47	104	1.12
(3) 差別問題に関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である	476	2.41	45	2.61	60	2.40	62	2.19	86	2.34	108	2.39	104	2.54
(4) 差別の原因には、差別される人の側にも問題があることも多い (反)	476	1.84	45	2.25	60	1.85	62	2.02	86	1.95	108	1.75	104	1.61
(5) 差別をなくすために、行政は努力する必要がある	476	2.43	45	2.33	60	2.33	62	2.22	86	2.48	108	2.59	104	2.40
(6) どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ (反)	476	0.93	45	0.70	60	0.83	62	1.04	86	1.06	108	0.75	104	1.02
(7) 差別を受けてきた人に対しては、解消するために行政の支援が必要だ	476	2.09	45	2.05	60	2.04	62	1.70	86	2.08	108	2.29	104	2.16
(8) 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる (反)	476	1.37	45	1.54	60	1.26	62	1.25	86	1.65	108	1.57	104	1.04
点数合計	-	15.30	-	15.88	-	14.99	-	14.67	-	16.14	-	15.52	-	14.71

全体の点数より数値が高いものは太字

次に、問 13 とクロス集計を行い、点数化を行った。人権を「非常に大切なことだと認識している」とする人では、全ての質問項目において全体の点数を上回り、また、「あまり意識したことがない」人では、全ての質問項目において全体の数値を下回った。

このことから、人権について「あまり意識したことがない」人が、「非常に大切なことだと認識している」という意識にもっていけるよう、家庭、学校、地域、職場などあらゆる場において人権教育・啓発を推進する必要があると考えられる。

図表 3-3 人権に対する考え方別 差別に関する基本的な認識 点数化

	全体		非常に大切なことだと認識している		自分には関係がないことと思っている		あまり意識したことがない		きれいごとや建前の話でしかない		「人権」という言葉を聞くとやっかいなものと感じる		その他	
	回答者数	点数	回答者数	点数	回答者数	点数	回答者数	点数	回答者数	点数	回答者数	点数	回答者数	点数
(1) 差別は人間として恥すべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない	476	2.67	244	2.78	10	2.40	175	2.55	21	2.53	13	2.62	5	2.67
(2) 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ (反)	476	1.57	244	1.68	10	1.40	175	1.48	21	1.63	13	1.18	5	1.50
(3) 差別問題に関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である	476	2.41	244	2.57	10	2.33	175	2.17	21	2.50	13	2.25	5	2.50
(4) 差別の原因には、差別される人の側にも問題があることも多い (反)	476	1.84	244	1.97	10	1.56	175	1.74	21	1.65	13	1.55	5	2.75
(5) 差別をなくすために、行政は努力する必要がある	476	2.43	244	2.60	10	2.00	175	2.31	21	1.95	13	1.92	5	2.25
(6) どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ (反)	476	0.93	244	1.08	10	0.60	175	0.80	21	0.63	13	0.54	5	0.40
(7) 差別を受けてきた人に対しては、解消するために行政の支援が必要だ	476	2.09	244	2.30	10	2.10	175	1.90	21	1.67	13	1.25	5	2.40
(8) 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる (反)	476	1.37	244	1.65	10	0.60	175	1.17	21	0.95	13	0.58	5	1.40

全体の点数より数値が高いものは太字

また、前回の平成 24（2012）年の調査時より差別に関する基本的な認識に変化があったかを検討する。ただし、前回調査とは質問項目のすべてが同じではないため比較することはできないが、質問の意図が同じであるため、参考として比較することとする。

図表 3-4 差別に関する基本的な認識 平成 24（2012）年調査結果

	回答者数	そう思う	そう思う		そう思わない	そう思わない		わからない	不明・無回答
			そう思う	どちらかといえば		そう思わない	どちらかといえば		
差別は、人間として恥ずべき行為の一つだ	501 100.0	440 87.8	277 55.3	163 32.5	45 9.0	33 6.6	12 2.4	12 2.4	4 0.8
差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ	501 100.0	274 54.7	119 23.8	155 30.9	170 34.0	89 17.8	81 16.2	50 10.0	7 1.4
差別問題に関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である	501 100.0	405 80.8	229 45.7	176 35.1	62 12.4	32 6.4	30 6.0	30 6.0	4 0.8
差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い	501 100.0	217 43.3	67 13.4	150 29.9	205 41.0	103 20.6	102 20.4	75 15.0	4 0.8
あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある	501 100.0	417 83.2	267 53.3	150 29.9	58 11.6	32 6.4	26 5.2	18 3.6	8 1.6
どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ	501 100.0	336 67.0	164 32.7	172 34.3	113 22.6	47 9.4	66 13.2	47 9.4	5 1.0
差別を受けてきた人に対しては、格差をなくすために行政の支援が必要だ	501 100.0	349 69.6	151 30.1	198 39.5	123 24.6	70 14.0	53 10.6	26 5.2	3 0.6
差別に対して抗議や反対をすることによって、より問題が解決しにくくなることが多い	501 100.0	251 50.1	97 19.4	154 30.7	169 33.8	81 16.2	88 17.6	76 15.2	5 1.0

前回調査より、「どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ（反）」、「差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる（反）」以外の 6 つの質問項目で点数が向上している。点数の合計でみると、今回調査（15.30 点）が前回調査（14.36 点）より高く、差別に関する基本的な認識度が向上していると推測されるが、差別を解消することに関して課題も見受けられる。

また、大阪府調査と比較すると、「(1) 差別は人間として恥すべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない」、「(3) 差別問題に関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である」以外の質問項目で点数が高い。

図表 3-5 差別に関する基本的な認識 前回調査・大阪府調査 点数化

	今回調査		前回調査		大阪府調査	
	回答者数	点数	回答者数	点数	回答者数	点数
(1) 差別は人間として恥すべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない	476	2.67	501	2.45	1,358	2.67
(2) 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ(反)	476	1.57	501	1.30	1,358	1.40
(3) 差別問題に関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である	476	2.41	501	2.29	1,358	2.41
(4) 差別の原因には、差別される人の側にも問題があることも多い(反)	476	1.84	501	1.57	1,358	1.67
(5) 差別をなくすために、行政は努力する必要がある	476	2.43	501	2.39	1,358	2.42
(6) どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ(反)	476	0.93	501	1.03	1,358	0.86
(7) 差別を受けてきた人に対しては、解消するために行政の支援が必要だ	476	2.09	501	1.95	1,358	1.97
(8) 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる(反)	476	1.37	501	1.38	1,358	1.33
点数合計	-	15.30	-	14.36	-	14.72

1－3. 人権問題の認知度と急いで対応すべき人権問題

1－3－1. 人権問題の認知度（問3）

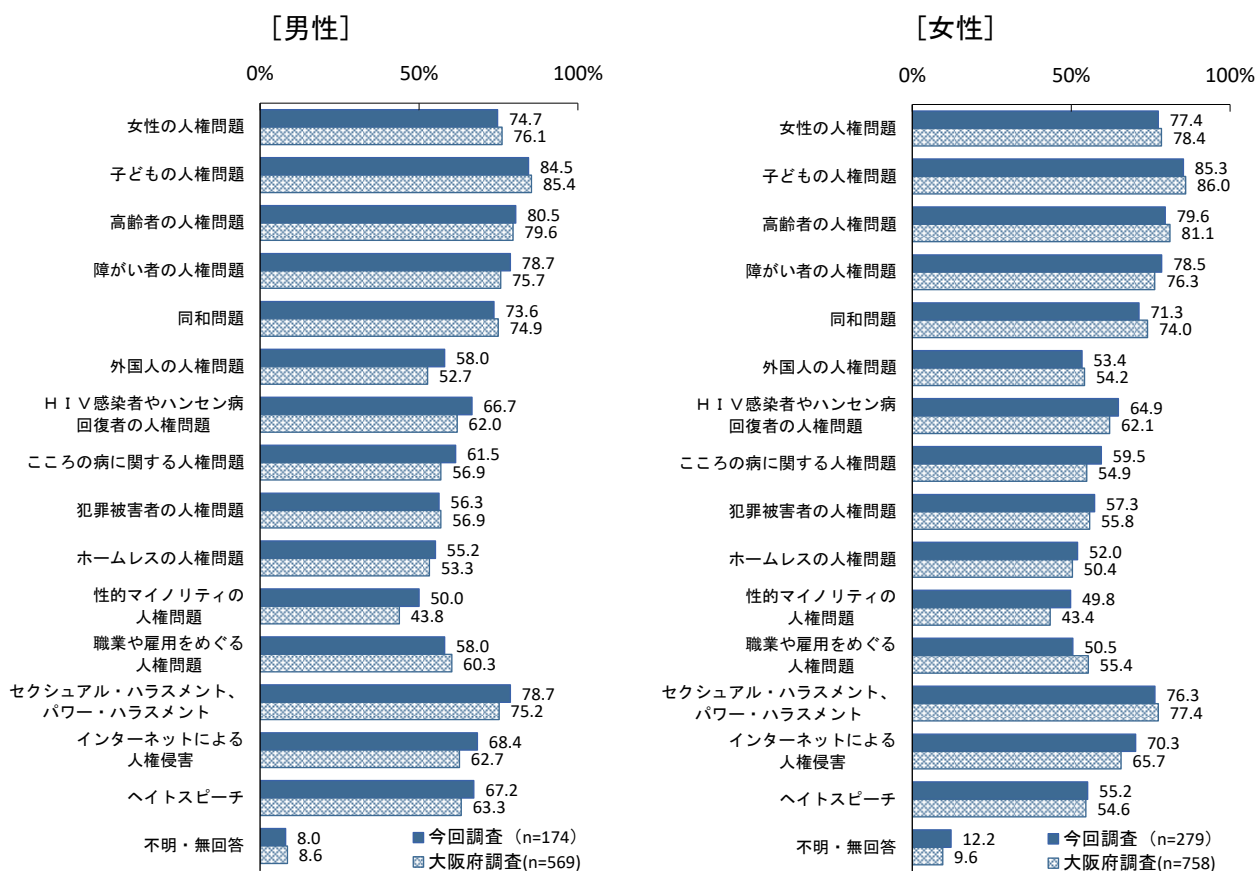
- 人権問題の認知度は年齢間で差がある。
- 人権問題の認知度は40～50歳代が高く、70歳以上が低い。
- 高齢者、外国人、ホームレスの人権問題については、認知度に関係なく意識に課題がある。
- 同和問題について、若年層の認知度が低い。
- 認知度の低い人権問題については、年齢を考慮した教育・啓発の機会拡大によりその底上げを図るとともに、正しい認識と行動に繋がるようにする必要がある。

人権問題の認知度について、年齢別で差をみると、「同和問題」が40歳代（82.3%）、18～29歳（48.9%）が33.4ポイントで最も差が大きく、次いで「インターネットによる人権侵害」が18～29歳（82.2%）、70歳以上（52.9%）で29.3ポイント、「外国人の人権問題」が50歳代（66.3%）、70歳以上（38.5%）で27.8%と続いており、「子どもの人権問題」が50歳代（87.2%）、70歳以上（82.7%）が4.5ポイントで最も差が小さい（図表2-12）。このことより、人権問題によって、年齢間で認知度に差があることがうかがえ、認知度の低い人権問題については、年齢を考慮した研修・啓発の機会拡大によりその底上げを図る必要がある。

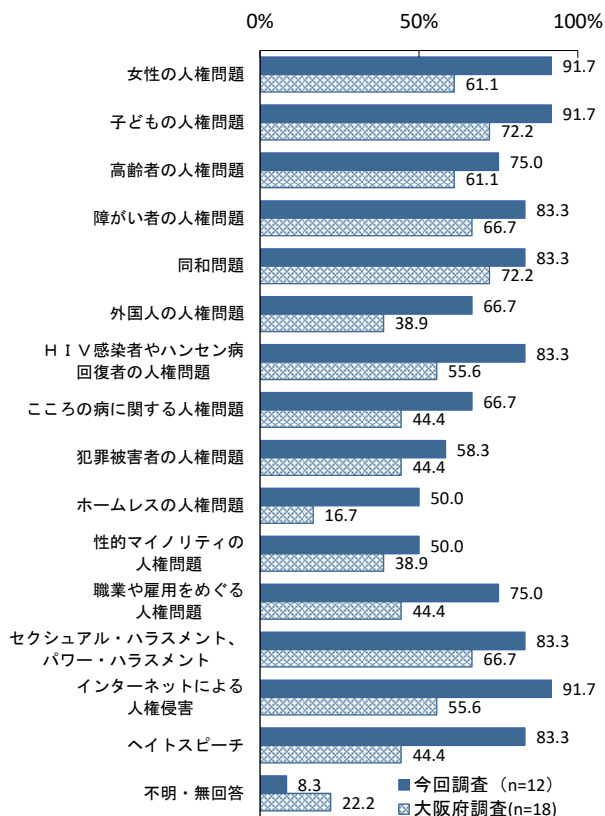
大阪府調査を年齢別で比較すると、「同和問題」では、29歳以下は48.9%で、大阪府調査（56.6%）より7.7ポイント低く、30歳代が58.3%で、大阪府調査（70.3%）より12.0ポイント低くなっており、若年層の認知度が大阪府調査より低くなっている。

図表 3-6 性別・年齢別 人権問題の認知度 大阪府調査結果との比較

【性別】

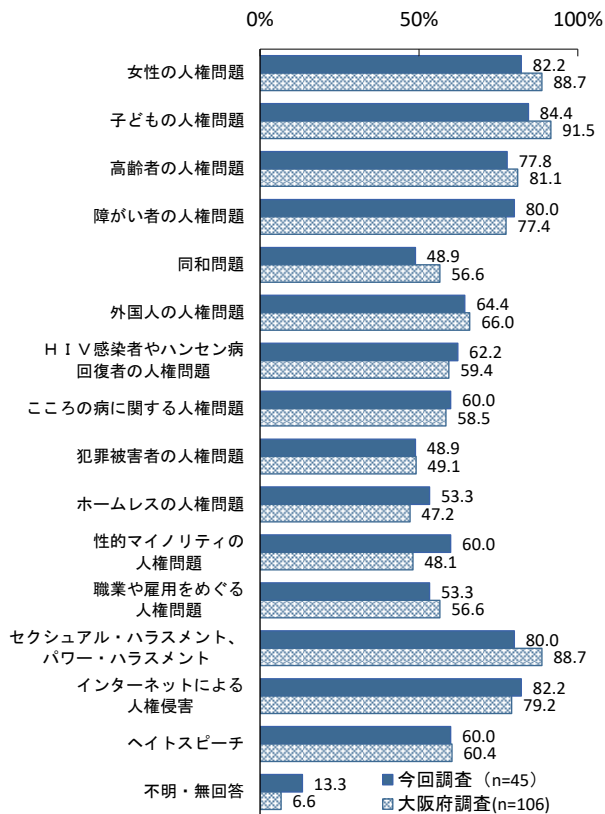


〔男性・女性と答えることに抵抗を感じる〕

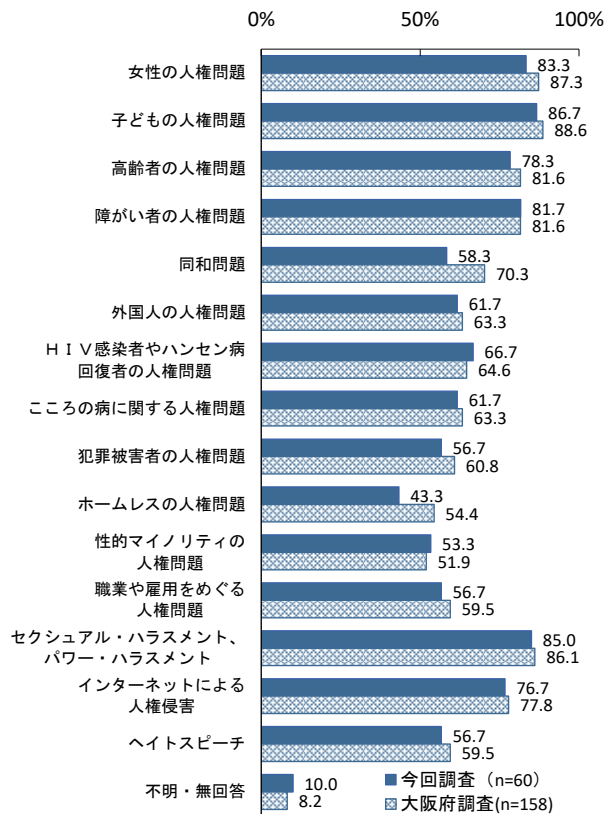


【年齢別】

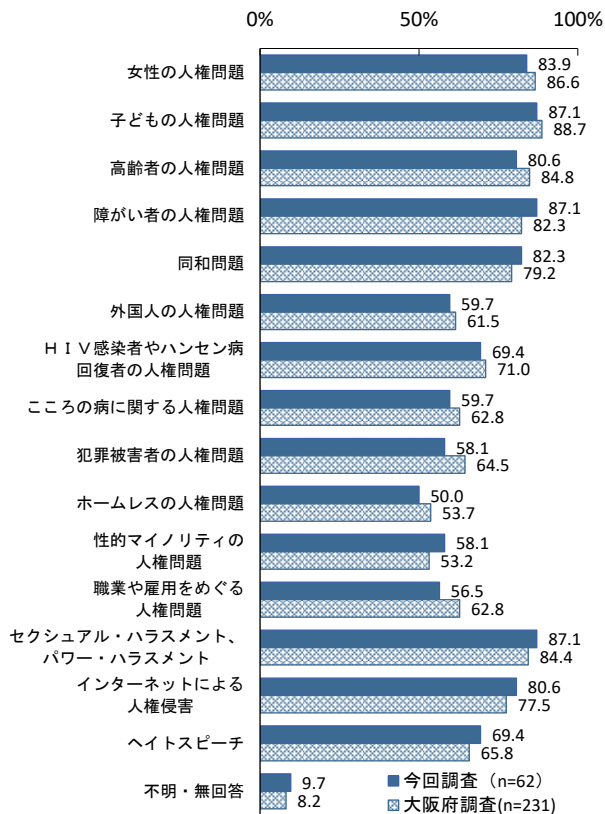
[18～29 歳（大阪府は 20 歳代）]



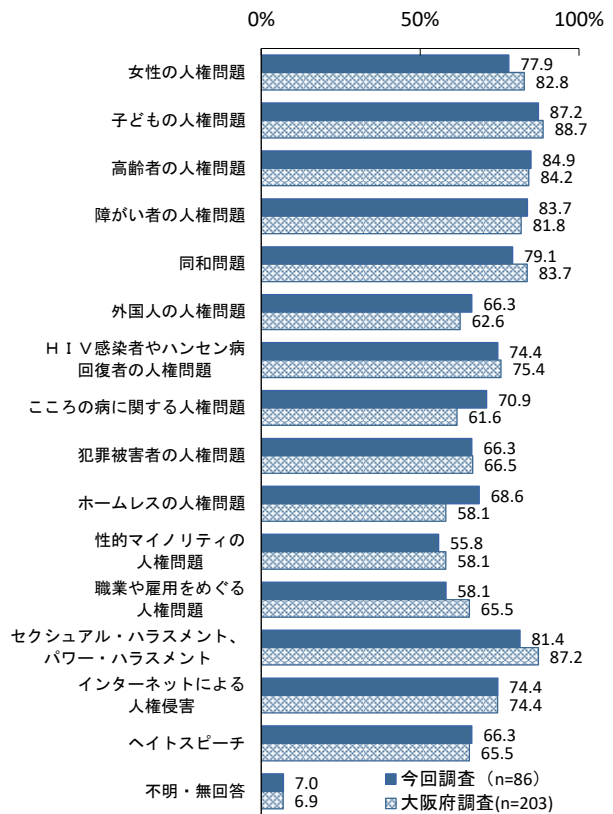
[30～39 歳]

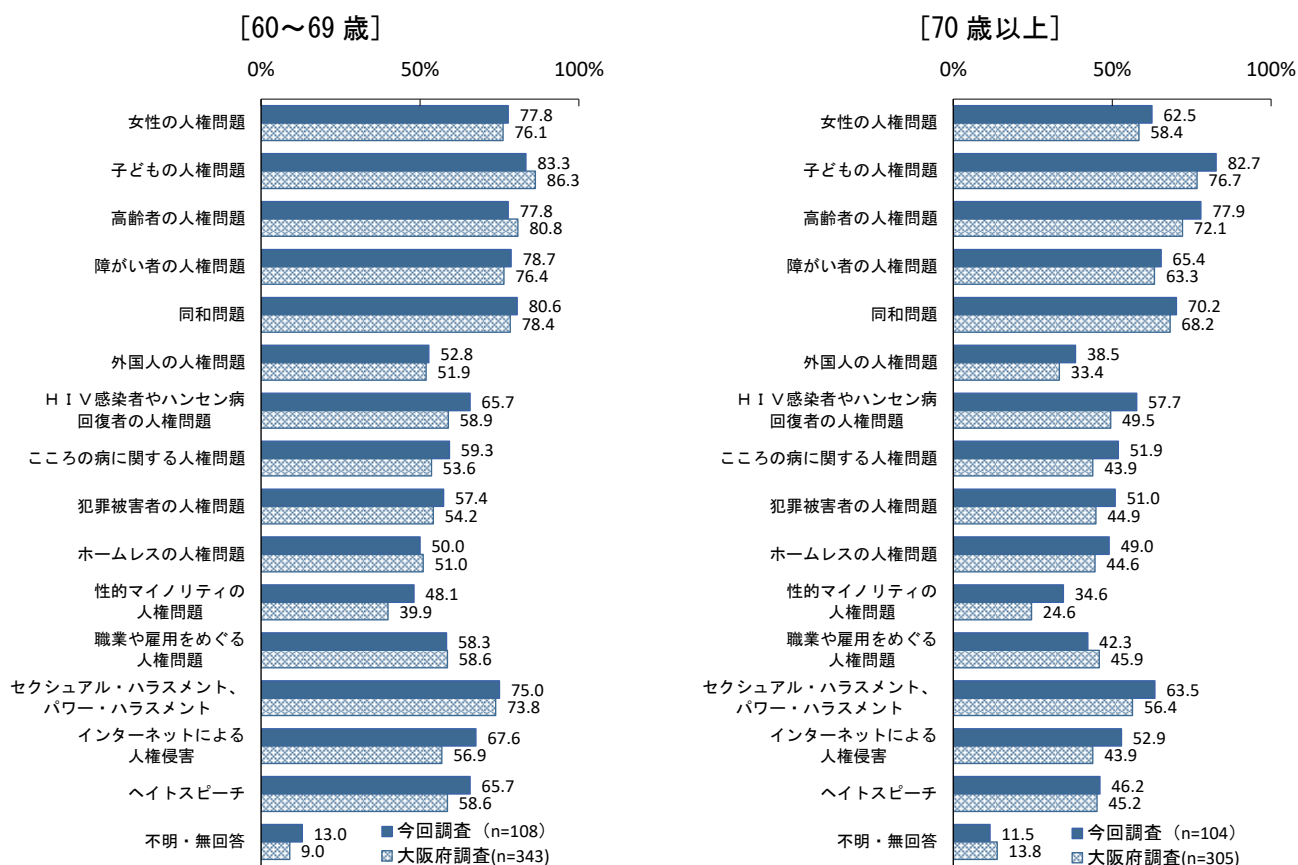


[40～49 歳]



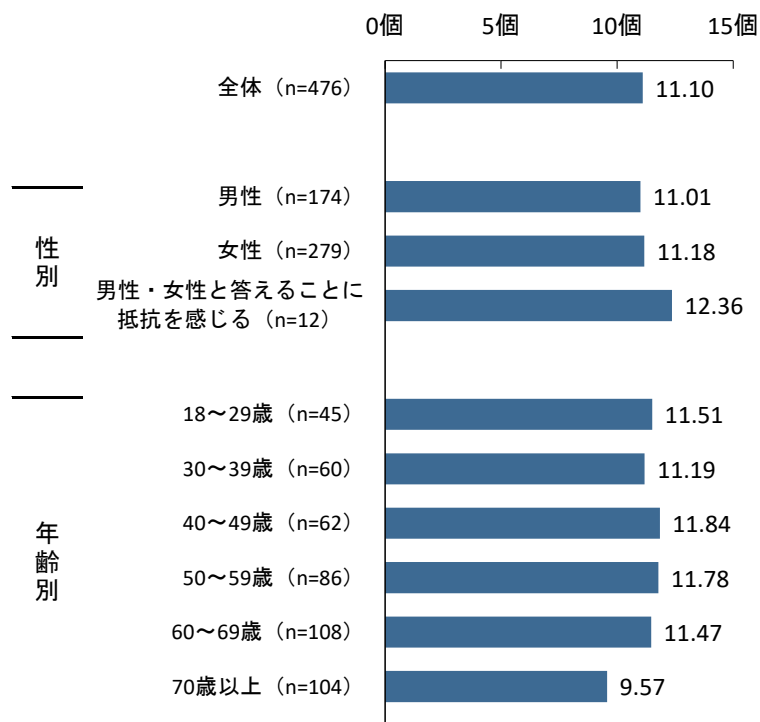
[50～59 歳]





また、設問項目の回答個数の平均を年齢別でみると、40 歳代が 11.84 個で最も高く、次いで 50 歳代が 11.78 個、18～29 歳が 11.51 個と続いており、70 歳以上が 9.57 個で最も低い。

図表 3-7 人権問題の認知度 平均回答個数



【人権問題の認知別 個別・具体の事象に対する考え】

さらに、人権問題の認知度と問1「個別・具体の事象に対する考え」でクロス集計を行った。

それぞれの人権問題について、知っているという回答した人の「問題があると思う」の割合は、知らないという回答とした人の割合に比べ全ての項目で高くなっている。

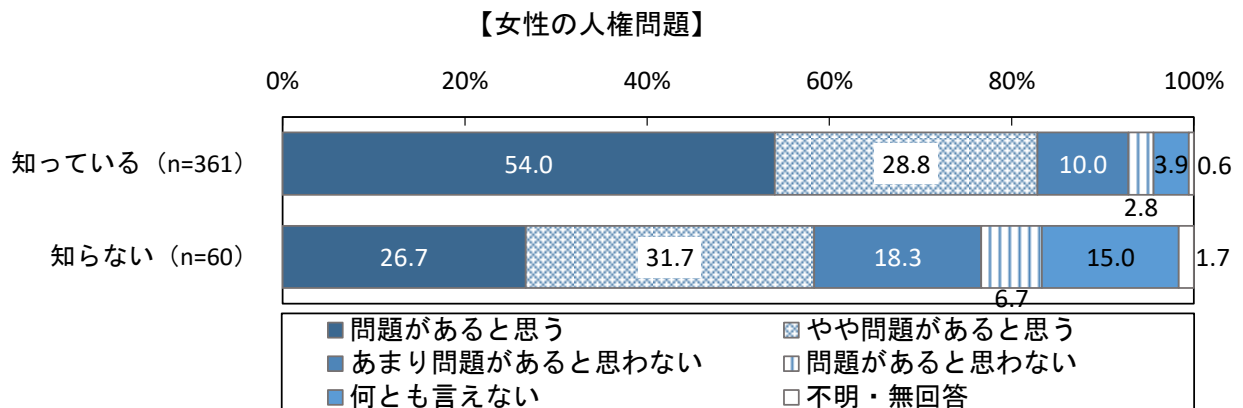
一方、『問題があると思わない』でみると、「高齢者の人権問題」、「外国人の人権問題」、「ホームレスの人権問題」では、それぞれの人権問題を知っている人と知らない人の回答の割合に大きな差がみられなかった。

以上のことから、人権問題を知っている人はそれぞれの人権問題に対し問題意識を持つ割合が高いが、「高齢者の人権問題」、「外国人の人権問題」、「ホームレスの人権問題」については知っている・知らないに係わらずそれぞれの人権に対する意識について課題があることがわかった。

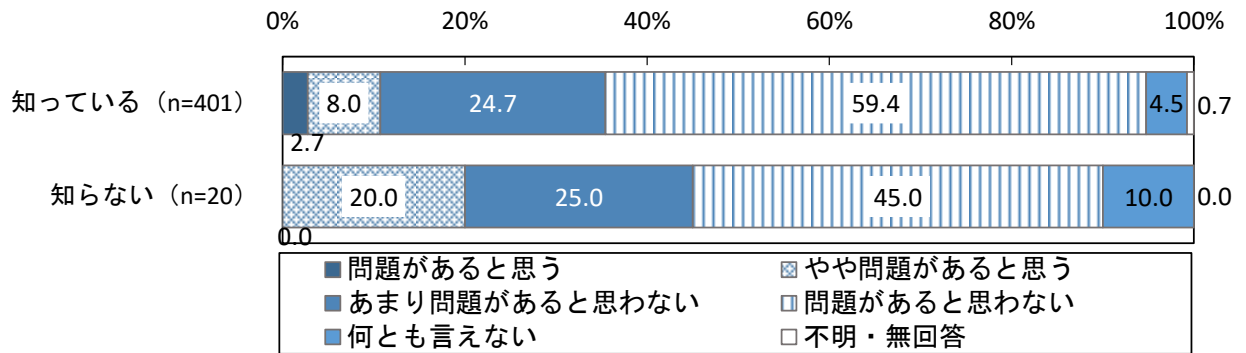
図表 3-8 人権問題の認知別 個別・具体の事象に対する考え

◇ 問3と問1の対応づけ

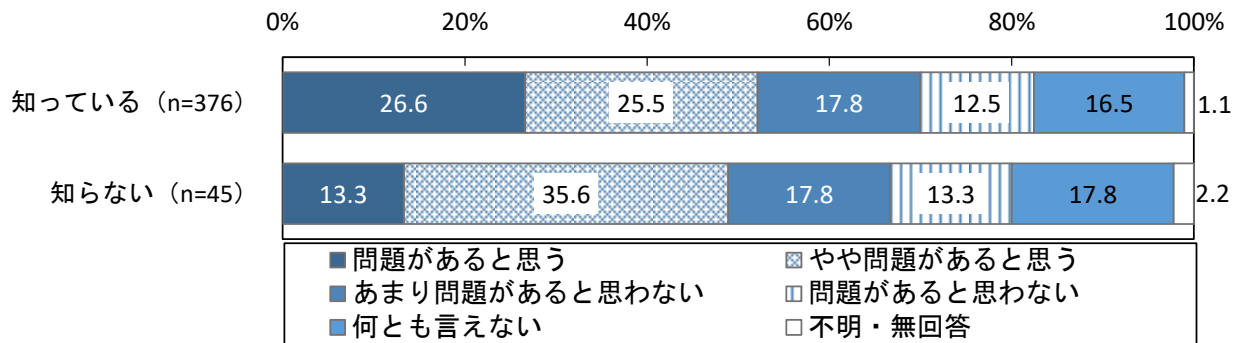
問3	問1
女性の人権問題	職場で顔を合わせるたびに「まだ結婚しないのか」と言う
子どもの人権問題	中学生の携帯電話やスマートフォンの使用を親の判断で制限する
高齢者の人権問題	家族が不在の際、介護が必要な高齢者を家から出られなくする
障がい者の人権問題	視覚障がい者との会話ではテレビや映画、風景などは意識して話題にしないようにする
同和問題	結婚する際、興信所や探偵業者などを使って相手の出自を調べる
外国人の人権問題	同じマンションに住む外国人とは生活文化が異なり、日本語があまり話せないので、付き合わないようにする
HIV 感染者ハンセン病回復者の人権問題	H I V感染者やハンセン病回復者とは一緒に食事や入浴をしない
こころの病に関する人権問題	こころの病のある人には関わらないようにする
犯罪被害者の人権問題	痴漢の被害者に「あなたにも問題があったのではないか」と言う
ホームレスの人権問題	公園でホームレスが近づいてきたので、足早に立ち去る
性的マイノリティの人権問題	職場で同性愛者と席が隣になることを嫌がる
セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント	人前で部下を長時間にわたり大声で叱る
インターネットによる人権侵害	インターネットのサイトに他人の誹謗中傷を書き込む



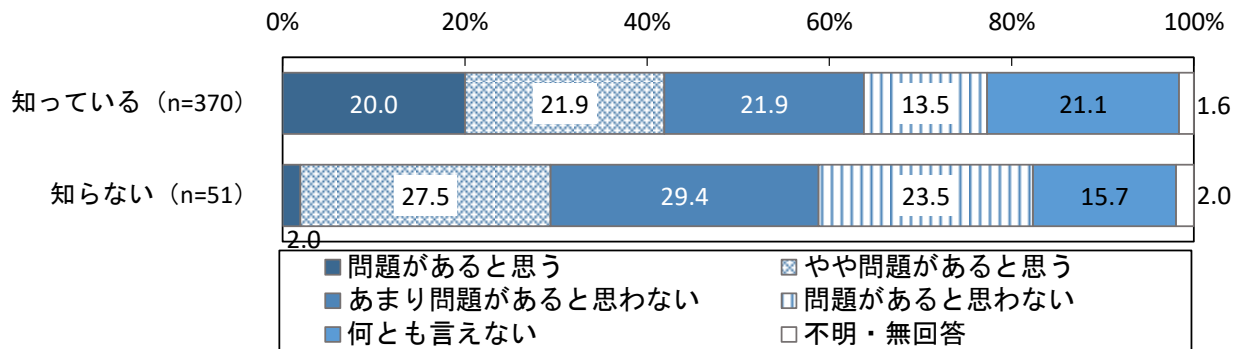
【子どもの人権問題】



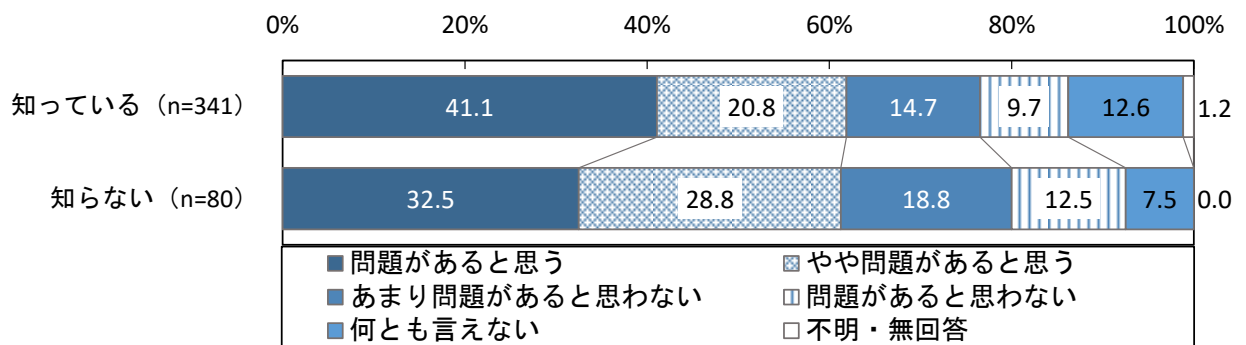
【高齢者の人権問題】



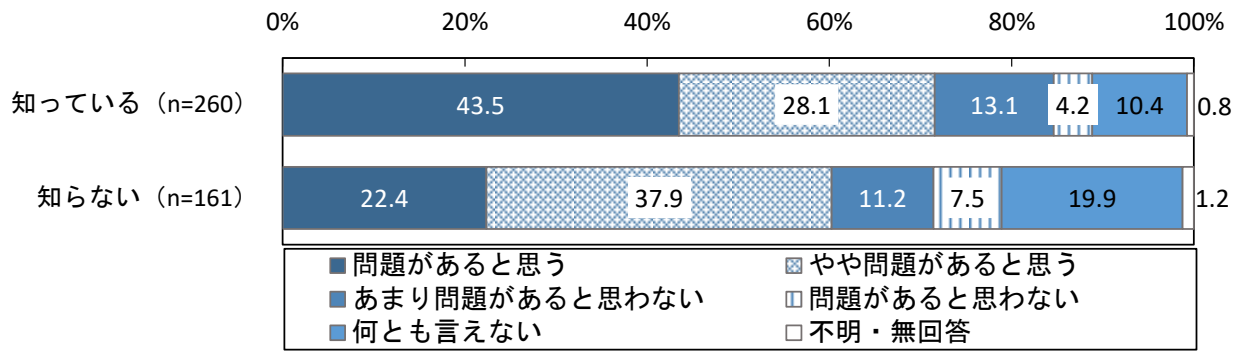
【障がい者の人権問題】



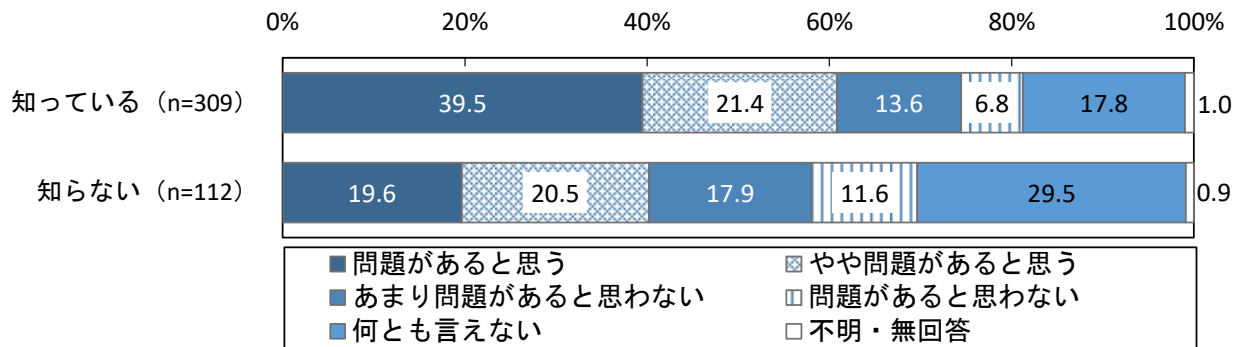
【同和問題】



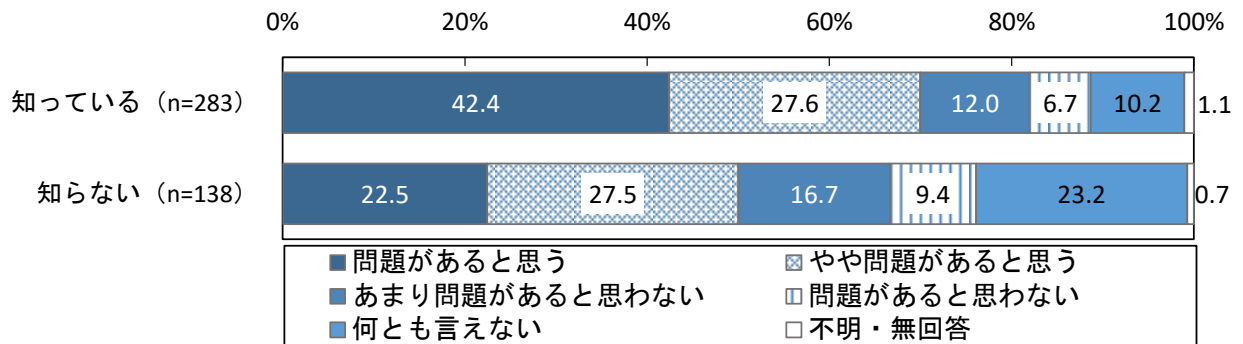
【外国人の人権問題】



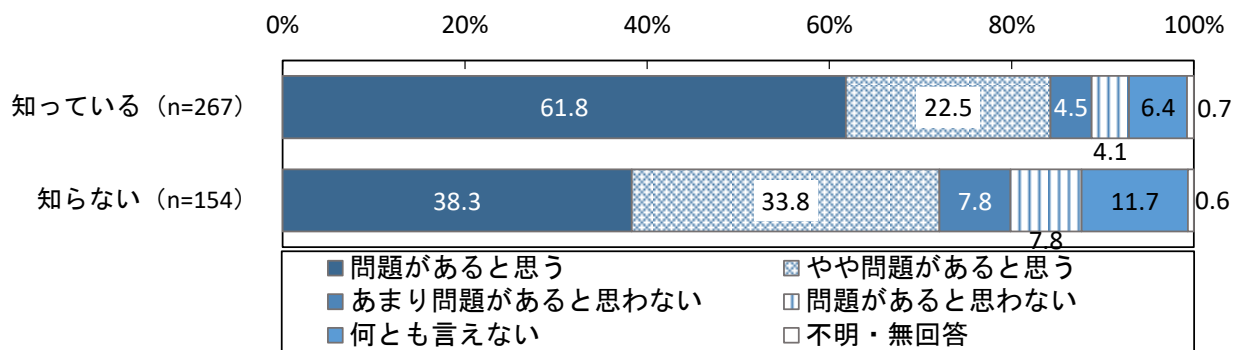
【H I V感染者ハンセン病回復者の人権問題】



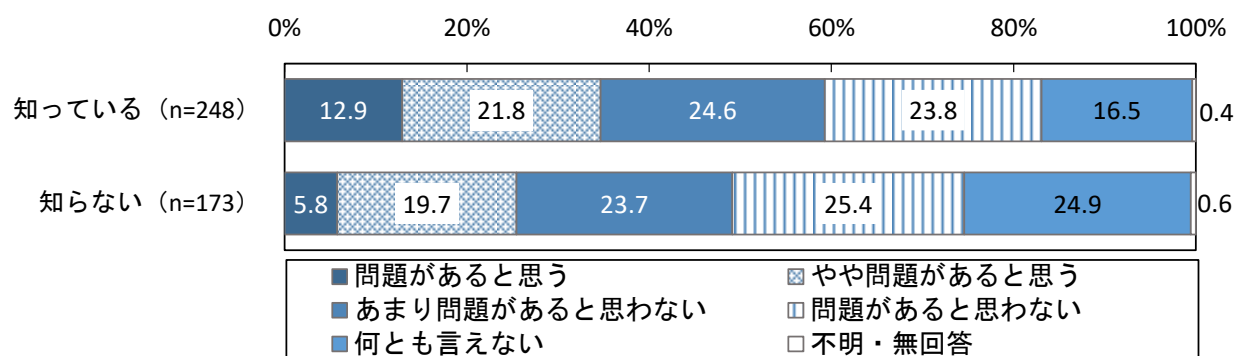
【こころの病に関する人権問題】



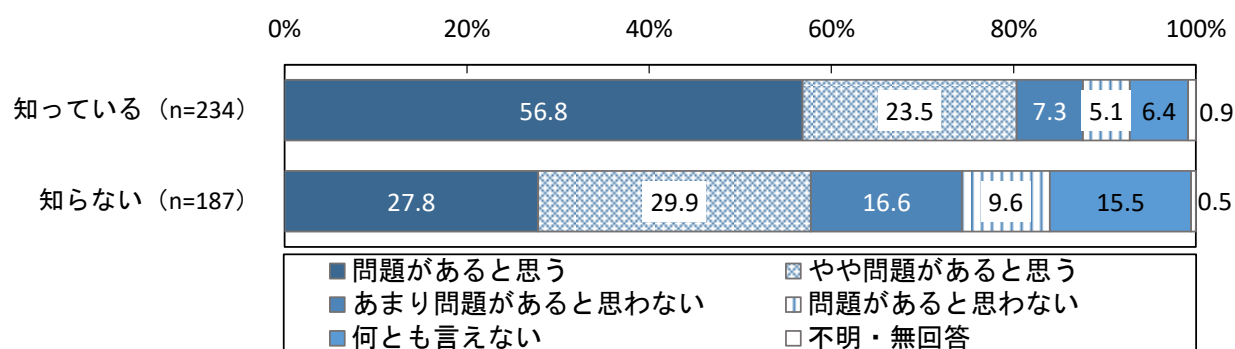
【犯罪被害者の人権問題】



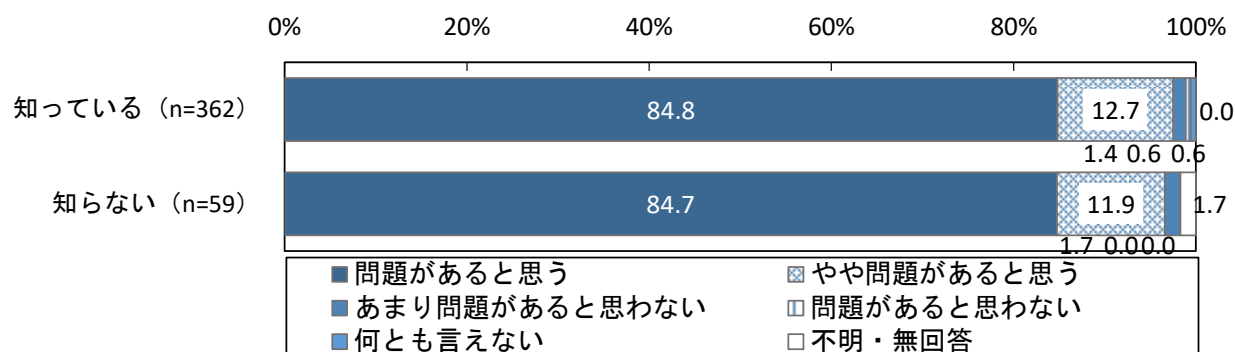
【ホームレスの人権問題】



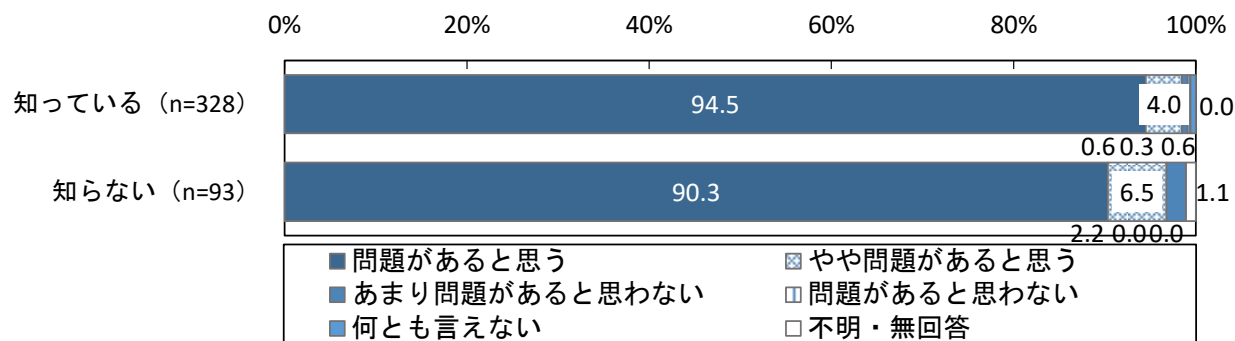
【性的マイノリティの人権問題】



【セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント】



【インターネットによる人権侵害】



【人権問題の認知別 住宅を選ぶ際に重視する立地条件】

人権問題の認知度「外国人の人権問題」、「同和問題」と問7「住宅を選ぶ際に重視する立地条件」でクロス集計を行った。

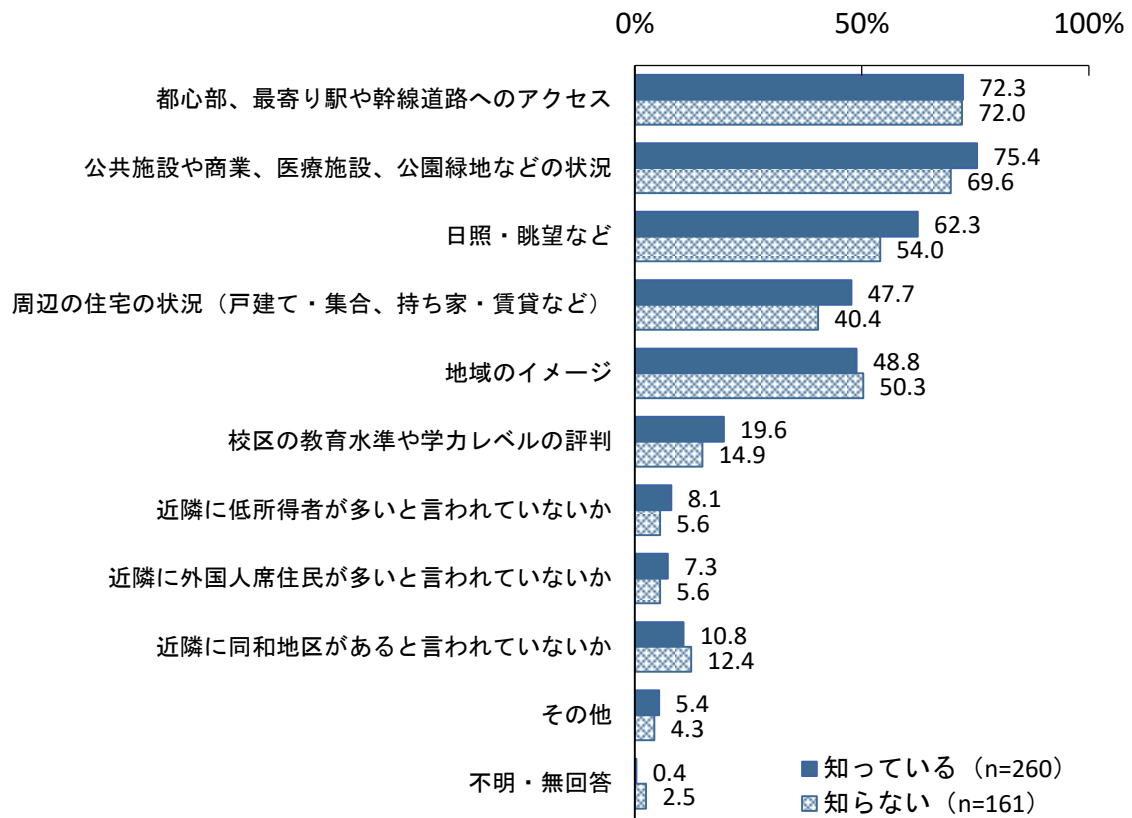
住宅を選ぶ際に重視する立地条件について、「近隣に外国籍住民が多いと言われているか」の回答割合は、「外国人の人権問題」を知っている人が7.3%で、知らない人（5.6%）よりも高くなっている。

また、「近隣に同和地区があると言われているか」の回答割合は、「同和問題」を知っている人が12.0%で、知らない人（8.8%）よりも高くなっている。

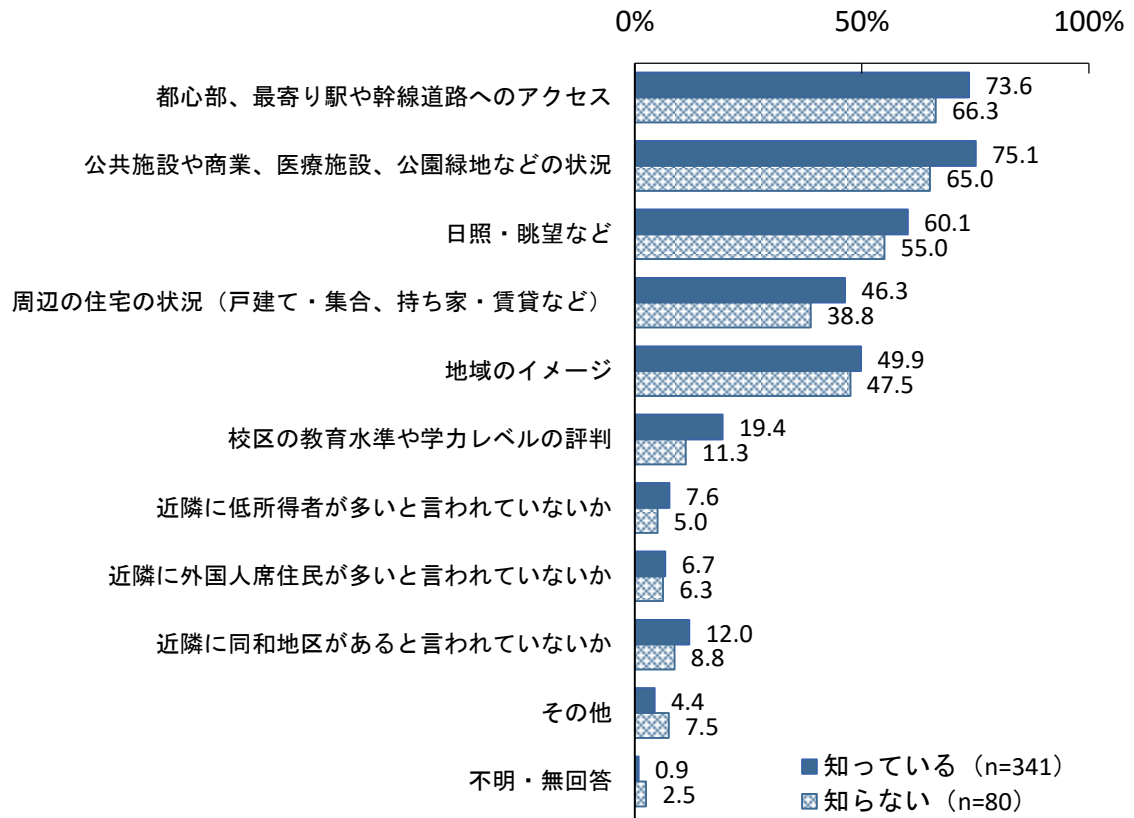
以上のことから、外国人問題や同和問題を知っているにもかかわらず、忌避意識が残っていることがわかった。

図表 3-9 人権問題の認知別 住宅を選ぶ際に重視する立地条件

【外国人の人権問題の認知別】



【同和問題の認知別】



1-3-2. 急いで対応すべき人権問題（問3-1）

- 「子どもの人権問題」を早急に対応すべきと考えている。
- 年齢が高いほど「高齢者の人権問題」を早急に対応すべきと考えている。

人権問題のうち、急いで対応すべきものについて、全ての性別、年齢別において「子どもの人権問題」が最も高い。年齢別でみると、50歳代以上で「高齢者の人権問題」が高くなっており、20～60歳代で「インターネットによる人権侵害」が上位3位に入っている（図表2-13）。

大阪府調査との比較では、「高齢者の人権問題」の割合が大阪府調査に比べ低く、「障がい者の人権問題」、「インターネットによる人権侵害」が高くなっている（図表2-11）。

図表 3-10 急いで対応すべき人権問題 上位3位（性別・年齢別）

【性別】

	全体	男性	女性	男性・女性と答えることに抵抗を感じる
1位	子どもの人権問題	子どもの人権問題	子どもの人権問題	子どもの人権問題
2位	高齢者の人権問題	インターネットによる人権侵害	高齢者の人権問題	高齢者の人権問題
3位	インターネットによる人権侵害	高齢者の人権問題	障がい者の人権問題	セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント

【年齢別】

	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1位	子どもの人権問題	子どもの人権問題	子どもの人権問題	子どもの人権問題	子どもの人権問題	子どもの人権問題
2位	女性の人権問題	インターネットによる人権侵害	インターネットによる人権侵害	高齢者の人権問題	高齢者の人権問題	高齢者の人権問題
3位	○障がい者の人権問題 ○セクシュアル・ハラスメント、 パワー・ハラスメント ○インターネットによる人権侵害	高齢者の人権問題	高齢者の人権問題	インターネットによる人権侵害	インターネットによる人権侵害	障がい者の人権問題

1－4．人権問題についての情報・知識の入手経路（問4）

1－4－1．人権問題についての情報・知識の入手経路

- 人権問題についての情報や知識の入手先は「新聞・ＴＶ・ラジオ」の割合が高い。
- 大阪府と比較した場合、「インターネット」「学校教育」「職場・地域での研修」の割合が高い。
- 人権教育・啓発については、「学校教育」を軸に、「職場・地域での研修」をサポートし、若年層に向けては「インターネット」を活用し、年配の方に向けては「広報紙・誌」を活用していくことが望まれる。

人権問題についての情報・知識の入手経路について、年齢別でみると、全ての年齢層において「新聞・ＴＶ・ラジオ」の割合が高く、年齢が上がるにつれて「広報紙・誌」の割合が概ね高く、「学校教育」の割合が概ね低くなり、年齢が下がるにつれて「インターネット」の割合が高くなっている（図表 2-15）。

大阪府調査と比較すると、「インターネット」、「学校教育」、「職場・地域での研修」で今回調査の割合が高くなっている（図表 2-14）。

このことから、人権教育・啓発については、「学校教育」を軸に、「職場・地域での研修」をサポートし、若年層に向けては「インターネット」を活用し、年配の方に向けては「広報紙・誌」を活用していくことが望まれる。

1－4－2．「学校教育」の具体的な場所

- 「学校教育」については「小学校」「中学校」の割合が高い。

「学校教育」の具体的な場所について、年齢別でみると、すべての年代で「中学校」が最も高く、30 歳代、40 歳代、70 歳代以上では「小学校」も同様に最も高くなっている（図表 2-17）。

1-5. 人権施策の認知度、評価（問5）

○「啓発ポスターや街頭啓発」の認知度が最も高い。

○役に立った人権施策は、「講演会・映画会」「啓発冊子」「研修会」である。

■人権問題としての認知度が低く、まずは関心を高めることが必要なものについては、「啓発ポスターや街頭啓発」などの媒体を活用し、人権問題について興味を持ってもらうことで、「講演会・映画会」等への参加を促し、人権教育・啓発をしていくことが望ましい。

人権施策の認知度については、「啓発ポスターや街頭啓発」が約7割で最も高く、「人権相談窓口」、「講演会・映画会」が約6割と続いている。また、それぞれの施策について「知らない」との回答は2割～7割であり、認知度に関して大きな開きがあった。

また、役に立った施策については、「講演会・映画会」が16.6%で最も高く、次いで「啓発冊子（リーフレットなど）や教材」が14.1%、「研修会」が12.4%と続いており、その他の施策については、1割に達していない（図表2-18）。

さらに、認知度の差を年齢別でみると、「『とんだばやし人権フェア』などのイベント」が50歳代（65.1%）、18～29歳（31.1%）の34.0ポイントで最も差が大きく、次いで「啓発冊子（リーフレットなど）や教材」が30歳代（63.3%）、70歳以上（36.5%）が26.8ポイント、「作文、ポスターなどの募集、表彰」が18～29歳（62.2%）、70歳以上（36.5%）が25.7ポイントとなっており、年齢により人権施策の認知度について差がある（図表2-20）。

以上の結果から、人権問題としての認知度が低く、まずは関心を高めることが必要なものについては、「啓発ポスターや街頭啓発」などの媒体を活用し、人権問題について興味を持ってもらうことで、「講演会・映画会」や「研修会」への参加を促し、人権教育・啓発をしていくことが望ましい。

1-6. 人権施策の今後の方向（問5-1）

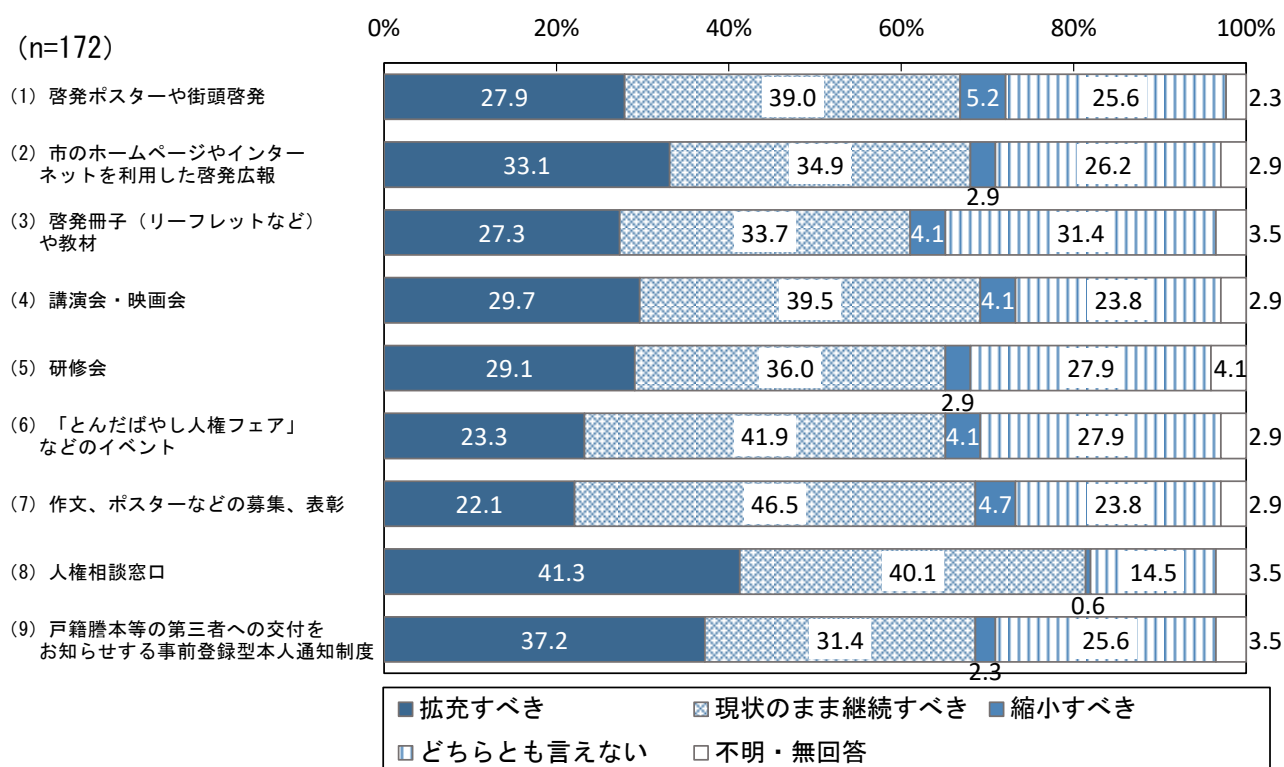
- 拡充すべき人権施策として、「人権相談窓口」「戸籍謄本等の第三者への交付をお知らせする事前登録型本人通知制度」「市のホームページやインターネットを利用した啓発広報」を望む割合が高い。
- 人権侵害事象を経験した人は人権施策をさらに推進すべきだと考えており、特に「人権相談窓口」の拡充を求めている。
- 今後の人権施策の取組みとして、人権教育・啓発活動と同様に、相談窓口など人権救済に関わる取組みもさらに推進していく必要がある。

人権施策の今後の方向については、いずれの施策においても、「現状のまま継続すべき」が3割台から4割台で最も高くなっており、「拡充すべき」では、「人権相談窓口」が30.9%で最も高く、また、「戸籍謄本等の第三者への交付をお知らせする事前登録型本人通知制度」が25.6%、「市のホームページやインターネットを利用した啓発広報」が24.6%の順で、いずれの施策も2割弱から3割となっている（図表2-21）。

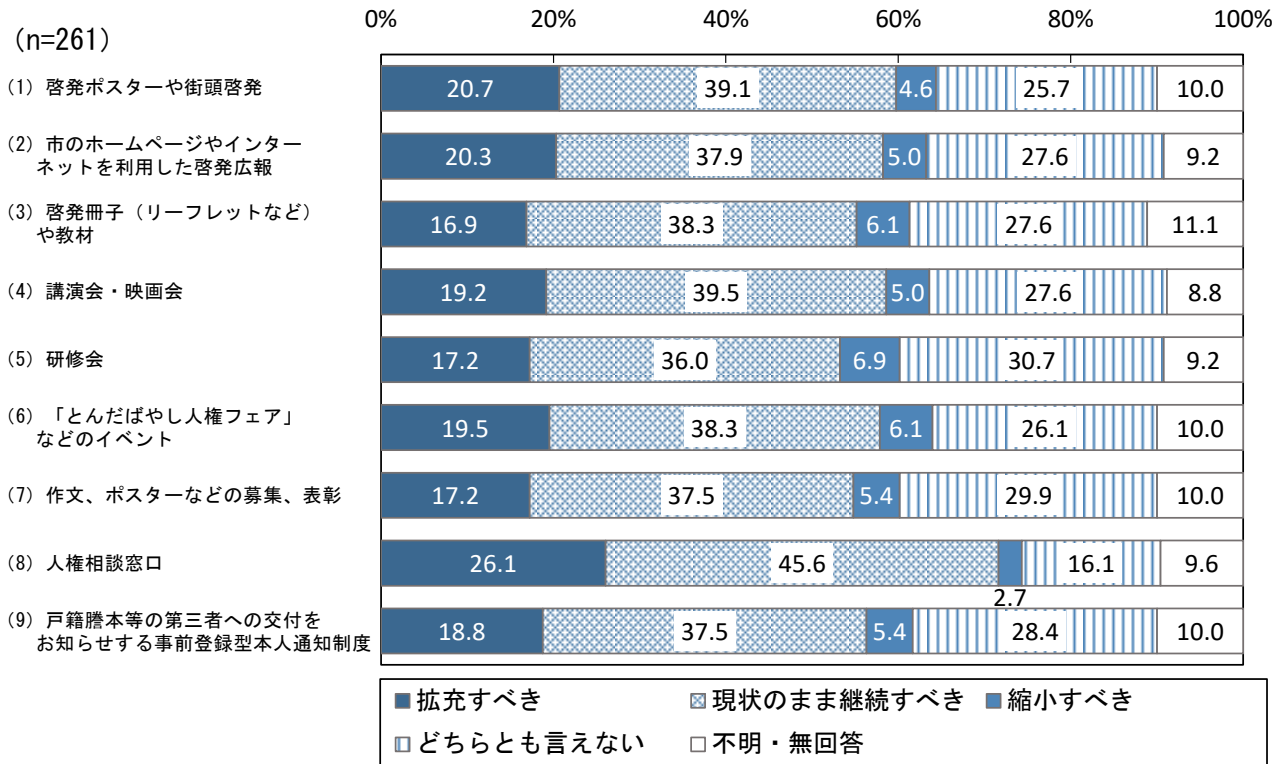
また、問11における人権侵害事象への接触の有無別でみると、最近5年間に人権侵害事象を経験した人では、経験していない人と比較して、全ての人権施策において「拡充すべき」の回答割合が上回っており、「人権相談窓口」が41.3%で最も高い。人権侵害事象を経験した人は、人権施策をさらに推進すべきだと考えていることがうかがえる。

以上のことから、人権侵害事象を経験した人は相談窓口の拡充を一番に挙げており、人権啓発だけでなく、人権救済に関わる取組みもさらに推進していく必要がある。

図表 3-11 人権侵害事象への接触の有無別 人権施策の今後の方向
【最近5年間に人権侵害事象を経験した人】



【最近 5 年間に人権侵害事象を経験していない人】



1-7. 社会参加について

○40 歳代以下の社会参加の割合が低い。

○どうすれば社会参加したくなるかについて、「内容を魅力的なものに見直す」が約4割で最も高く、次いで「関心がない」が高い。

■参加経験の低い層には、内容を魅力的なものにするなど工夫し、さまざまな機会や広報を通じて啓発していく必要がある。

1-7-1. 社会参加の状況（問6）

「人権上の課題を有する人やその支援者との交流会」や「子どもの居場所づくりや高齢者の見守りなど地域の自主的な活動」の参加状況について、年齢別でみると、「参加したことがある」では、70 歳以上が 14.4%で最も高く、60 歳代が 12.0%、50 歳代が 11.6%と続いており、40 歳代が 4.8%で最も低い（図表 2-25）。

1-7-2. 今後の参加意向（問6-1a）

今後また参加したいかということについては、「どちらとも言えない」と考える人が 46.0%と最も多いが、「参加したい」という人も 44.0%あり、「参加したくない」4.0%を大きく上回っている。（図表 2-26）。

1-7-3. 参加したくなる取組（問6-1b）

「参加したことがない」人が、どうすれば参加しようと思うかということについては、「内容を魅力的なものに見直す」が 40.3%で最も高いが、その一方で「関心がない」という人が 24.4%いる（図表 2-28）。

年齢別でみると、20～60 歳代では「内容を魅力的なものに見直す」が最も高く、70 歳以上では「関心がない」が最も高くなっている。また、「関心がない」では、40 歳代が 37.5%で最も高くなっている（図表 2-29）。

大阪府調査との比較では、参加しやすい時間や日時、場所で開催する取組の割合が大阪府調査に比べて低かったことから（図表 2-28）、「交流」「協働」の取組への参加の動機づけとなるよう、「内容を魅力的なものに見直す」など内容を工夫する必要がある。

1－8．住宅を選ぶ際に重視する立地条件（問7）

○30 歳代以下、60 歳代について忌避意識の高さがうかがえる。

住宅を選ぶ際に重視する立地条件については、物理的な立地条件以外では、「地域のイメージ」が約5割、「校区の教育水準や学力レベルの評判」が約2割で、同和地区に対する忌避意識（10.9%）や外国籍住民に対する忌避意識（6.5%）もみられた（図表2-30）。

大阪府調査と比較すると、今回調査では、「校区の教育水準や学力レベルの評判」、「近隣に低所得者が多いと言われているか」の割合が高く、「近隣に外国籍住民が多いと言われているか」、「近隣に同和地区があると言われているか」の割合が低くなっている（図表2-30）。

年齢別でみると、同和地区に対する忌避意識では、30歳代が16.7%で最も高く、18～29歳が15.6%、60歳代が13.9%と続き、これらの年齢層で全体の割合よりも高くなっている。

また、外国籍住民に対する忌避意識では、60歳代が10.2%で最も高く、次いで18～29歳が8.9%、30歳代が8.3%と続き、これらの年齢層で全体の割合より高くなっている（図表2-31）。

以上のことから、住宅を選ぶ際に重視する立地条件についての人権意識については、30歳代以下、60歳代に忌避意識があることがうかがえる。

1－9．人権上問題と思う採用面接時の質問（問8）

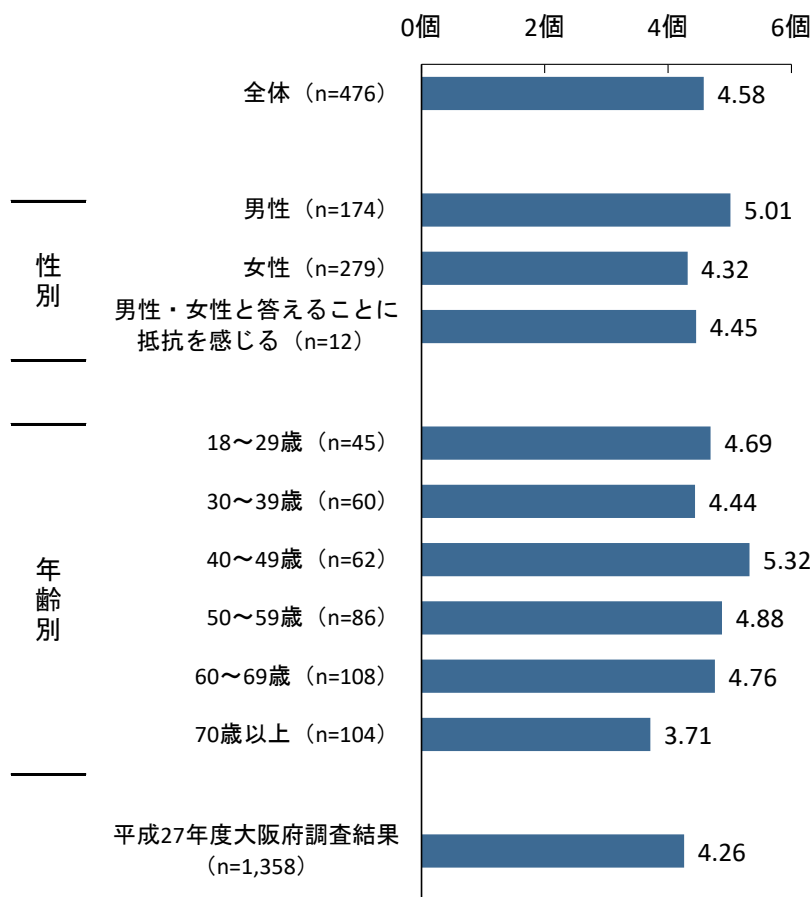
- 就職差別についての意識は、40～60歳代が高く、70歳以上が低い。
- 就職差別につながるおそれのある採用選考時の質問を網羅的に知っている人は4.4%で大阪府よりも高いが、どの年代においても1割にも満たない状況である。
- それぞれの質問がどのような人権課題と結びつくのか具体的に示すことで、自分に身近な問題として認識できるようにする必要がある。

人権上問題と思う採用面接時の質問については、「家族の状況（職業、続柄、健康、地位、学歴、年収、資産など）」、「宗教」が約6割で、その他の項目については5割以下となっており、「尊敬する人物」については1割も満たない状況で（図表2-32）、全体の平均回答個数は11個中4.58個であった。

大阪府調査では、平均回答個数は4.26個で、今回調査よりも低くなっている。

性別でみると、男性が5.01個で、女性（4.32個）よりも高く、年齢別でみると、40歳代が5.32個で最も高く、次いで50歳代が4.88個、60歳代が4.76個と続いており、70歳以上が3.71個で最も低くなっており、40～60歳代の就職差別についての意識が高いことがうかがえる。

図表 3-12 人権上問題と思う採用面接時の質問 平均回答個数

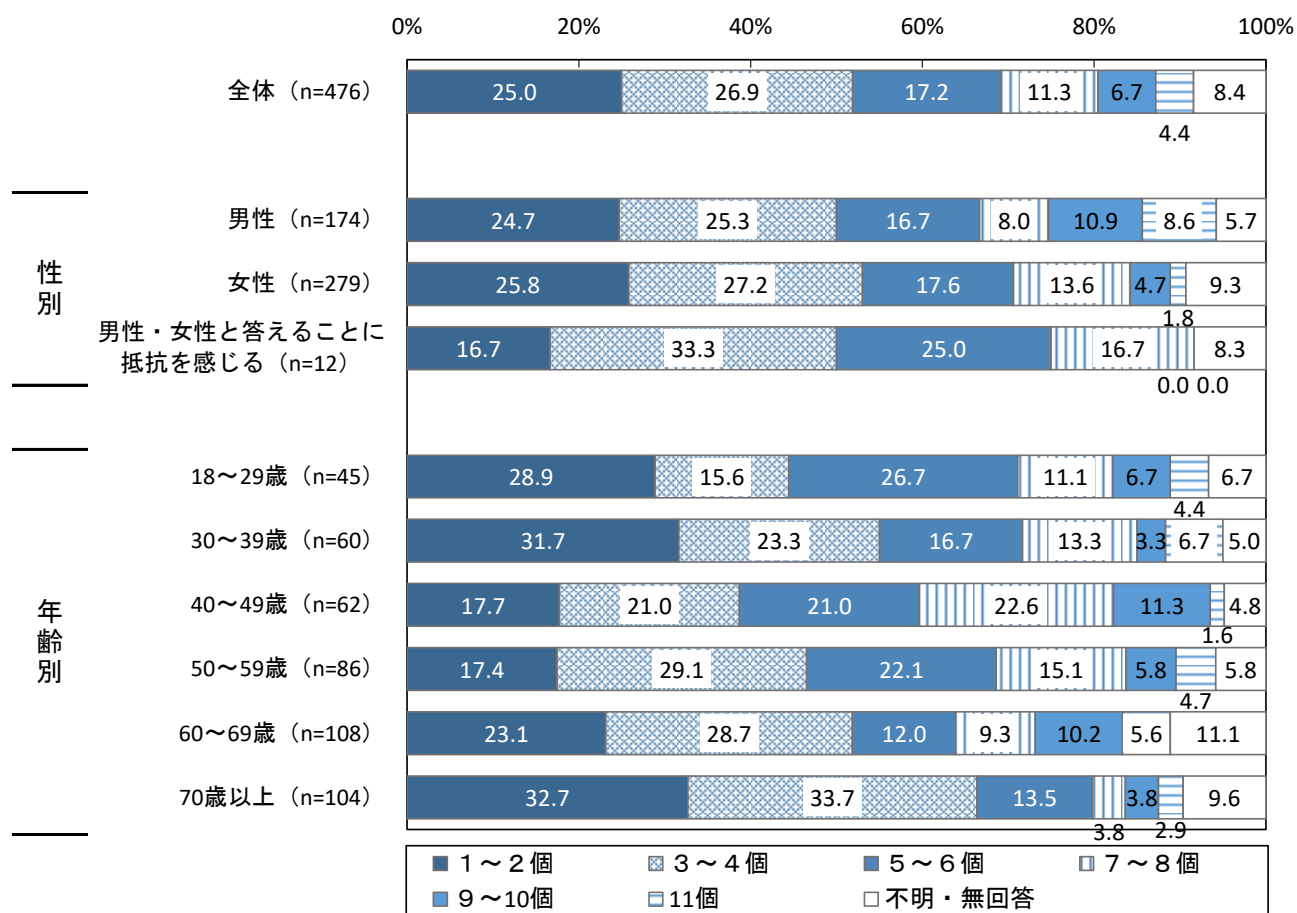


就職差別につながるおそれがある採用選考時の質問を網羅的に知っている人の割合（回答個数 11 個）は、今回調査では 4.4%（21 人）で、大阪府調査の 2.9%（40 人）よりも高い。

性別でみると、男性が 8.6%で、女性（1.8%）よりも 6.8 ポイント高く、年齢別でみると、30 歳代が 6.7%で最も高く、次いで 60 歳代が 5.6%、50 歳代が 4.7%と続いており、40 歳代が 1.6%で最も低い。

就職差別につながるおそれがある採用選考時の質問を網羅的に知っている人はどの年齢層でも約 1 割にも満たない状況であることから、人権課題とどのように結びつくのか具体的に示して意識を高めるなど、あらゆる年齢層を対象に啓発を強化する必要がある。

図表 3-13 人権上問題と思う採用面接時の質問 回答個数



1-10. 結婚相手を選ぶ際に重視すること（問9）

- 年齢が低いほど「趣味や価値観」「家事や育児に対する理解と協力」を重視する傾向がある。
- 年齢が低いほど結婚相手を選ぶ際に重視する項目が多い。

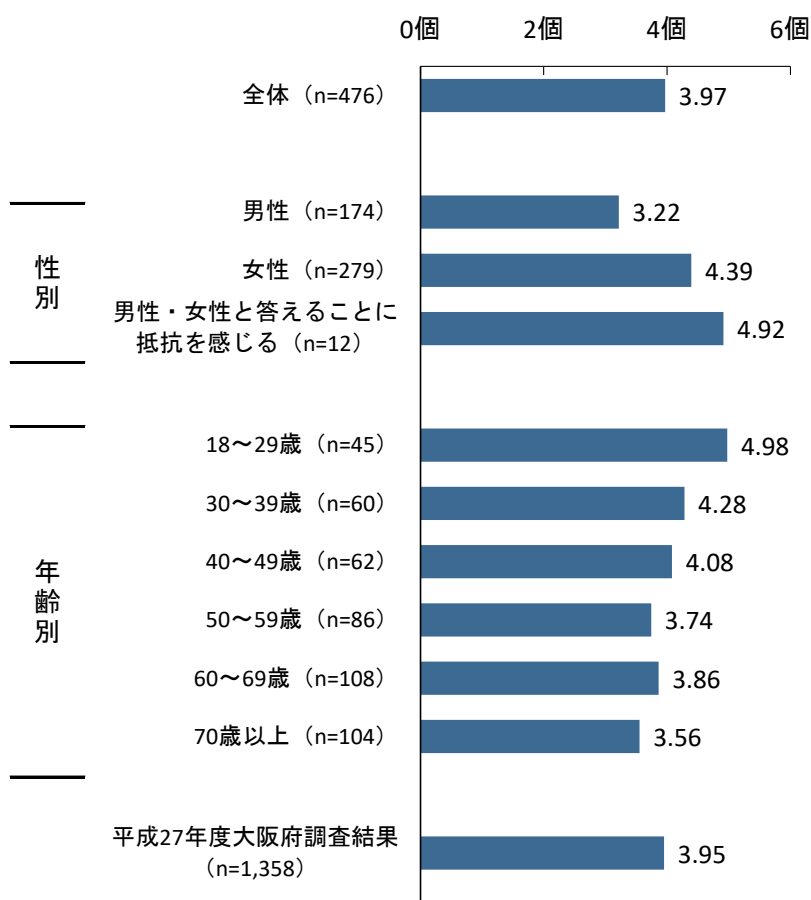
結婚相手を選ぶ際に重視することについて、性別でみると、男性、女性いずれも「人柄や性格」が最も高く、次いで「趣味や価値観」となっているが、男性では「仕事に対する理解と協力」が続いており、女性では「経済力」が続いている（図表 2-36）。

また、年齢別でみると、全ての年齢層で「人柄や性格」が最も高くなっているが、18～29 歳では次いで「趣味や価値観」、「家事や育児に対する理解と協力」が高く、30 歳代では次いで「趣味や価値観」、「仕事に対する理解と協力」が高く、40 代では「趣味や価値観」、「仕事に対する理解と協力」・「経済力」（同割合）が高く、50～60 歳代では「趣味や価値観」、「経済力」が高く、70 歳以上では「仕事に対する理解と協力」、「経済力」が高い。

さらに、年齢が低いほど「趣味や価値観」、「家事や育児に対する理解と協力」の割合が概ね高くなる傾向がみられる。

加えて、その他を除いた回答個数の平均をみると、性別では、女性が 4.39 個で男性（3.22 個）を上回り、年齢別では 18～29 歳が 4.98 個で最も多く、年齢が上がるにつれて概ね平均回答個数が少なくなっている。

図表 3-14 人結婚相手を選ぶ際に重視すること 平均回答個数（その他を除く）



1－11．結婚についての意識（問10）

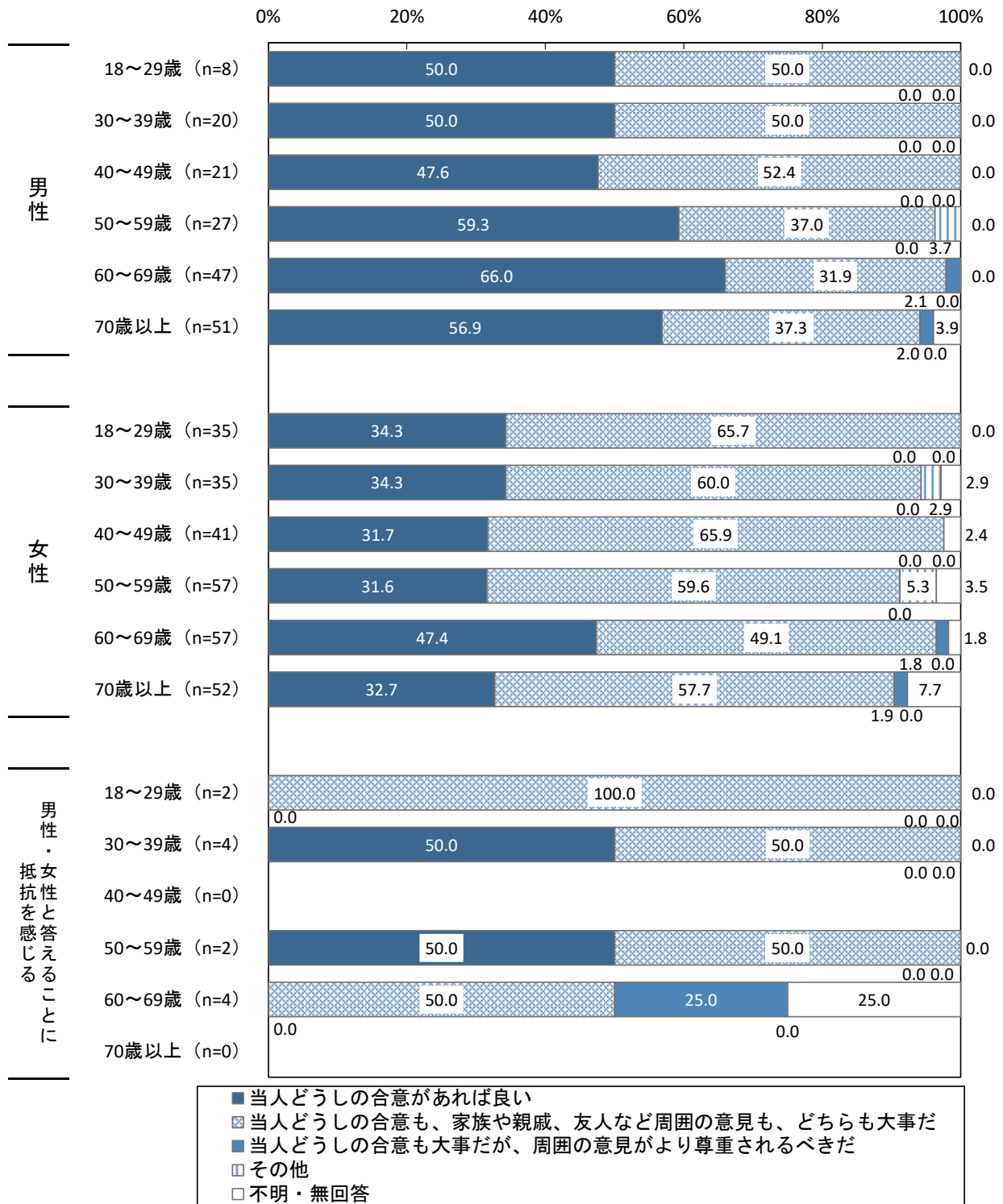
- 男性では、50 歳以上の年齢層で当人どうしの合意があれば良いと考えているが、年齢が下がるにつれ周囲の意見も大事だと考えている傾向がある。
- 女性では全ての年齢層で、当人どうしの合意に加え周囲の意見も大事であると考えている傾向がある。

結婚についての意識について、性別でみると、男性では当人どうしの合意があれば良いと考える傾向があるのに対し、女性では当人どうしの合意に加え周囲の意見を考慮する傾向があることが分かった（図表 2-38）。

性別・年齢別でみると、男性では、30 歳代以下では「当人どうしの合意があれば良い」と「当人どうしの合意も、家族や親戚、友人など周囲の意見も、どちらも大事だ」が同率で、40 歳代では「当人どうしの合意も、家族や親戚、友人など周囲の意見も、どちらも大事だ」が最も高く、50 歳代以上では「当人どうしの合意があれば良い」が最も高い。

一方、女性では、すべての年齢層で「当人どうしの合意も、家族や親戚、友人など周囲の意見も、どちらも大事だ」が最も高くなっている。

図表 3-15 性別・年齢別 結婚についての意識



1-12. 人権侵害事象への接触について

1-12-1. 人権侵害事象への接触の状況・分野（問11、問11-1）

- 男性より女性の方が人権侵害事象への接触の割合が高い。
- 年齢が低いほど人権侵害事象への接触の割合が高い。
- 18～29歳では「子ども」、それ以上の年齢層では「セクハラ・パワハラ」に関する人権問題に接触する割合が高い。

人権侵害事象への接触の状況について、性別では、男性より女性の接触した割合が高く、年齢別では、年齢が低くなるにつれて割合が高くなり、18～29歳が53.3%で最も高い（図表2-40）。

人権侵害事象の分野について、男性では「セクハラ・パワハラ」が37.5%で最も高く、次いで「障がい者」（10.7%）と続いており、女性では「子ども」が20.9%で最も高く、次いで「セクハラ・パワハラ」（19.1%）と続いている。

年齢別でみると、18～29歳では「子ども」が最も高く、30歳代では「障がい者」・「セクハラ・パワハラ」が最も高く、40～60歳代では「セクハラ・パワハラ」が最も高く、70歳以上では「高齢者」・「障がい者」・「セクハラ・パワハラ」が最も高くなっている（図表2-42）。

1-12-2. 人権侵害事象の内容（問11-2）

- 性別、年齢によって接触する人権侵害事象の内容は異なる。

人権侵害事象の内容について、男性では「あらぬ噂、悪口、かげ口」・「名誉き損、侮辱」がいずれも19.6%で最も高く、次いで「不平等、不利益な扱い」が14.3%と続いている。

女性では「あらぬ噂、悪口、かげ口」が27.3%で最も高く、次いで「不平等、不利益な扱い」が20.9%と続いている。

年齢別でみると、18～29歳では「不平等、不利益な扱い」（33.3%）が最も高く、30歳代では「あらぬ噂、悪口、かげ口」・「不平等、不利益な扱い」（いずれも25.8%）が最も高く、40歳代では「あらぬ噂、悪口、かげ口」（34.5%）が最も高く、50歳代では「あらぬ噂、悪口、かげ口」（22.9%）が最も高く、60歳代では「名誉き損、侮辱」・「不平等、不利益な扱い」（いずれも20.0%）が最も高く、70歳以上では「あらぬ噂、悪口、かげ口」が47.1%で最も高くなっている（図表2-44）。

人権侵害事象の分野別に内容をみると、「セクハラ・パワハラ」では「嫌がらせ」が23.3%で最も高く、次いで「名誉き損、侮辱」・「不平等、不利益な扱い」が18.6%と続いている。

「子ども」では「いじめ」が40.7%で最も高く、次いで「虐待」が33.3%と続いている。

「障がい者」では「あらぬ噂、悪口、かげ口」が29.2%で最も高く、次いで「不平等、不利益な扱い」が25.0%と続いている。

図表 3-16 人権侵害事象の分野別内容

		回答者数	か あ ら ぬ 噂 、 悪 口 、 か げ 口	名 誉 き 損 、 侮 辱	暴 力 、 脅 迫 、 強 要	扱 不 平 等 、 不 利 益 な	い じ め	虐 待	嫌 が ら せ	仲 間 は ず れ	ブ ラ イ バ シ ー の 侵 害	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体		172 100.0	42 24.4	23 13.4	13 7.6	34 19.8	15 8.7	16 9.3	14 8.1	2 1.2	3 1.7	10 5.8	0 0.0
人 権 侵 害 事 象 の 分 野	女性	15 100.0	7 46.7	0 0.0	2 13.3	5 33.3	0 0.0	0 0.0	1 6.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	子ども	27 100.0	1 3.7	1 3.7	2 7.4	2 7.4	11 40.7	9 33.3	0 0.0	1 3.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	高齢者	10 100.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	6 60.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	障がい者	24 100.0	7 29.2	3 12.5	3 12.5	6 25.0	1 4.2	1 4.2	2 8.3	0 0.0	0 0.0	1 4.2	0 0.0
	同和問題	5 100.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0
	外国人	5 100.0	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	H I V感染者・ハン セン病回復者	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	こころの病に関する 人権問題	5 100.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	犯罪被害者	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	ホームレス	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	性的マイノリティ	8 100.0	4 50.0	2 25.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0
	職業や雇用をめぐる 人権問題	9 100.0	0 0.0	2 22.2	0 0.0	7 77.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	セクハラ・パワハラ	43 100.0	3 7.0	8 18.6	5 11.6	8 18.6	3 7.0	0 0.0	10 23.3	0 0.0	0 0.0	6 14.0	0 0.0
	ネット上での誹謗中 傷	11 100.0	5 45.5	3 27.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 9.1	2 18.2	0 0.0	0 0.0
	ヘイトスピーチ	6 100.0	1 16.7	3 50.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0
	その他	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

1-12-3. 人権侵害事象の接触場所（問11-3）

○人権侵害事象を見聞きする場所は「職場」が約4割と最も高い。

■職場における「セクハラ・パワハラ」や「障がい者」等への人権侵害を防ぐため、事業主に対し啓発を強化することが望まれる。

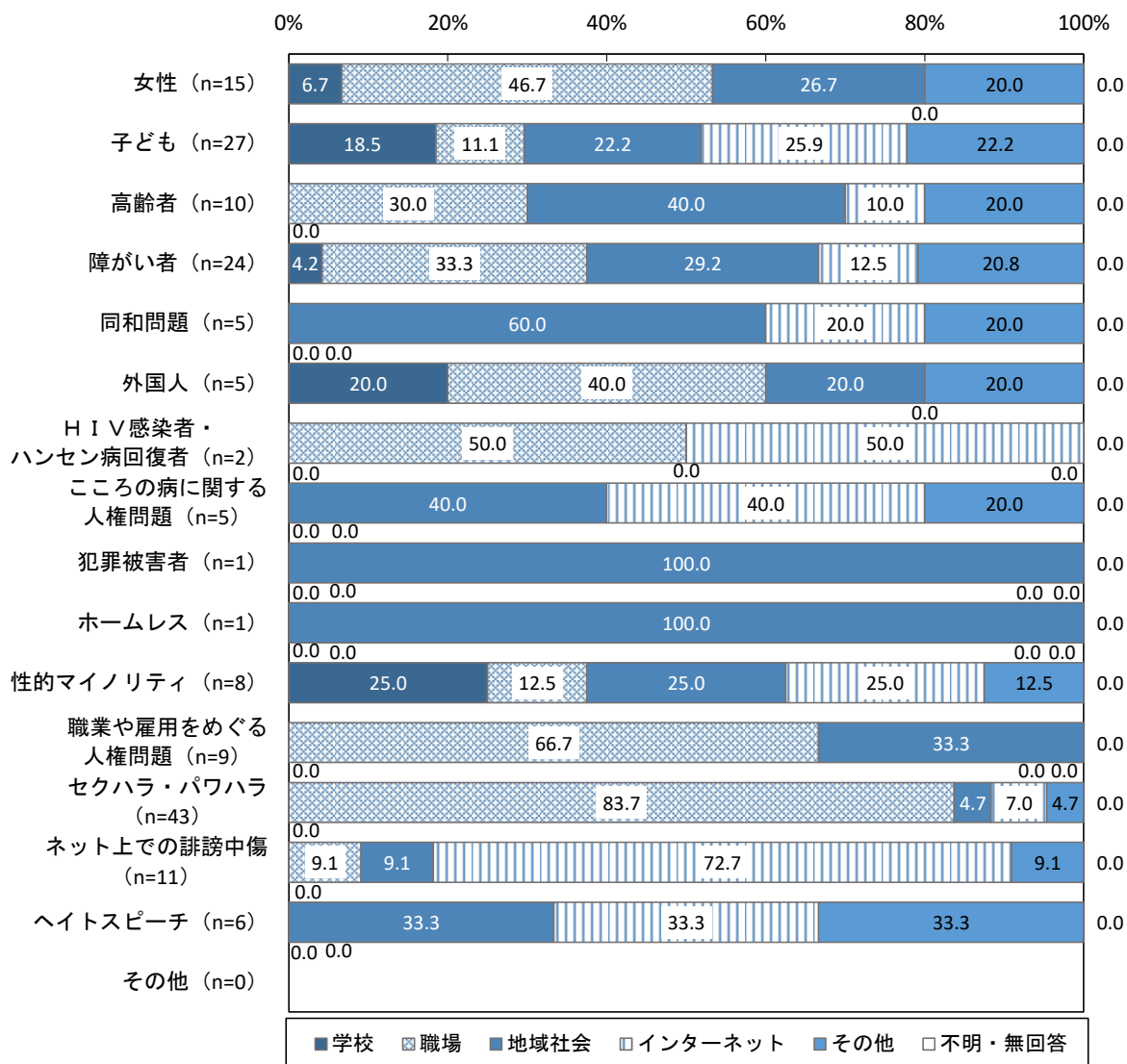
人権侵害事象の接触場所について、性別でみると、男性・女性いずれも「職場」が最も高いが、男性では次いで「インターネット」が高く、女性では次いで「地域社会」が高くなっている（図表2-46）。

年齢別でみると、60歳代以下では「職場」が最も高く、70歳以上では「地域社会」が最も高い。

また、分野別に接触場所をみると、「セクハラ・パワハラ」では「職場」が83.7%で最も高く、「子ども」では「インターネット」が25.9%で最も高く、「障がい者」では「職場」が33.3%で最も高い。

これらのことから、職場での人権侵害をなくすため、男女雇用機会均等法や、障害者差別解消法、また障害者雇用促進法などを事業主に対し周知・啓発を強化することで、事業主が適切に対処できるようにすることが望まれる。また、地域社会やインターネット上での人権侵害への対応についても取り組む必要がある。

図表3-17 人権侵害事象の分野別接触場所



1-12-4. 人権侵害事象の対象（問11-4）

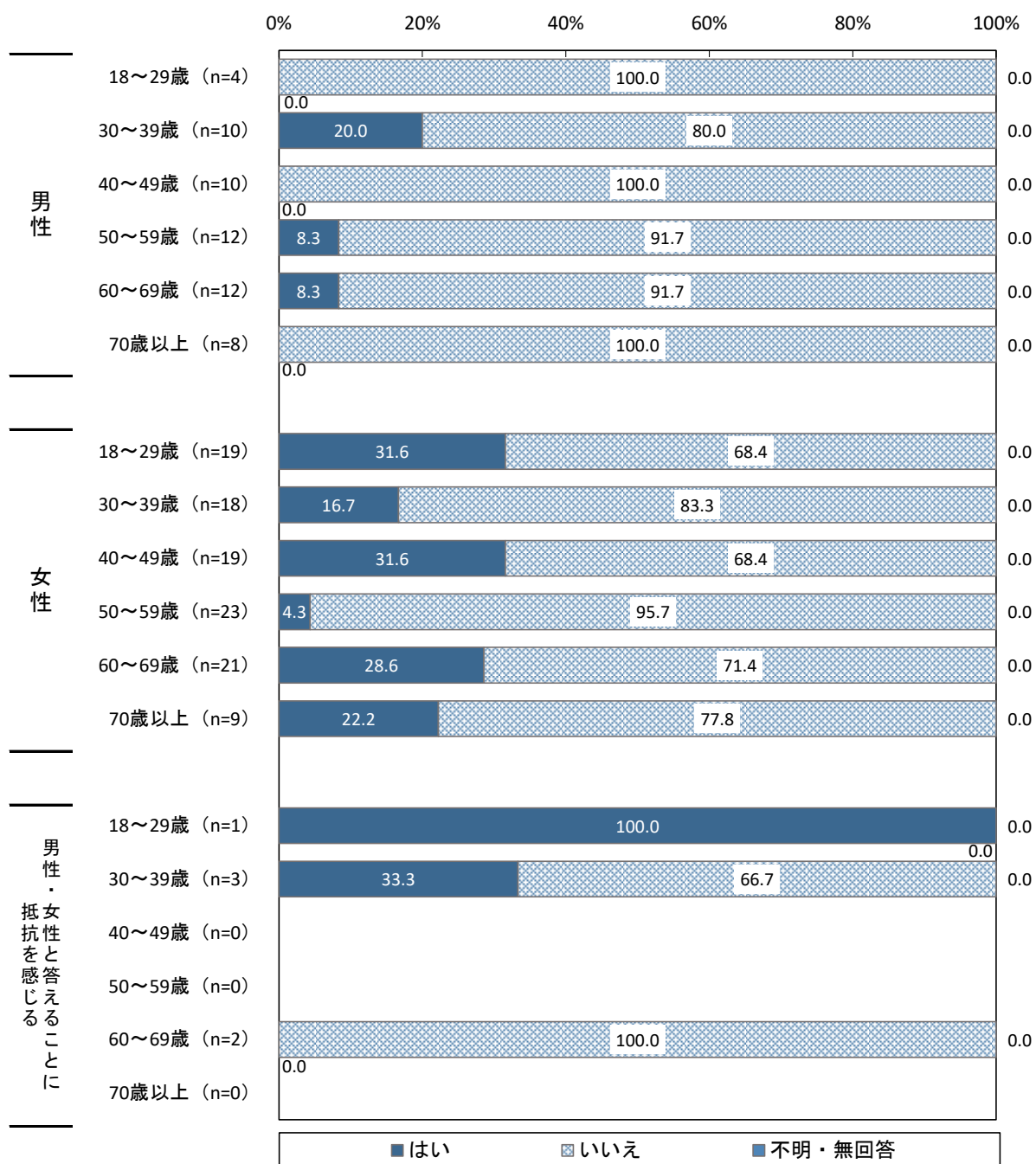
○人権侵害事象の対象が自分であると回答した人は、18～29歳・40歳代の女性の割合が高い。

人権侵害事象の対象が自分に対するものだったという人が、女性では21.8%で、男性の7.1%よりも高くなっている。

年齢別でみると、18～29歳が29.2%で最も高く、次いで40歳代が20.7%と続いている（図表2-48）。

また、さらに性別・年齢別でみると、18～29歳女性、40歳代女性の割合が31.6%で最も高い。

図表 3-18 性別・年齢別 人権侵害事象の対象



1－12－5. 人権侵害事象に対したった行動・解決したかどうか
(問11－5a、問11－6a)

- 人権侵害事象に対して約6割弱の人が我慢している。
- 人権侵害事象は約7割が解決していない。
- 人権侵害事象に遭った場合、我慢することのないよう、相談窓口の情報をさらに周知させる必要がある。
- 人権侵害事象に遭った場合、指摘するなど解決に向けた行動がとれるよう、人権教育に取り組む必要がある。

人権侵害事象に対したった行動については、「我慢した」が56.7%で最も高く、次いで「相談した」が20.0%、「抗議、反論した」が16.7%と続き、6割弱の人が我慢していることが分かった。

また、大阪府調査と比較すると、「抗議、反論した」という割合が低く、「我慢した」が大阪府調査(47.8%)よりも8.9ポイント高くなっている(図表2-49)。

人権侵害事象が解決したかどうかについては、「解決しなかった」が70.0%で最も高く、次いで「解決した」が23.3%、「その他」が6.7%となっており、約7割が解決していないことがわかった。

また、大阪府調査と比較すると、「解決しなかった」では、大阪府調査が59.7%で、今回調査が10.3ポイント高くなっている(図表2-51)。

1-12-6. 人権侵害事象に対しとった行動（問11-5b）

○人権侵害事象を見聞きしても「何もしなかった」人が4割いる。

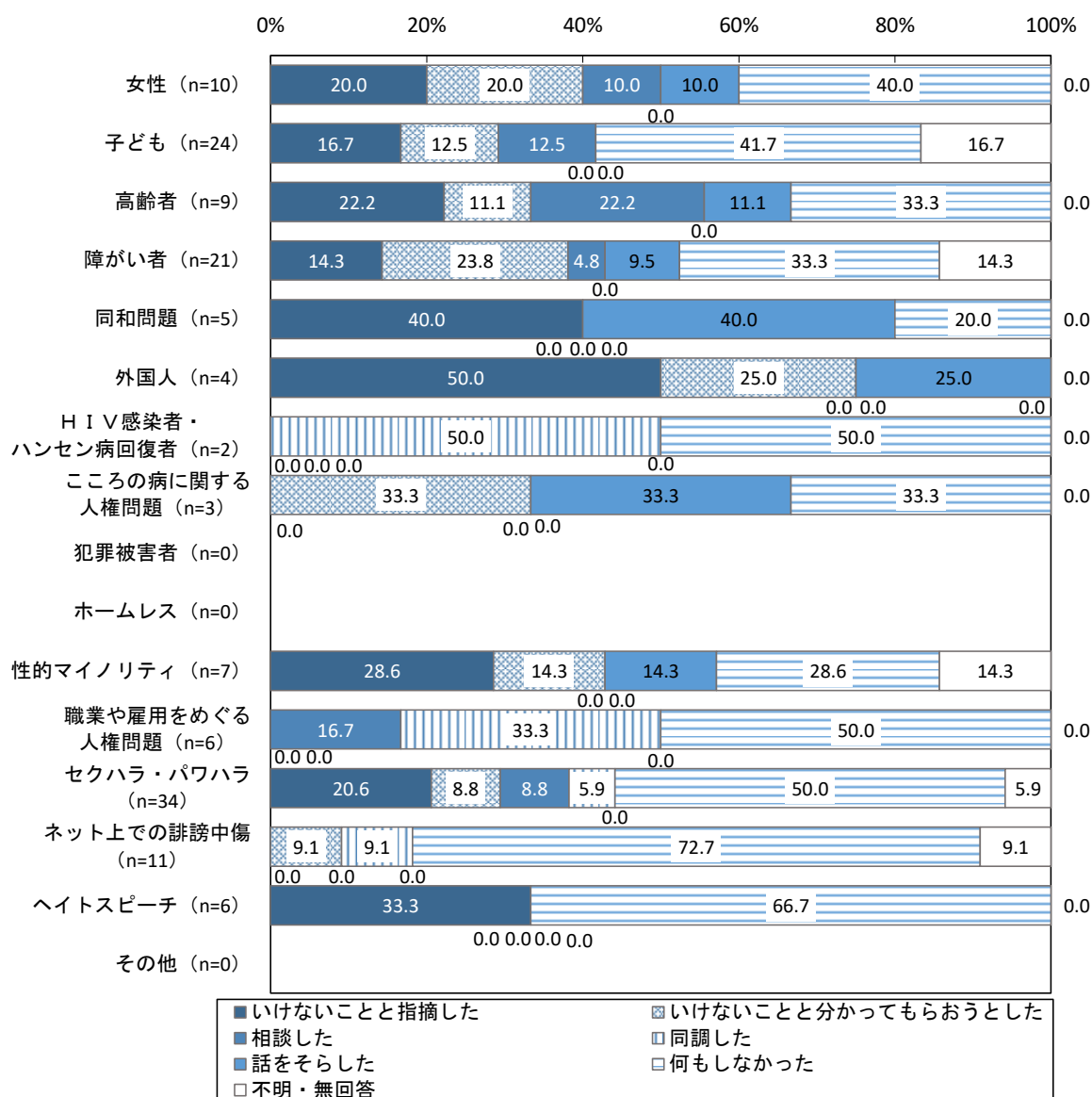
■差別を許さない行動をとることが人権問題の解決に求められているということを教育・啓発していく必要がある。

人権侵害事象の対象が自分以外だった場合の行動については、「何もしなかった」が43.0%で最も高く、次いで「いけないことと指摘した」が18.3%、「いけないことと分かってもらおうとした」が12.7%と続いており、約4割の人が人権侵害事象を見聞きしても行動しないことがわかった。

年齢別でみると、いずれの年齢層でも「何もしなかった」が最も高くなっている（図表2-54）。

また、人権侵害事象の分野別にとった行動をみると、「何もしなかった」が多くなっている。

図表3-19 人権侵害事象の分野別事象に対しとった行動



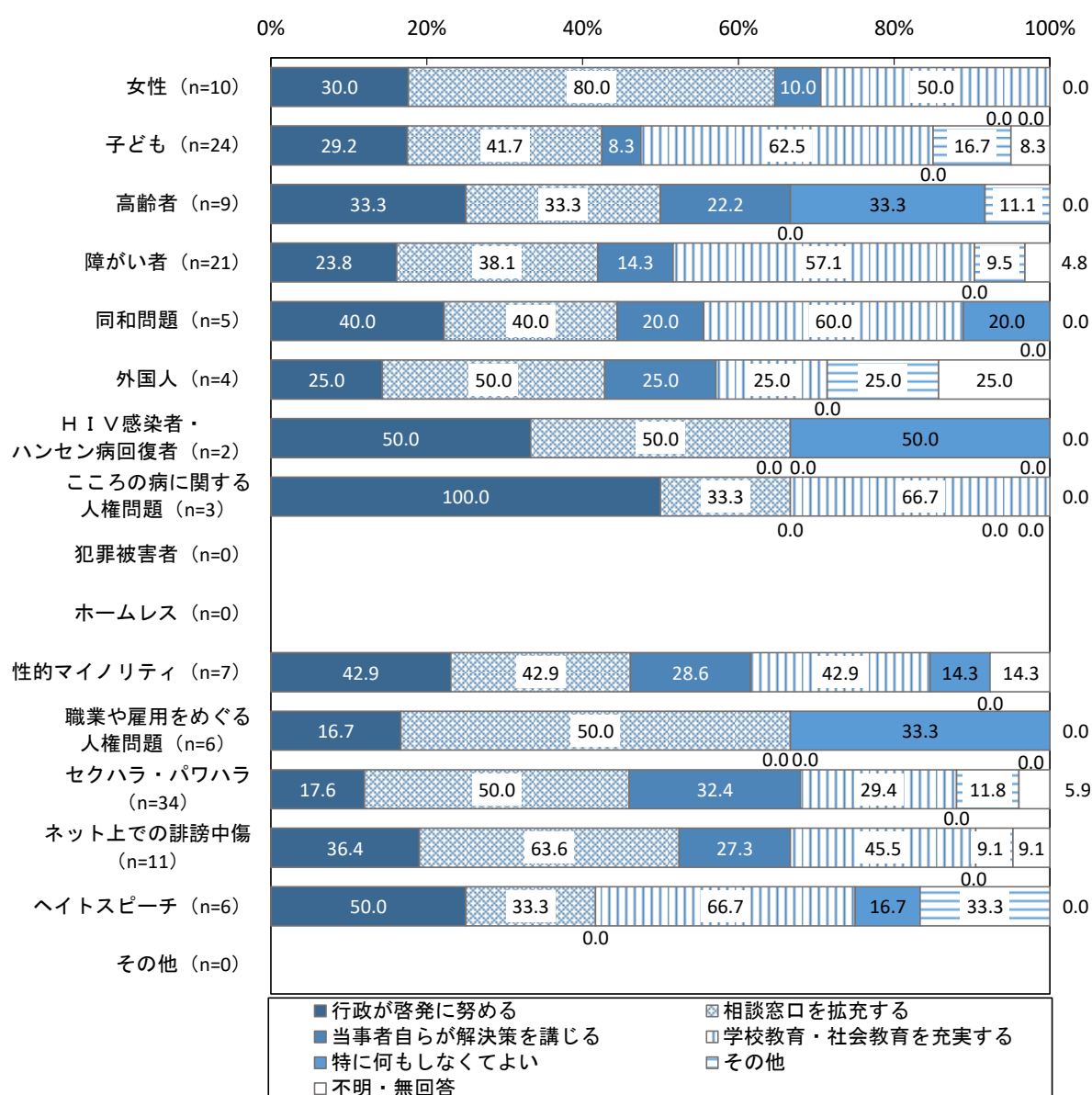
1-12-7. 人権侵害に必要な対策（問11-6b）

○人権侵害に必要な対策として、「相談窓口」の拡充や「学校教育・社会教育」の充実を望む声が多い。

人権侵害に必要な対策については、年齢別でみると、18～29歳と30歳代、60歳代では「学校教育・社会教育を充実する」が最も高くなっている。30歳代、60歳代については「相談窓口を拡充する」も同様に高く、40～50歳代、70歳以上では「相談窓口を拡充する」が最も高くなっている（図表2-56）。

また、人権侵害事象の分野別に必要な対策をみると、「セクハラ・パワハラ」では「相談窓口を拡充する」が最も高く、「子ども」、「障がい者」では「学校教育・社会教育を充実する」が最も高くなっている。

図表3-20 人権侵害事象の分野別必要な対策



1-13. 人権から連想する言葉（問12）

- 人権から連想する言葉は「平等」「自由」が多いが、「差別」と回答する人が4割いる。
- 人権という言葉を否定的に捉えている人は男性では30歳代・60歳代が多く、女性では18～29歳以下・70歳以上が多い。

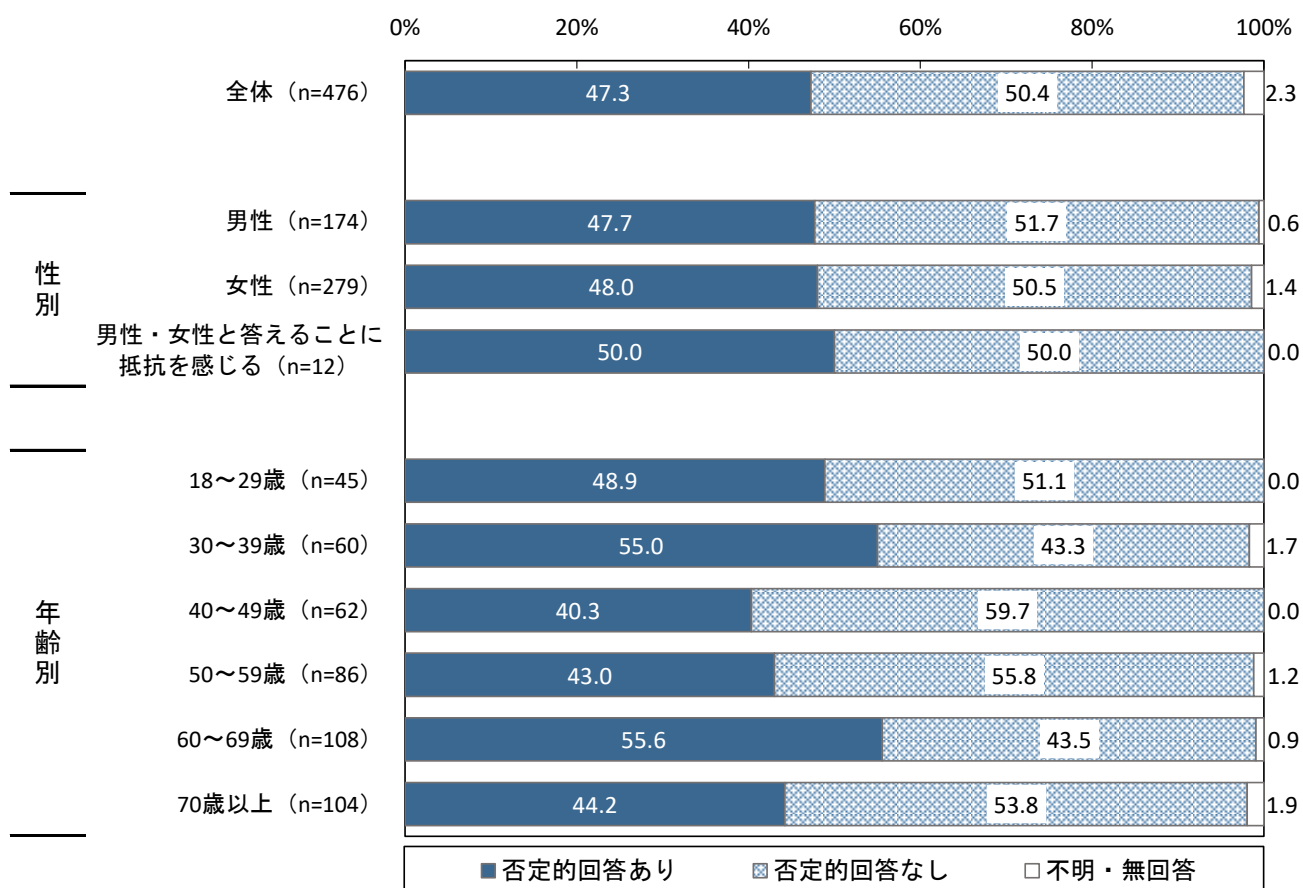
人権から連想する言葉については、「平等」が約8割で最も高く、次いで「自由」が5割と続く一方、「差別」（42.4%）や、「格差」（18.3%）、「暴力」（8.6%）など否定的にとらえた回答がある。

年齢別でみると、全ての年齢層で「平等」が最も高く、次いで「自由」が高くなっているが、30歳代のみ次いで「差別」が5割と高くなっている（図表2-58）。

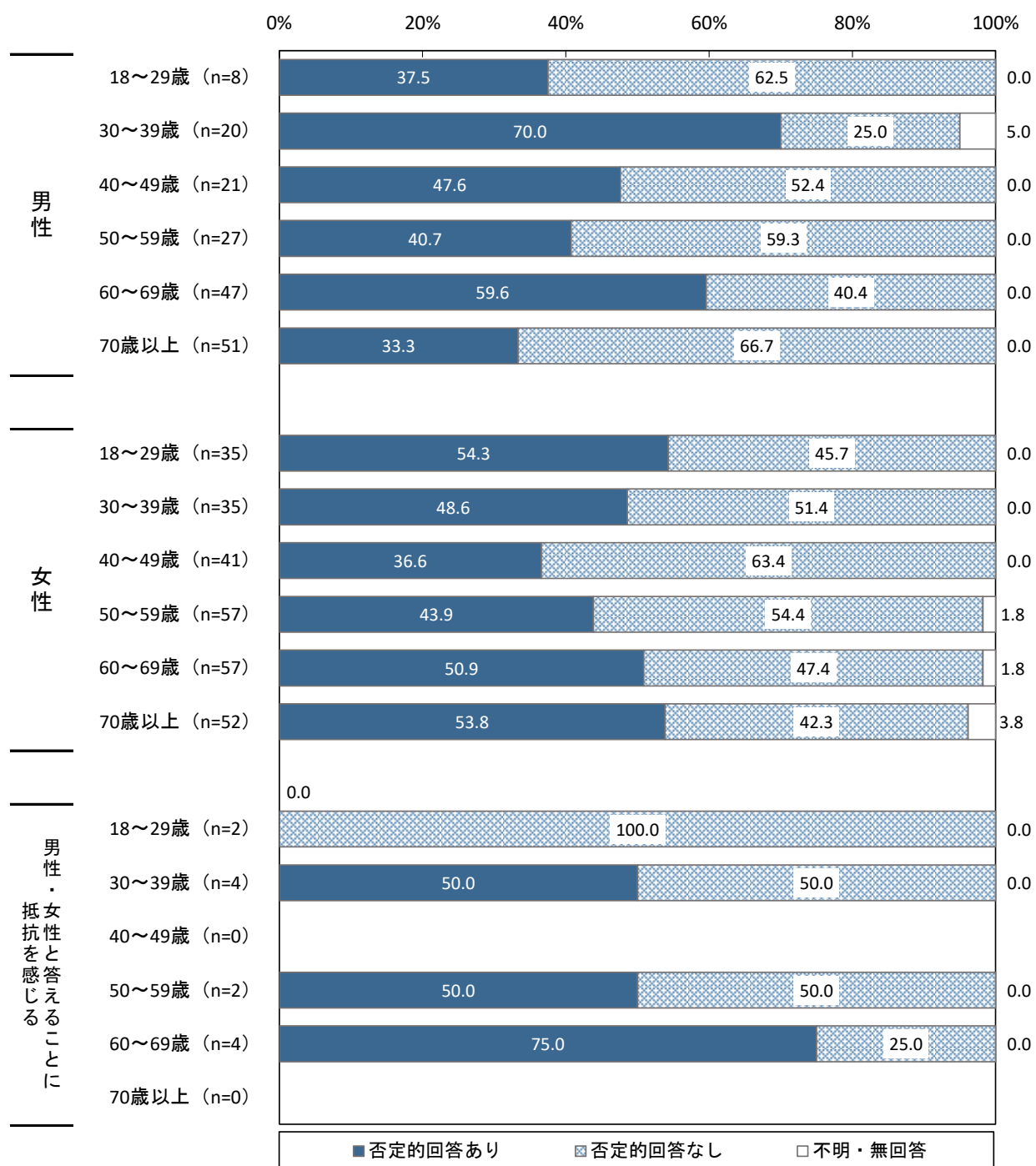
また、「抑圧」「格差」「差別」「暴力」「わがまま」と否定的に捉えた回答を1つ以上した人は、全体で47.3%となっている。

性別・年齢別でみると、男性では30歳代が70.0%で最も高く、次いで60歳代が59.6%となっており、女性では18～29歳が54.3%で最も高く、次いで70歳以上が53.8%となっている。

図表 3-21 人権から連想する言葉 否定的回答の有無



図表 3-22 性別・年齢別 人権から連想する言葉 否定的回答の有無



1-14. 人権に対する意識（問13）

- 非常に大切なことだと認識している人が 5 割いる一方、あまり意識したことがない人が 4 割弱いる。
- 男性の方が「非常に大切なことだと認識している」割合が高く、女性の方が意識したことがない割合が高い。
- 自分に身近な問題として人権を認識できるようにする取り組みが必要である。

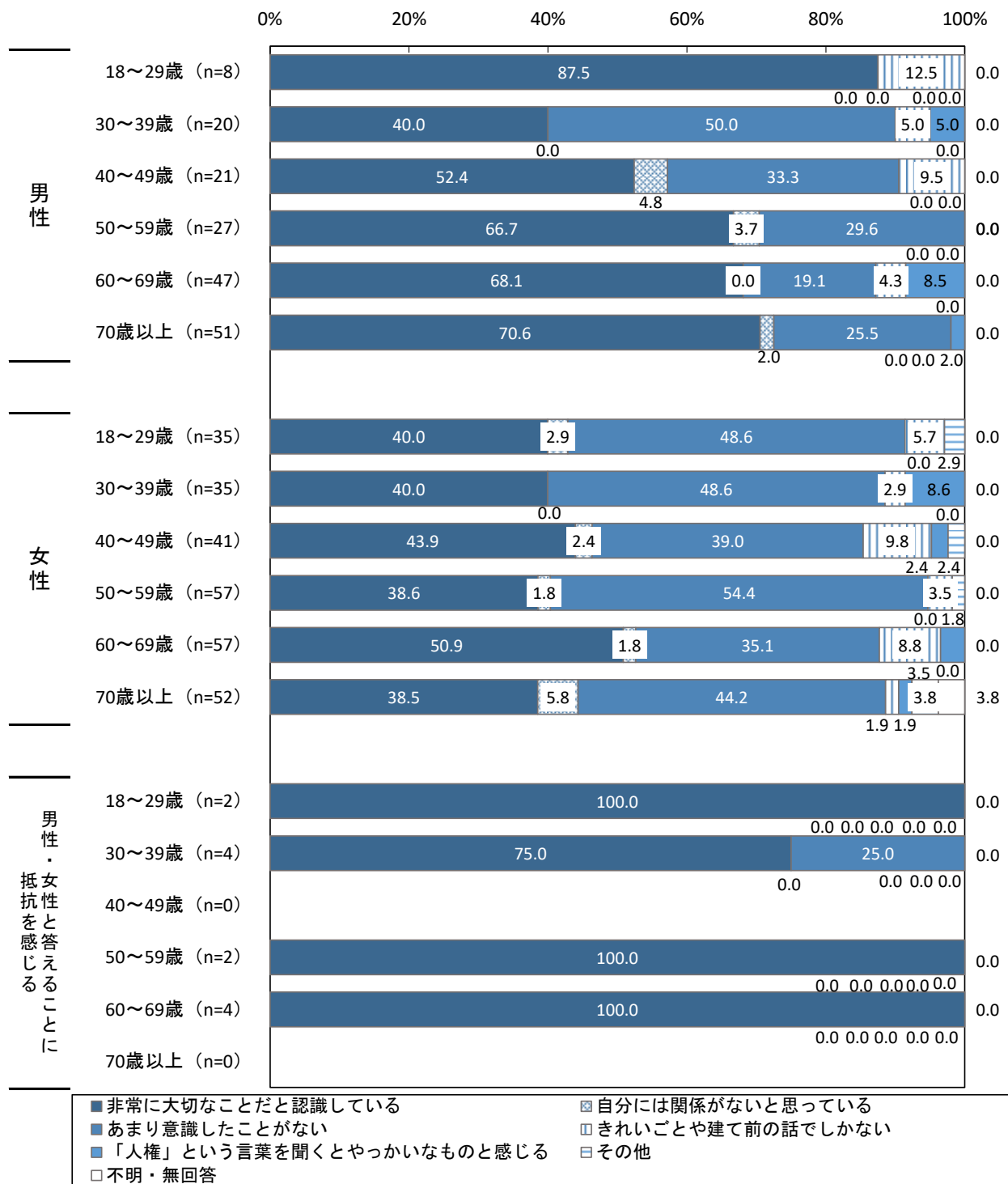
人権に対する意識については、「非常に大切なことだと認識している」が 51.3%で過半数を占め、「あまり意識したことがない」(36.8%) の意識しない人が 4 割弱いる一方、「きれいごとや建て前の話でしかない」(4.4%)、「『人権』という言葉を知るとやっかいなものと感じる」(2.7%) と否定的な意見がある。

性別でみると、男性では「非常に大切なことだと認識している」が最も高く、女性では「あまり意識したことがない」が最も高くなっている。

また、否定的な意見である「自分には関係がないと思っている」と「きれいごとや建て前の話でしかない」、「『人権』という言葉を知るとやっかいなものと感じる」の合計を年齢別でみると、40 歳代が 14.5%で最も高く、次いで 60 歳代が 13.0%、30 歳代が 10.0%と続いており、50 歳代が 4.7%で最も低い（図表 2-59）。

性別・年齢別でみると、「非常に大切なことだと認識している」では、男性では 18～29 歳が 87.5%で最も高く、女性では 60 歳代が 50.9%で最も高い。「あまり意識したことがない」では、男性では 30 歳代が 50.0%で最も高く、女性では 50 歳代が 54.4%で最も高い。

図表 3-23 性別・年齢別 人権に対する意識



1-15. 憲法で保障される権利に対する認知度（問14）

○さまざまな権利の認知度について、60歳代が最も高く、30歳代が最も低い。

○さまざまな権利の意味を知らないという人が1割から3割いる。

■憲法で定められたさまざまな権利についての教育が重要と言える。

さまざまな権利の認知度について、性別でみると、「言葉も意味も知っている」では全ての項目において男性の方が割合が高くなっている。

年齢別でみると、「言葉は知っているが、意味はよく知らない」「言葉も意味も知らない」など、さまざまな権利や自由の意味を知らないという人が1割から3割いる（図表2-61）。

また、「言葉も意味も良く知っている」を2点、「言葉は知っているが、意味はよく知らない」を1点、「言葉も意味も知らない」を0点の2点満点で点数化し（不明・無回答は集計から除く）、以下の表に示した。

年齢別でみると、差が最も大きい質問項目は「参政権」で、60歳代が1.83点で最も高く、30歳代が1.43点で最も低く、差が0.40点となっている。また、次の差が大きい質問項目として「財産の保障」で、60歳代が1.62点で最も高く、30歳代が1.25点で最も低く、差が0.37点となっている。

また、全ての質問項目を合計した点数では60歳代が24.31点で最も高く、次いで50歳代、18～29歳と続いており、30歳代が最も低い。

図表3-24 憲法で保障される権利に対する認知度 点数化

	回答者数	思想・良心の自由	宗教の自由	学問の自由	表現の自由	居住・移転の自由	職業選択の自由	財産の保障	奴隷的拘束からの自由	生存権	教育を受ける権利	労働の権利	労働基本権	参政権	幸福追求権	合計
全体	476	1.69	1.84	1.82	1.82	1.77	1.83	1.51	1.44	1.69	1.88	1.77	1.62	1.65	1.10	23.43
性別																
男性	174	1.76	1.87	1.84	1.84	1.79	1.86	1.56	1.59	1.73	1.89	1.77	1.68	1.80	1.26	24.23
女性	279	1.66	1.83	1.82	1.81	1.77	1.82	1.47	1.36	1.67	1.88	1.76	1.59	1.57	1.00	23.01
男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12	1.58	1.75	1.58	1.75	1.58	1.75	1.58	1.08	1.67	1.83	1.83	1.58	1.42	0.92	21.92
年齢																
18～29歳	45	1.73	1.80	1.80	1.84	1.73	1.84	1.41	1.42	1.74	1.91	1.86	1.72	1.58	1.28	23.68
30～39歳	60	1.60	1.77	1.68	1.72	1.63	1.71	1.25	1.31	1.53	1.76	1.69	1.57	1.43	1.09	21.74
40～49歳	62	1.70	1.89	1.82	1.87	1.78	1.82	1.52	1.49	1.64	1.88	1.76	1.56	1.50	1.05	23.28
50～59歳	86	1.72	1.88	1.83	1.86	1.80	1.84	1.56	1.46	1.69	1.92	1.75	1.65	1.71	1.13	23.78
60～69歳	108	1.77	1.87	1.92	1.89	1.84	1.90	1.62	1.45	1.78	1.96	1.87	1.64	1.83	0.96	24.31
70歳以上	104	1.63	1.81	1.78	1.73	1.75	1.81	1.53	1.47	1.70	1.82	1.69	1.59	1.69	1.16	23.16

第2章 調査結果まとめ

2-1. 調査結果から見られる課題

(1) 調査概要について

回収率は、前回（2012年）の33.6%から31.8%に低下し、大阪府調査の39.1%に比べても低い。性別では男性の割合が低下し、年齢別では59歳以下の割合が低下し18～29歳が最も低く18.0%となっており、18～29歳の年齢構成が9.5%で、実際の年齢構成比よりも少なくなっていることに注意が必要である。

(2) 調査結果について

【さまざまな人権問題に関する意識】

- HIV感染者やハンセン病回復者を避けることについて、問題があると思う人の割合は53.2%で大阪府調査の50.4%より高いが、一方で、問題がないと思う人の割合は23.5%で大阪府調査の21.7%より高く、HIV感染者やハンセン病回復者に対する認識に差がみられた。
- ホームレスを避けることについて、前回調査より減少しているが、依然として49.8%が問題がないと考えており、特に30・40歳代が顕著にみられる。
- 性別による障がい者に対する考え方や、年齢別による高齢者の人権問題、性的マイノリティの人権問題に対する考え方について、それぞれ意識に差がある。
- 同和問題について、若年層の認知度が低く、大阪府調査よりも低い。また、住宅を選ぶ際に重視する立地条件として、「近隣に同和地区があると言われていないか」は全体で10.9%あり、その中で、30歳代以下が他の年齢層よりも高くなっている。
- 外国人に関する人権問題や同和問題について、その問題を知っているにもかかわらず、住宅を選ぶ際に忌避意識がある。
- 早急に対応すべき人権問題として「子どもの人権問題」が1番に挙げられ、接触した人権侵害事象においても「セクハラ・パワハラ」に次いで高く、内容はいじめ（40.7%）や虐待（33.3%）の割合が高くなっている。
- 就職差別につながるおそれのある採用選考時の質問を網羅的に知っている人は1割にも満たない。

【「差別」についての基本的な認識】

- 「差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ」と考える人が約4割、「差別の原因には、差別される人の側にも問題があることも多い」と考える人が約3割で、前回調査より減少しているが、差別される側に原因や問題があると考えている人は依然として存在する。
- 普段から「人権を非常に大切なものだ」と認識している人は、差別に対する考え方にも積極的な態度が見られる。

- 差別解消に向けた将来の展望については、前回よりも悲観的に考えている人が増加しており、特に若い世代においてみられる。

【人権侵害事象の解決に向けて】

- 人権侵害事象に対する行動について、対象が自分であった場合、我慢する人が6割弱で、また、約7割が最終的に解決していないことがわかった。一方、対象が自分以外だった場合、事象に対して何もしない人が約4割であった。
- 人権侵害に必要な対策として、相談窓口の拡充や学校教育・社会教育の充実を求める割合が多い。
- 人権侵害を体験した人の接触場所については、職場が約4割で最も多い回答であった。

【権利に対する認識について】

- さまざまな権利や自由の認知度について、その意味を知らない人が1割から3割みられ、幸福追求権の認知度が最も低い。年齢別では60歳代が最も高く、30歳代が最も低い。また、性別や年齢によって権利や自由の認知度についてばらつきがみられた。
- 人権から連想する言葉は「平等」「自由」が多いが、「差別」と回答する人が4割いる。
- 人権を非常に大切なことだと認識している人が5割いる一方、あまり意識したことがない人が4割弱いる。

2-2. 今後の人権施策の方向性

今後の人権教育・啓発の取組みとしては、憲法で明記されているさまざまな権利に対する教育、いわゆる「権利教育」を学校教育の段階から取組み、それを基礎とすることで、自分と社会との関係性の中で「人権」を捉え、それが実生活の中で密接に結びついているということを認識できるものでなければならない。

また、人権問題に傍観者であることが問題解決を遅らせ、差別を温存・助長することになることを認識し、自ら問題を指摘して解決に導くなどエンパワメントできる取組みが必要である。

このように、人権問題についての学習は、「人権」を自分との関係において学び、それをすべての人にとっての基本的人権として具体的に捉える学習でなければならない。

【基本的人権を具体的に捉える学習】

- 「人権」そのものに対する考え方が、実生活での態度や差別の解消に向けた姿勢と繋がっている。憲法で定められたさまざまな権利、いわゆる市民的権利と市民的自由について学び、基本的人権を自分自身や社会との関係で捉えることができるよう、権利教育への取り組みが重要である。

【さまざまな人権問題に対する正しい認識と理解】

- 同和問題について、若年層において認知度が低く、また同和地区を忌避する傾向があり、特措法終了後の同和教育の後退が懸念される。学校教育や社会教育での取り組みが必要である。
- ホームレスや外国人市民、H I V感染者やハンセン病回復者、性的マイノリティについて、正しい認識と理解をもつことが重要であり、教育・啓発を充実しなければならない。

【人権学習の取り組み方法】

- 女性と男性の結婚観の違いから、女性問題と同和問題、障がい者、外国人問題など、人権問題相互の関連に着目した複合学習への取り組みが求められる。
- 職場や学校、地域、また性別や年齢別などそれぞれの場面や対象に応じた人権学習を行うことが効果的である。また、人権学習に取り組む際には、趣味や実用的な学習においてもそれに関連した人権学習を行うことは可能であり、内容を工夫するなどして多様な層を対象に行うことも必要である。
- 取り組みの手法として、「啓発ポスターや街頭啓発」などで関心を高め、講演会や映画会につなぎ、また啓発冊子や研修会を活用するなど、課題に応じた効果的な取り組みが求められる。
- 知識習得型の学習から、実際の態度や行動に結びつくような実践的な学習へと転換を図るため、参加体験型の人権教育プログラムや教材を活用していくことも重要である。
- 人権問題の当事者やその支援者との交流事業は、人権課題の正しい認識や理解の促進に役立ち、課題解決に効果的であることから、自発的な参加を促す取り組みが必要である。

【人材の育成】

- 人権侵害に対する傍観的な態度は、結果的に問題解決には繋がらない。人権侵害について問題を正しく指摘するなど、自ら解決できる力を身につけ、エンパワーすることが望まれる。
- 人権課題が複雑・多様化している中で、地域社会や学校、職場、インターネット上などさまざまな場面で人権教育や啓発を担うリーダーとしての人材養成を図ることも課題である。

【人権相談の充実】

- 複雑・多様化する人権問題に対し、解決に導くための相談窓口の活用や利用促進に向けた周知、さらに相談員を支える人材の養成など相談システムの強化を図る必要がある。

IV 参考編

資料1 市民意識調査票

<参考>

富田林市 人権に関する市民意識調査

平成 29 年 7 月

○ 調査の目的

本市における今後の人権教育・啓発に関する施策の基礎資料として活用するため、市民のみなさまに、人権についてのお考えをお聞きするものです。

○ 対象者・人数

18 歳以上の市民 1,500 人（無作為抽出）

○ 回答方法

- ・ご本人が回答してください。
- ・質問に対して、あなたのお考えにあてはまる番号に直接 ○をつけ、または記入してください。
- ・無記名で回答してください。また、統計的に処理しますので、個人を特定することはありません。

○ 回答期限

ご回答いただいた調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、名前・住所等は書かずに 8 月 14 日（月）までにをお願いいたします。

【本調査に関する問い合わせ】

富田林市 市民人権部 人権政策課

〒584-8511 富田林市常盤町1番1号

電話 (0721) 25-1000 (代)

FAX (0721) 25-9037

MAIL jinken@city.tondabayashi.lg.jp

いろいろな人権問題に関する考え方について

問1 あなたは、次のことがらについて、人権上問題があると思いますか？（いずれか1つに○）

	1 問題があると思う	2 やや問題があると思う	3 あまり問題があると思 わない	4 問題があると思わない	5 何とも言えない
(1) 職場で顔を合わせるたびに「まだ結婚しないのか」と言う	1	2	3	4	5
(2) 中学生の携帯電話やスマートフォンの使用を親の判断で制限する	1	2	3	4	5
(3) 家族が不在の際、介護が必要な高齢者を家から出られなくする	1	2	3	4	5
(4) 視覚障がい者との会話ではテレビや映画、風景などは意識して話題にしないようにする	1	2	3	4	5
(5) 結婚する際、興信所や探偵業者などを使って相手の出自を調べる	1	2	3	4	5
(6) 同じマンションに住む外国人とは生活文化が異なり、日本語があまり話せないので、付き合わないようにする	1	2	3	4	5
(7) HIV感染者やハンセン病回復者とは一緒に食事や入浴をしない	1	2	3	4	5
(8) こころの病のある人には関わらないようにする	1	2	3	4	5
(9) 痴漢の被害者に「あなたにも問題があったのではないか」と言う	1	2	3	4	5
(10) 公園でホームレスが近づいてきたので、足早に立ち去る	1	2	3	4	5
(11) 職場で同性愛者と席が隣になることを嫌がる	1	2	3	4	5
(12) 人前で部下を長時間にわたり大声で叱る	1	2	3	4	5
(13) インターネットのサイトに他人の誹謗中傷を書き込む	1	2	3	4	5

(14)	災害時に支援が必要な人のリストを作成するため、自治会が住民に緊急時連絡先や疾病、障がいの有無などを尋ねる	1	2	3	4	5
(15)	ニートや引きこもりの人に「怠けていないで働きなさい」と言う	1	2	3	4	5
(16)	恋人や配偶者の携帯電話やスマートフォンの通信履歴を見る	1	2	3	4	5

いろいろな人権に関する意識や考え方について

問2 一般的に「差別」というものについて、あなたはどのような考えをお持ちですか？

(いずれか1つに○)

	1 そう思う	2 ややそう思う	3 あまりそう思わない	4 そう思わない	5 何とも言えない
(1) 差別は人間として恥ずべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない	1	2	3	4	5
(2) 差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ	1	2	3	4	5
(3) 差別問題に関心のない人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である	1	2	3	4	5
(4) 差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い	1	2	3	4	5
(5) 差別をなくすために、行政は努力する必要がある	1	2	3	4	5
(6) どのような手段を講じて、差別を完全になくすことは無理だ	1	2	3	4	5
(7) 差別を受けてきた人に対しては、解消するために行政の支援が必要だ	1	2	3	4	5
(8) 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	1	2	3	4	5

問3 あなたは、次の人権問題を知っていますか？（○はいくつでも）

- (1) 女性の人権問題（例：職場における差別待遇、性別役割分担意識）
- (2) 子どもの人権問題（例：いじめ、虐待、子どもの貧困）
- (3) 高齢者の人権問題（例：虐待、介護放棄）
- (4) 障がい者の人権問題（例：就職での不利な扱い、差別的言動）
- (5) 同和問題（例：結婚の際の周囲の反対、身元調査）
- (6) 外国人の人権問題（例：入居や入店の拒否）
- (7) HIV感染者やハンセン病回復者の人権問題（例：周囲の偏見、差別的言動）
- (8) こころの病（うつ病、依存症など）に関する人権問題
- (9) 犯罪被害者の人権問題（例：犯罪行為による精神的ショック、プライバシーの侵害）
- (10) ホームレスの人権問題（例：周囲の嫌がらせや暴力）
- (11) 性的マイノリティの人権問題（例：同性愛者に対する嫌がらせ）
- (12) 職業や雇用をめぐる人権問題（例：特定の職業や職種に対する偏見）
- (13) セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント
- (14) インターネットによる人権侵害（例：誹謗中傷、リベンジポルノ）
- (15) ヘイトスピーチ（例：特定の民族や国籍の人に対する差別的言動）

問3-1 これらのうち、急いで対応すべきものはどれだと思いますか？（3つまで）

--	--	--

問4 あなたは、人権問題についての情報や知識は主にどこで（何で）知りましたか？

（○はいくつでも）

- (1) 家族 (2) 友人・知人 (3) 広報紙・誌 (4) 新聞・TV・ラジオ
- (5) インターネット (6) 学校教育（ 小学校 ・ 中学校 ・ 高校 ・ 大学 ）
- 該当するものに○をつけてください。
- (7) 職場・地域での研修 (8) その他（ _____ ）

人権問題に対する行政の取組について

問5 あなたは、人権問題の解決に向けた次のような施策を知っていますか？
また、見て、あるいは利用・参加して役に立ちましたか？（いずれか1つに○）

	1 知らない	2 利用・参加したが ことはしない	3 役に立った	4 役に立たなかった	5 どちらとも言えない
(1) 啓発ポスターや街頭啓発	1	2	3	4	5
(2) 市のホームページなどインターネットを利用した啓発広報	1	2	3	4	5
(3) 啓発冊子（リーフレットなど）や教材	1	2	3	4	5
(4) 講演会・映画会	1	2	3	4	5
(5) 研修会	1	2	3	4	5
(6) 「とんだばやし人権フェア」などのイベント	1	2	3	4	5
(7) 作文、ポスターなどの募集、表彰	1	2	3	4	5
(8) 人権相談窓口	1	2	3	4	5
(9) 戸籍謄本等の第三者への交付をお知らせする事前登録型本人通知制度	1	2	3	4	5

問5-1 今後も続けていくべきだと思いますか？（いずれか1つに○）

	1 拡充すべき	2 現状のままで 継続すべき	3 縮小すべき	4 どちらとも言えない
(1) 啓発ポスターや街頭啓発	1	2	3	4
(2) 市のホームページなどインターネットを利用した啓発広報	1	2	3	4
(3) 啓発冊子（リーフレットなど）や教材	1	2	3	4
(4) 講演会・映画会	1	2	3	4
(5) 研修会	1	2	3	4
(6) 「とんだばやし人権フェア」などのイベント	1	2	3	4
(7) 作文、ポスターなどの募集、表彰	1	2	3	4
(8) 人権相談窓口	1	2	3	4
(9) 戸籍謄本等の第三者への交付をお知らせする事前登録型本人通知制度	1	2	3	4

問6 あなたは、「人権上の課題を有する人やその支援者との交流会」や「子どもの居場所づくりや高齢者の見守りなど地域の自主的な活動」に参加したことがありますか？

(いずれか1つに○)

(1) 参加したことがある	(2) 参加したことがない
---------------	---------------

問6-1a また参加したいですか？(いずれか1つに○)

- | | | |
|---------|-----------|-------------|
| 1 参加したい | 2 参加したくない | 3 どちらとも言えない |
|---------|-----------|-------------|

問6-1b どうすれば参加しようと思いますか？(○はいくつでも)

- | | |
|---|---------------------|
| 1 | 夜間など参加しやすい時間に実施する |
| 2 | 日曜・祝日など参加しやすい日に実施する |
| 3 | 内容を魅力的なものに見直す |
| 4 | 家や職場の近くで開催する |
| 5 | その他 () |
| 6 | 関心がない |

住まいのことや就職、結婚についての意識や考え方について

問7 あなたが家を買ったり借りたりする際に重視する(した)立地条件は何ですか？

(○はいくつでも)

- | | |
|------|---------------------------|
| (1) | 都心部、最寄り駅や幹線道路へのアクセス |
| (2) | 公共施設や商業、医療施設、公園や緑地などの状況 |
| (3) | 日照・眺望など |
| (4) | 周辺の住宅の状況(戸建て/集合、持ち家/賃貸など) |
| (5) | 地域のイメージ |
| (6) | 校区の教育水準や学力レベルの評判 |
| (7) | 近隣に低所得者が多いと言われていないか |
| (8) | 近隣に外国籍住民が多いと言われていないか |
| (9) | 近隣に同和地区があると言われていないか |
| (10) | その他 () |

問8 採用面接における質問で、あなたが人権上問題があると思うことはどれですか？

(○はいくつでも)

- (1) 国籍
- (2) 本籍・出生地
- (3) 家族の状況（職業、続柄、健康、地位、学歴、年収、資産など）
- (4) 住宅の状況（住宅の種類、間取り、部屋数、近隣の施設など）
- (5) 生活環境、家庭環境
- (6) 宗教
- (7) 支持政党
- (8) 人生観や生活信条
- (9) 尊敬する人物
- (10) 労働組合、学生運動など社会運動の経験
- (11) 購読新聞、雑誌、愛読書など

問9 あなたが結婚相手について重視する（した）ことはどんなことですか？（○はいくつでも）

- (1) 人柄や性格
- (2) 趣味や価値観
- (3) 仕事に対する理解と協力
- (4) 家事や育児に対する理解と協力
- (5) 経済力
- (6) 学歴
- (7) 職業
- (8) 家族構成
- (9) 家柄
- (10) 離婚歴
- (11) 国籍、民族
- (12) 相手やその家族が障がい者かどうか
- (13) 相手やその家族の宗教
- (14) ひとり親家庭かどうか
- (15) 本籍・出生地
- (16) その他（_____）

問10 結婚について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか？（いずれか1つに○）

- (1) 当人どうしの合意があればよい
- (2) 当人どうしの合意も、家族や親戚、友人など周囲の意見も、どちらも大事だ
- (3) 当人どうしの合意も大事だが、周囲の意見がより尊重されるべきだ
- (4) その他（_____）

人権侵害について

問 11 あなたは、最近5年間に人権上問題と思われる言動を身近で見聞きしたことがありますか？
複数ある場合は、一番印象に残っているものについてお答えください。(いずれか1つに○)

(1) ある	(2) ない
--------	--------

問 12 (9ページ) へ
進んでください

問 11-1 それはどのような人権問題に関するものでしたか？ (いずれか1つに○)

- | | | | |
|------------------|-------------------|-----------------------|----------------------|
| 1 女性 | 2 子ども | 3 高齢者 | 4 障がい者 |
| 5 同和問題 | 6 外国人 | 7 HIV感染者・
ハンセン病回復者 | 8 こころの病に関する人
権問題 |
| 9 犯罪被害者 | 10 ホームレス | 11 性的マイノリティ | 12 職業や雇用をめぐる
人権問題 |
| 13 セクハラ・パ
ワハラ | 14 ネット上での
誹謗中傷 | 15 ヘイトスピーチ | 16 その他 () |

問 11-2 それはどのような内容でしたか？ (いずれか1つに○)

- | | | |
|---------------|-----------|-------------|
| 1 あらぬ噂、悪口、かげ口 | 2 名誉き損、侮辱 | 3 暴力、脅迫、強要 |
| 4 不平等、不利益な扱い | 5 いじめ | 6 虐待 |
| 7 嫌がらせ | 8 仲間はずれ | 9 プライバシーの侵害 |
| 10 その他 () | | |

問 11-3 それはどこで見聞きしましたか？ (いずれか1つに○)

- | | | | |
|-----------|------|--------|-----------|
| 1 学校 | 2 職場 | 3 地域社会 | 4 インターネット |
| 5 その他 () | | | |

問 11-4 それはあなた自身に対するものでしたか？（いずれか1つに○）

1 はい

2 いいえ

問 11-5a どう対応しましたか？（いずれか1つに○）

- 1 抗議、反論した
- 2 相談した（どこに、誰に：_____）
- 3 訴えた（どこに：_____）
- 4 我慢した
- 5 その他（_____）

問 11-6a 最終的に解決しましたか？（いずれか1つに○）

- 1 解決した
- 2 解決しなかった
- 3 その他（_____）

問 11-5b どう対応しましたか？（いずれか1つに○）

- 1 いけないことと指摘した
- 2 いけないことと分かってもらおうとした
- 3 相談した（どこに、誰に：_____）
- 4 同調した
- 5 話をそらした
- 6 何もしなかった

問 11-6b そのような問題（事案）についてどうしたらよいと考えますか？
（○はいくつでも）

- 1 行政が啓発に努める
- 2 相談窓口を拡充する
- 3 当事者自らが解決策を講じる
- 4 学校教育・社会教育を充実する
- 5 特に何もしなくてよい
- 6 その他（_____）

「人権」に対する考え方について

「人権」は、誰もが生まれながらにして持っている権利で、人間が人間らしく幸せに生きていくために必要な基本的権利です。この基本的人権は、侵すことのできない永久の権利として保障されることが日本国憲法で明記されています。

問 12 あなたが「人権」から連想する言葉はどれですか？（○はいくつでも）

- | | | | |
|----------|---------|---------|-----------|
| (1) 自由 | (2) 平等 | (3) 友愛 | (4) 尊厳 |
| (5) 自立 | (6) 公正 | (7) 共生 | (8) 抑圧 |
| (9) 格差 | (10) 差別 | (11) 暴力 | (12) わがまま |
| (13) その他 | () | | |

問 13 あなたは、「人権」について、ふだんどのように意識していますか？（いずれか1つに○）

- | |
|------------------------------|
| (1) 非常に大切なことだと認識している |
| (2) 自分には関係がないと思っている。 |
| (3) あまり意識したことがない |
| (4) きれいごとや建て前の話しでしかない |
| (5) 「人権」という言葉を聞くとやっかいなものと感じる |
| (6) その他 () |

問 14 あなたは、憲法で保障されている次の権利について知っていますか？（いずれか1つに○）

- | |
|---|
| (※) 【自由権】・・・自分の生活を抑圧されたりすることなく、自由に考え、行動することが保障される権利 |
| (※) 【社会権】・・・社会において人間らしい生活を営み、文化的に生きていくことが保障される権利 |

			1 言葉も意味も知 っている	2 言葉は知ってい るが、意味はよ く知らない	3 言葉も意味も知 らない
自由権 (※)	精神的自由	思想・良心の自由	1	2	3
		信教の自由	1	2	3
		学問の自由	1	2	3
		表現の自由	1	2	3
	経済的自由	居住・移転の自由	1	2	3
		職業選択の自由	1	2	3
		財産の保障	1	2	3
	人身の自由	奴隷的拘束からの自由	1	2	3
社会権 (※)	生存権		1	2	3
	教育を受ける権利		1	2	3
	勤労の権利		1	2	3
	労働基本権		1	2	3
参政権			1	2	3
幸福追求権			1	2	3

あなたご自身のことについて

問 15 あなたの性別について（いずれか 1 つに○）

- | | | |
|--------|--------|------------------------|
| (1) 男性 | (2) 女性 | (3) 男性・女性と答えることに抵抗を感じる |
|--------|--------|------------------------|

問 16 あなたの年齢について（いずれか 1 つに○）

- | | | | |
|-------------|--------------|-------------|-------------|
| (1) ~24 歳 | (2) 25~29 歳 | (3) 30~34 歳 | (4) 35~39 歳 |
| (5) 40~44 歳 | (6) 45~49 歳 | (7) 50~54 歳 | (8) 55~59 歳 |
| (9) 60~64 歳 | (10) 65~69 歳 | (11) 70 歳~ | |

問 17 あなたが日常的に利用する主なメディアについて（○は2つまで）

- | | |
|---------------------------|----------------|
| (1) 新聞 | (2) 書籍、雑誌 |
| (3) テレビ | (4) ラジオ |
| (5) インターネット（パソコン、スマートフォン） | (6) その他（_____） |

問 18 あなたの現在の暮らし向きについて（いずれか1つに○）

- | | | | | |
|--------|----------|---------|----------|--------|
| (1) 良い | (2) やや良い | (3) ふつう | (4) やや悪い | (5) 悪い |
|--------|----------|---------|----------|--------|

問 19 あなたは自治会・マンション管理組合や子ども会など地域の活動に参加しますか？

（いずれか1つに○）

- | |
|-----------------------------------|
| (1) できるだけ参加する |
| (2) 関心のあるものには参加する |
| (3) 誘われれば参加する |
| (4) 当番の仕事はするが、それ以外はあまり（ほとんど）参加しない |
| (5) 参加しない |

問 20 人権問題や今後の人権教育・啓発について、ご意見・ご要望があればご自由にお書きください。

記入欄が不足する場合は次ページもご利用ください。

ご協力ありがとうございました。

資料2 集計表

I 調査概要

5-1. 回答者の性別 (P. 6)

	総 数	男 性	女 性	男 性・女 性に 抵抗を 感じる	不 明・無 回 答
今回調査	476 100.0	174 36.6	279 58.6	12 2.5	11 2.3
平成24（2012）年 調査	501 100.0	216 43.1	278 55.5	－ －	7 1.4
平成18（2006）年 調査	803 100.0	333 41.5	447 55.7	－ －	23 2.9
平成27年度大阪府 調査結果	1,358 100.0	569 41.9	758 55.8	18 1.3	13 1.0

5-2. 回答者の年齢 (P. 7)

	総 数	1 8 ～ 2 9 歳	3 0 ～ 3 9 歳	4 0 ～ 4 9 歳	5 0 ～ 5 9 歳	6 0 ～ 6 9 歳	7 0 歳 以 上	不 明・無 回 答
今回調査	476 100.0	45 9.5	60 12.6	62 13.0	86 18.1	108 22.7	104 21.8	11 2.3

	総 数	2 0 ～ 2 9 歳	3 0 ～ 3 9 歳	4 0 ～ 4 9 歳	5 0 ～ 5 9 歳	6 0 ～ 6 9 歳	7 0 歳 以 上	不 明・無 回 答
平成24（2012）年 調査	501 100.0	55 11.0	73 14.6	72 14.4	92 18.4	108 21.6	94 18.8	7 1.4
平成18（2006）年 調査	803 100.0	95 11.8	114 14.2	124 15.4	170 21.2	157 19.6	114 14.2	29 3.6
平成27年度大阪府 調査結果	1,358 100.0	106 7.8	158 11.6	231 17.0	203 14.9	343 25.3	305 22.5	12 0.9

５－３．日常的に利用する主なメディア（P. 8～9）

		回答者数	新聞	書籍、 雑誌	テレビ	ラジオ	インターネット （スマートフォン、 パソコン）	その他	不明・無回答
全体		476 100.0	254 53.4	51 10.7	400 84.0	44 9.2	240 50.4	1 0.2	2 0.4
性別	男性	174 100.0	109 62.6	25 14.4	140 80.5	13 7.5	75 43.1	0 0.0	0 0.0
	女性	279 100.0	134 48.0	25 9.0	244 87.5	30 10.8	155 55.6	0 0.0	0 0.0
	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	12 100.0	6 50.0	1 8.3	9 75.0	1 8.3	8 66.7	0 0.0	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	3 6.7	3 6.7	37 82.2	1 2.2	45 100.0	0 0.0	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	5 8.3	6 10.0	49 81.7	2 3.3	59 98.3	0 0.0	0 0.0
	40～49歳	62 100.0	25 40.3	6 9.7	53 85.5	2 3.2	43 69.4	0 0.0	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	46 53.5	8 9.3	75 87.2	9 10.5	48 55.8	0 0.0	0 0.0
	60～69歳	108 100.0	77 71.3	13 12.0	91 84.3	9 8.3	32 29.6	0 0.0	0 0.0
	70歳以上	104 100.0	92 88.5	15 14.4	88 84.6	20 19.2	12 11.5	0 0.0	0 0.0
平成27年度大阪府 調査結果		1,358 100.0	723 53.2	141 10.4	1138 83.8	132 9.7	591 43.5	4 0.3	14 1.0

5-4. 現在の暮らし向き (P. 10~11)

		回答者数	良い	やや良い	ふつう	やや悪い	悪い	不明・無回答
全体		476 100.0	102 21.4	79 16.6	242 50.8	33 6.9	17 3.6	3 0.6
性別	男性	174 100.0	34 19.5	28 16.1	94 54.0	14 8.0	4 2.3	0 0.0
	女性	279 100.0	67 24.0	45 16.1	139 49.8	16 5.7	11 3.9	1 0.4
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	0 0.0	2 16.7	7 58.3	3 25.0	0 0.0	0 0.0
年齢	18~29歳	45 100.0	17 37.8	8 17.8	16 35.6	3 6.7	1 2.2	0 0.0
	30~39歳	60 100.0	16 26.7	12 20.0	28 46.7	2 3.3	2 3.3	0 0.0
	40~49歳	62 100.0	16 25.8	8 12.9	33 53.2	3 4.8	2 3.2	0 0.0
	50~59歳	86 100.0	17 19.8	13 15.1	49 57.0	5 5.8	2 2.3	0 0.0
	60~69歳	108 100.0	20 18.5	18 16.7	51 47.2	13 12.0	6 5.6	0 0.0
	70歳以上	104 100.0	16 15.4	17 16.3	61 58.7	7 6.7	2 1.9	1 1.0
	平成24(2012)年調査結果	501 100.0	59 11.8	70 14.0	276 55.1	73 14.6	20 4.0	3 0.6
平成27年度大阪府調査結果		1,358 100.0	232 17.1	177 13.8	727 53.5	144 10.6	57 4.2	21 1.5

5-5. 地域の活動への参加 (P. 12~13)

		回答者数	参加する				参加しない	当番の仕事はするが、それ以外はあまり（ほとんど）参加しない	参加しない	不明・無回答
				できるだけ参加する	関心のあるものには参加する	誘われれば参加する				
全体		476 100.0	232 48.7	102 21.4	83 17.4	47 9.9	240 50.4	160 33.6	80 16.8	4 0.8
性別	男性	174 100.0	91 52.3	42 24.1	33 19.0	16 9.2	82 47.1	56 32.2	26 14.9	1 0.6
	女性	279 100.0	133 47.7	56 20.1	46 16.5	31 11.1	146 52.3	98 35.1	48 17.2	0 0.0
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	6 50.0	4 33.3	2 16.7	0 0.0	6 50.0	4 33.3	2 16.7	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	16 35.6	2 4.4	7 15.6	7 15.6	29 64.4	10 22.2	19 42.2	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	18 30.0	3 5.0	11 18.3	4 6.7	42 70.0	23 38.3	19 31.7	0 0.0
	40～49歳	62 100.0	26 41.9	10 16.1	13 21.0	3 4.8	36 58.1	27 43.5	9 14.5	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	44 51.2	21 24.4	14 16.3	9 10.5	42 48.8	34 39.5	8 9.3	0 0.0
	60～69歳	108 100.0	57 52.8	31 28.7	18 16.7	8 7.4	51 47.2	40 37.0	11 10.2	0 0.0
	70歳以上	104 100.0	68 65.4	35 33.7	17 16.3	16 15.4	35 33.7	24 23.1	11 10.6	1 1.0
平成27年度大阪府調査結果		1,358 100.0	649 47.9	240 17.7	233 17.2	176 13.0	693 51.0	423 31.1	270 19.9	16 1.2

Ⅱ 調査結果の概要

1-1. 個別・具体の事象に対する考え（問1）（P.15～30）

		回答者数	(1) 職場で顔を合わせるたびに「まだ結婚しないのか」と言う								(2) 中学生の携帯電話やスマートフォンの使用を親の判断で制限する							
			問題がある	やや問題があると思う		問題があると思わない	あまり問題があると思わない	問題があると思わない	何とも言えない	不明・無回答	問題がある	やや問題があると思う		問題があると思わない	あまり問題があると思わない	問題があると思わない	何とも言えない	不明・無回答
				問題があると思う								問題があると思う						
全体		476 100.0	367 77.1	230 48.3	137 28.8	71 14.9	53 11.1	18 3.8	29 6.1	9 1.9	52 10.9	12 2.5	40 8.4	387 81.3	114 23.9	273 57.4	28 5.9	9 1.9
性別	男性	174 100.0	134 77.0	77 44.3	57 32.8	30 17.2	21 12.1	9 5.2	7 4.0	3 1.7	16 9.2	1 0.6	15 8.6	148 85.1	41 23.6	107 61.5	8 4.6	2 1.1
	女性	279 100.0	217 77.8	141 50.5	76 27.2	38 13.6	30 10.8	8 2.9	21 7.5	3 1.1	32 11.5	10 3.6	22 7.9	224 80.3	66 23.7	158 56.6	19 6.8	4 1.4
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	11 91.7	7 58.3	4 33.3	1 8.3	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 16.7	0 0.0	2 16.7	10 83.3	5 41.7	5 41.7	0 0.0	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	38 84.4	22 48.9	16 35.6	6 13.3	4 8.9	2 4.4	1 2.2	0 0.0	1 2.2	0 0.0	1 2.2	42 93.3	22 48.9	20 44.4	2 4.4	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	46 76.7	28 46.7	18 30.0	11 18.3	10 16.7	1 1.7	3 5.0	0 0.0	4 6.7	2 3.3	2 3.3	54 90.0	16 26.7	38 63.3	2 3.3	0 0.0
	40～49歳	62 100.0	49 79.0	35 56.5	14 22.6	9 14.5	8 12.9	1 1.6	4 6.5	0 0.0	2 3.2	1 1.6	1 1.6	60 96.8	15 24.2	45 72.6	0 0.0	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	73 84.9	50 58.1	23 26.7	10 11.6	7 8.1	3 3.5	2 2.3	1 1.2	6 7.0	0 0.0	6 7.0	80 93.0	27 31.4	53 61.6	0 0.0	0 0.0
	60～69歳	108 100.0	88 81.5	59 54.6	29 26.9	15 13.9	11 10.2	4 3.7	5 4.6	0 0.0	18 16.7	4 3.7	14 13.0	81 75.0	19 17.6	62 57.4	9 8.3	0 0.0
	70歳以上	104 100.0	70 67.3	33 31.7	37 35.6	17 16.3	11 10.6	6 5.8	12 11.5	5 4.8	20 19.2	4 3.8	16 15.4	65 62.5	13 12.5	52 50.0	13 12.5	6 5.8
平成27年度大阪府調査結果		1,358 100.0	1,033 76.0	610 44.9	423 31.1	216 16.0	161 11.9	55 4.1	82 6.0	27 2.0	164 12.1	43 3.2	121 8.9	1,089 80.2	301 22.2	788 58.0	83 6.1	22 1.6

		回答者数	(3) 家族が不在の際、介護が必要な高齢者を家から出られなくする								(4) 視覚障がい者との会話ではテレビや映画、風景などは意識して話題にしないようにする							
			問題がある	やや問題があると思う		問題があると思わない	あまり問題があると思わない	問題があると思わない	何とも言えない	不明・無回答	問題がある	やや問題があると思う		問題があると思わない	あまり問題があると思わない	問題があると思わない	何とも言えない	不明・無回答
				問題があると思う								問題があると思う						
全体		476 100.0	242 50.8	116 24.4	126 26.5	144 30.3	84 17.6	60 12.6	81 17.0	9 1.9	186 39.1	77 16.2	109 22.9	178 37.4	109 22.9	69 14.5	100 21.0	12 2.5
性別	男性	174 100.0	98 56.3	45 25.9	53 30.5	48 27.6	30 17.2	18 10.3	26 14.9	2 1.1	55 31.6	20 11.5	35 20.1	78 44.8	40 23.0	38 21.8	37 21.3	4 2.3
	女性	279 100.0	135 48.4	66 23.7	69 24.7	91 32.6	51 18.3	40 14.3	49 17.6	4 1.4	125 44.8	55 19.7	70 25.1	92 33.0	63 22.6	29 10.4	58 20.8	4 1.4
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	5 41.7	2 16.7	3 25.0	4 33.3	2 16.7	2 16.7	3 25.0	0 0.0	3 25.0	1 8.3	2 16.7	6 50.0	5 41.7	1 8.3	3 25.0	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	18 40.0	5 11.1	13 28.9	19 42.2	10 22.2	9 20.0	8 17.8	0 0.0	14 31.1	5 11.1	9 20.0	23 51.1	18 40.0	5 11.1	8 17.8	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	25 41.7	12 20.0	13 21.7	22 36.7	12 20.0	10 16.7	13 21.7	0 0.0	17 28.3	8 13.3	9 15.0	23 38.3	14 23.3	9 15.0	19 31.7	1 1.7
	40～49歳	62 100.0	29 46.8	11 17.7	18 29.0	20 32.3	8 12.9	12 19.4	13 21.0	0 0.0	26 41.9	5 8.1	21 33.9	21 33.9	12 19.4	9 14.5	15 24.2	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	39 45.3	17 19.8	22 25.6	34 39.5	21 24.4	13 15.1	12 14.0	1 1.2	33 38.4	12 14.0	21 24.4	37 43.0	23 26.7	14 16.3	15 17.4	1 1.2
	60～69歳	108 100.0	61 56.5	34 31.5	27 25.0	27 25.0	17 15.7	10 9.3	19 17.6	1 0.9	54 50.0	28 25.9	26 24.1	35 32.4	21 19.4	14 13.0	17 15.7	2 1.9
	70歳以上	104 100.0	67 64.4	35 33.7	32 30.8	19 18.3	14 13.5	5 4.8	14 13.5	4 3.8	39 37.5	17 16.3	22 21.2	37 35.6	20 19.2	17 16.3	23 22.1	5 4.8
平成27年度大阪府調査結果		1,358 100.0	672 49.5	287 21.1	385 28.4	403 29.7	218 16.1	185 13.6	262 19.3	21 1.5	487 35.8	193 14.2	294 21.6	530 39.0	332 24.4	198 14.6	313 23.0	28 2.1

		回答者数	(５) 結婚する際、興信所や探偵業者などを使って相手の出自を調べる								(６) 同じマンションに住む外国人とは生活文化が異なり、日本語があまり話せないので、付き合わないようにする							
			問題がある	やや問題があると思う		問題があると思わない	あまり問題があると思わない		何とも言えない	不明・無回答	問題がある	やや問題があると思う		問題があると思わない	あまり問題があると思わない		何とも言えない	不明・無回答
				問題があると思う	やや問題がある		問題がある	あまり問題がある				問題がある	問題がある		問題がある	あまり問題がある		
全体		476 100.0	285 59.9	178 37.4	107 22.5	125 26.3	76 16.0	49 10.3	57 12.0	9 1.9	310 65.1	160 33.6	150 31.5	87 18.3	59 12.4	28 5.9	70 14.7	9 1.9
性別	男性	174 100.0	111 63.8	77 44.3	34 19.5	47 27.0	31 17.8	16 9.2	15 8.6	1 0.6	112 64.4	58 33.3	54 31.0	33 19.0	24 13.8	9 5.2	27 15.5	2 1.1
	女性	279 100.0	163 58.4	93 33.3	70 25.1	73 26.2	43 15.4	30 10.8	38 13.6	5 1.8	183 65.6	98 35.1	85 30.5	52 18.6	34 12.2	18 6.5	40 14.3	4 1.4
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	6 50.0	4 33.3	2 16.7	3 25.0	2 16.7	1 8.3	3 25.0	0 0.0	8 66.7	0 0.0	8 66.7	2 16.7	1 8.3	1 8.3	2 16.7	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	35 77.8	21 46.7	14 31.1	7 15.6	3 6.7	4 8.9	3 6.7	0 0.0	37 82.2	19 42.2	18 40.0	5 11.1	4 8.9	1 2.2	3 6.7	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	35 58.3	20 33.3	15 25.0	17 28.3	14 23.3	3 5.0	8 13.3	0 0.0	37 61.7	17 28.3	20 33.3	15 25.0	9 15.0	6 10.0	8 13.3	0 0.0
	40～49歳	62 100.0	40 64.5	22 35.5	18 29.0	16 25.8	8 12.9	8 12.9	6 9.7	0 0.0	39 62.9	19 30.6	20 32.3	11 17.7	9 14.5	2 3.2	12 19.4	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	48 55.8	31 36.0	17 19.8	29 33.7	14 16.3	15 17.4	9 10.5	0 0.0	60 69.8	33 38.4	27 31.4	15 17.4	11 12.8	4 4.7	11 12.8	0 0.0
	60～69歳	108 100.0	67 62.0	44 40.7	23 21.3	26 24.1	17 15.7	9 8.3	15 13.9	0 0.0	67 62.0	35 32.4	32 29.6	18 16.7	11 10.2	7 6.5	21 19.4	2 1.9
	70歳以上	104 100.0	55 52.9	37 35.6	18 17.3	28 26.9	19 18.3	9 8.7	15 14.4	6 5.8	64 61.5	33 31.7	31 29.8	22 21.2	14 13.5	8 7.7	14 13.5	4 3.8
	平成27年度大阪府調査結果		1,358 100.0	780 57.5	426 31.4	354 26.1	347 25.5	193 14.2	154 11.3	205 15.1	26 1.9	813 59.9	365 26.9	448 33.0	292 21.5	199 14.7	93 6.8	228 16.8

		回答者数	(7) HIV感染者やハンセン病回復者とは一緒に食事や入浴をしない								(8) こころの病のある人には関わらないようにする									
			問題がある	やや問題があると思う		問題があると思わない	あまり問題があると思わない		問題がない	何とも言えない	不明・無回答	問題がある	やや問題があると思う		問題があると思わない	あまり問題があると思わない		問題がない	何とも言えない	不明・無回答
				問題があると思う	やや問題があると思う		あまり問題があると思わない	問題がない					問題があると思う	やや問題があると思う		あまり問題があると思わない	問題がない			
全体		476 100.0	253 53.2	149 31.3	104 21.8	112 23.5	73 15.3	39 8.2	102 21.4	9 1.9		284 59.7	155 32.6	129 27.1	106 22.3	68 14.3	38 8.0	77 16.2	9 1.9	
性別	男性	174 100.0	101 58.0	60 34.5	41 23.6	40 23.0	27 15.5	13 7.5	30 17.2	3 1.7		105 60.3	56 32.2	49 28.2	39 22.4	25 14.4	14 8.0	26 14.9	4 2.3	
	女性	279 100.0	141 50.5	87 31.2	54 19.4	66 23.7	44 15.8	22 7.9	69 24.7	3 1.1		167 59.9	95 34.1	72 25.8	63 22.6	39 14.0	24 8.6	47 16.8	2 0.7	
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	6 50.0	1 8.3	5 41.7	4 33.3	1 8.3	3 25.0	2 16.7	0 0.0		8 66.7	3 25.0	5 41.7	2 16.7	2 16.7	0 0.0	2 16.7	0 0.0	
年齢	18～29歳	45 100.0	27 60.0	17 37.8	10 22.2	13 28.9	9 20.0	4 8.9	5 11.1	0 0.0		33 73.3	21 46.7	12 26.7	5 11.1	3 6.7	2 4.4	7 15.6	0 0.0	
	30～39歳	60 100.0	31 51.7	23 38.3	8 13.3	14 23.3	10 16.7	4 6.7	15 25.0	0 0.0		30 50.0	18 30.0	12 20.0	15 25.0	13 21.7	2 3.3	15 25.0	0 0.0	
	40～49歳	62 100.0	38 61.3	24 38.7	14 22.6	12 19.4	6 9.7	6 9.7	12 19.4	0 0.0		35 56.5	21 33.9	14 22.6	20 32.3	12 19.4	8 12.9	7 11.3	0 0.0	
	50～59歳	86 100.0	47 54.7	20 23.3	27 31.4	19 22.1	14 16.3	5 5.8	20 23.3	0 0.0		57 66.3	25 29.1	32 37.2	20 23.3	12 14.0	8 9.3	9 10.5	0 0.0	
	60～69歳	108 100.0	54 50.0	33 30.6	21 19.4	25 23.1	16 14.8	9 8.3	28 25.9	1 0.9		60 55.6	34 31.5	26 24.1	25 23.1	14 13.0	11 10.2	21 19.4	2 1.9	
	70歳以上	104 100.0	51 49.0	31 29.8	20 19.2	28 26.9	18 17.3	10 9.6	20 19.2	5 4.8		64 61.5	35 33.7	29 27.9	20 19.2	13 12.5	7 6.7	16 15.4	4 3.8	
平成27年度大阪府調査結果		1,358 100.0	685 50.4	330 24.3	355 26.1	295 21.7	144 10.6	151 11.1	355 26.1	23 1.7		746 54.9	355 26.1	391 28.8	308 22.7	194 14.3	114 8.4	279 20.5	25 1.8	

		回答者数	(9) 痴漢の被害者に「あなたにも問題があったのではない か」と言う								(10) 公園でホームレスが近づいてきたので、足早に立ち去 る							
			問題 がある	問題 がある と思う		問題 がある と思わ ない	思 わ な い 問 題 が あ る と		何 と も 言 え な い	不 明 ・ 無 回 答	問題 がある	問題 がある と思う		問題 がある と思わ ない	思 わ な い 問 題 が あ る と		何 と も 言 え な い	不 明 ・ 無 回 答
				問題 がある と思う	や や 問 題 が あ る と		思 わ な い 問 題 が あ る と	思 わ な い 問 題 が あ る と				問題 がある と思う	や や 問 題 が あ る と		思 わ な い 問 題 が あ る と	思 わ な い 問 題 が あ る と		
全体		476 100.0	370 77.7	243 51.1	127 26.7	57 12.0	27 5.7	30 6.3	41 8.6	8 1.7	137 28.8	43 9.0	94 19.7	237 49.8	115 24.2	122 25.6	95 20.0	7 1.5
性別	男性	174 100.0	132 75.9	89 51.1	43 24.7	20 11.5	10 5.7	10 5.7	20 11.5	2 1.1	59 33.9	22 12.6	37 21.3	82 47.1	45 25.9	37 21.3	32 18.4	1 0.6
	女性	279 100.0	220 78.9	144 51.6	76 27.2	36 12.9	16 5.7	20 7.2	20 7.2	3 1.1	71 25.4	18 6.5	53 19.0	146 52.3	66 23.7	80 28.7	59 21.1	3 1.1
	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	12 100.0	11 91.7	6 50.0	5 41.7	1 8.3	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 33.3	2 16.7	2 16.7	5 41.7	1 8.3	4 33.3	3 25.0	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	35 77.8	23 51.1	12 26.7	7 15.6	4 8.9	3 6.7	3 6.7	0 0.0	11 24.4	3 6.7	8 17.8	19 42.2	8 17.8	11 24.4	15 33.3	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	48 80.0	39 65.0	9 15.0	8 13.3	5 8.3	3 5.0	4 6.7	0 0.0	13 21.7	3 5.0	10 16.7	38 63.3	15 25.0	23 38.3	9 15.0	0 0.0
	40～49歳	62 100.0	51 82.3	37 59.7	14 22.6	6 9.7	3 4.8	3 4.8	5 8.1	0 0.0	15 24.2	2 3.2	13 21.0	38 61.3	23 37.1	15 24.2	9 14.5	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	74 86.0	41 47.7	33 38.4	9 10.5	6 7.0	3 3.5	3 3.5	0 0.0	28 32.6	5 5.8	23 26.7	43 50.0	25 29.1	18 20.9	15 17.4	0 0.0
	60～69歳	108 100.0	86 79.6	59 54.6	27 25.0	13 12.0	4 3.7	9 8.3	8 7.4	1 0.9	34 31.5	15 13.9	19 17.6	50 46.3	21 19.4	29 26.9	24 22.2	0 0.0
	70歳以上	104 100.0	69 66.3	41 39.4	28 26.9	14 13.5	5 4.8	9 8.7	17 16.3	4 3.8	32 30.8	13 12.5	19 18.3	46 44.2	20 19.2	26 25.0	22 21.2	4 3.8
平成27年度大阪府 調査結果		1,358 100.0	987 72.7	631 46.5	356 26.2	182 13.4	106 7.8	76 5.6	163 12.0	26 1.9	392 28.8	139 10.2	253 18.6	703 51.7	359 26.4	344 25.3	244 18.0	19 1.4

		回答者数	(11) 職場で同性愛者と席が隣になることを嫌がる								(12) 人前で部下を長時間にわたり大声で叱る							
			問題 がある	問題 がある と思う		問題 がある と思わ ない	思 わ な い 問 題 が あ る と		何 と も 言 え な い	不 明 ・ 無 回 答	問題 がある	問題 がある と思う		問題 がある と思わ ない	思 わ な い 問 題 が あ る と		何 と も 言 え な い	不 明 ・ 無 回 答
				問題 がある と思う	や や 問 題 が あ る と		思 わ な い 問 題 が あ る と	思 わ な い 問 題 が あ る と				問題 がある と思う	や や 問 題 が あ る と		思 わ な い 問 題 が あ る と	思 わ な い 問 題 が あ る と		
全体		476 100.0	323 67.9	199 41.8	124 26.1	93 19.5	60 12.6	33 6.9	52 10.9	8 1.7	459 96.4	398 83.6	61 12.8	9 1.9	7 1.5	2 0.4	3 0.6	5 1.1
性別	男性	174 100.0	110 63.2	61 35.1	49 28.2	42 24.1	25 14.4	17 9.8	20 11.5	2 1.1	166 95.4	142 81.6	24 13.8	5 2.9	3 1.7	2 1.1	2 1.1	1 0.6
	女性	279 100.0	201 72.0	129 46.2	72 25.8	45 16.1	31 11.1	14 5.0	30 10.8	3 1.1	274 98.2	241 86.4	33 11.8	4 1.4	4 1.4	0 0.0	0 0.0	1 0.4
	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	12 100.0	8 66.7	6 50.0	2 16.7	3 25.0	1 8.3	2 16.7	1 8.3	0 0.0	12 100.0	9 75.0	3 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	39 86.7	25 55.6	14 31.1	1 2.2	0 0.0	1 2.2	5 11.1	0 0.0	43 95.6	38 84.4	5 11.1	2 4.4	1 2.2	1 2.2	0 0.0	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	45 75.0	34 56.7	11 18.3	10 16.7	7 11.7	3 5.0	5 8.3	0 0.0	57 95.0	45 75.0	12 20.0	1 1.7	1 1.7	0 0.0	2 3.3	0 0.0
	40～49歳	62 100.0	47 75.8	28 45.2	19 30.6	7 11.3	6 9.7	1 1.6	8 12.9	0 0.0	61 98.4	50 80.6	11 17.7	1 1.6	1 1.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	65 75.6	42 48.8	23 26.7	16 18.6	9 10.5	7 8.1	5 5.8	0 0.0	84 97.7	72 83.7	12 14.0	2 2.3	2 2.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60～69歳	108 100.0	73 67.6	45 41.7	28 25.9	21 19.4	13 12.0	8 7.4	14 13.0	0 0.0	107 99.1	101 93.5	6 5.6	1 0.9	1 0.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	70歳以上	104 100.0	51 49.0	22 21.2	29 27.9	34 32.7	22 21.2	12 11.5	14 13.5	5 4.8	100 96.2	86 82.7	14 13.5	2 1.9	1 1.0	1 1.0	0 0.0	2 1.9
平成27年度大阪府 調査結果		1,358 100.0	814 59.9	499 36.7	315 23.2	320 23.5	185 13.6	135 9.9	198 14.6	26 1.9	1,288 94.8	1,099 80.9	189 13.9	30 2.2	19 1.4	11 0.8	21 1.5	19 1.4

		回答者数	(13) インターネットのサイトに他人の誹謗中傷を書き込む								(14) 災害時に支援が必要な人のリストを作成するため、自治会が住民に緊急時連絡先や疾病、障がいの有無などを尋ねる							
			問題がある	やや問題があると思う		問題があると思わない	あまり問題があると思わない		何とも言えない	不明・無回答	問題がある	やや問題があると思う		問題があると思わない	あまり問題があると思わない		何とも言えない	不明・無回答
				問題があると思う	やや問題がある		問題がある	あまり問題がある				問題がある	あまり問題がある					
全体		476 100.0	460 96.6	438 92.0	22 4.6	7 1.5	5 1.1	2 0.4	3 0.6	6 1.3	103 21.6	40 8.4	63 13.2	331 69.5	114 23.9	217 45.6	33 6.9	9 1.9
性別	男性	174 100.0	166 95.4	161 92.5	5 2.9	6 3.4	4 2.3	2 1.1	1 0.6	1 0.6	37 21.3	16 9.2	21 12.1	119 68.4	38 21.8	81 46.6	15 8.6	3 1.7
	女性	279 100.0	275 98.6	260 93.2	15 5.4	1 0.4	1 0.4	0 0.0	1 0.4	2 0.7	58 20.8	22 7.9	36 12.9	202 72.4	74 26.5	128 45.9	16 5.7	3 1.1
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	12 100.0	10 83.3	2 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 41.7	0 0.0	5 41.7	6 50.0	2 16.7	4 33.3	1 8.3	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	44 97.8	41 91.1	3 6.7	1 2.2	1 2.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 11.1	0 0.0	5 11.1	38 84.4	14 31.1	24 53.3	2 4.4	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	56 93.3	51 85.0	5 8.3	3 5.0	3 5.0	0 0.0	1 1.7	0 0.0	10 16.7	1 1.7	9 15.0	46 76.7	18 30.0	28 46.7	4 6.7	0 0.0
	40～49歳	62 100.0	61 98.4	60 96.8	1 1.6	1 1.6	0 0.0	1 1.6	0 0.0	0 0.0	12 19.4	4 6.5	8 12.9	45 72.6	15 24.2	30 48.4	5 8.1	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	85 98.8	82 95.3	3 3.5	1 1.2	1 1.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	17 19.8	10 11.6	7 8.1	64 74.4	28 32.6	36 41.9	5 5.8	0 0.0
	60～69歳	108 100.0	107 99.1	102 94.4	5 4.6	1 0.9	0 0.0	1 0.9	0 0.0	0 0.0	28 25.9	13 12.0	15 13.9	68 63.0	19 17.6	49 45.4	11 10.2	1 0.9
	70歳以上	104 100.0	100 96.2	95 91.3	5 4.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.0	3 2.9	28 26.9	10 9.6	18 17.3	66 63.5	20 19.2	46 44.2	5 4.8	5 4.8
	平成27年度大阪府調査結果	1,358 100.0	1,309 96.4	1,240 91.3	69 5.1	13 1.0	8 0.6	5 0.4	13 1.0	23 1.7	285 21.0	108 8.0	177 13.0	912 67.2	361 26.6	551 40.6	135 9.9	26 1.9
		回答者数	(15) ニートや引きこもりの人に「怠けていないで働きなさい」と言う								(16) 恋人や配偶者の携帯電話やスマートフォンの通信履歴を見る							
			問題がある	やや問題があると思う		問題があると思わない	あまり問題があると思わない		何とも言えない	不明・無回答	問題がある	やや問題があると思う		問題があると思わない	あまり問題があると思わない		何とも言えない	不明・無回答
				問題があると思う	やや問題がある		問題がある	あまり問題がある				問題がある	あまり問題がある					
全体		476 100.0	277 58.2	138 29.0	139 29.2	107 22.5	59 12.4	48 10.1	84 17.6	8 1.7	402 84.5	269 56.5	133 27.9	35 7.4	24 5.0	11 2.3	31 6.5	8 1.7
性別	男性	174 100.0	101 58.0	48 27.6	53 30.5	45 25.9	25 14.4	20 11.5	25 14.4	3 1.7	154 88.5	98 56.3	56 32.2	10 5.7	5 2.9	5 2.9	7 4.0	3 1.7
	女性	279 100.0	163 58.4	87 31.2	76 27.2	58 20.8	33 11.8	25 9.0	56 20.1	2 0.7	234 83.9	162 58.1	72 25.8	21 7.5	16 5.7	5 1.8	22 7.9	2 0.7
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	7 58.3	1 8.3	6 50.0	4 33.3	1 8.3	3 25.0	1 8.3	0 0.0	7 58.3	4 33.3	3 25.0	4 33.3	3 25.0	1 8.3	1 8.3	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	21 46.7	4 8.9	17 37.8	15 33.3	7 15.6	8 17.8	9 20.0	0 0.0	36 80.0	16 35.6	20 44.4	7 15.6	4 8.9	3 6.7	2 4.4	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	23 38.3	9 15.0	14 23.3	24 40.0	13 21.7	11 18.3	13 21.7	0 0.0	40 66.7	18 30.0	22 36.7	10 16.7	7 11.7	3 5.0	10 16.7	0 0.0
	40～49歳	62 100.0	30 48.4	16 25.8	14 22.6	17 27.4	10 16.1	7 11.3	15 24.2	0 0.0	51 82.3	34 54.8	17 27.4	6 9.7	4 6.5	2 3.2	5 8.1	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	63 73.3	37 43.0	26 30.2	15 17.4	11 12.8	4 4.7	8 9.3	0 0.0	79 91.9	54 62.8	25 29.1	4 4.7	3 3.5	1 1.2	3 3.5	0 0.0
	60～69歳	108 100.0	71 65.7	45 41.7	26 24.1	18 16.7	9 8.3	9 8.3	18 16.7	1 0.9	100 92.6	82 75.9	18 16.7	5 4.6	3 2.8	2 1.9	2 1.9	1 0.9
	70歳以上	104 100.0	64 61.5	25 24.0	39 37.5	17 16.3	9 8.7	8 7.7	19 18.3	4 3.8	90 86.5	61 58.7	29 27.9	3 2.9	3 2.9	0 0.0	7 6.7	4 3.8
	平成27年度大阪府調査結果	1,358 100.0	745 54.8	337 24.8	408 30.0	339 24.9	200 14.7	139 10.2	243 17.9	31 2.3	1,124 82.7	727 53.5	397 29.2	113 8.3	78 5.7	35 2.6	92 6.8	29 2.1

1-2. 差別に関する基本的な考え（問2）（P. 33～36、P. 38～41）

		回答者数	（１）差別は人間として恥すべき行為であり、私たち一人ひとりが差別しない人にならなければならない								（２）差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ							
			そう思う			そう思わない			何とも 言えない	不明・無 回答	そう思う			そう思わない			何とも 言えない	不明・無 回答
			そう 思う	やや そう 思う		そう 思わない	あまり そう 思わない	そう 思わない			そう 思う	やや そう 思う		そう 思わない	あまり そう 思わない	そう 思わない		
全体		476 100.0	424 89.1	321 67.4	103 21.6	22 4.6	20 4.2	2 0.4	21 4.4	9 1.9	207 43.5	65 13.7	142 29.8	194 40.8	95 20.0	99 20.8	66 13.9	9 1.9
性別	男性	174 100.0	151 86.8	117 67.2	34 19.5	10 5.7	9 5.2	1 0.6	12 6.9	1 0.6	73 42.0	26 14.9	47 27.0	76 43.7	32 18.4	44 25.3	24 13.8	1 0.6
	女性	279 100.0	256 91.8	192 68.8	64 22.9	10 3.6	10 3.6	0 0.0	8 2.9	5 1.8	124 44.4	36 12.9	88 31.5	113 40.5	60 21.5	53 19.0	37 13.3	5 1.8
	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	12 100.0	10 83.3	6 50.0	4 33.3	2 16.7	1 8.3	1 8.3	0 0.0	0 0.0	6 50.0	2 16.7	4 33.3	3 25.0	1 8.3	2 16.7	3 25.0	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	40 88.9	30 66.7	10 22.2	3 6.7	2 4.4	1 2.2	2 4.4	0 0.0	16 35.6	4 8.9	12 26.7	24 53.3	12 26.7	12 26.7	5 11.1	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	50 83.3	30 50.0	20 33.3	5 8.3	5 8.3	0 0.0	4 6.7	1 1.7	15 25.0	3 5.0	12 20.0	32 53.3	22 36.7	10 16.7	12 20.0	1 1.7
	40～49歳	62 100.0	53 85.5	32 51.6	21 33.9	4 6.5	4 6.5	0 0.0	5 8.1	0 0.0	22 35.5	6 9.7	16 25.8	30 48.4	15 24.2	15 24.2	10 16.1	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	81 94.2	64 74.4	17 19.8	2 2.3	1 1.2	1 1.2	2 2.3	1 1.2	29 33.7	4 4.7	25 29.1	44 51.2	21 24.4	23 26.7	13 15.1	0 0.0
	60～69歳	108 100.0	98 90.7	78 72.2	20 18.5	5 4.6	5 4.6	0 0.0	5 4.6	0 0.0	57 52.8	17 15.7	40 37.0	37 34.3	13 12.0	24 22.2	13 12.0	1 0.9
	70歳以上	104 100.0	95 91.3	82 78.8	13 12.5	3 2.9	3 2.9	0 0.0	2 1.9	4 3.8	63 60.6	30 28.8	33 31.7	26 25.0	11 10.6	15 14.4	11 10.6	4 3.8
	平成27年度大阪府 調査結果	1,358 100.0	1,246 91.8	908 66.9	338 24.9	40 2.9	29 2.1	11 0.8	55 4.1	17 1.3	638 47.0	265 19.5	373 27.5	498 36.7	274 20.2	224 16.5	193 14.2	29 2.1
		回答者数	（３）差別問題に関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である								（４）差別の原因には、差別される人の側にも問題があることも多い							
			そう思う			そう思わない			何とも 言えない	不明・無 回答	そう思う			そう思わない			何とも 言えない	不明・無 回答
			そう 思う	やや そう 思う		そう 思わない	あまり そう 思わない	そう 思わない			そう 思う	やや そう 思う		そう 思わない	あまり そう 思わない	そう 思わない		
全体		476 100.0	377 79.2	245 51.5	132 27.7	52 10.9	36 7.6	16 3.4	37 7.8	10 2.1	159 33.4	35 7.4	124 26.1	224 47.1	91 19.1	133 27.9	82 17.2	11 2.3
性別	男性	174 100.0	140 80.5	93 53.4	47 27.0	21 12.1	13 7.5	8 4.6	12 6.9	1 0.6	62 35.6	18 10.3	44 25.3	83 47.7	33 19.0	50 28.7	27 15.5	2 1.1
	女性	279 100.0	220 78.9	143 51.3	77 27.6	31 11.1	23 8.2	8 2.9	22 7.9	6 2.2	85 30.5	15 5.4	70 25.1	137 49.1	57 20.4	80 28.7	51 18.3	6 2.2
	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	12 100.0	10 83.3	6 50.0	4 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 16.7	0 0.0	7 58.3	1 8.3	6 50.0	3 25.0	1 8.3	2 16.7	2 16.7	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	42 93.3	30 66.7	12 26.7	2 4.4	1 2.2	1 2.2	1 2.2	0 0.0	9 20.0	0 0.0	9 20.0	27 60.0	9 20.0	18 40.0	9 20.0	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	49 81.7	30 50.0	19 31.7	6 10.0	4 6.7	2 3.3	4 6.7	1 1.7	19 31.7	2 3.3	17 28.3	27 45.0	13 21.7	14 23.3	12 20.0	2 3.3
	40～49歳	62 100.0	46 74.2	26 41.9	20 32.3	11 17.7	7 11.3	4 6.5	5 8.1	0 0.0	15 24.2	5 8.1	10 16.1	37 59.7	16 25.8	21 33.9	10 16.1	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	72 83.7	38 44.2	34 39.5	8 9.3	5 5.8	3 3.5	6 7.0	0 0.0	26 30.2	3 3.5	23 26.7	47 54.7	22 25.6	25 29.1	12 14.0	1 1.2
	60～69歳	108 100.0	84 77.8	58 53.7	26 24.1	15 13.9	11 10.2	4 3.7	8 7.4	1 0.9	40 37.0	10 9.3	30 27.8	45 41.7	16 14.8	29 26.9	23 21.3	0 0.0
	70歳以上	104 100.0	77 74.0	59 56.7	18 17.3	10 9.6	8 7.7	2 1.9	12 11.5	5 4.8	45 43.3	14 13.5	31 29.8	40 38.5	14 13.5	26 25.0	14 13.5	5 4.8
	平成27年度大阪府 調査結果	1,358 100.0	1,068 78.6	717 52.8	351 25.8	160 11.8	106 7.8	54 4.0	102 7.5	28 2.1	500 36.8	125 9.2	375 27.6	562 41.4	284 20.9	278 20.5	267 19.7	29 2.1

		回答者数	(５) 差別をなくすために、行政は努力する必要がある								(６) どのような手段を講じても、差別を完全になくすことは無理だ							
			そう思う			そう思わない			何とも 言えない	不明・無回答	そう思う			そう思わない			何とも 言えない	不明・無回答
			そう思う	やや そう思う		そう 思わない	あまり そう 思わない	そう 思わない			そう思う	やや そう思う		そう 思わない	あまり そう 思わない	そう 思わない		
全体		476 100.0	381 80.0	263 55.3	118 24.8	58 12.2	40 8.4	18 3.8	28 5.9	9 1.9	329 69.1	164 34.5	165 34.7	87 18.3	41 8.6	46 9.7	53 11.1	7 1.5
性別	男性	174 100.0	137 78.7	95 54.6	42 24.1	26 14.9	16 9.2	10 5.7	10 5.7	1 0.6	113 64.9	58 33.3	55 31.6	38 21.8	14 8.0	24 13.8	22 12.6	1 0.6
	女性	279 100.0	227 81.4	157 56.3	70 25.1	30 10.8	22 7.9	8 2.9	17 6.1	5 1.8	203 72.8	95 34.1	108 38.7	45 16.1	25 9.0	20 7.2	28 10.0	3 1.1
	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	12 100.0	11 91.7	7 58.3	4 33.3	1 8.3	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 83.3	9 75.0	1 8.3	1 8.3	1 8.3	0 0.0	1 8.3	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	37 82.2	22 48.9	15 33.3	6 13.3	4 8.9	2 4.4	1 2.2	1 2.2	36 80.0	18 40.0	18 40.0	4 8.9	2 4.4	2 4.4	5 11.1	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	43 71.7	31 51.7	12 20.0	11 18.3	9 15.0	2 3.3	5 8.3	1 1.7	41 68.3	26 43.3	15 25.0	12 20.0	7 11.7	5 8.3	6 10.0	1 1.7
	40～49歳	62 100.0	44 71.0	27 43.5	17 27.4	10 16.1	5 8.1	5 8.1	8 12.9	0 0.0	38 61.3	21 33.9	17 27.4	17 27.4	11 17.7	6 9.7	7 11.3	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	77 89.5	48 55.8	29 33.7	7 8.1	6 7.0	1 1.2	2 2.3	0 0.0	63 73.3	26 30.2	37 43.0	18 20.9	5 5.8	13 15.1	5 5.8	0 0.0
	60～69歳	108 100.0	95 88.0	71 65.7	24 22.2	8 7.4	6 5.6	2 1.9	5 4.6	0 0.0	78 72.2	42 38.9	36 33.3	14 13.0	9 8.3	5 4.6	16 14.8	0 0.0
	70歳以上	104 100.0	78 75.0	60 57.7	18 17.3	16 15.4	10 9.6	6 5.8	6 5.8	4 3.8	70 67.3	29 27.9	41 39.4	19 18.3	7 6.7	12 11.5	12 11.5	3 2.9
平成27年度大阪府 調査結果		1,358 100.0	1,076 79.2	724 53.3	352 25.9	163 12.0	118 8.7	45 3.3	92 6.8	27 2.0	970 71.4	488 35.9	482 35.5	204 15.1	89 6.6	115 8.5	161 11.9	23 1.7

		回答者数	(７) 差別を受けてきた人に対しては、解消するために行政の支援が必要だ								(８) 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる							
			そう思う			そう思わない			何とも 言えない	不明・無回答	そう思う			そう思わない			何とも 言えない	不明・無回答
			そう思う	やや そう思う		そう 思わない	あまり そう 思わない	そう 思わない			そう思う	やや そう思う		そう 思わない	あまり そう 思わない	そう 思わない		
全体		476 100.0	336 70.6	163 34.2	173 36.3	87 18.3	49 10.3	38 8.0	46 9.7	7 1.5	237 49.8	84 17.6	153 32.1	150 31.5	72 15.1	78 16.4	81 17.0	8 1.7
性別	男性	174 100.0	115 66.1	63 36.2	52 29.9	39 22.4	19 10.9	20 11.5	19 10.9	1 0.6	87 50.0	34 19.5	53 30.5	65 37.4	27 15.5	38 21.8	20 11.5	2 1.1
	女性	279 100.0	206 73.8	94 33.7	112 40.1	46 16.5	28 10.0	18 6.5	24 8.6	3 1.1	142 50.9	47 16.8	95 34.1	79 28.3	41 14.7	38 13.6	55 19.7	3 1.1
	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	12 100.0	9 75.0	5 41.7	4 33.3	2 16.7	2 16.7	0 0.0	1 8.3	0 0.0	5 41.7	1 8.3	4 33.3	4 33.3	2 16.7	2 16.7	3 25.0	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	33 73.3	16 35.6	17 37.8	10 22.2	6 13.3	4 8.9	2 4.4	0 0.0	17 37.8	5 11.1	12 26.7	18 40.0	12 26.7	6 13.3	10 22.2	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	36 60.0	16 26.7	20 33.3	13 21.7	12 20.0	1 1.7	10 16.7	1 1.7	28 46.7	9 15.0	19 31.7	15 25.0	10 16.7	5 8.3	16 26.7	1 1.7
	40～49歳	62 100.0	35 56.5	12 19.4	23 37.1	18 29.0	8 12.9	10 16.1	9 14.5	0 0.0	31 50.0	12 19.4	19 30.6	20 32.3	15 24.2	5 8.1	11 17.7	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	67 77.9	26 30.2	41 47.7	13 15.1	6 7.0	7 8.1	6 7.0	0 0.0	34 39.5	6 7.0	28 32.6	34 39.5	18 20.9	16 18.6	18 20.9	0 0.0
	60～69歳	108 100.0	84 77.8	47 43.5	37 34.3	13 12.0	7 6.5	6 5.6	11 10.2	0 0.0	55 50.9	15 13.9	40 37.0	38 35.2	8 7.4	30 27.8	15 13.9	0 0.0
	70歳以上	104 100.0	75 72.1	45 43.3	30 28.8	20 19.2	10 9.6	10 9.6	6 5.8	3 2.9	68 65.4	35 33.7	33 31.7	23 22.1	7 6.7	16 15.4	9 8.7	4 3.8
平成27年度大阪府 調査結果		1,358 100.0	847 62.3	382 28.1	465 34.2	317 23.3	216 15.9	101 7.4	167 12.3	27 2.0	675 49.7	250 18.4	425 31.3	424 31.2	235 17.3	189 13.9	235 17.3	24 1.8

■ 差別に関する基本的な認識 平成 24（2012）年調査結果（P. 37）

	回答者数	そう思う	そう思う		そう思わない	そう思わない		わからない	不明・無回答
			そう思う	どちらかといえば		どちらかといえば	そう思わない		
差別は、人間として恥ずべき行為の一つだ	501 100.0	440 87.8	277 55.3	163 32.5	45 9.0	33 6.6	12 2.4	12 2.4	4 0.8
差別されている人は、まず、自分たちが世の中に受け入れられるよう努力することが必要だ	501 100.0	274 54.7	119 23.8	155 30.9	170 34.0	89 17.8	81 16.2	50 10.0	7 1.4
差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要である	501 100.0	405 80.8	229 45.7	176 35.1	62 12.4	32 6.4	30 6.0	30 6.0	4 0.8
差別の原因には、差別される人の側に問題があることも多い	501 100.0	217 43.3	67 13.4	150 29.9	205 41.0	103 20.6	102 20.4	75 15.0	4 0.8
あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある	501 100.0	417 83.2	267 53.3	150 29.9	58 11.6	32 6.4	26 5.2	18 3.6	8 1.6
どのような手段を講じてても、差別を完全になくすことは無理だ	501 100.0	336 67.0	164 32.7	172 34.3	113 22.6	47 9.4	66 13.2	47 9.4	5 1.0
差別を受けてきた人に対しては、格差をなくすために行政の支援が必要だ	501 100.0	349 69.6	151 30.1	198 39.5	123 24.6	70 14.0	53 10.6	26 5.2	3 0.6
差別に対して抗議や反対をすることによって、より問題が解決しにくくなることが多い	501 100.0	251 50.1	97 19.4	154 30.7	169 33.8	81 16.2	88 17.6	76 15.2	5 1.0

（注）平成 24（2012）年調査 問 2 より抜粋

2-1. 個別の人権問題の認知度・急いで対応すべき人権問題

■ 個別の人権問題の認知度（問3）（P. 43、P. 45～46）

		回答者数	女性の人権問題	子どもの人権問題	高齢者の人権問題	障がい者の人権問題	同和問題	外国人の人権問題	H I V感染者やハンセン病回復者の人権問題	こころの病に関する人権問題	犯罪被害者の人権問題	ホームレスの人権問題	性的マイノリティの人権問題	職業や雇用をめぐる人権問題	セクシュアル・ハラスメント、パワ・ハラスメント	インターネットによる人権侵害	ヘイトスピーチ	不明・無回答
全体		476 100.0	361 75.8	401 84.2	376 79.0	370 77.7	341 71.6	260 54.6	309 64.9	283 59.5	267 56.1	248 52.1	234 49.2	252 52.9	362 76.1	328 68.9	283 59.5	55 11.6
性別	男性	174 100.0	130 74.7	147 84.5	140 80.5	137 78.7	128 73.6	101 58.0	116 66.7	107 61.5	98 56.3	96 55.2	87 50.0	101 58.0	137 78.7	119 68.4	117 67.2	14 8.0
	女性	279 100.0	216 77.4	238 85.3	222 79.6	219 78.5	199 71.3	149 53.4	181 64.9	166 59.5	160 57.3	145 52.0	139 49.8	141 50.5	213 76.3	196 70.3	154 55.2	34 12.2
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	11 91.7	11 91.7	9 75.0	10 83.3	10 83.3	8 66.7	10 83.3	8 66.7	7 58.3	6 50.0	6 50.0	9 75.0	10 83.3	11 91.7	10 83.3	1 8.3
年齢	18～29歳	45 100.0	37 82.2	38 84.4	35 77.8	36 80.0	22 48.9	29 64.4	28 62.2	27 60.0	22 48.9	24 53.3	27 60.0	24 53.3	36 80.0	37 82.2	27 60.0	6 13.3
	30～39歳	60 100.0	50 83.3	52 86.7	47 78.3	49 81.7	35 58.3	37 61.7	40 66.7	37 61.7	34 56.7	26 43.3	32 53.3	34 56.7	51 85.0	46 76.7	34 56.7	6 10.0
	40～49歳	62 100.0	52 83.9	54 87.1	50 80.6	54 87.1	51 82.3	37 59.7	43 69.4	37 59.7	36 58.1	31 50.0	36 58.1	35 56.5	54 87.1	50 80.6	43 69.4	6 9.7
	50～59歳	86 100.0	67 77.9	75 87.2	73 84.9	72 83.7	68 79.1	57 66.3	64 74.4	61 70.9	57 66.3	59 68.6	48 55.8	50 58.1	70 81.4	64 74.4	57 66.3	6 7.0
	60～69歳	108 100.0	84 77.8	90 83.3	84 77.8	85 78.7	87 80.6	57 52.8	71 65.7	64 59.3	62 57.4	54 50.0	52 48.1	63 58.3	81 75.0	73 67.6	71 65.7	14 13.0
	70歳以上	104 100.0	65 62.5	86 82.7	81 77.9	68 65.4	73 70.2	40 38.5	60 57.7	54 51.9	53 51.0	51 49.0	36 34.6	44 42.3	66 63.5	55 52.9	48 46.2	12 11.5
	平成27年度大阪府調査結果		1,358 100.0	1,046 77.0	1,158 85.3	1,088 80.1	1,027 75.6	1,008 74.2	722 53.2	839 61.8	756 55.7	760 56.0	693 51.0	588 43.3	778 57.3	1,035 76.2	870 64.1	787 58.0

■ 急いで対応すべき人権問題（問3-1）（P. 44、P. 47）

		回答者数	女性の人権問題	子どもの人権問題	高齢者の人権問題	障がい者の人権問題	同和問題	外国人の人権問題	H I V感染者やハンセン病回復者の人権問題	このころの病に関する人権問題	犯罪被害者の人権問題	ホームレスの人権問題	性的マイノリティの人権問題	職業や雇用をめぐる人権問題	セクシュアル・ハラスメント、パワ・ハラスメント	インターネットによる人権侵害	ヘイトスピーチ	不明・無回答
全体		476 100.0	97 20.4	347 72.9	191 40.1	137 28.8	21 4.4	16 3.4	15 3.2	50 10.5	55 11.6	18 3.8	17 3.6	41 8.6	96 20.2	159 33.4	57 12.0	22 4.6
性別	男性	174 100.0	38 21.8	112 64.4	59 33.9	39 22.4	14 8.0	4 2.3	4 2.3	20 11.5	24 13.8	5 2.9	5 2.9	17 9.8	37 21.3	69 39.7	33 19.0	7 4.0
	女性	279 100.0	57 20.4	220 78.9	121 43.4	94 33.7	6 2.2	12 4.3	11 3.9	28 10.0	30 10.8	13 4.7	12 4.3	21 7.5	53 19.0	86 30.8	21 7.5	10 3.6
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	2 16.7	11 91.7	6 50.0	3 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 16.7	5 41.7	3 25.0	0 0.0	1 8.3
年齢	18～29歳	45 100.0	15 33.3	33 73.3	9 20.0	11 24.4	1 2.2	5 11.1	5 11.1	6 13.3	3 6.7	2 4.4	6 13.3	9 20.0	11 24.4	11 24.4	4 8.9	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	15 25.0	45 75.0	19 31.7	16 26.7	3 5.0	1 1.7	1 1.7	11 18.3	8 13.3	1 1.7	2 3.3	2 3.3	17 28.3	20 33.3	8 13.3	2 3.3
	40～49歳	62 100.0	8 12.9	42 67.7	28 45.2	27 43.5	1 1.6	4 6.5	4 6.5	4 6.5	11 17.7	0 0.0	2 3.2	1 1.6	15 24.2	30 48.4	5 8.1	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	16 18.6	77 89.5	40 46.5	22 25.6	3 3.5	2 2.3	2 2.3	5 5.8	7 8.1	4 4.7	4 4.7	5 5.8	17 19.8	34 39.5	8 9.3	0 0.0
	60～69歳	108 100.0	24 22.2	75 69.4	43 39.8	31 28.7	5 4.6	3 2.8	0 0.0	9 8.3	12 11.1	5 4.6	2 1.9	10 9.3	23 21.3	40 37.0	20 18.5	5 4.6
	70歳以上	104 100.0	19 18.3	73 70.2	48 46.2	29 27.9	7 6.7	1 1.0	2 1.9	13 12.5	12 11.5	6 5.8	1 13.5	14 11.5	12 21.2	22 21.2	10 9.6	10 9.6
	平成27年度大阪府調査結果		1,358 100.0	341 25.1	1,017 74.9	649 47.8	319 23.5	78 5.7	39 2.9	47 3.5	141 10.4	161 11.9	45 3.3	38 2.8	131 9.6	280 20.6	395 29.1	149 11.0

3-1. 人権問題についての情報・知識の入手経路（問4）（P. 48～49）

		回答者数	家族	友人・知人	広報紙・誌	新聞・TV・ラジオ	インターネット	学校教育	職場・地域での研修	その他	不明・無回答
全体		476 100.0	102 21.4	102 21.4	116 24.4	381 80.0	130 27.3	190 39.9	139 29.2	14 2.9	11 2.3
性別	男性	174 100.0	28 16.1	37 21.3	43 24.7	139 79.9	50 28.7	60 34.5	59 33.9	7 4.0	2 1.1
	女性	279 100.0	68 24.4	59 21.1	68 24.4	226 81.0	73 26.2	121 43.4	73 26.2	7 2.5	6 2.2
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	3 25.0	2 16.7	2 16.7	10 83.3	6 50.0	6 50.0	6 50.0	0 0.0	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	11 24.4	6 13.3	4 8.9	33 73.3	23 51.1	32 71.1	8 17.8	1 2.2	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	16 26.7	10 16.7	10 16.7	38 63.3	33 55.0	33 55.0	16 26.7	1 1.7	1 1.7
	40～49歳	62 100.0	16 25.8	12 19.4	7 11.3	52 83.9	20 32.3	38 61.3	20 32.3	1 1.6	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	12 14.0	16 18.6	18 20.9	76 88.4	24 27.9	41 47.7	33 38.4	4 4.7	0 0.0
	60～69歳	108 100.0	23 21.3	31 28.7	33 30.6	91 84.3	23 21.3	25 23.1	37 34.3	5 4.6	2 1.9
	70歳以上	104 100.0	21 20.2	22 21.2	40 38.5	84 80.8	5 4.8	17 16.3	23 22.1	2 1.9	5 4.8
平成27年度大阪府調査結果		1,358 100.0	307 22.6	312 23.0	352 25.9	1,143 84.2	338 24.9	464 34.2	370 27.2	43 3.2	17 1.3

■ 「学校教育」の具体的な場所（P. 50～51）

		回答者数	小学校	中学校	高校	大学	不明・無回答
全体		190 100.0	83 43.7	99 52.1	49 25.8	30 15.8	49 25.8
性別	男性	60 100.0	29 48.3	25 41.7	13 21.7	8 13.3	18 30.0
	女性	121 100.0	52 43.0	70 57.9	35 28.9	22 18.2	27 22.3
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	6 100.0	2 33.3	2 33.3	0 0.0	0 0.0	3 50.0
年齢	18～29歳	32 100.0	12 37.5	17 53.1	14 43.8	11 34.4	6 18.8
	30～39歳	33 100.0	22 66.7	22 66.7	10 30.3	8 24.2	4 12.1
	40～49歳	38 100.0	22 57.9	22 57.9	8 21.1	5 13.2	8 21.1
	50～59歳	41 100.0	18 43.9	21 51.2	6 14.6	3 7.3	12 29.3
	60～69歳	25 100.0	4 16.0	10 40.0	6 24.0	2 8.0	10 40.0
	70歳以上	17 100.0	5 29.4	5 29.4	4 23.5	1 5.9	7 41.2
平成27年度大阪府調査結果		464 100.0	223 48.1	214 46.1	103 22.2	60 12.9	135 29.1

4-1. 個別の人権施策の認知度、評価（問5）（P. 52、P. 57～61）

		回答者数	(1) 啓発ポスターや街頭啓発							(2) 市のホームページやインターネットを利用した啓発広報						
			知らない	知っている	参加していることが利用しない・	役に立った	役に立たなかった	どちらとも言えない	不明・無回答	知らない	知っている	参加していることが利用しない・	役に立った	役に立たなかった	どちらとも言えない	不明・無回答
全体		476 100.0	113 23.7	335 70.4	244 51.3	37 7.8	17 3.6	37 7.8	28 5.9	227 47.7	215 45.2	150 31.5	22 4.6	12 2.5	31 6.5	34 7.1
性別	男性	174 100.0	35 20.1	134 77.0	87 50.0	21 12.1	7 4.0	19 10.9	5 2.9	82 47.1	86 49.4	56 32.2	10 5.7	7 4.0	13 7.5	6 3.4
	女性	279 100.0	75 26.9	185 66.3	145 52.0	14 5.0	10 3.6	16 5.7	19 6.8	140 50.2	116 41.6	84 30.1	10 3.6	5 1.8	17 6.1	23 8.2
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	3 25.0	9 75.0	7 58.3	1 8.3	0 0.0	1 8.3	0 0.0	3 25.0	9 75.0	6 50.0	2 16.7	0 0.0	1 8.3	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	14 31.1	31 68.9	23 51.1	2 4.4	4 8.9	2 4.4	0 0.0	27 60.0	18 40.0	10 22.2	5 11.1	2 4.4	1 2.2	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	19 31.7	40 66.7	25 41.7	5 8.3	4 6.7	6 10.0	1 1.7	27 45.0	31 51.7	19 31.7	3 5.0	4 6.7	5 8.3	2 3.3
	40～49歳	62 100.0	20 32.3	42 67.7	31 50.0	5 8.1	3 4.8	3 4.8	0 0.0	37 59.7	25 40.3	20 32.3	1 1.6	1 1.6	3 4.8	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	11 12.8	73 84.9	50 58.1	8 9.3	2 2.3	13 15.1	2 2.3	37 43.0	48 55.8	30 34.9	5 5.8	3 3.5	10 11.6	1 1.2
	60～69歳	108 100.0	25 23.1	78 72.2	59 54.6	9 8.3	2 1.9	8 7.4	5 4.6	55 50.9	45 41.7	32 29.6	4 3.7	1 0.9	8 7.4	8 7.4
	70歳以上	104 100.0	23 22.1	65 62.5	52 50.0	6 5.8	2 1.9	5 4.8	16 15.4	42 40.4	45 43.3	36 34.6	4 3.8	1 1.0	4 3.8	17 16.3
		回答者数	(3) 啓発冊子（リーフレットなど）や教材							(4) 講演会・映画会						
			知らない	知っている	参加していることが利用しない・	役に立った	役に立たなかった	どちらとも言えない	不明・無回答	知らない	知っている	参加していることが利用しない・	役に立った	役に立たなかった	どちらとも言えない	不明・無回答
全体		476 100.0	197 41.4	244 51.3	140 29.4	67 14.1	13 2.7	24 5.0	35 7.4	157 33.0	290 60.9	176 37.0	79 16.6	8 1.7	27 5.7	29 6.1
性別	男性	174 100.0	66 37.9	102 58.6	53 30.5	32 18.4	7 4.0	10 5.7	6 3.4	67 38.5	102 58.6	58 33.3	28 16.1	5 2.9	11 6.3	5 2.9
	女性	279 100.0	126 45.2	130 46.6	79 28.3	32 11.5	6 2.2	13 4.7	23 8.2	87 31.2	173 62.0	107 38.4	48 17.2	3 1.1	15 5.4	19 6.8
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	2 16.7	10 83.3	6 50.0	3 25.0	0 0.0	1 8.3	0 0.0	2 16.7	10 83.3	7 58.3	3 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	21 46.7	24 53.3	13 28.9	7 15.6	3 6.7	1 2.2	0 0.0	17 37.8	28 62.2	19 42.2	6 13.3	1 2.2	2 4.4	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	21 35.0	38 63.3	18 30.0	11 18.3	4 6.7	5 8.3	1 1.7	21 35.0	38 63.3	21 35.0	9 15.0	3 5.0	5 8.3	1 1.7
	40～49歳	62 100.0	26 41.9	36 58.1	26 41.9	7 11.3	1 1.6	2 3.2	0 0.0	22 35.5	40 64.5	26 41.9	9 14.5	0 0.0	5 8.1	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	32 37.2	53 61.6	29 33.7	15 17.4	2 2.3	7 8.1	1 1.2	26 30.2	59 68.6	35 40.7	18 20.9	2 2.3	4 4.7	1 1.2
	60～69歳	108 100.0	48 44.4	52 48.1	26 24.1	19 17.6	2 1.9	5 4.6	8 7.4	36 33.3	67 62.0	39 36.1	22 20.4	0 0.0	6 5.6	5 4.6
	70歳以上	104 100.0	47 45.2	38 36.5	26 25.0	7 6.7	1 1.0	4 3.8	19 18.3	35 33.7	53 51.0	33 31.7	14 13.5	2 1.9	4 3.8	16 15.4

		回答者数	(５) 研修会							(６) 「とんだばやし人権フェア」などのイベント						
			知らない	知っている				不明・無回答	知らない	知っている				不明・無回答		
					参加していることが 利用い・	役に 立った	役に 立たなかつた				どちらとも 言えない	参加していることが 利用い・	役に 立った		役に 立たなかつた	どちらとも 言えない
全体		476 100.0	217 45.6	226 47.5	135 28.4	59 12.4	7 1.5	25 5.3	33 6.9	222 46.6	222 46.6	178 37.4	20 4.2	8 1.7	16 3.4	32 6.7
性別	男性	174 100.0	74 42.5	93 53.4	47 27.0	26 14.9	5 2.9	15 8.6	7 4.0	96 55.2	72 41.4	57 32.8	4 2.3	5 2.9	6 3.4	6 3.4
	女性	279 100.0	139 49.8	120 43.0	79 28.3	30 10.8	2 0.7	9 3.2	20 7.2	118 42.3	140 50.2	113 40.5	15 5.4	3 1.1	9 3.2	21 7.5
	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	12 100.0	3 25.0	9 75.0	6 50.0	3 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 41.7	7 58.3	6 50.0	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	31 68.9	14 31.1	10 22.2	2 4.4	1 2.2	1 2.2	0 0.0	31 68.9	14 31.1	12 26.7	0 0.0	1 2.2	1 2.2	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	29 48.3	30 50.0	16 26.7	7 11.7	3 5.0	4 6.7	1 1.7	36 60.0	23 38.3	14 23.3	2 3.3	3 5.0	4 6.7	1 1.7
	40～49歳	62 100.0	34 54.8	28 45.2	19 30.6	6 9.7	0 0.0	3 4.8	0 0.0	37 59.7	25 40.3	21 33.9	1 1.6	1 1.6	2 3.2	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	38 44.2	46 53.5	25 29.1	14 16.3	1 1.2	6 7.0	2 2.3	29 33.7	56 65.1	48 55.8	3 3.5	2 2.3	3 3.5	1 1.2
	60～69歳	108 100.0	43 39.8	59 54.6	32 29.6	20 18.5	1 0.9	6 5.6	6 5.6	43 39.8	58 53.7	47 43.5	8 7.4	0 0.0	3 2.8	7 6.5
	70歳以上	104 100.0	41 39.4	45 43.3	30 28.8	10 9.6	1 1.0	4 3.8	18 17.3	44 42.3	43 41.3	34 32.7	6 5.8	1 1.0	2 1.9	17 16.3

		回答者数	(7) 作文、ポスターなどの募集、表彰							(8) 人権相談窓口						
			知らない	知っている					不明・無回答	知らない	知っている					不明・無回答
					参加していることが利用い・	役に立った	役に立たなかった	どちらとも言えない				参加していることが利用い・	役に立った	役に立たなかった	どちらとも言えない	
全体		476 100.0	210 44.1	234 49.2	171 35.9	25 5.3	11 2.3	27 5.7	32 6.7	140 29.4	304 63.9	273 57.4	13 2.7	3 0.6	15 3.2	32 6.7
性別	男性	174 100.0	89 51.1	79 45.4	52 29.9	5 2.9	8 4.6	14 8.0	6 3.4	53 30.5	117 67.2	99 56.9	7 4.0	1 0.6	10 5.7	4 2.3
	女性	279 100.0	115 41.2	143 51.3	110 39.4	19 6.8	3 1.1	11 3.9	21 7.5	83 29.7	174 62.4	163 58.4	5 1.8	2 0.7	4 1.4	22 7.9
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	4 33.3	8 66.7	6 50.0	1 8.3	0 0.0	1 8.3	0 0.0	3 25.0	9 75.0	8 66.7	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	17 37.8	28 62.2	19 42.2	6 13.3	1 2.2	2 4.4	0 0.0	19 42.2	26 57.8	25 55.6	0 0.0	1 2.2	0 0.0	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	31 51.7	28 46.7	14 23.3	6 10.0	4 6.7	4 6.7	1 1.7	20 33.3	39 65.0	32 53.3	2 3.3	1 1.7	4 6.7	1 1.7
	40～49歳	62 100.0	30 48.4	31 50.0	25 40.3	4 6.5	0 0.0	2 3.2	1 1.6	22 35.5	40 64.5	36 58.1	2 3.2	0 0.0	2 3.2	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	34 39.5	51 59.3	42 48.8	2 2.3	1 1.2	6 7.0	1 1.2	20 23.3	65 75.6	60 69.8	4 4.7	1 1.2	0 0.0	1 1.2
	60～69歳	108 100.0	49 45.4	54 50.0	38 35.2	3 2.8	4 3.7	9 8.3	5 4.6	29 26.9	74 68.5	66 61.1	3 2.8	0 0.0	5 4.6	5 4.6
	70歳以上	104 100.0	48 46.2	38 36.5	30 28.8	4 3.8	1 1.0	3 2.9	18 17.3	29 27.9	56 53.8	51 49.0	2 1.9	0 0.0	3 2.9	19 18.3

		回答者数	(9) 戸籍謄本等の第三者への交付をお知らせする事前登録型本人通知制度						
			知らない	知っている					不明・無回答
					参加していることが利用・	役に立った	役に立たなかった	どちらとも言えない	
全体		476 100.0	343 72.1	99 20.8	69 14.5	8 1.7	5 1.1	17 3.6	34 7.1
性別	男性	174 100.0	122 70.1	47 27.0	30 17.2	4 2.3	3 1.7	10 5.7	5 2.9
	女性	279 100.0	207 74.2	49 17.6	37 13.3	4 1.4	2 0.7	6 2.2	23 8.2
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	10 83.3	2 16.7	2 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	39 86.7	5 11.1	4 8.9	0 0.0	1 2.2	0 0.0	1 2.2
	30～39歳	60 100.0	48 80.0	11 18.3	4 6.7	2 3.3	1 1.7	4 6.7	1 1.7
	40～49歳	62 100.0	56 90.3	6 9.7	4 6.5	0 0.0	0 0.0	2 3.2	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	64 74.4	21 24.4	16 18.6	2 2.3	2 2.3	1 1.2	1 1.2
	60～69歳	108 100.0	66 61.1	35 32.4	27 25.0	3 2.8	1 0.9	4 3.7	7 6.5
	70歳以上	104 100.0	66 63.5	20 19.2	14 13.5	1 1.0	0 0.0	5 4.8	18 17.3

■ 平成 27 年度大阪府調査結果 (P. 53～56)

		回答者数	知らない	知っている	参加していることが利 ない・	役に立 った	役に立 たなかつ た	どちらとも 言えない	不明・無 回答
(1)	啓発ポスターや車内吊り広告	1,358 100.0	318 23.4	850 62.7	677 49.9	123 9.1	50 3.7	130 9.6	60 4.4
(2)	新聞・雑誌、テレビ・ラジオ、インターネットなどを利用した啓発広報	1,358 100.0	192 14.1	990 73.0	741 54.6	213 15.7	36 2.7	127 9.4	49 3.6
(3)	啓発冊子や教材	1,358 100.0	520 38.3	649 47.9	418 30.8	180 13.3	51 3.8	101 7.4	88 6.5
(4)	講演会・映画会	1,358 100.0	464 34.2	718 52.9	466 34.3	221 16.3	31 2.3	92 6.8	84 6.2
(5)	研修会	1,358 100.0	608 44.8	582 42.9	372 27.4	176 13.0	34 2.5	78 5.7	90 6.6
(6)	人権啓発フェスティバルなどのイベント	1,358 100.0	527 38.8	654 48.2	540 39.8	78 5.7	36 2.7	94 6.9	83 6.1
(7)	作文、詩、読書感想文、ポスターなどの募集、表彰	1,358 100.0	494 36.4	671 49.5	525 38.7	104 7.7	42 3.1	100 7.4	93 6.8
(8)	大阪府・市町村などの人権相談窓口	1,358 100.0	466 34.3	753 55.4	690 50.8	40 2.9	23 1.7	63 4.6	76 5.6
(9)	戸籍謄本等の第三者への交付をお知らせする事前登録型本人通知制度	1,358 100.0	1,003 73.9	234 17.2	188 13.8	29 2.1	17 1.3	45 3.3	76 5.6

4-1-1. 個別の人権施策の今後の方向（問5-1）（P. 62、P. 66～70）

		回答者数	(1) 啓発ポスターや街頭啓発					(2) 市のホームページやインターネットを利用した啓発広報				
			拡充すべき	現状のまま継続すべき	縮小すべき	どちらとも言えない	不明・無回答	拡充すべき	現状のまま継続すべき	縮小すべき	どちらとも言えない	不明・無回答
全体		476 100.0	110 23.1	182 38.2	25 5.3	121 25.4	38 8.0	117 24.6	171 35.9	19 4.0	130 27.3	39 8.2
性別	男性	174 100.0	38 21.8	69 39.7	17 9.8	41 23.6	9 5.2	41 23.6	63 36.2	14 8.0	48 27.6	8 4.6
	女性	279 100.0	67 24.0	102 36.6	8 2.9	77 27.6	25 9.0	71 25.4	98 35.1	5 1.8	79 28.3	26 9.3
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	4 33.3	6 50.0	0 0.0	1 8.3	1 8.3	4 33.3	6 50.0	0 0.0	1 8.3	1 8.3
年齢	18～29歳	45 100.0	18 40.0	15 33.3	1 2.2	11 24.4	0 0.0	20 44.4	12 26.7	1 2.2	12 26.7	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	25 41.7	21 35.0	2 3.3	11 18.3	1 1.7	30 50.0	17 28.3	1 1.7	11 18.3	1 1.7
	40～49歳	62 100.0	13 21.0	21 33.9	5 8.1	22 35.5	1 1.6	16 25.8	22 35.5	2 3.2	21 33.9	1 1.6
	50～59歳	86 100.0	21 24.4	45 52.3	5 5.8	14 16.3	1 1.2	21 24.4	44 51.2	5 5.8	15 17.4	1 1.2
	60～69歳	108 100.0	21 19.4	37 34.3	6 5.6	34 31.5	10 9.3	23 21.3	38 35.2	3 2.8	36 33.3	8 7.4
	70歳以上	104 100.0	12 11.5	39 37.5	6 5.8	25 24.0	22 21.2	7 6.7	35 33.7	7 6.7	31 29.8	24 23.1

		回答者数	(3) 啓発冊子（リーフレットなど）や教材					(4) 講演会・映画会				
			拡充すべき	現状のまま継続すべき	縮小すべき	どちらとも言えない	不明・無回答	拡充すべき	現状のまま継続すべき	縮小すべき	どちらとも言えない	不明・無回答
全体		476 100.0	99 20.8	171 35.9	26 5.5	136 28.6	44 9.2	108 22.7	189 39.7	22 4.6	121 25.4	36 7.6
性別	男性	174 100.0	35 20.1	61 35.1	19 10.9	49 28.2	10 5.7	34 19.5	64 36.8	16 9.2	52 29.9	8 4.6
	女性	279 100.0	61 21.9	100 35.8	6 2.2	83 29.7	29 10.4	70 25.1	116 41.6	6 2.2	64 22.9	23 8.2
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	3 25.0	6 50.0	1 8.3	1 8.3	1 8.3	4 33.3	5 41.7	0 0.0	2 16.7	1 8.3
年齢	18～29歳	45 100.0	18 40.0	13 28.9	2 4.4	12 26.7	0 0.0	15 33.3	16 35.6	1 2.2	13 28.9	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	22 36.7	22 36.7	2 3.3	12 20.0	2 3.3	24 40.0	17 28.3	4 6.7	14 23.3	1 1.7
	40～49歳	62 100.0	9 14.5	22 35.5	4 6.5	26 41.9	1 1.6	12 19.4	24 38.7	3 4.8	22 35.5	1 1.6
	50～59歳	86 100.0	18 20.9	42 48.8	7 8.1	18 20.9	1 1.2	23 26.7	48 55.8	3 3.5	11 12.8	1 1.2
	60～69歳	108 100.0	23 21.3	34 31.5	4 3.7	38 35.2	9 8.3	24 22.2	42 38.9	3 2.8	32 29.6	7 6.5
	70歳以上	104 100.0	9 8.7	34 32.7	7 6.7	27 26.0	27 26.0	10 9.6	38 36.5	8 7.7	26 25.0	22 21.2

		回答者数	(5) 研修会					(6) 「とんだばやし人権フェア」などのイベント				
			拡充すべき	現状のまま継続すべき	縮小すべき	どちらとも言えない	不明・無回答	拡充すべき	現状のまま継続すべき	縮小すべき	どちらとも言えない	不明・無回答
全体		476 100.0	101 21.2	174 36.6	25 5.3	136 28.6	40 8.4	96 20.2	191 40.1	25 5.3	125 26.3	39 8.2
性別	男性	174 100.0	42 24.1	51 29.3	18 10.3	54 31.0	9 5.2	36 20.7	63 36.2	17 9.8	49 28.2	9 5.2
	女性	279 100.0	55 19.7	114 40.9	7 2.5	77 27.6	26 9.3	55 19.7	119 42.7	8 2.9	72 25.8	25 9.0
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	4 33.3	5 41.7	0 0.0	2 16.7	1 8.3	5 41.7	5 41.7	0 0.0	1 8.3	1 8.3
年齢	18～29歳	45 100.0	13 28.9	16 35.6	1 2.2	15 33.3	0 0.0	13 28.9	17 37.8	1 2.2	14 31.1	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	22 36.7	18 30.0	4 6.7	14 23.3	2 3.3	20 33.3	23 38.3	3 5.0	13 21.7	1 1.7
	40～49歳	62 100.0	13 21.0	21 33.9	3 4.8	24 38.7	1 1.6	11 17.7	23 37.1	3 4.8	23 37.1	2 3.2
	50～59歳	86 100.0	21 24.4	43 50.0	5 5.8	16 18.6	1 1.2	19 22.1	49 57.0	2 2.3	15 17.4	1 1.2
	60～69歳	108 100.0	23 21.3	35 32.4	4 3.7	37 34.3	9 8.3	23 21.3	37 34.3	5 4.6	35 32.4	8 7.4
	70歳以上	104 100.0	9 8.7	36 34.6	8 7.7	28 26.9	23 22.1	10 9.6	39 37.5	10 9.6	22 21.2	23 22.1

		回答者数	(7) 作文、ポスターなどの募集、表彰					(8) 人権相談窓口				
			拡充すべき	現状のまま継続すべき	縮小すべき	どちらとも言えない	不明・無回答	拡充すべき	現状のまま継続すべき	縮小すべき	どちらとも言えない	不明・無回答
全体		476 100.0	89 18.7	194 40.8	24 5.0	129 27.1	40 8.4	147 30.9	206 43.3	9 1.9	74 15.5	40 8.4
性別	男性	174 100.0	30 17.2	65 37.4	16 9.2	55 31.6	8 4.6	52 29.9	78 44.8	7 4.0	29 16.7	8 4.6
	女性	279 100.0	56 20.1	119 42.7	8 2.9	70 25.1	26 9.3	90 32.3	120 43.0	2 0.7	41 14.7	26 9.3
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	3 25.0	7 58.3	0 0.0	1 8.3	1 8.3	4 33.3	6 50.0	0 0.0	1 8.3	1 8.3
年齢	18～29歳	45 100.0	13 28.9	21 46.7	0 0.0	11 24.4	0 0.0	19 42.2	17 37.8	1 2.2	8 17.8	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	19 31.7	23 38.3	1 1.7	16 26.7	1 1.7	27 45.0	23 38.3	0 0.0	9 15.0	1 1.7
	40～49歳	62 100.0	11 17.7	26 41.9	2 3.2	23 37.1	0 0.0	16 25.8	28 45.2	2 3.2	15 24.2	1 1.6
	50～59歳	86 100.0	18 20.9	46 53.5	5 5.8	16 18.6	1 1.2	29 33.7	50 58.1	2 2.3	4 4.7	1 1.2
	60～69歳	108 100.0	20 18.5	37 34.3	6 5.6	36 33.3	9 8.3	39 36.1	42 38.9	1 0.9	18 16.7	8 7.4
	70歳以上	104 100.0	8 7.7	37 35.6	10 9.6	24 23.1	25 24.0	16 15.4	43 41.3	3 2.9	17 16.3	25 24.0

		回答者数	(9) 戸籍謄本等の第三者への交付をお知らせする事前登録型本人通知制度				
			拡充すべき	現状のまま継続すべき	縮小すべき	どちらとも言えない	不明・無回答
全体		476 100.0	122 25.6	165 34.7	20 4.2	127 26.7	42 8.8
性別	男性	174 100.0	46 26.4	53 30.5	14 8.0	51 29.3	10 5.7
	女性	279 100.0	72 25.8	103 36.9	5 1.8	72 25.8	27 9.7
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	3 25.0	6 50.0	1 8.3	1 8.3	1 8.3
年齢	18～29歳	45 100.0	15 33.3	14 31.1	1 2.2	15 33.3	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	23 38.3	22 36.7	2 3.3	12 20.0	1 1.7
	40～49歳	62 100.0	15 24.2	14 22.6	4 6.5	28 45.2	1 1.6
	50～59歳	86 100.0	25 29.1	41 47.7	3 3.5	16 18.6	1 1.2
	60～69歳	108 100.0	26 24.1	43 39.8	4 3.7	25 23.1	10 9.3
	70歳以上	104 100.0	17 16.3	28 26.9	6 5.8	28 26.9	25 24.0

■ 平成 27 年度大阪府調査結果 (P. 63～65)

	回答者数	拡充すべき	現状のまま継続すべき	縮小すべき	どちらとも言えない	不明・無回答
(1) 啓発ポスターや車内吊り広告	1,358 100.0	262 19.3	585 43.1	99 7.3	339 25.0	73 5.4
(2) 新聞・雑誌、テレビ・ラジオ、インターネットなどを利用した啓発広報	1,358 100.0	393 28.9	576 42.4	75 5.5	259 19.1	55 4.1
(3) 啓発冊子や教材	1,358 100.0	235 17.3	515 37.9	123 9.1	391 28.8	94 6.9
(4) 講演会・映画会	1,358 100.0	292 21.5	489 36.0	99 7.3	390 28.7	88 6.5
(5) 研修会	1,358 100.0	266 19.6	483 35.6	101 7.4	418 30.8	90 6.6
(6) 人権啓発フェスティバルなどのイベント	1,358 100.0	254 18.7	484 35.6	123 9.1	405 29.8	92 6.8
(7) 作文、詩、読書感想文、ポスターなどの募集、表彰	1,358 100.0	241 17.7	532 39.2	117 8.6	373 27.5	95 7.0
(8) 大阪府・市町村などの人権相談窓口	1,358 100.0	409 30.1	561 41.3	51 3.8	262 19.3	75 5.5
(9) 戸籍謄本等の第三者への交付をお知らせする事前登録型本人通知制度	1,358 100.0	318 23.4	414 30.5	67 4.9	478 35.2	81 6.0

4－2. 「交流」「協働」の取組への参加の状況（問6）（P. 71～72）

		回答者数	あ 参 加 し た こ と が	な 参 加 し た こ と が	不 明 ・ 無 回 答
全体		476 100.0	50 10.5	385 80.9	41 8.6
性別	男性	174 100.0	20 11.5	140 80.5	14 8.0
	女性	279 100.0	28 10.0	228 81.7	23 8.2
	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	12 100.0	2 16.7	10 83.3	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	4 8.9	38 84.4	3 6.7
	30～39歳	60 100.0	5 8.3	52 86.7	3 5.0
	40～49歳	62 100.0	3 4.8	56 90.3	3 4.8
	50～59歳	86 100.0	10 11.6	72 83.7	4 4.7
	60～69歳	108 100.0	13 12.0	83 76.9	12 11.1
	70歳以上	104 100.0	15 14.4	76 73.1	13 12.5
平成27年度大阪府 調査結果		1,358 100.0	150 11.0	1,174 86.5	34 2.5

4－2－1. 今後の参加意向、参加したくなる取組

■ 今後の参加意向（問6－1 a）（P. 73～74）

		回答者数	参加したい	参加したくない	どちらとも言えない	不明・無回答
全体		50 100.0	22 44.0	2 4.0	23 46.0	3 6.0
性別	男性	20 100.0	8 40.0	2 10.0	10 50.0	0 0.0
	女性	28 100.0	14 50.0	0 0.0	11 39.3	3 10.7
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	2 100.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0
年齢	18～29歳	4 100.0	2 50.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0
	30～39歳	5 100.0	2 40.0	0 0.0	3 60.0	0 0.0
	40～49歳	3 100.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3
	50～59歳	10 100.0	5 50.0	1 10.0	4 40.0	0 0.0
	60～69歳	13 100.0	6 46.2	0 0.0	6 46.2	1 7.7
	70歳以上	15 100.0	7 46.7	1 6.7	6 40.0	1 6.7
	平成27年度大阪府調査結果	150 100.0	66 44.0	11 7.3	70 46.7	3 2.0

■ 参加したくなる取組（問6-1b）（P. 75～76）

		回答者数	時間など参加しやすい	日曜・祝日など 参加しやすい日に実施する	内容を魅力的なものに見直す	家や職場の近くで開催する	その他	関心がない	不明・無回答
全体		385 100.0	36 9.4	62 16.1	155 40.3	85 22.1	53 13.8	94 24.4	16 4.2
性別	男性	140 100.0	19 13.6	22 15.7	52 37.1	23 16.4	20 14.3	42 30.0	2 1.4
	女性	228 100.0	16 7.0	36 15.8	96 42.1	59 25.9	31 13.6	49 21.5	12 5.3
	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	10 100.0	1 10.0	4 40.0	5 50.0	3 30.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0
年齢	18～29歳	38 100.0	1 2.6	9 23.7	18 47.4	8 21.1	6 15.8	8 21.1	1 2.6
	30～39歳	52 100.0	6 11.5	9 17.3	27 51.9	15 28.8	6 11.5	7 13.5	2 3.8
	40～49歳	56 100.0	3 5.4	4 7.1	23 41.1	7 12.5	10 17.9	21 37.5	1 1.8
	50～59歳	72 100.0	12 16.7	14 19.4	37 51.4	25 34.7	6 8.3	10 13.9	0 0.0
	60～69歳	83 100.0	8 9.6	16 19.3	28 33.7	19 22.9	10 12.0	21 25.3	5 6.0
	70歳以上	76 100.0	6 7.9	10 13.2	19 25.0	11 14.5	13 17.1	24 31.6	7 9.2
平成27年度大阪府 調査結果		1,174 100.0	139 11.8	279 23.8	466 39.7	317 27.0	117 10.0	287 24.4	63 5.4

5-1. 住宅を選ぶ際に重視する立地条件（問7）（P.77～78）

		回答者数	アクセス 都心部、最寄り駅や幹線道路への	公共施設や商業、医療施設、公園緑地などの状況	日照・眺望など	周辺の住宅の状況 （戸建て・集合、持ち家・賃貸など）	地域のイメージ	校区的教育水準や学力レベルの評判	近隣に低所得者が多いと言われているか	近隣に外国人籍住民が多いと言われているか	近隣に同和地区があると言われているか	その他	不明・無回答
全体		476 100.0	339 71.2	340 71.4	274 57.6	205 43.1	235 49.4	88 18.5	33 6.9	31 6.5	52 10.9	23 4.8	13 2.7
性別	男性	174 100.0	127 73.0	124 71.3	87 50.0	81 46.6	77 44.3	26 14.9	14 8.0	14 8.0	19 10.9	9 5.2	2 1.1
	女性	279 100.0	197 70.6	198 71.0	171 61.3	119 42.7	150 53.8	56 20.1	19 6.8	15 5.4	29 10.4	12 4.3	8 2.9
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	9 75.0	11 91.7	11 91.7	2 16.7	5 41.7	3 25.0	0 0.0	2 16.7	3 25.0	1 8.3	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	40 88.9	30 66.7	26 57.8	16 35.6	25 55.6	9 20.0	6 13.3	4 8.9	7 15.6	1 2.2	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	41 68.3	44 73.3	33 55.0	30 50.0	37 61.7	18 30.0	8 13.3	5 8.3	10 16.7	6 10.0	0 0.0
	40～49歳	62 100.0	47 75.8	42 67.7	30 48.4	32 51.6	21 33.9	7 11.3	3 4.8	3 4.8	5 8.1	5 8.1	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	59 68.6	55 64.0	48 55.8	41 47.7	52 60.5	21 24.4	4 4.7	2 2.3	6 7.0	4 4.7	0 0.0
	60～69歳	108 100.0	76 70.4	82 75.9	62 57.4	45 41.7	50 46.3	16 14.8	9 8.3	11 10.2	15 13.9	3 2.8	4 3.7
	70歳以上	104 100.0	70 67.3	79 76.0	69 66.3	37 35.6	48 46.2	13 12.5	3 2.9	6 5.8	8 7.7	4 3.8	6 5.8
平成27年度大阪府調査結果		1,358 100.0	1,022 75.3	925 68.1	829 61.0	552 40.6	704 51.8	226 16.6	83 6.1	91 6.7	182 13.4	82 6.0	22 1.6

5-2. 人権上問題と思う採用面接時の質問（問8）（P. 79～80）

		回答者数	国籍	本籍・出身地	家族の状況（職業、年収、資産など）	住宅の状況（住居の種類、間取り、部屋数、近隣の施設など）	生活環境、家庭環境	宗教	支持政党	人生観や生活信条	尊敬する人物	労働組合、学生運動などの経験	購読新聞、雑誌、愛読書など	不明・無回答
全体		476 100.0	182 38.2	209 43.9	292 61.3	227 47.7	189 39.7	287 60.3	231 48.5	80 16.8	39 8.2	172 36.1	88 18.5	40 8.4
性別	男性	174 100.0	69 39.7	85 48.9	102 58.6	82 47.1	74 42.5	118 67.8	100 57.5	44 25.3	23 13.2	80 46.0	45 25.9	10 5.7
	女性	279 100.0	105 37.6	116 41.6	174 62.4	136 48.7	107 38.4	160 57.3	123 44.1	31 11.1	14 5.0	85 30.5	41 14.7	26 9.3
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	6 50.0	4 33.3	10 83.3	7 58.3	5 41.7	6 50.0	4 33.3	2 16.7	1 8.3	4 33.3	0 0.0	1 8.3
年齢	18～29歳	45 100.0	17 37.8	17 37.8	27 60.0	27 60.0	17 37.8	31 68.9	26 57.8	12 26.7	5 11.1	12 26.7	6 13.3	3 6.7
	30～39歳	60 100.0	27 45.0	24 40.0	42 70.0	30 50.0	28 46.7	31 51.7	29 48.3	10 16.7	6 10.0	17 28.3	9 15.0	3 5.0
	40～49歳	62 100.0	28 45.2	34 54.8	47 75.8	35 56.5	28 45.2	50 80.6	41 66.1	7 11.3	4 6.5	28 45.2	12 19.4	3 4.8
	50～59歳	86 100.0	35 40.7	41 47.7	57 66.3	50 58.1	38 44.2	62 72.1	45 52.3	9 10.5	7 8.1	35 40.7	16 18.6	5 5.8
	60～69歳	108 100.0	38 35.2	44 40.7	65 60.2	50 46.3	46 42.6	58 53.7	51 47.2	24 22.2	11 10.2	44 40.7	26 24.1	12 11.1
	70歳以上	104 100.0	35 33.7	44 42.3	50 48.1	33 31.7	29 27.9	52 50.0	35 33.7	16 15.4	5 4.8	33 31.7	17 16.3	10 9.6
平成27年度大阪府調査結果		1,358 100.0	472 34.8	549 40.4	824 60.7	555 40.9	501 36.9	757 55.7	698 51.4	194 14.3	97 7.1	486 35.8	225 16.6	100 7.4

５－３．結婚相手を選ぶ際に重視すること（問９）（P. 81～84）

	回答者数	人柄や性格	趣味や価値観	仕事に対する理解と協力	家事や育児に対する理解と協力	経済力	学歴	職業	家族構成	家柄	離婚歴	国籍・民族	障がいやその家族がどうか	相手やその家族の宗教	ひとり親家庭かどうか	本籍・出身地	その他	不明・無回答
全体	476 100.0	448 94.1	287 60.3	203 42.6	180 37.8	206 43.3	53 11.1	105 22.1	59 12.4	43 9.0	78 16.4	59 12.4	29 6.1	56 11.8	8 1.7	24 5.0	7 1.5	13 2.7
性別	男性	174 100.0	167 96.0	102 58.6	73 42.0	58 33.3	26 14.9	13 7.5	16 9.2	20 11.5	12 6.9	19 10.9	15 8.6	6 3.4	7 4.0	3 1.7	4 2.3	5 2.9
	女性	279 100.0	262 93.9	173 62.0	120 43.0	113 40.5	168 60.2	36 12.9	80 28.7	35 12.5	29 10.4	56 20.1	43 15.4	22 7.9	45 16.1	5 1.8	17 6.1	3 1.1
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	12 100.0	8 66.7	8 66.7	8 66.7	7 58.3	3 25.0	5 41.7	2 16.7	1 8.3	2 16.7	1 8.3	1 8.3	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	44 97.8	36 80.0	27 60.0	34 75.6	25 55.6	4 8.9	14 31.1	2 4.4	6 13.3	12 26.7	5 11.1	4 8.9	6 13.3	2 4.4	3 6.7	2 4.4
	30～39歳	60 100.0	59 98.3	45 75.0	30 50.0	27 45.0	23 38.3	7 11.7	11 18.3	10 16.7	9 15.0	12 20.0	10 16.7	4 6.7	7 11.7	0 0.0	3 5.0	1 1.7
	40～49歳	62 100.0	61 98.4	50 80.6	26 41.9	20 32.3	26 41.9	7 11.3	12 19.4	8 12.9	6 9.7	12 19.4	6 9.7	5 8.1	9 14.5	2 3.2	3 4.8	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	83 96.5	54 62.8	36 41.9	29 33.7	45 52.3	8 9.3	21 24.4	9 10.5	8 9.3	7 8.1	8 9.3	5 5.8	8 9.3	0 0.0	1 1.2	1 1.2
	60～69歳	108 100.0	99 91.7	61 56.5	39 36.1	38 35.2	40 37.0	14 13.0	24 22.2	11 10.2	8 7.4	17 15.7	15 13.9	8 7.4	13 12.0	1 0.9	10 9.3	5 4.6
	70歳以上	104 100.0	95 91.3	37 35.6	42 40.4	31 29.8	41 39.4	12 11.5	18 17.3	17 16.3	5 4.8	18 17.3	15 14.4	3 2.9	11 10.6	3 2.9	4 3.8	5 4.8
平成27年度大阪府調査結果		1,358 100.0	1,271 93.6	799 58.8	602 44.3	553 40.7	528 38.9	146 10.8	272 20.0	175 12.9	121 8.9	198 14.6	176 13.0	91 6.7	192 14.1	18 1.3	88 6.5	35 2.6

■ 結婚相手を選ぶ際に重視すること 平成24（2012）年調査結果（P. 82）

	回答者数	人柄、性格	趣味や価値観	仕事と協力	家事や育児の能力や姿勢	経済力	学歴	職業	家柄	離婚歴	国籍・民族	障がいやその家族がどうか	相手やその家族の宗教	一人親家庭かどうか	同地区出身者かどうか	その他	なつたに気になる（気になつた）ことはない	不明・無回答
平成24（2012）年調査結果	501 100.0	467 93.2	307 61.3	242 48.3	197 39.3	254 50.7	64 12.8	143 28.5	76 15.2	88 17.6	101 20.2	65 13.0	142 28.3	19 3.8	81 16.2	17 3.4	57 11.4	6 1.2

5-4. 「結婚」についての基本的な意識（問10）（P. 85～86）

		回答者数	い 当 人 ど う し の 合 意 が あ れ ば 良 い	も 親 当 人 ど う し の 合 意 も 、 ど ち ら も 大 事 だ も 、 ど ち ら も 大 事 だ も 、 ど ち ら も 大 事 だ	が、 周 圍 の 意 見 が よ り 尊 重 さ れ る べ き だ	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体		476 100.0	204 42.9	246 51.7	6 1.3	5 1.1	15 3.2
性 別	男性	174 100.0	100 57.5	69 39.7	2 1.1	1 0.6	2 1.1
	女性	279 100.0	100 35.8	164 58.8	2 0.7	4 1.4	9 3.2
	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	12 100.0	3 25.0	7 58.3	1 8.3	0 0.0	1 8.3
年 齢	18～29歳	45 100.0	16 35.6	29 64.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	24 40.0	34 56.7	0 0.0	1 1.7	1 1.7
	40～49歳	62 100.0	23 37.1	38 61.3	0 0.0	0 0.0	1 1.6
	50～59歳	86 100.0	35 40.7	45 52.3	0 0.0	4 4.7	2 2.3
	60～69歳	108 100.0	58 53.7	45 41.7	3 2.8	0 0.0	2 1.9
	70歳以上	104 100.0	46 44.2	50 48.1	2 1.9	0 0.0	6 5.8
平成27年度大阪府 調査結果		1,358 100.0	529 39.0	729 53.7	27 2.0	13 1.0	60 4.4

6-1. 人権侵害事象への接触の状況（問11）（P. 87～88）

		回答者数	ある	ない	不明・無回答
全体		476 100.0	172 36.1	261 54.8	43 9.0
性別	男性	174 100.0	56 32.2	105 60.3	13 7.5
	女性	279 100.0	110 39.4	144 51.6	25 9.0
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	6 50.0	6 50.0	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	24 53.3	19 42.2	2 4.4
	30～39歳	60 100.0	31 51.7	27 45.0	2 3.3
	40～49歳	62 100.0	29 46.8	30 48.4	3 4.8
	50～59歳	86 100.0	35 40.7	45 52.3	6 7.0
	60～69歳	108 100.0	35 32.4	60 55.6	13 12.0
	70歳以上	104 100.0	17 16.3	75 72.1	12 11.5
平成27年度大阪府調査結果		1,358 100.0	588 43.3	741 54.6	29 2.1

6-1-1. 事象の分野、内容、接触場所

■ 事象の分野（問11-1）（P. 89～91）

		回答者数	女性	子ども	高齢者	障がい者	同和問題	外国人	HIV感染者・ハンセン病回復者	このころの病に 関する人権問題	犯罪被害者	路上生活者	性的マイノリティ	職業や雇用を めぐる人権問題	セクハラ・パワハラ	誹謗中傷	ネット上での	ヘイトスピーチ	その他	不明・無回答
全体		172 100.0	15 8.7	27 15.7	10 5.8	24 14.0	5 2.9	5 2.9	2 1.2	5 2.9	1 0.6	1 0.6	8 4.7	9 5.2	43 25.0	11 6.4	6 3.5	0 0.0	0 0.0	
性別	男性	56 100.0	4 7.1	4 7.1	4 7.1	6 10.7	1 1.8	1 1.8	1 1.8	3 5.4	0 0.0	0 0.0	3 5.4	1 1.8	21 37.5	3 5.4	4 7.1	0 0.0	0 0.0	
	女性	110 100.0	10 9.1	23 20.9	6 5.5	16 14.5	4 3.6	4 3.6	1 0.9	2 1.8	1 0.9	1 0.9	5 4.5	7 6.4	21 19.1	7 6.4	2 1.8	0 0.0	0 0.0	
	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	6 100.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
年齢	18～29歳	24 100.0	3 12.5	6 25.0	0 0.0	1 4.2	0 0.0	2 8.3	1 4.2	1 4.2	0 0.0	0 0.0	2 8.3	2 8.3	3 12.5	3 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	30～39歳	31 100.0	2 6.5	4 12.9	2 6.5	7 22.6	3 9.7	3 9.7	1 3.2	1 3.2	0 0.0	0 0.0	1 3.2	0 0.0	7 22.6	0 0.0	2 6.5	0 0.0	0 0.0	
	40～49歳	29 100.0	4 13.8	3 10.3	1 3.4	3 10.3	0 0.0	1 3.4	0 0.0	1 3.4	1 3.4	0 0.0	3 10.3	2 6.9	7 24.1	2 6.9	1 3.4	0 0.0	0 0.0	
	50～59歳	35 100.0	1 2.9	10 28.6	0 0.0	3 8.6	0 0.0	1 2.9	0 0.0	1 2.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.9	13 37.1	4 11.4	1 2.9	0 0.0	0 0.0	
	60～69歳	35 100.0	3 8.6	3 8.6	4 11.4	6 17.1	1 2.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.9	1 2.9	3 8.6	10 28.6	2 5.7	1 2.9	0 0.0	0 0.0	
	70歳以上	17 100.0	2 11.8	1 5.9	3 17.6	3 17.6	1 5.9	0 0.0	0 0.0	1 5.9	0 0.0	0 0.0	1 5.9	1 5.9	3 17.6	0 0.0	1 5.9	0 0.0	0 0.0	
平成27年度大阪府 調査結果		588 100.0	78 13.3	98 16.7	81 13.8	75 12.8	66 11.2	44 7.5	11 1.9	45 7.7	7 1.2	10 1.7	18 3.1	46 7.8	161 27.4	58 9.9	50 8.5	10 1.7	24 4.1	

（注）大阪府調査は、単数回答の質問だが複数回答で集計している。

■ 事象の内容（問 11-2）（P. 92～94）

		回答者数	か げ 口	あ ら ぬ 噂、 悪口、	名 誉 き 損、 侮辱	暴 力、 脅 迫、 強 要	不 平 等、 不 利 益 な	い じ め	虐 待	嫌 が ら せ	仲 間 は ず れ	プ ラ イ バ シー の 侵 害	そ の 他	不 明・無 回 答
全体		172 100.0	42 24.4	23 13.4	13 7.6	34 19.8	15 8.7	16 9.3	14 8.1	2 1.2	3 1.7	10 5.8	0 0.0	
性別	男性	56 100.0	11 19.6	11 19.6	3 5.4	8 14.3	7 12.5	2 3.6	7 12.5	0 0.0	2 3.6	5 8.9	0 0.0	
	女性	110 100.0	30 27.3	12 10.9	10 9.1	23 20.9	8 7.3	14 12.7	7 6.4	2 1.8	0 0.0	4 3.6	0 0.0	
	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	6 100.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	3 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0	
年齢	18～29歳	24 100.0	5 20.8	2 8.3	3 12.5	8 33.3	1 4.2	2 8.3	2 8.3	0 0.0	0 0.0	1 4.2	0 0.0	
	30～39歳	31 100.0	8 25.8	4 12.9	1 3.2	8 25.8	3 9.7	4 12.9	1 3.2	0 0.0	0 0.0	2 6.5	0 0.0	
	40～49歳	29 100.0	10 34.5	7 24.1	2 6.9	3 10.3	2 6.9	1 3.4	3 10.3	1 3.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	50～59歳	35 100.0	8 22.9	1 2.9	5 14.3	6 17.1	4 11.4	6 17.1	2 5.7	0 0.0	1 2.9	2 5.7	0 0.0	
	60～69歳	35 100.0	3 8.6	7 20.0	1 2.9	7 20.0	3 8.6	2 5.7	5 14.3	1 2.9	2 5.7	4 11.4	0 0.0	
	70歳以上	17 100.0	8 47.1	1 5.9	1 5.9	2 11.8	2 11.8	1 5.9	1 5.9	0 0.0	0 0.0	1 5.9	0 0.0	
平成27年度大阪府 調査結果		588 100.0	221 37.6	98 16.7	57 9.7	119 20.2	90 15.3	61 10.4	86 14.6	38 6.5	40 6.8	28 4.8	20 3.4	

（注）大阪府調査は、単数回答の質問だが複数回答で集計している。

■ 事象の接触場所（問 11-3）（P. 95～96）

		回答者数	学 校	職 場	地 域 社 会	イン ター ネ ット	その他	不明・無回答
全体		172 100.0	10 5.8	68 39.5	39 22.7	30 17.4	25 14.5	0 0.0
性別	男性	56 100.0	2 3.6	24 42.9	9 16.1	15 26.8	6 10.7	0 0.0
	女性	110 100.0	8 7.3	42 38.2	28 25.5	14 12.7	18 16.4	0 0.0
	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	6 100.0	0 0.0	2 33.3	2 33.3	1 16.7	1 16.7	0 0.0
年齢	18～29歳	24 100.0	5 20.8	9 37.5	2 8.3	7 29.2	1 4.2	0 0.0
	30～39歳	31 100.0	2 6.5	12 38.7	8 25.8	4 12.9	5 16.1	0 0.0
	40～49歳	29 100.0	2 6.9	13 44.8	6 20.7	4 13.8	4 13.8	0 0.0
	50～59歳	35 100.0	0 0.0	18 51.4	6 17.1	9 25.7	2 5.7	0 0.0
	60～69歳	35 100.0	1 2.9	13 37.1	9 25.7	4 11.4	8 22.9	0 0.0
	70歳以上	17 100.0	0 0.0	2 11.8	8 47.1	2 11.8	5 29.4	0 0.0
平成27年度大阪府 調査結果		588 100.0	42 7.1	222 37.8	192 32.7	94 16.0	78 13.3	22 3.7

（注）大阪府調査は、単数回答の質問だが複数回答で集計している。

6－1－2．事象の対象（自分か他者か）（問 11-4）（P. 97～98）

		回答者数	はい	いいえ	不明・無回答
全体		172 100.0	30 17.4	142 82.6	0 0.0
性別	男性	56 100.0	4 7.1	52 92.9	0 0.0
	女性	110 100.0	24 21.8	86 78.2	0 0.0
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	6 100.0	2 33.3	4 66.7	0 0.0
年齢	18～29歳	24 100.0	7 29.2	17 70.8	0 0.0
	30～39歳	31 100.0	6 19.4	25 80.6	0 0.0
	40～49歳	29 100.0	6 20.7	23 79.3	0 0.0
	50～59歳	35 100.0	2 5.7	33 94.3	0 0.0
	60～69歳	35 100.0	7 20.0	28 80.0	0 0.0
	70歳以上	17 100.0	2 11.8	15 88.2	0 0.0
平成27年度大阪府調査結果		588 100.0	67 11.4	449 76.4	72 12.2

6-1-2-1. 事象に対しとった行動、解決したかどうか

■ 事象に対しとった行動（問 11-5 a）（P. 99～100）

		回答者数	抗議、 反論した	相談した	訴えた	我慢した	その他	不明・無回答
全体		30 100.0	5 16.7	6 20.0	1 3.3	17 56.7	1 3.3	0 0.0
性別	男性	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0
	女性	24 100.0	5 20.8	6 25.0	1 4.2	11 45.8	1 4.2	0 0.0
	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
年齢	18～29歳	7 100.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0	6 85.7	0 0.0	0 0.0
	30～39歳	6 100.0	0 0.0	2 33.3	0 0.0	4 66.7	0 0.0	0 0.0
	40～49歳	6 100.0	1 16.7	2 33.3	0 0.0	3 50.0	0 0.0	0 0.0
	50～59歳	2 100.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	60～69歳	7 100.0	3 42.9	2 28.6	0 0.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0
	70歳以上	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
	平成27年度大阪府 調査結果	67 100.0	17 25.4	13 19.4	5 7.5	32 47.8	5 7.5	1 1.5

（注）大阪府調査は、単数回答の質問だが複数回答で集計している。

■ 事象が解決したかどうか（問 11-6 a）（P. 101～102）

		回答者数	解決した	解決しなかった	その他	不明・無回答
全体		30 100.0	7 23.3	21 70.0	2 6.7	0 0.0
性別	男性	4 100.0	2 50.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0
	女性	24 100.0	5 20.8	17 70.8	2 8.3	0 0.0
	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
年齢	18～29歳	7 100.0	1 14.3	6 85.7	0 0.0	0 0.0
	30～39歳	6 100.0	1 16.7	5 83.3	0 0.0	0 0.0
	40～49歳	6 100.0	1 16.7	4 66.7	1 16.7	0 0.0
	50～59歳	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60～69歳	7 100.0	2 28.6	4 57.1	1 14.3	0 0.0
	70歳以上	2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
	平成27年度大阪府 調査結果	67 100.0	13 19.4	40 59.7	10 14.9	4 6.0

6-1-2-2. 事象に対しとった行動、必要な対策

■ 事象に対しとった行動（問 11-5b）（P. 103～104）

		回答者数	いけないことと指摘した	もらえないことと分かって	相談した	同調した	話をそらした	何もしなかった	不明・無回答
全体		142 100.0	26 18.3	18 12.7	11 7.7	6 4.2	9 6.3	61 43.0	11 7.7
性別	男性	52 100.0	13 25.0	6 11.5	2 3.8	0 0.0	1 1.9	25 48.1	5 9.6
	女性	86 100.0	13 15.1	11 12.8	9 10.5	5 5.8	7 8.1	36 41.9	5 5.8
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	4 100.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0
年齢	18～29歳	17 100.0	3 17.6	3 17.6	1 5.9	0 0.0	1 5.9	8 47.1	1 5.9
	30～39歳	25 100.0	3 12.0	3 12.0	1 4.0	2 8.0	3 12.0	12 48.0	1 4.0
	40～49歳	23 100.0	6 26.1	2 8.7	2 8.7	1 4.3	1 4.3	9 39.1	2 8.7
	50～59歳	33 100.0	5 15.2	3 9.1	3 9.1	2 6.1	2 6.1	17 51.5	1 3.0
	60～69歳	28 100.0	6 21.4	5 17.9	4 14.3	0 0.0	0 0.0	8 28.6	5 17.9
	70歳以上	15 100.0	3 20.0	2 13.3	0 0.0	1 6.7	2 13.3	6 40.0	1 6.7
平成27年度大阪府調査結果		449 100.0	77 17.1	52 11.6	41 9.1	35 7.8	32 7.1	190 42.3	29 6.5

■ 人権侵害に必要な対策（問 11-6b）（P. 105～106）

		回答者数	行政が啓発に努める	相談窓口を拡充する	当事者自らが解決策を講じる	学校教育・社会教育を充実する	特に何もしなくてよい	その他	不明・無回答
全体		142 100.0	42 29.6	67 47.2	26 18.3	60 42.3	9 6.3	15 10.6	8 5.6
性別	男性	52 100.0	15 28.8	22 42.3	11 21.2	21 40.4	4 7.7	7 13.5	2 3.8
	女性	86 100.0	26 30.2	43 50.0	14 16.3	37 43.0	5 5.8	7 8.1	6 7.0
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	4 100.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0
年齢	18～29歳	17 100.0	6 35.3	9 52.9	1 5.9	10 58.8	2 11.8	2 11.8	1 5.9
	30～39歳	25 100.0	6 24.0	9 36.0	5 20.0	9 36.0	3 12.0	2 8.0	4 16.0
	40～49歳	23 100.0	8 34.8	11 47.8	10 43.5	10 43.5	1 4.3	1 4.3	0 0.0
	50～59歳	33 100.0	11 33.3	17 51.5	6 18.2	12 36.4	0 0.0	6 18.2	0 0.0
	60～69歳	28 100.0	7 25.0	13 46.4	3 10.7	13 46.4	2 7.1	2 7.1	2 7.1
	70歳以上	15 100.0	4 26.7	7 46.7	1 6.7	6 40.0	1 6.7	2 13.3	1 6.7
平成27年度大阪府調査結果		449 100.0	159 35.4	196 43.7	102 22.7	193 43.0	19 4.2	40 8.9	20 4.5

7-1. 人権から連想する言葉（問 12）（P. 107～109）

	回答者数	自由	平等	友愛	尊厳	自立	公正	共生	抑圧	格差	差別	暴力	わがまま	その他	不明・無回答
全体	476 100.0	239 50.2	387 81.3	62 13.0	176 37.0	82 17.2	170 35.7	92 19.3	26 5.5	87 18.3	202 42.4	41 8.6	7 1.5	4 0.8	11 2.3
性別	男性	174 100.0	96 55.2	148 85.1	35 20.1	65 37.4	32 18.4	74 42.5	43 24.7	8 4.6	26 14.9	76 43.7	18 10.3	5 2.9	3 1.7
	女性	279 100.0	134 48.0	224 80.3	23 8.2	100 35.8	48 17.2	89 31.9	47 16.8	16 5.7	56 20.1	119 42.7	21 7.5	2 0.7	4 1.4
	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	12 100.0	6 50.0	11 91.7	3 25.0	7 58.3	2 16.7	6 50.0	0 0.0	2 16.7	3 25.0	5 41.7	1 8.3	0 0.0	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	29 64.4	39 86.7	2 4.4	19 42.2	8 17.8	15 33.3	9 20.0	0 0.0	10 22.2	19 42.2	4 8.9	0 0.0	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	28 46.7	47 78.3	4 6.7	24 40.0	8 13.3	11 18.3	10 16.7	4 6.7	13 21.7	30 50.0	9 15.0	2 3.3	1 1.7
	40～49歳	62 100.0	32 51.6	51 82.3	4 6.5	23 37.1	6 9.7	22 35.5	7 11.3	3 4.8	9 14.5	22 35.5	2 3.2	2 3.2	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	37 43.0	70 81.4	10 11.6	35 40.7	12 14.0	29 33.7	13 15.1	1 1.2	13 15.1	36 41.9	5 5.8	1 1.2	1 1.2
	60～69歳	108 100.0	54 50.0	92 85.2	14 13.0	41 38.0	22 20.4	48 44.4	29 26.9	12 11.1	24 22.2	52 48.1	15 13.9	1 0.9	0 0.9
	70歳以上	104 100.0	56 53.8	83 79.8	27 26.0	29 27.9	26 25.0	43 41.3	22 21.2	5 4.8	17 16.3	41 39.4	5 4.8	1 1.0	2 1.9

7-2. 人権に対する意識（問 13）（P. 110）

	回答者数	認識 非常に 大切な ことだと	自分 には 関係が ないと	あまり 意識し たこと がない	きれい ごとや 建て 前の話 で	「人権 」とい う言葉 を聞くと	その他	不明・無回答
全体	476 100.0	244 51.3	10 2.1	175 36.8	21 4.4	13 2.7	5 1.1	8 1.7
性別	男性	174 100.0	112 64.4	3 1.7	47 27.0	6 3.4	6 0.0	0 0.0
	女性	279 100.0	118 42.3	7 2.5	125 44.8	15 5.4	7 2.5	2 0.7
	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	12 100.0	11 91.7	0 0.0	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	23 51.1	1 2.2	17 37.8	3 6.7	0 0.0	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	25 41.7	0 0.0	29 48.3	2 3.3	4 6.7	0 0.0
	40～49歳	62 100.0	29 46.8	2 3.2	23 37.1	6 9.7	1 1.6	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	42 48.8	2 2.3	39 45.3	2 2.3	0 0.0	0 0.0
	60～69歳	108 100.0	65 60.2	1 0.9	29 26.9	7 6.5	6 5.6	0 0.0
	70歳以上	104 100.0	57 54.8	4 3.8	36 34.6	1 1.0	2 1.9	2 1.9

7-3. 憲法で保障される権利に対する認知度（問14）（P.111～119）

		回答者数	（1）思想・良心の自由					（2）信教の自由				
			知っている 言葉も意味も	言葉は知っている 意味はよく知らない	言葉は知っている 意味も知らない	不明・無回答		知っている 言葉も意味も	言葉は知っている 意味はよく知らない	言葉は知っている 意味も知らない	不明・無回答	
全体		476 100.0	323 67.9	97 20.4	19 4.0	37 7.8		383 80.5	51 10.7	9 1.9	33 6.9	
性別	男性	174 100.0	127 73.0	35 20.1	2 1.1	10 5.7		146 83.9	18 10.3	2 1.1	8 4.6	
	女性	279 100.0	187 67.0	56 20.1	16 5.7	20 7.2		224 80.3	30 10.8	7 2.5	18 6.5	
	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	12 100.0	8 66.7	3 25.0	1 8.3	0 0.0		9 75.0	3 25.0	0 0.0	0 0.0	
年齢	18～29歳	45 100.0	35 77.8	8 17.8	2 4.4	0 0.0		38 84.4	5 11.1	2 4.4	0 0.0	
	30～39歳	60 100.0	37 61.7	17 28.3	3 5.0	3 5.0		46 76.7	9 15.0	2 3.3	3 5.0	
	40～49歳	62 100.0	47 75.8	10 16.1	4 6.5	1 1.6		54 87.1	7 11.3	0 0.0	1 1.6	
	50～59歳	86 100.0	61 70.9	17 19.8	3 3.5	5 5.8		73 84.9	10 11.6	0 0.0	3 3.5	
	60～69歳	108 100.0	81 75.0	20 18.5	2 1.9	5 4.6		91 84.3	11 10.2	1 0.9	5 4.6	
	70歳以上	104 100.0	61 58.7	23 22.1	5 4.8	15 14.4		78 75.0	9 8.7	4 3.8	13 12.5	

		回答者数	（3）学問の自由					（4）表現の自由				
			知っている 言葉も意味も	言葉は知っている 意味はよく知らない	言葉は知っている 意味も知らない	不明・無回答		知っている 言葉も意味も	言葉は知っている 意味はよく知らない	言葉は知っている 意味も知らない	不明・無回答	
全体		476 100.0	372 78.2	58 12.2	11 2.3	35 7.4		373 78.4	57 12.0	11 2.3	35 7.4	
性別	男性	174 100.0	139 79.9	25 14.4	1 0.6	9 5.2		143 82.2	20 11.5	3 1.7	8 4.6	
	女性	279 100.0	221 79.2	30 10.8	9 3.2	19 6.8		218 78.1	33 11.8	8 2.9	20 7.2	
	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	12 100.0	8 66.7	3 25.0	1 8.3	0 0.0		9 75.0	3 25.0	0 0.0	0 0.0	
年齢	18～29歳	45 100.0	36 80.0	9 20.0	0 0.0	0 0.0		39 86.7	5 11.1	1 2.2	0 0.0	
	30～39歳	60 100.0	42 70.0	12 20.0	3 5.0	3 5.0		44 73.3	10 16.7	3 5.0	3 5.0	
	40～49歳	62 100.0	50 80.6	9 14.5	1 1.6	2 3.2		52 83.9	8 12.9	0 0.0	2 3.2	
	50～59歳	86 100.0	69 80.2	14 16.3	0 0.0	3 3.5		71 82.6	12 14.0	0 0.0	3 3.5	
	60～69歳	108 100.0	96 88.9	6 5.6	1 0.9	5 4.6		93 86.1	9 8.3	1 0.9	5 4.6	
	70歳以上	104 100.0	76 73.1	8 7.7	6 5.8	14 13.5		72 69.2	12 11.5	6 5.8	14 13.5	

		回答者数	(５) 居住・移転の自由				(６) 職業選択の自由			
			知言葉も意味も知っている	言葉はよく知らない	言葉は知っている	言葉も意味も知らない	言葉は知っている	言葉も意味も知らない	言葉も意味も知らない	不明・無回答
全体		476 100.0	354 74.4	64 13.4	19 4.0	39 8.2	378 79.4	51 10.7	12 2.5	35 7.4
性別	男性	174 100.0	137 78.7	19 10.9	8 4.6	10 5.7	147 84.5	14 8.0	5 2.9	8 4.6
	女性	279 100.0	207 74.2	40 14.3	10 3.6	22 7.9	220 78.9	32 11.5	7 2.5	20 7.2
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	8 66.7	3 25.0	1 8.3	0 0.0	9 75.0	3 25.0	0 0.0	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	33 73.3	12 26.7	0 0.0	0 0.0	38 84.4	7 15.6	0 0.0	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	40 66.7	11 18.3	5 8.3	4 6.7	42 70.0	12 20.0	2 3.3	4 6.7
	40～49歳	62 100.0	50 80.6	7 11.3	3 4.8	2 3.2	52 83.9	7 11.3	2 3.2	1 1.6
	50～59歳	86 100.0	69 80.2	11 12.8	3 3.5	3 3.5	71 82.6	11 12.8	1 1.2	3 3.5
	60～69歳	108 100.0	89 82.4	12 11.1	2 1.9	5 4.6	94 87.0	8 7.4	1 0.9	5 4.6
	70歳以上	104 100.0	71 68.3	10 9.6	6 5.8	17 16.3	79 76.0	5 4.8	6 5.8	14 13.5

		回答者数	(７) 財産の保障				(８) 奴隷的拘束からの自由			
			知言葉も意味も知っている	言葉はよく知らない	言葉は知っている	言葉も意味も知らない	言葉は知っている	言葉も意味も知らない	言葉も意味も知らない	不明・無回答
全体		476 100.0	262 55.0	127 26.7	43 9.0	44 9.2	259 54.4	102 21.4	70 14.7	45 9.5
性別	男性	174 100.0	107 61.5	37 21.3	17 9.8	13 7.5	116 66.7	27 15.5	20 11.5	11 6.3
	女性	279 100.0	146 52.3	84 30.1	25 9.0	24 8.6	140 50.2	65 23.3	48 17.2	26 9.3
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	8 66.7	3 25.0	1 8.3	0 0.0	3 25.0	7 58.3	2 16.7	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	24 53.3	14 31.1	6 13.3	1 2.2	28 62.2	8 17.8	9 20.0	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	23 38.3	24 40.0	9 15.0	4 6.7	29 48.3	14 23.3	12 20.0	5 8.3
	40～49歳	62 100.0	36 58.1	19 30.6	5 8.1	2 3.2	37 59.7	14 22.6	8 12.9	3 4.8
	50～59歳	86 100.0	51 59.3	24 27.9	6 7.0	5 5.8	49 57.0	20 23.3	12 14.0	5 5.8
	60～69歳	108 100.0	71 65.7	25 23.1	7 6.5	5 4.6	62 57.4	22 20.4	17 15.7	7 6.5
	70歳以上	104 100.0	55 52.9	20 19.2	10 9.6	19 18.3	53 51.0	22 21.2	12 11.5	17 16.3

		回答者数	(9) 生存権				(1 0) 教育を受ける権利			
			知言葉も意味も知っている	言葉はよく知らない	言葉は知っている	言葉も意味も知らない	言葉は知っている	言葉も意味も知らない	言葉も意味も知らない	不明・無回答
全体		476 100.0	321 67.4	85 17.9	24 5.0	46 9.7	393 82.6	39 8.2	7 1.5	37 7.8
性別	男性	174 100.0	126 72.4	29 16.7	7 4.0	12 6.9	149 85.6	15 8.6	2 1.1	8 4.6
	女性	279 100.0	184 65.9	52 18.6	16 5.7	27 9.7	231 82.8	21 7.5	5 1.8	22 7.9
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	9 75.0	2 16.7	1 8.3	0 0.0	10 83.3	2 16.7	0 0.0	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	33 73.3	9 20.0	1 2.2	2 4.4	39 86.7	4 8.9	0 0.0	2 4.4
	30～39歳	60 100.0	38 63.3	13 21.7	7 11.7	2 3.3	48 80.0	6 10.0	4 6.7	2 3.3
	40～49歳	62 100.0	40 64.5	17 27.4	2 3.2	3 4.8	52 83.9	7 11.3	0 0.0	3 4.8
	50～59歳	86 100.0	60 69.8	15 17.4	5 5.8	6 7.0	76 88.4	7 8.1	0 0.0	3 3.5
	60～69歳	108 100.0	82 75.9	16 14.8	3 2.8	7 6.5	98 90.7	4 3.7	0 0.0	6 5.6
	70歳以上	104 100.0	66 63.5	14 13.5	6 5.8	18 17.3	78 75.0	10 9.6	3 2.9	13 12.5

		回答者数	(1 1) 勤労の権利				(1 2) 労働基本権			
			知言葉も意味も知っている	言葉はよく知らない	言葉は知っている	言葉も意味も知らない	言葉は知っている	言葉も意味も知らない	言葉も意味も知らない	不明・無回答
全体		476 100.0	353 74.2	64 13.4	18 3.8	41 8.6	299 62.8	107 22.5	29 6.1	41 8.6
性別	男性	174 100.0	134 77.0	23 13.2	7 4.0	10 5.7	120 69.0	35 20.1	9 5.2	10 5.7
	女性	279 100.0	206 73.8	38 13.6	11 3.9	24 8.6	169 60.6	67 24.0	19 6.8	24 8.6
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	10 83.3	2 16.7	0 0.0	0 0.0	8 66.7	3 25.0	1 8.3	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	37 82.2	6 13.3	0 0.0	2 4.4	32 71.1	10 22.2	1 2.2	2 4.4
	30～39歳	60 100.0	44 73.3	10 16.7	4 6.7	2 3.3	38 63.3	15 25.0	5 8.3	2 3.3
	40～49歳	62 100.0	48 77.4	8 12.9	3 4.8	3 4.8	36 58.1	20 32.3	3 4.8	3 4.8
	50～59歳	86 100.0	65 75.6	15 17.4	3 3.5	3 3.5	58 67.4	21 24.4	4 4.7	3 3.5
	60～69歳	108 100.0	88 81.5	13 12.0	0 0.0	7 6.5	69 63.9	28 25.9	4 3.7	7 6.5
	70歳以上	104 100.0	69 66.3	11 10.6	8 7.7	16 15.4	64 61.5	12 11.5	12 11.5	16 15.4

		回答者数	(1 3) 参政権				(1 4) 幸福追求権			
			言葉の意味も知っている	言葉の意味がよく知らない	言葉は知っている	言葉の意味も知らない	言葉の意味も知らない	言葉は知っている	言葉の意味も知らない	不明・無回答
全体		476 100.0	330 69.3	63 13.2	44 9.2	39 8.2	171 35.9	136 28.6	129 27.1	40 8.4
性別	男性	174 100.0	143 82.2	18 10.3	8 4.6	5 2.9	80 46.0	52 29.9	36 20.7	6 3.4
	女性	279 100.0	178 63.8	40 14.3	34 12.2	27 9.7	87 31.2	77 27.6	88 31.5	27 9.7
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	7 58.3	3 25.0	2 16.7	0 0.0	4 33.3	3 25.0	5 41.7	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	28 62.2	12 26.7	3 6.7	2 4.4	20 44.4	15 33.3	8 17.8	2 4.4
	30～39歳	60 100.0	36 60.0	11 18.3	11 18.3	2 3.3	21 35.0	21 35.0	16 26.7	2 3.3
	40～49歳	62 100.0	40 64.5	7 11.3	11 17.7	4 6.5	22 35.5	17 27.4	19 30.6	4 6.5
	50～59歳	86 100.0	66 76.7	10 11.6	7 8.1	3 3.5	34 39.5	26 30.2	23 26.7	3 3.5
	60～69歳	108 100.0	88 81.5	12 11.1	3 2.8	5 4.6	35 32.4	28 25.9	39 36.1	6 5.6
	70歳以上	104 100.0	70 67.3	10 9.6	9 8.7	15 14.4	38 36.5	27 26.0	24 23.1	15 14.4

Ⅱ 分析編

1-3-1. 人権問題の認知度

■ 人権問題の認知度 大阪府調査結果（性別・年齢別）（P.128～130）

		回答者数	女性の 人権問題	子どもの 人権問題	高齢者の 人権問題	障がい者の 人権問題	同和問題	外国人の 人権問題	H I V感染者やハンセン 病回復者の人権問題	このころの病に関する 人権問題	犯罪被害者の人権問題	ホームレスの人権問題	性的マイノリティの 人権問題	職業や雇用をめぐる 人権問題	セクシュアル・ハラスメント・ パワ・ハラスメント	インターネットによる 人権侵害	ヘイトスピーチ	不明・無回答
全体		1,358 100.0	1046 77.0	1158 85.3	1088 80.1	1027 75.6	1008 74.2	722 53.2	839 61.8	756 55.7	760 56.0	693 51.0	588 43.3	778 57.3	1035 76.2	870 64.1	787 58.0	128 9.4
性別	男性	569 100.0	433 76.1	486 85.4	453 79.6	431 75.7	426 74.9	300 52.7	353 62.0	324 56.9	324 56.9	303 53.3	249 43.8	343 60.3	428 75.2	357 62.7	360 63.3	49 8.6
	女性	758 100.0	594 78.4	652 86.0	615 81.1	578 76.3	561 74.0	411 54.2	471 62.1	416 54.9	423 55.8	382 50.4	329 43.4	420 55.4	587 77.4	498 65.7	414 54.6	73 9.6
	男性・女性と答える ことに抵抗を感じる	18 100.0	11 61.1	13 72.2	11 61.1	12 66.7	13 72.2	7 38.9	10 55.6	8 44.4	8 44.4	3 16.7	7 38.9	8 44.4	12 66.7	10 55.6	8 44.4	4 22.2
年齢	20～29歳	106 100.0	94 88.7	97 91.5	86 81.1	82 77.4	60 56.6	70 66.0	63 59.4	62 58.5	52 49.1	50 47.2	51 48.1	60 56.6	94 88.7	84 79.2	64 60.4	7 6.6
	30～39歳	158 100.0	138 87.3	140 88.6	129 81.6	129 81.6	111 70.3	100 63.3	102 64.6	100 63.3	96 60.8	86 54.4	82 51.9	94 59.5	136 86.1	123 77.8	94 59.5	13 8.2
	40～49歳	231 100.0	200 86.6	205 88.7	196 84.8	190 82.3	183 79.2	142 61.5	164 71.0	145 62.8	149 64.5	124 53.7	123 53.2	145 62.8	195 84.4	179 77.5	152 65.8	19 8.2
	50～59歳	203 100.0	168 82.8	180 88.7	171 84.2	166 81.8	170 83.7	127 62.6	153 75.4	125 61.6	135 66.5	118 58.1	118 58.1	133 65.5	177 87.2	151 74.4	133 65.5	14 6.9
	60～69歳	343 100.0	261 76.1	296 86.3	277 80.8	262 76.4	269 78.4	178 51.9	202 58.9	184 53.6	186 54.2	175 51.0	137 39.9	201 58.6	253 73.8	195 56.9	201 58.6	31 9.0
	70歳以上	305 100.0	178 58.4	234 76.7	220 72.1	193 63.3	208 68.2	102 33.4	151 49.5	134 43.9	137 44.9	136 44.6	75 24.6	140 45.9	172 56.4	134 43.9	138 45.2	42 13.8

■ 人権問題の認知別 個別・具体の事象に対する考え（P.131～134）

		回答者数	(1) 職場で顔を合わせるたびに「まだ結婚しないのか」と言う							回答者数	(2) 中学生の携帯電話やスマートフォンの使用を親の判断で制限する						
			問題がある	問題があると思う	やや問題があると思う	問題があると思わない	あまり問題があると思わない	問題があると思わない	何とも言えない		問題がある	問題があると思う	やや問題があると思う	問題があると思わない	あまり問題があると思わない	問題があると思わない	何とも言えない
認知別	知っている	361 100.0	299 82.8	195 54.0	104 28.8	46 12.7	36 10.0	10 2.8	14 3.9	2 0.6	401 100.0	43 10.7	11 2.7	32 8.0	337 84.0	99 24.7	238 59.4
	知らない	60 100.0	35 58.3	16 26.7	19 31.7	15 25.0	11 18.3	4 6.7	9 15.0	1 1.7	20 100.0	4 20.0	0 0.0	4 20.0	14 70.0	5 25.0	9 45.0
		回答者数	(3) 家族が不在の際、介護が必要な高齢者を家から出られないようにする							回答者数	(4) 視覚障がい者との会話ではテレビや映画、風景などは意識して話題にしないようにする						
			問題がある	問題があると思う	やや問題があると思う	問題があると思わない	あまり問題があると思わない	問題があると思わない	何とも言えない		問題がある	問題があると思う	やや問題があると思う	問題があると思わない	あまり問題があると思わない	問題があると思わない	何とも言えない
認知別	知っている	376 100.0	196 52.1	100 26.6	96 25.5	114 30.3	67 17.8	47 12.5	62 16.5	4 1.1	370 100.0	155 41.9	74 20.0	81 21.9	131 35.4	81 21.9	50 13.5
	知らない	45 100.0	22 48.9	6 13.3	16 35.6	14 31.1	8 17.8	6 13.3	8 17.8	1 2.2	51 100.0	15 29.4	1 2.0	14 27.5	27 52.9	15 29.4	12 23.5

			回答者数	(5) 結婚する際、興信所や探偵業者などを使って相手の出自を調べる								回答者数	(6) 同じマンションに住む外国人とは生活文化が異なり、日本語があまり話せないので、付き合いがないようにする							
				問題がある	問題があると思う		問題があると思わない	あまり問題があると思わない	問題があると思わない	何とも言えない	不明・無回答		問題がある	問題があると思う		問題があると思わない	あまり問題があると思わない	問題があると思わない	何とも言えない	不明・無回答
					問題があると思う	やや問題があると思う								問題があると思う	やや問題があると思う					
認知別	知っている		341	211	140	71	83	50	33	43	4	260	186	113	73	45	34	11	27	2
		100.0		61.9	41.1	20.8	24.3	14.7	9.7	12.6	1.2	100.0	71.5	43.5	28.1	17.3	13.1	4.2	10.4	0.8
認知別	知らない		80	49	26	23	25	15	10	6	0	161	97	36	61	30	18	12	32	2
		100.0		61.3	32.5	28.8	31.3	18.8	12.5	7.5	0.0	100.0	60.2	22.4	37.9	18.6	11.2	7.5	19.9	1.2

			回答者数	(7) HIV感染者やハンセン病回復者とは一緒に食事や入浴をしない								回答者数	(8) こころの病のある人には関わらないようにする							
				問題がある	問題があると思う		問題があると思わない	あまり問題があると思わない	問題があると思わない	何とも言えない	不明・無回答		問題がある	問題があると思う		問題があると思わない	あまり問題があると思わない	問題があると思わない	何とも言えない	不明・無回答
					問題があると思う	やや問題があると思う								問題があると思う	やや問題があると思う					
認知別	知っている		309	188	122	66	63	42	21	55	3	283	198	120	78	53	34	19	29	3
		100.0		60.8	39.5	21.4	20.4	13.6	6.8	17.8	1.0	100.0	70.0	42.4	27.6	18.7	12.0	6.7	10.2	1.1
認知別	知らない		112	45	22	23	33	20	13	33	1	138	69	31	38	36	23	13	32	1
		100.0		40.2	19.6	20.5	29.5	17.9	11.6	29.5	0.9	100.0	50.0	22.5	27.5	26.1	16.7	9.4	23.2	0.7

			回答者数	(9) 痴漢の被害者に「あなたにも問題があったのではないか」と言う								回答者数	(10) 公園でホームレスが近づいてきたので、足早に立ち去る							
				問題がある	問題があると思う		問題があると思わない	あまり問題があると思わない	問題があると思わない	何とも言えない	不明・無回答		問題がある	問題があると思う		問題があると思わない	あまり問題があると思わない	問題があると思わない	何とも言えない	不明・無回答
					問題があると思う	やや問題があると思う								問題があると思う	やや問題があると思う					
認知別	知っている		267	225	165	60	23	12	11	17	2	248	86	32	54	120	61	59	41	1
		100.0		84.3	61.8	22.5	8.6	4.5	4.1	6.4	0.7	100.0	34.7	12.9	21.8	48.4	24.6	23.8	16.5	0.4
認知別	知らない		154	111	59	52	24	12	12	18	1	173	44	10	34	85	41	44	43	1
		100.0		72.1	38.3	33.8	15.6	7.8	7.8	11.7	0.6	100.0	25.4	5.8	19.7	49.1	23.7	25.4	24.9	0.6

			回答者数	(11) 職場で同性愛者と席が隣になることを嫌がる								回答者数	(12) 人前で部下を長時間にわたり大声で叱る							
				問題がある	問題があると思う		問題があると思わない	あまり問題があると思わない	問題があると思わない	何とも言えない	不明・無回答		問題がある	問題があると思う		問題があると思わない	あまり問題があると思わない	問題があると思わない	何とも言えない	不明・無回答
					問題があると思う	やや問題があると思う								問題があると思う	やや問題があると思う					
認知別	知っている		234	188	133	55	29	17	12	15	2	362	353	307	46	7	5	2	2	0
		100.0		80.3	56.8	23.5	12.4	7.3	5.1	6.4	0.9	100.0	97.5	84.8	12.7	1.9	1.4	0.6	0.6	0.0
認知別	知らない		187	108	52	56	49	31	18	29	1	59	57	50	7	1	1	0	0	1
		100.0		57.8	27.8	29.9	26.2	16.6	9.6	15.5	0.5	100.0	96.6	84.7	11.9	1.7	1.7	0.0	0.0	1.7

		回答者数	(13) インターネットのサイトに他人の誹謗中傷を書き込む							
			問題がある	やや問題があると思う		問題があると思わない	問題があると思わない		何とも言えない	不明・無回答
				問題があると思う			あまり問題があると思わない	問題があると思わない		
認知別	知っている	328 100.0	323 98.5	310 94.5	13 4.0	3 0.9	2 0.6	1 0.3	2 0.6	0 0.0
	知らない	93 100.0	90 96.8	84 90.3	6 6.5	2 2.2	2 2.2	0 0.0	0 0.0	1 1.1

■ 人権問題の認知別 住宅を選ぶ際に重視する立地条件 (P. 135～136)

		回答者数	都心部、最寄り駅や幹線道路への アクセス	公共施設や商業、医療施設、 公園緑地などの状況	日照・眺望など	周辺の住宅の状況 (戸建て・集合、持ち家・賃貸など)	地域のイメージ	校区の教育水準や学力レベルの評判	近隣に低所得者が多いと 言われているか	近隣に外国人籍住民が多いと 言われているか	近隣に同和地区があると 言われているか	その他	不明・無回答
全体		476 100.0	339 71.2	340 71.4	274 57.6	205 43.1	235 49.4	88 18.5	33 6.9	31 6.5	52 10.9	23 4.8	13 2.7
外国人の人権問題	知っている	260 100.0	188 72.3	196 75.4	162 62.3	124 47.7	127 48.8	51 19.6	21 8.1	19 7.3	28 10.8	14 5.4	1 0.4
	知らない	161 100.0	116 72.0	112 69.6	87 54.0	65 40.4	81 50.3	24 14.9	9 5.6	9 5.6	20 12.4	7 4.3	4 2.5
同和問題	知っている	341 100.0	251 73.6	256 75.1	205 60.1	158 46.3	170 49.9	66 19.4	26 7.6	23 6.7	41 12.0	15 4.4	3 0.9
	知らない	80 100.0	53 66.3	52 65.0	44 55.0	31 38.8	38 47.5	9 11.3	4 5.0	5 6.3	7 8.8	6 7.5	2 2.5

1－6. 人権施策の今後の方向 (P. 140～141)

	問 1 1 あなたは、最近 5 年間に人権上問題と思われる言動を身近で見聞きしたことがありますか？									
	ある (n=172)					ない (n=261)				
	拡充すべき	現状のまま継続すべき	縮小すべき	どちらとも言えない	不明・無回答	拡充すべき	現状のまま継続すべき	縮小すべき	どちらとも言えない	不明・無回答
(1) 啓発ポスターや街頭啓発	48 27.9	67 39.0	9 5.2	44 25.6	4 2.3	54 20.7	102 39.1	12 4.6	67 25.7	26 10.0
(2) 市のホームページやインターネットを利用した啓発広報	57 33.1	60 34.9	5 2.9	45 26.2	5 2.9	53 20.3	99 37.9	13 5.0	72 27.6	24 9.2
(3) 啓発冊子（リーフレットなど）や教材	47 27.3	58 33.7	7 4.1	54 31.4	6 3.5	44 16.9	100 38.3	16 6.1	72 27.6	29 11.1
(4) 講演会・映画会	51 29.7	68 39.5	7 4.1	41 23.8	5 2.9	50 19.2	103 39.5	13 5.0	72 27.6	23 8.8
(5) 研修会	50 29.1	62 36.0	5 2.9	48 27.9	7 4.1	45 17.2	94 36.0	18 6.9	80 30.7	24 9.2
(6) 「とんだばやし人権フェア」などのイベント	40 23.3	72 41.9	7 4.1	48 27.9	5 2.9	51 19.5	100 38.3	16 6.1	68 26.1	26 10.0
(7) 作文、ポスターなどの募集、表彰	38 22.1	80 46.5	8 4.7	41 23.8	5 2.9	45 17.2	98 37.5	14 5.4	78 29.9	26 10.0
(8) 人権相談窓口	71 41.3	69 40.1	1 0.6	25 14.5	6 3.5	68 26.1	119 45.6	7 2.7	42 16.1	25 9.6
(9) 戸籍謄本等の第三者への交付をお知らせする事前登録型本人通知制度	64 37.2	54 31.4	4 2.3	44 25.6	6 3.5	49 18.8	98 37.5	14 5.4	74 28.4	26 10.0

1－9. 人権上問題と思う採用面接時の質問

■ 人権上問題と思う採用面接時の質問 回答個数 (P. 145)

		回答者数	1～2	3～4	5～6	7～8	9～10	11	不明・無回答
全体		476 100.0	119 25.0	128 26.9	82 17.2	54 11.3	32 6.7	21 4.4	40 8.4
性別	男性	174 100.0	43 24.7	44 25.3	29 16.7	14 8.0	19 10.9	15 8.6	10 5.7
	女性	279 100.0	72 25.8	76 27.2	49 17.6	38 13.6	13 4.7	5 1.8	26 9.3
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	2 16.7	4 33.3	3 25.0	2 16.7	0 0.0	0 0.0	1 8.3
年齢	18～29歳	45 100.0	13 28.9	7 15.6	12 26.7	5 11.1	3 6.7	2 4.4	3 6.7
	30～39歳	60 100.0	19 31.7	14 23.3	10 16.7	8 13.3	2 3.3	4 6.7	3 5.0
	40～49歳	62 100.0	11 17.7	13 21.0	13 21.0	14 22.6	7 11.3	1 1.6	3 4.8
	50～59歳	86 100.0	15 17.4	25 29.1	19 22.1	13 15.1	5 5.8	4 4.7	5 5.8
	60～69歳	108 100.0	25 23.1	31 28.7	13 12.0	10 9.3	11 10.2	6 5.6	12 11.1
	70歳以上	104 100.0	34 32.7	35 33.7	14 13.5	4 3.8	4 3.8	3 2.9	10 9.6

1-1-1. 結婚についての意識 (P.148)

		回答者数	い 当 人 ど う し の 合 意 が あ れ ば 良 い	も 親 当 人 ど う し の 合 意 も 、 ど ち ら も 大 事 だ も、 ど ち ら も 大 事 だ も、 ど ち ら も 大 事 だ	が、 周 囲 の 意 見 が よ り 尊 重 さ れ る べ き だ	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
男 性	18～29歳	8 100.0	4 50.0	4 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30～39歳	20 100.0	10 50.0	10 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40～49歳	21 100.0	10 47.6	11 52.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50～59歳	27 100.0	16 59.3	10 37.0	0 0.0	1 3.7	0 0.0
	60～69歳	47 100.0	31 66.0	15 31.9	1 2.1	0 0.0	0 0.0
	70歳以上	51 100.0	29 56.9	19 37.3	1 2.0	0 0.0	2 3.9
女 性	18～29歳	35 100.0	12 34.3	23 65.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30～39歳	35 100.0	12 34.3	21 60.0	0 0.0	1 2.9	1 2.9
	40～49歳	41 100.0	13 31.7	27 65.9	0 0.0	0 0.0	1 2.4
	50～59歳	57 100.0	18 31.6	34 59.6	0 0.0	3 5.3	2 3.5
	60～69歳	57 100.0	27 47.4	28 49.1	1 1.8	0 0.0	1 1.8
	70歳以上	52 100.0	17 32.7	30 57.7	1 1.9	0 0.0	4 7.7
男 性 ・ 女 性 ・ 抵 抗 を 感 じ る こ と に	18～29歳	2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30～39歳	4 100.0	2 50.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40～49歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50～59歳	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60～69歳	4 100.0	0 0.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0
	70歳以上	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

1-12-3. 人権侵害事象の接触場所

■ 人権侵害事象の分野別接触場所 (P. 151)

		回答者数	学校	職場	地域社会	インターネット	その他	不明・無回答
全体		172 100.0	10 5.8	68 39.5	39 22.7	30 17.4	25 14.5	0 0.0
人権侵害事象の分野	女性	15 100.0	1 6.7	7 46.7	4 26.7	0 0.0	3 20.0	0 0.0
	子ども	27 100.0	5 18.5	3 11.1	6 22.2	7 25.9	6 22.2	0 0.0
	高齢者	10 100.0	0 0.0	3 30.0	4 40.0	1 10.0	2 20.0	0 0.0
	障がい者	24 100.0	1 4.2	8 33.3	7 29.2	3 12.5	5 20.8	0 0.0
	同和問題	5 100.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0
	外国人	5 100.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0
	HIV感染者・ハンセン病回復者	2 100.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	こころの病に関する人権問題	5 100.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0
	犯罪被害者	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	ホームレス	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	性的マイノリティ	8 100.0	2 25.0	1 12.5	2 25.0	2 25.0	1 12.5	0 0.0
	職業や雇用をめぐる人権問題	9 100.0	0 0.0	6 66.7	3 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	セクハラ・パワハラ	43 100.0	0 0.0	36 83.7	2 4.7	3 7.0	2 4.7	0 0.0
	ネット上での誹謗中傷	11 100.0	0 0.0	1 9.1	1 9.1	8 72.7	1 9.1	0 0.0
	ヘイトスピーチ	6 100.0	0 0.0	0 0.0	2 33.3	2 33.3	2 33.3	0 0.0
	その他	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

1-12-4. 人権侵害事象の対象 (P. 152)

		回答者数	はい	いいえ	不明・無回答
男性	18～29歳	4 100.0	0 0.0	4 100.0	0 0.0
	30～39歳	10 100.0	2 20.0	8 80.0	0 0.0
	40～49歳	10 100.0	0 0.0	10 100.0	0 0.0
	50～59歳	12 100.0	1 8.3	11 91.7	0 0.0
	60～69歳	12 100.0	1 8.3	11 91.7	0 0.0
	70歳以上	8 100.0	0 0.0	8 100.0	0 0.0
女性	18～29歳	19 100.0	6 31.6	13 68.4	0 0.0
	30～39歳	18 100.0	3 16.7	15 83.3	0 0.0
	40～49歳	19 100.0	6 31.6	13 68.4	0 0.0
	50～59歳	23 100.0	1 4.3	22 95.7	0 0.0
	60～69歳	21 100.0	6 28.6	15 71.4	0 0.0
	70歳以上	9 100.0	2 22.2	7 77.8	0 0.0
男性・女性・抵抗を感じること	18～29歳	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	30～39歳	3 100.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0
	40～49歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50～59歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60～69歳	2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0
	70歳以上	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

1-12-6. 人権侵害事象に対しとった行動

■ 人権侵害事象の分野別事象に対しとった行動 (P. 154)

	回答者数	しいけないことと指摘	たかいつけてもらおうと分し	相談した	同調した	話をそらした	何もしなかった	不明・無回答
全体	142 100.0	26 18.3	18 12.7	11 7.7	6 4.2	9 6.3	61 43.0	11 7.7
人権侵害事象の分野	女性	10 100.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0	4 40.0
	子ども	24 100.0	4 16.7	3 12.5	3 12.5	0 0.0	0 0.0	10 41.7
	高齢者	9 100.0	2 22.2	1 11.1	2 22.2	0 0.0	1 11.1	3 33.3
	障がい者	21 100.0	3 14.3	5 23.8	1 4.8	0 0.0	2 9.5	7 33.3
	同和問題	5 100.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0
	外国人	4 100.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0
	HIV感染者・ハンセン病回復者	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0
	こころの病に関する人権問題	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3
	犯罪被害者	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	ホームレス	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	性的マイノリティ	7 100.0	2 28.6	1 14.3	0 0.0	0 0.0	1 14.3	2 28.6
	職業や雇用をめぐる人権問題	6 100.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	2 33.3	0 0.0	3 50.0
	セクハラ・パワハラ	34 100.0	7 20.6	3 8.8	3 8.8	2 5.9	0 0.0	17 50.0
	ネット上での誹謗中傷	11 100.0	0 0.0	1 9.1	0 0.0	1 9.1	0 0.0	8 72.7
	ヘイトスピーチ	6 100.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 66.7
	その他	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

1－12－7. 人権侵害に必要な対策

■ 人権侵害事象の分野別必要な対策 (P. 155)

	回答者数	行政が啓発に努める	相談窓口を拡充する	当事者自らが解決策を講じる	学校教育・社会教育を充実する	特に何もしなくてよい	その他	不明・無回答
全体	142 100.0	42 29.6	67 47.2	26 18.3	60 42.3	9 6.3	15 10.6	8 5.6
人権侵害事象の分野	女性	10 100.0	3 30.0	8 80.0	1 10.0	5 50.0	0 0.0	0 0.0
	子ども	24 100.0	7 29.2	10 41.7	2 8.3	15 62.5	0 0.0	4 16.7
	高齢者	9 100.0	3 33.3	3 33.3	2 22.2	0 0.0	3 33.3	1 11.1
	障がい者	21 100.0	5 23.8	8 38.1	3 14.3	12 57.1	0 0.0	2 9.5
	同和問題	5 100.0	2 40.0	2 40.0	1 20.0	3 60.0	1 20.0	0 0.0
	外国人	4 100.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0
	H I V感染者・ハンセン病回復者	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
	こころの病に関する人権問題	3 100.0	3 100.0	1 33.3	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0
	犯罪被害者	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	ホームレス	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	性的マイノリティ	7 100.0	3 42.9	3 42.9	2 28.6	3 42.9	1 14.3	0 0.0
	職業や雇用をめぐる人権問題	6 100.0	1 16.7	3 50.0	0 0.0	0 0.0	2 33.3	0 0.0
	セクハラ・パワハラ	34 100.0	6 17.6	17 50.0	11 32.4	10 29.4	0 0.0	4 11.8
	ネット上での誹謗中傷	11 100.0	4 36.4	7 63.6	3 27.3	5 45.5	0 0.0	1 9.1
	ヘイトスピーチ	6 100.0	3 50.0	2 33.3	0 0.0	4 66.7	1 16.7	2 33.3
	その他	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

1-13. 人権から連想する言葉

■ 人権から連想する言葉 否定的回答の有無 (P. 156)

		回答者数	否定的回答あり	否定的回答なし	不明・無回答
全体		476 100.0	225 47.3	240 50.4	11 2.3
性別	男性	174 100.0	83 47.7	90 51.7	1 0.6
	女性	279 100.0	134 48.0	141 50.5	4 1.4
	男性・女性と答えることに抵抗を感じる	12 100.0	6 50.0	6 50.0	0 0.0
年齢	18～29歳	45 100.0	22 48.9	23 51.1	0 0.0
	30～39歳	60 100.0	33 55.0	26 43.3	1 1.7
	40～49歳	62 100.0	25 40.3	37 59.7	0 0.0
	50～59歳	86 100.0	37 43.0	48 55.8	1 1.2
	60～69歳	108 100.0	60 55.6	47 43.5	1 0.9
	70歳以上	104 100.0	46 44.2	56 53.8	2 1.9

■ 性別・年齢別 人権から連想する言葉 否定的回答の有無 (P. 157)

		回答者数	否定的回答あり	否定的回答なし	不明・無回答
男性	18～29歳	8 100.0	3 37.5	5 62.5	0 0.0
	30～39歳	20 100.0	14 70.0	5 25.0	1 5.0
	40～49歳	21 100.0	10 47.6	11 52.4	0 0.0
	50～59歳	27 100.0	11 40.7	16 59.3	0 0.0
	60～69歳	47 100.0	28 59.6	19 40.4	0 0.0
	70歳以上	51 100.0	17 33.3	34 66.7	0 0.0
女性	18～29歳	35 100.0	19 54.3	16 45.7	0 0.0
	30～39歳	35 100.0	17 48.6	18 51.4	0 0.0
	40～49歳	41 100.0	15 36.6	26 63.4	0 0.0
	50～59歳	57 100.0	25 43.9	31 54.4	1 1.8
	60～69歳	57 100.0	29 50.9	27 47.4	1 1.8
	70歳以上	52 100.0	28 53.8	22 42.3	2 3.8
男性・女性と抵抗を感じることに	18～29歳	2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0
	30～39歳	4 100.0	2 50.0	2 50.0	0 0.0
	40～49歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50～59歳	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0
	60～69歳	4 100.0	3 75.0	1 25.0	0 0.0
	70歳以上	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

1-14. 人権に対する意識 (P. 159)

		回答者数	と非常 に大 切な こと だ	と自 分 に は 関 係 が な い	が あ ま り 意 識 し た こ と	の き れ い ご と や 建 て 前 の 話 で し か な い	を 「 人 権 」 と い う 言 葉 と 聞 く と や っ か い な も の と 感 じ る	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
男性	18～29歳	8 100.0	7 87.5	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30～39歳	20 100.0	8 40.0	0 0.0	10 50.0	1 5.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0
	40～49歳	21 100.0	11 52.4	1 4.8	7 33.3	2 9.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50～59歳	27 100.0	18 66.7	1 3.7	8 29.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60～69歳	47 100.0	32 68.1	0 0.0	9 19.1	2 4.3	4 8.5	0 0.0	0 0.0
	70歳以上	51 100.0	36 70.6	1 2.0	13 25.5	0 0.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0
女性	18～29歳	35 100.0	14 40.0	1 2.9	17 48.6	2 5.7	0 0.0	1 2.9	0 0.0
	30～39歳	35 100.0	14 40.0	0 0.0	17 48.6	1 2.9	3 8.6	0 0.0	0 0.0
	40～49歳	41 100.0	18 43.9	1 2.4	16 39.0	4 9.8	1 2.4	1 2.4	0 0.0
	50～59歳	57 100.0	22 38.6	1 1.8	31 54.4	2 3.5	0 0.0	1 1.8	0 0.0
	60～69歳	57 100.0	29 50.9	1 1.8	20 35.1	5 8.8	2 3.5	0 0.0	0 0.0
	70歳以上	52 100.0	20 38.5	3 5.8	23 44.2	1 1.9	1 1.9	2 3.8	2 3.8
男性・ 女性と 抵抗を 感じる ことに	18～29歳	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	30～39歳	4 100.0	3 75.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40～49歳	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50～59歳	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60～69歳	4 100.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	70歳以上	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

**平成 29（2017）年度
人権に関する市民意識調査結果報告書**

**発行 富田林市
市民人権部 人権政策課
発行年月 平成 30（2018）年 3 月**

〒584-8511 富田林市常盤町 1 - 1
TEL 0721-25-1000（代）／FAX 0721-25-9037